

1999(平成11)年度

講義内容

仏教学部

 駒澤大學

KUMAZAWA

講 義 內 容

目 次

| | | |
|---|---------------------------|-----|
| 1 | 專 門 教 育 科 目 | 5 |
| 2 | 他 学 部 履 修 科 目 | 67 |
| 3 | 短 大 仏 教 科 開 設 科 目 | 147 |
| 4 | 随 意 科 目 | 153 |
| 5 | 日 本 語 ・ 日 本 事 情 科 目 | 161 |
| 6 | 教 職 ・ 資 格 講 座 | 183 |

| |
|--------------------------------------|
| 専門 教育科目 |
| 他学部履修科目 |
| 短大仏教科開設科目 |
| 随 意 科 目 |
| 日 本 事 情 語 科 目 ・ |
| 教 職 ・ 資 格 講 座 |

1 專門教育科目

仏 教 学 部

1 専門教育科目

| | | |
|----------|------------------------|----|
| 禅学序 | 説(峰岸孝哉) | 5 |
| 仏教学序 | 説(池田魯參) | 5 |
| 仏教序 | 説(池田練太郎) | 6 |
| 坐禅 | I(小坂機融・岩永正晴・河村孝道・飯塚大展) | 7 |
| 宗典 | (黒丸寛之) | 8 |
| 宗典 | (河村孝道) | 8 |
| 宗典 | (石井清純) | 9 |
| 禅学研究 | I(小坂機融) | 9 |
| 禅学研究 | II(青龍宗二) | 10 |
| 禅学研究 | III(岩永正晴) | 10 |
| 禅学研究 | IV(永井政之) | 11 |
| 仏教研究 | I(伊藤隆壽) | 11 |
| 仏教研究 | II(岡部和雄) | 12 |
| 仏教研究 | III(吉津宜英) | 12 |
| 仏教研究 | IV(池田魯參) | 13 |
| インド仏教史 | (田上太秀) | 13 |
| パーリ仏教史 | (奥平龍二) | 14 |
| ベトナム仏教史 | (木村誠司) | 14 |
| 中国仏教史 | (岡部和雄) | 15 |
| 朝鮮仏教史 | (石井公成) | 15 |
| 日本仏教史 | (高橋秀榮) | 16 |
| 中国禅宗史 | (田中良昭) | 17 |
| 日本禅宗史 | (原田弘道) | 18 |
| 禅籍講読 | I(田中良昭) | 19 |
| 禅籍講読 | II(石井修道) | 19 |
| 禅籍講読 | III(佐藤秀孝) | 20 |
| 禅籍講読 | IV(石井清純) | 20 |
| 仏典講読 | I(池田練太郎) | 21 |
| 仏典講読 | II(松本史朗) | 21 |
| 仏典講読 | III(平井俊榮) | 22 |
| 仏典講読 | IV(飯塚大展) | 22 |
| 宗教史 | (長谷部八朗) | 23 |
| インド仏教文化史 | (奈良康明) | 24 |
| 中国仏教文化史 | (永井政之) | 25 |
| 日本仏教文化史 | (袴谷憲昭) | 25 |
| 日用經典 | (皆川広義) | 26 |
| 禅学概論 | (佐藤秀孝) | 27 |
| 仏教概論 | (平井俊榮) | 27 |
| 中国古典語初級 | (石井公成) | 28 |
| インド哲学史 | (金沢篤) | 28 |
| 中国哲学史 | (前川亨) | 29 |
| 西洋哲学史 | (中村友太郎) | 29 |
| インド仏教思想史 | (松本史朗) | 30 |
| 中国仏教思想史 | (伊藤隆壽) | 30 |
| 原始仏教 | (片山一良) | 31 |

| | | |
|------------|-------------|----|
| 真宗学概論 | (本多弘之) | 31 |
| 真浄土学概論 | (休講) | |
| 真言学概論 | (休講) | |
| 日蓮教概論 | (渡辺寶陽) | 32 |
| 新宗教概説 | (長谷部八朗) | 33 |
| 神道概説 | (休講) | |
| 外国語仏書講読 | (吉津宜英) | 34 |
| 外国語禪書講読 | (大西龍峯) | 34 |
| 禅学特講 I | (原田弘道) | 35 |
| 禅学特講 II | (黒丸寛之) | 35 |
| 禅学特講 III | (大谷哲夫) | 36 |
| 禅学特講 IV | (青龍宗二) | 36 |
| 仏教特講 I | (高橋秀栄) | 37 |
| 仏教特講 II | (飯塚大展) | 37 |
| 仏教特講 III | (四津谷孝道) | 38 |
| 仏教特講 IV | (奥野光賢) | 39 |
| 仏教伝道概説 | (皆川広義) | 40 |
| 仏教伝道研究 | (皆川広義) | 41 |
| 青少年問題研究 | (讚岐真佐子) | 42 |
| 青少年指導演習 | (平野学) | 43 |
| 宗教法概説 | (洗建) | 44 |
| 詩道 | (休講) | |
| 書道 | (野村宙弘) | 45 |
| 現代と仏教 | (峰岸孝哉) | 45 |
| 宗教学概論 | (長谷部八朗) | 46 |
| キリスト教概論 | (挽地茂男) | 47 |
| イスラム教概論 | (菊地達也) | 48 |
| 哲学概説 | (杖下隆英) | 49 |
| 宗教哲学 | (田丸徳善) | 49 |
| 現代哲学概説 | (久保陽一) | 50 |
| 仏教民俗学 | (須藤寛人) | 51 |
| 宗教教育 | (小山一乘) | 52 |
| 心理学概論 | (間島英俊) | 53 |
| パーリ語初級 | (片山一良) | 54 |
| パーリ語上級 | (福田孝雄) | 54 |
| サンスクリット語初級 | (金沢篤) | 55 |
| サンスクリット語上級 | (金沢篤) | 55 |
| チベット語初級 | (松本史朗) | 56 |
| チベット語上級 | (木村誠司) | 56 |
| 中国古典語上級 | (小川川隆) | 57 |
| ラテン語 | (佐藤玖美子) | 57 |
| 仏教文献学 | (椎名宏雄) | 58 |
| 中国文学講読 | (末木恭彦) | 59 |
| 禅美術 | (海老根聰郎) | 59 |
| 仏教美術 | (山下裕二) | 60 |
| 坐禅 II | (石井清純・永井政之) | 60 |

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|------------------------|---------|-----|
| 禅 学 序 説 | みね ぎし こう さい 峰 岸 孝 哉 | 禅 1 必 | 4 |

講義のねらい

禅仏教の成立とその展開、またその歴史的・思想的性格について、基本的な問題を中心に解説する。このような作業を通じて禅学とは何かを考えてみたい。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|----------------------|---------|-----|
| 仏 教 学 序 説 | いけ だ ろ さん 池 田 魯 参 | 仏 教 1 必 | 4 |

講義のねらい

これから仏教を学ぼうとする新入生諸君に、自分自身の問題として「仏教とは何か」を考えてもらい、仏教に関する基礎的な知識を身につけてもらうことです。

講義の内容・授業スケジュール

次のような枠内で講義を進めます。

1. 仏とは何か
2. 仏が説いた教え
3. 仏教を伝えた教団
4. 空の実践
5. 大乘仏教の展開
6. 中国仏教の形成
7. 日本仏教の成立

成績評価の方法

講義中の質疑応答や意見発表などを合わせ、期末テストの成績で評価。

教 科 書

水野弘元『仏教要語の基礎知識』（春秋社）

参 考 書 等

平川彰『インド・中国・日本・仏教通史』（春秋社）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|---------------------------|---------|-----|
| 仏 教 学 序 説 | いけ だ れん た ろう 池 田 練 太 郎 | 仏 教 1 必 | 4 |

講義のねらい

この授業は、これから仏教を学ぼうとする新入生に、学問的な研究の方法やテーマなどを知ってもらい、同時に仏教に関わる基礎的な知識を習得してもらうことを目的としている。仏教の研究テーマはきわめて多種多様である。開祖であるゴータマ・ブッダの思想を考察することによって仏教とは何かを明らかにしようとする思想的研究もあるし、思想の流れをとらえていこうとする思想史的研究もある。また、教団について研究するにも、律の問題からみていく視点もあれば、社会との関わりにおいてとらえようとする視点もある。さらに、美術や文学など文化的な面から仏教をみていく立場もあり、文化史的に仏教の全体像を研究する方法もある。また、現代における仏教の役割を考察する研究もある。そうしたさまざまなテーマや方法について検討していくつもりである。しかし、学問的に「仏教」について考えるためには、十分な知識の習得が不可欠である。この授業では、これから仏教を学ぶ際に知っておくべき、思想・歴史・文献などについての基礎的理解と知識についても示していきたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

仏教の基礎教養の習得や、仏教の本質についての問題、また学問的方法などを、総合的に検討しながら進めていく。

履修上の留意点

欠席はしないように。

成績評価の方法

基本的には、年度末の定期試験によって評価する予定。

教科書

特に使用しない。

参考書等

水野弘元、他編『仏典解題事典』（春秋社）4,500円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|--|---------|-----|
| 坐 禅 I | 小 坂 機 融 河 村 孝 道 岩 永 正 晴 飯 塚 大 展 | 禅・仏教2必 | 4 |

講義のねらい

仏教学・禅学は、共に坐禅に基づく智慧の宗教の知的営為である。しかしこれは、単に相対的知解の究明にのみ終始するのではなく、その究極は不曾汚染の行持である坐禅の、不断の実修にこそ、その重心があることを忘れてはならない。無偏無党の坐禅なくして正徧知による見極めはありえない。従って、坐禅が、常に学問する者の上に正しく位置づけられて行くのであれば、真の仏教学・禅学とは言えない。かかる道元禅師の正伝の坐禅を実修して、自他の見を超えた無所得無所期の仏法を行持することに勤めて行く。

講義の内容・授業スケジュール

全時間、坐禅実習・経行・講義を行い、前期は『正法眼蔵坐禅儀』と『経行軌』について、後期は『普勸坐禅儀』について講じ、道元禅師正伝の仏法を明らかにする。

履修上の留意点

仏教を学ぶ者の基本であるから、自らの節度ある生活を心掛け、実習に臨んでは次のことを堅く守ること。

- ① 新学期最初の授業は、坐禅堂における進退・作法と席次など必要事項を指示するので、必ず出席すること。
- ② 時間厳守：始鈴10分前に全員入堂し、坐禅に入ること。遅刻・早退は全て欠席とする。
- ③ 私語・懈怠の厳禁：坐禅堂のある禅研究館の四階では、一切の私語をせず、毎時間、懈怠を戒めて真摯に精励すること。
- ④ 威儀厳正：仏制に順じて虚飾を避け、正服を基本に清楚な服装に心掛け（暑季は白のYシャツ可）、堂内の進退は作法に随い、身のすまいを正して厳粛に勤めること。
- ⑤ 直堂の当番：直堂を、毎時間2名（前策と後策）ずつ勤めるが、当番に充った者は、責任をもって、預め講本の作法をよく読んで理解し、前回の担当者からよく習って進退・作法を確認して行うこと。無責任なため叱責されるなど、全員に迷惑をかけぬよう注意すること。

成績評価の方法

- ① 全時間の「3分の2」以上の出席と、毎時間、真摯に実習したかを点検し、総合判断して評価を決める。
- ② 追試・再試等による救済措置は、全く無い。

教 科 書

『坐禅講本』（更生社）2,266円

参 考 書 等

『坐禅用心記』『普勸坐禅儀不能語』

そ の 他

授業は、40分間の坐禅、10分間の経行、40分間の講義の形式で行う。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|--------------------------------|-------|----|
| 宗典 | 黒丸寛之 <small>くろ まる かん じ</small> | 禅 2 必 | 4 |

講義のねらい

この講座は、本学の建学の理念に基づいて講義されている道元禅師と瑩山禅師の著述の中から、その主著として知られる『正法眼蔵』と『伝光録』について概説する必修の講座である。したがって、それぞれの宗典について、主としてその成立と思想を中心に述べることになるが、授業スケジュールや教科書については、新年度の開講のときに示すこととする。

成績評価の方法

必修科目でもあるので、出席状況による平常点と期末試験による理解度によって評価される。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|---------------------------------|--------|----|
| 宗典 | 河村孝道 <small>かわ むら こう どう</small> | 仏教 2 必 | 4 |

講義の内容・授業スケジュール

道元禅師の主著『正法眼蔵』（75巻、12巻他）を講読し、『正法眼蔵』の説示を通して日本曹洞禅の宗旨の要諦を学ぶ。

教科書

『道元禅師全集』第1巻・第2巻（『正法眼蔵』校注）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|------------------------|---------|-----|
| 宗 典 | いし い せい じゅん 石 井 清 純 | 仏教 2 必 | 4 |

講義のねらい

曹洞宗の両祖である道元・瑩山両禅師の著作を通じて、禅籍の読解力を養いつつ、日本曹洞宗の宗風の基礎を学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

はじめに、両禅師の著作全体を概観し、その思想的特徴を考える。のちに『伝光録』・『正法眼蔵』の順にテキストを読み進める。なお、『正法眼蔵』については、「行持上」の巻を予定している。

成績評価の方法

前期終了時の課題レポートと、学年末試験によって評価する。

教科書

プリント配布。

参考書等

《正法眼蔵》
 ※河村孝道校註『道元禅師全集』巻1・2（春秋社）
 ※水野弥穂子校註『正法眼蔵』4冊（岩波文庫）
 《伝光録》
 ※孤峰智瑤校註『冠註伝光録』（鴻盟社）
 ※東 隆眞訳註『現代語訳伝光録』（大蔵出版）
 この他各種出版されているが、各一揃いずつ揃えておくことが望ましい。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|----------------------|----------------------|-----|
| 禅 学 研 究 I | こ さが き ゆう 小 坂 機 融 | 禅 2・3 選必 仏教 2・3 選 | 4 |

講義のねらい

「永平『正法眼蔵』の仏経観」。道元禅師は、仏教の諸經典を依用し、独自の読解によって正伝の仏法を究明されると同時に、仏経の深義を尽界に参学して辨道の標準とすべきであるとして、特徴ある經典観を展開されている。このことを『正法眼蔵』の該当する各巻について検尋し、道元禅師独自の視点からの道得を考究する。

講義の内容・授業スケジュール

- 一、『正法眼蔵』に引証される経律論。
『法華経』・『摩訶僧祇律』・『大智度論』他。
- 二、『正法眼蔵仏経』における道得。
- 三、『正法眼蔵諸法実相・法華転法華』における道得。
- 四、『正法眼蔵山水経』における道得。
- 五、『正法眼蔵転法論』における道得。
- 六、その他。

履修上の留意点

講義に原典の講読を加えてゆくので、指示した原文について予習すること。

成績評価の方法

レポートの提出と出席状況によって評価する。

教科書

『正法眼蔵』の該当する巻のコピーを配布する。

参考書等

『正法眼蔵思想大系』。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|--|------------------|-----|
| 禅学研究Ⅱ | 青 龍 宗 二 <small>せい りゅう むね つぐ</small> | 禅2・3選必 仏教2・3選 | 4 |

講義のねらい

禅の実践的教義である修証の意義を清規（坐禅・戒律）を通して把握してゆく。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は以下の内容で順次行う。

- (1) 禅における修証観。
- (2) 禅における清規の成立とその展開。
- (3) 道元禅師の修証観。
 - (イ) 仏行（本証妙修・不染汚行）の意義。
 - (ロ) 仏行と禅戒・清規。
 - (ハ) 坐禅と戒律との歴史的課題。

そ の 他

- (1)履修上とくに原典をよく読んでおくことが講義内容を理解してゆく上で非常に重要である。
- (2)成績評価は年度末の定期試験で行う。(3)教科書は特に使用しないが、(4)参考書は開講時に指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|--|------------------|-----|
| 禅学研究Ⅲ | 岩 永 正 晴 <small>いわ なが しょう せい</small> | 禅2・3選必 仏教2・3選 | 4 |

講義のねらい

江戸時代の所謂「宗統復古運動」は、道元禅師の『正法眼蔵』『嗣書』『面授』等を思想的根拠としながら正山道白・梅峰竺信等により推進された教団の改革運動でありました。曹洞宗教団はこの運動によって幕府の宗教政策に合致したあり方へと転換していったと思われます。この講義に課せられているテーマは「教団」でありますので、江戸時代の曹洞宗に一画期をもたらした「宗統復古運動」の解説を軸としながら、曹洞宗教団について講義を進めていきたいと思ひます。

講義の内容・
授業スケジュール

はじめに宗統復古運動について概説し、その後臨濟宗の桂林が、運動推進派に与しつつ運動自体の是非を判じた『正法嫡伝獅子-吼集辨解』を手がかりとしながら、推進反対の両派の主張に触れていきます。

教 科 書

随時コピーして配布します。

参 考 書 等

適宜指示します。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|----------------|------------------|----|
| 禅学研究Ⅳ | なが い まさ し 永井政之 | 禅2・3選必 仏教2・3選 | 4 |

講義のねらい

中国禅宗の歴史をいささかでも学んだ人なら、唐・五代のそれが、いわゆる「純禪の時代」として、後世から常に憧憬の眼差しを持って見つめられていることを知っていよう。このように重要な時代でありながら、その実像となると曖昧な知識の上に構築されている部分が少なくない。そこでこの授業では、六祖慧能の弟子、あるいは孫弟子にあたり、江西・湖南を中心に禅風をふるった「洪州宗」と呼ばれた人々を中心に、五家の宗祖とされる人々までの、何人かを選んで原資料の記述を見つ、その伝記や思想、教えの流れを見ていきたい。

成績評価の方法

成績評価は、出席などの平常点、および期末試験にて行う。

教科書

原資料については、『祖堂集』や『景德伝灯録』の全体を入手するのが、もっとも望ましい。卒論作成に際しても役立つであろう。当面は、必要な部分をコピーにて配布する。

参考書等

授業中に適宜指示するが、概説として柳田聖山「中国禅宗史」（『講座「禅」第三巻－禅の歴史・中国－』筑摩書房）を挙げておきたい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|-----------------|------------------|----|
| 仏教研究Ⅰ | い とう たか とし 伊藤隆壽 | 仏教2・3選必 禅2・3選 | 4 |

講義のねらい

本講座は、仏教の教義について扱うのであるが、今年は中国仏教の教義について講義する。

講義の内容・
授業スケジュール

およそ次のような内容を予定している。
1. 初期の仏教 2. 羅什及び南北朝の仏教 3. 隋唐の諸宗 4. 宋代以後の仏教

履修上の留意点

授業中に適宜参考資料の紹介やコピー資料の配布などをするので、自主的に受講してほしい。

成績評価の方法

年度末の試験による。

教科書

特に教科書は使用しない。

参考書等

参考書等は授業中に指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------------|------------------------|-------------------|-----|
| 仏 教 研 究 II | おか べ かず お 雄 岡 部 和 雄 | 仏教2・3選必 禪 2・3選 | 4 |

講義のねらい

この講座では、仏教の「実践」を主題として講義することになっている。仏教の実践としては、戒律を守ること、禪定によって心集中をはかることなどが、最も重要であろう。仏教儀礼や苦行（回峰行など）などもこれに含まれるであろう。この講座では、仏教的実践論を種々の角度から分析し、その特質を考察してみたい。

講義の内容・
授業スケジュール

仏教史の展開に即して講ずる。実践論を中心に据えた仏教史と考えてもよい。

履修上の留意点

講義が中心になるが、ときには関連の文献を講読することもある。資料やコピーは配布する。

成績評価の方法

成績の評価は、年度末の試験による。

教 科 書

特定の教科書は使用しない。

参 考 書 等

必要に応じて紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------------|-----------------------|-------------------|-----|
| 仏 教 研 究 III | よし ず よし ひて 吉 津 宜 英 | 仏教2・3選必 禪 2・3選 | 4 |

講義のねらい

近時、新宗教といわれる宗教運動が盛んであり、社会的に事件を起こすことも多い。信教の自由が保証され、宗教への政治的な介入が制限されていることは重要である。しかし、宗教団体の方から政治的な活動に志向する場合もある。そこで、数年前に「宗教法人法」の改訂の是非が問題とされた。

一体、宗教は個人の営みとして限定されうるのであろうか。また、社会的な側面、ひいては集団、教団といわれるものとしての必然性があるのであろうか。

この講義では世界の諸宗教、特に仏教における個人と社会、個人と集団、あるいは教団の問題を多角的に考察してみたい。

その考察の中心に戒と律との相互関係を措く。戒は原則的に個人の良き生活習慣と言えよう。その習慣が集団の、あるいは教団の共通の認識や、共通の生活規程となると律となる。戒には罰則規定は無いが、律にはそれが伴う。

この戒の機能と律の機能とは、歴史的に見て、どのような関係となっているのであろうか。また、現代の日本の宗教の社会的役割の問題との関連ではどのような相互関係としてあるべきであろうか。戒と律の機能と両者の相互関係の様相を、社会の諸規範たとえば倫理道徳や法律体系との関連の中で考究したい。

講義の内容・
授業スケジュール

この講義では伝統的な仏教の戒と律の文献全体を視野に措きたいと思うが、直接的には鎌倉時代の東大寺戒壇院の僧、凝然（1240-1321）の『律宗綱要』を中心に据えて、研究考察を進めたい。

したがって、鎌倉時代の歴史的な文脈の中で考えることが多いが、仏教的には広く釈尊から現代までを視野に入れ、宗教的には世界の諸宗教の教団のあり方や、戒や律の問題などにも目配りをしたい。

履修上の留意点

この講義専用のノートを用意し、講義内容を書き留め、また皆さん自身の意見や疑問も書き込んでもらいたい。質問は大歓迎で、私の方から皆さんに質問し、応答を求める。

成績評価の方法

随時、皆さんの意見、課題についてのレポート、そして小論文を提出してもらい、その内容によって単位の認定を行う。

教 科 書 ・
参 考 書 等

講義の中で適宜指示する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|------------|----------------------|------------------|-----|
| 仏 教 研 究 IV | いけ だ ろ さん 池 田 魯 参 | 仏教2・3選必 禅2・3選 | 4 |

講義のねらい

源信（942-1017）著『往生要集』を読み進めながら、インドで成立したアミダ仏信仰が、中国で浄土教を形成し、日本で法然や親鸞によって飛躍的な展開を遂げた、阿弥陀如来の極楽浄土に往生することを願った浄土願生者たちの群像を、仏教の歴史的背景にもとづいて考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

『往生要集』を最初から読んでいく。

成績評価の方法

講義の中で行う質疑応答や意見発表を合わせ、期末テストの成績で評価する。

教 科 書

岩波文庫本『往生要集』上下巻（岩波書店）1,340円

参 考 書 等

講義の中で順次指摘する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|-------------------------|-----------|-----|
| イ ン ド 仏 教 史 | た が み たい しゅう 田 上 太 秀 | 禅・仏教2・3選必 | 4 |

講義のねらい

インド仏教史はたんに仏教の歴史の講義に止まらず、インド哲学思想やインド文化史の中に位置づけられた仏教の様相を時代を追って講義しようと考えている。

たんに歴史の叙述だけでなく、それぞれの事象を残された彫刻や絵画などで紹介したり、植物や動物の関わりにも触れて説明をしたい。

講義の内容・授業スケジュール

昨年の講義に準じて本年の講義は進めるが、多くはプリントを配布し、それを資料にして講義する。

講義内容・目次

- 第1章 ゴータマ・ブッダ以前のインド
- 第2章 ゴータマ・ブッダの生きた時代の社会環境
- 第3章 ゴータマ・ブッダの生涯
 - ブッダの系譜、ブッダの誕生、ブッダの少年時代、出家の動機、修行生活、菩提樹下の開悟、45年間の伝道活動、死への旅
- 第4章 ブッダの根本思想 四諦八正道
- 第5章 仏教の分類
 - 地域的区分、教理展開の時代的区分、修行の価値的区分
- 第6章 アショーカ王と仏教
- 第7章 教団分裂と部派の仏教
- 第8章 経典の成立
- 第9章 大乘仏教の起源
- 第10章 大乘仏教の思想の流れと特色
- 第11章 主な仏教文献の種類と思想

教 科 書

テキストはコピーを配布する。

参 考 書 等

佐々木教悟ほか著『仏教史概説（インド篇）』（平楽寺書店）750円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------|-------------------------|-----------|----|
| パーリ仏教史 | おく だいら りゅう じ 奥 平 龍 二 | 禅・仏教2・3選必 | 4 |

講義のねらい

北インドで発祥し、スリランカで大成した上座仏教（テーラーヴァーダ、「長老僧の言説」「小乗仏教」の一部派でパーリ聖典を信奉する）が、のち、東南アジア大陸部に伝来し、ミャンマー（ビルマ）タイ、クメール、及びラオス族等に受容され、ここにパーリ文化が興隆する。これらの諸国は、「上座仏教」を基軸として王権による政治的統合を行い、「上座仏教国家」を建設した。また、これらの諸国は、今日、ミャンマー、タイ、カンボジア、およびラオスとして、いわゆる「上座仏教文化圏」という独特の文化領域を形成している。

本授業では、上記のような上座仏教の歴史（パーリ仏教史）を概観したのち、特にミャンマーのパーリ仏教史を事例として、東南アジア大陸部諸国の上座仏教の受容と変容の問題を取り上げ考察する。また、出家者と在家者、上座仏教と民間信仰等との関係にも言及し検討を加えることによって、この地域におけるパーリ仏教の特徴を総合的に捉えることを狙いとする。

講義の内容・授業スケジュール

開講時に年間の事業計画を配布し、また、毎授業時間の始めに、その日の授業内容についてレジュメを配布するほか、随時関連資料を用意する。

成績評価の方法

第2回の期末レポートと授業態度を総合的に判断して成績を評価する。

参考書等

参考図書ならびに関連文献を開講時にプリント配布し、必要な解説を行う。

その他

授業は、参加人数にもよるが、講義だけではなく、特定の問題について討論もを行い、学生の積極的参加を期待する。また、講義の補助教材として、適宜、ビデオ、スライド、OHP等を使用する予定。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------|---------------------|-----------|----|
| チベット仏教史 | きむら せい じ 木 村 誠 司 | 禅・仏教2・3選必 | 4 |

講義のねらい

チベット仏教は、近年、多くの人々から注目を浴びている。一般的には、『チベット死者の書』に代表される密教的な面に関心が集まっているが、このような傾向は、チベット仏教の本質を見失う要因ともなっている。本講義では、チベット仏教史における重要な教理論争を取上げ、チベット仏教の本質を考察する。

講義の内容・授業スケジュール

特定の教科書は用いず、適宜資料を配布する。

成績評価の方法

成績評価は、筆記試験あるいは、レポートによって行う。

参考書等

山口瑞鳳『チベット』上下（東京大学出版会）
松本史朗『チベット仏教哲学』（大蔵出版）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|-----------------|-----------|----|
| 中国仏教史 | おおかべかずお 岡部和雄 | 禅・仏教2・3選必 | 4 |

講義のねらい

中国における仏教の歴史的発展を時代に分けて概説的にたどり、その道すじや特色を明らかにする。いうまでもなく中国仏教という語は Buddhism in China の意味で一般に用いられているが、Chinese Buddhism (「中国人の仏教」または「中国の仏教」) をも意味するのであろう。そして後者の意味するところは、インド仏教や日本仏教とは異なる“中国独自の仏教”ということになる。この観点に立てば中国仏教史とは、中国独自の仏教の形成史にほかならない。

中国仏教史を正しく理解するには、2つの前提が必要と思われる。1つはいうまでもなく仏教についての知識である。仏教はインドの起源であるから、インドのオリジナルな仏教についての予備知識が不可欠である。他の1つは中国史とくに中国思想史についての大まかな知識である。中国では紀元前にすでにインドに劣らない多彩な古典哲学（諸子百家の思想、とくに儒家と道家の思想）が開花した。インドから伝来した仏教は、それらの中国固有の伝統思想と出会い、抗争し、融合した。中国は新しい外来の宗教である仏教を受容して仏教化した。他方、受容された仏教は、それまでの仏教（インドや西域の仏教）とは相貌を異にするほど著しく中国化されてしまった。このように考えれば、中国仏教史とは「中国の仏教化」と「仏教の中国化」を同時に1つの歴史過程のなかにふくむものであり、この2つの契機を思想のダイナミズムとしてたえず注目していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

年度はじめに全体を12章に分けた講義内容を提示する。

履修上の留意点

特に教科書を指定しない。しかし中国仏教史の通史、概説書、研究書は、内外にわたって豊富なので、必要に応じて、それを紹介し、学説が対立している場合は、その問題点を集約し論評を試みる。中国史については『中国史研究入門』上下（山根幸夫編、山川出版社 1983）がすぐれている。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|----------------------|-----------|----|
| 朝鮮仏教史 | いし 石井 こう 公成 | 禅・仏教2・3選必 | 4 |

講義のねらい

仏教伝来から現代に至るまでの朝鮮仏教について概説する。

講義の内容・授業スケジュール

仏教伝来の状況と、朝鮮仏教精華である新羅仏教に重点を置き、資料を読みながら通説を批判的に検討してゆく。その際、中国・日本・チベット・ベトナムなどの仏教受容との共通点と違いに注意したい。

履修上の留意点

漢文文献が中心となる。仏教漢文の訓練という点も考慮し、漢文の基礎力がつくような授業形態とするが、自分から積極的に漢文に取り組もうとする姿勢が必要となる。

成績評価の方法

年度末試験によって判定するが、授業中に熱心に取り組んでいた者については、平常点を加算する。

教科書

参考書は数が少ないため、授業内容に応じて関連論文の一覧を配布する。

参考書等

鎌田茂雄『朝鮮仏教史』（東京大学出版会）2,400円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-------------------------|-----------|-----|
| 日 本 仏 教 史 | たか 高 橋 秀 栄 ほし しゅう えい | 禅・仏教2・3選必 | 4 |

講義のねらい

前年度の講義は奈良時代までで終わったので、今年度は最澄、空海が登場する平安時代から鎌倉時代までを視野に入れた講義になろうかと思う。仏教の歩みを中心に、信仰が育んだ仏教文化との関連性も追求したいと思っている。したがって、講義の内容も広く浅きに流れるかもしれないが、つとめて興味をひくようなテーマをしばって平易に講義するつもりである。

講義の内容・授業スケジュール

- 最澄と天台学
- 空海と密教
- 平安時代の法華経信仰
- 京都の密教寺院と文化財
- 阿弥陀来迎図と弥勒来迎図
- 絵巻物にみる僧尼のくらし
- 仏菩薩に捧げた仏教歌謡
- 鳥羽僧正と鳥獣戯画
- 密教図像の世界
- 中世の達磨大師讃仰
- 安居院流の『法華経釈』
- 釈迦信仰、観音信仰
- 鎌倉時代の印刷文化
- 仏像納入品
- 寺院絵図にみる伽藍の結構
- 『徒然草』にみる鎌倉仏教
- 『平家物語』にみる仏教
- 地獄の風景、閻魔犬と閻魔王
- 西大寺叡尊と極楽寺忍性
- 中世寺院と学僧の活動
- 鎌倉五山の歴史と文化財

履修上の留意点

日本に限らず、仏教の歴史と事象を正しく理解するには、人名、地名、寺名、書名の正しい読み方や基礎的な仏教知識を身につけておくことが必須の条件である。常日頃から、仏教辞典や概説書に親しみながら、講義に臨んでほしい。

成績評価の方法

十枚以上のレポート提出、採点評価は厳しい。

教科書・参考書等

ともに随時、講義の中で紹介する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|--------------------------|-----------|-----|
| 中 国 禪 宗 史 | た な か りょう しょう 田 中 良 昭 | 禪・仏教2・3選必 | 4 |

講義のねらい

本講座は、中国の禪宗の歴史を考察するものである。仏教の実践道とされた禪が中国に伝来し、菩提達摩を初祖とする系統がやがて中国禪宗を形成し、更にそれが独自の展開を果たし、後にチベット、韓国、日本へと伝承された。この中国禪の歴史的展開を、近年出現した敦煌資料を活用しながら検討する。

講義の内容・
授業スケジュール

菩提達摩の渡来以前の仏教における禪の状況を序説的に第Ⅰ部とし、達摩の渡来による独特の禪法の開示から、馬祖の洪洲宗、石頭の石頭宗によって禪宗が一宗として確立された中国禪宗の成立を第Ⅱ部とし、禪宗が五家七宗として各々その特性を発揮する唐末・五代から、日本の禪宗の元となった宋朝の禪、更に元代以後の禪という中国禪宗の展開を第Ⅲ部として全体を体系化する。

履修上の留意点

中国・日本の禪学や曹洞宗学を学ぼうとする学生諸君には、その基礎的な知識として歴史的な禪の流れを確かなものにしておくことが、その後の学習にとって最善の方法であると確信している。

成績評価の方法

学年末試験を中心とするが、平常の授業への出席を重視し、その結果を加味して評価する。

教 科 書

現在適当なものが存在しないので、ノートを使用する。

参 考 書 等

比較的理解しやすいものに、〈講座禪〉第3巻『禪の歴史——中国——』中の柳田聖山稿「中国禪宗史」があるが、入手困難のため図書館を利用されたい。専門書としては、関口真大『禪宗思想史』、柳田聖山『初期禪宗史書の研究』、田中良昭『敦煌禪宗文献の研究』、篠原壽雄・田中良昭編『敦煌仏典と禪』、鈴木哲雄『唐五代禪宗史』、石井修道『宋代禪宗史の研究』等が代表的なものである。

そ の 他

授業の方法は講義であり、ノートを使用し、必要に応じて資料を配布し、内容についての説明を可能な限り詳細に加えていきたい。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-----------------------|-----------|-----|
| 日 本 禪 宗 史 | ほら た ひろ みち 原 田 弘 道 | 禪・仏教2・3選必 | 4 |

講義のねらい

- 我国に伝来した禅はその主流となって、類型を異にするものが五つあったと考えられる。
- I. 栄西・聖一・法燈等の流派であり、教禅兼修の家風である兼修禅——教乘禅の性格をもったもの。
 - II. 蘭溪・祖元等の来朝した中国僧によって伝えられた鎌倉禅であり、これは禅林の清規によって祖師禅を挙揚した。
 - III. わが国の南浦紹明（大応国師）が入宋求法して松源一派の禅を伝え、純一無雑に祖師禅を挙揚し、大応・大燈・関山の三代に亘って基盤を築いた応燈関の一流である。
 - IV. これらの臨濟禅とは別に道元によって伝来され、瑩山に至って、宗団として形成され、その門流によって展開された曹洞禅である。
 - V. 江戸時代に隠元によって伝えられた明朝禅——念仏禅——である。
講義ではこれらを中心にして日本禅宗の歴史を考察する。内容は伝来・受容、発展の実態とその思想史的意義も明らかにしておく。

講義の内容・授業スケジュール

1. 禅宗の伝来（奈良・平安時代）、2. 兼修禅の勃興とその系譜、3. 曹洞禅の伝来と原始僧団、4. 臨濟禅の伝来と形成、5. 五山の成立と五山文学、6. 臨濟禅（応・燈・関）の展開、7. 曹洞禅の地方展開、8. 近世の禅宗、9. 近代の禅宗

履修上の留意点

禅の教理、思想の理解、日本史の一般的知識の習得をしておくこと。

成績評価の方法

平常点（出席）と試験による総合評価。

参 考 書 等

『禅の歴史——日本——』（講座禅第四巻）、鈴木泰山『禅宗の地方発展』
荻須純道『中世日本禅宗史』

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------|------|------------------|----|
| 禅籍講読 I | 田中良昭 | 禅3・4選必 仏教3・4選 | 4 |

講義のねらい

この講義は中国で成立した初期の禅籍（禅宗語録）を講読するものである。本年は、初期の禅籍の内、六祖慧能（638～713）が韶州大梵寺で道俗のために説法した記録とされる『六祖壇経』を読む。『六祖壇経』は、長い年月にわたって数多くの異本が生み出されたが、現存最古のテキストである敦煌本の内、近年その内容が明らかにされた敦煌県博物館所蔵本（敦博本）を用い、その読解を通じて、初期禅思想、特に南宗禅の特色を明らかにしていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

オリジナルテキストは写本であるが、近年、楊曾文氏の校定本、周紹良氏の影印・校定本が刊行されているので、両者を比較しながら読解を進める。尚、上記校訂本はいずれも白文（かえり点のない漢文）であるが、佐藤悦成氏による訓読と現代語訳が出版されているので、順番に読み下しと解釈してもらい、その上で読み方と内容について詳しい解説を加えていきたい。

履修上の留意点

この講義の履修を通して、原文に触れることの意義を体験し認識していただきたい。

成績評価の方法

平常の当番の際の読解力、出席状況、学年末試験の結果を総合して評価する。

教科書

楊曾文校写『敦煌新本・六祖壇経』（上海古籍出版社）、周紹良編著『敦煌写本壇経原本』（文物出版社）の該当部分をコピーして配布する。

参考書等

佐藤悦成和訳『敦煌新本・六祖壇経』（全国曹洞宗青年会事務局）、柳田聖山訳『六祖壇経』（世界の名著）18『禅語録』（中央公論社）、及び『世界古典文学全集』36A『禅家語録』I（筑摩書房）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------|------|------------------|----|
| 禅籍講読 II | 石井修道 | 禅3・4選必 仏教3・4選 | 4 |

講義のねらい

禅籍講読IIは、中国後期（宋代以降）の禅籍について講読するものである。この時代の禅籍の特長には、公案集が多く著わされ、臨済宗の『碧巖録』や曹洞宗の『従容録』は、それぞれの宗派の根本聖典となっている。今年度は『無門関』の素材となった『宗門統要集』を講読し、その性格を学びたい。『宗門統要集』（1093年以前の成立）は、『景德伝燈録』（1004年）と共に宋代の二大禅籍として、禅者に受用され、極めて大きな影響を与えたことが明らかになってきた。『碧巖録』の成立にも関わったとされる。『宗門統要集』は10巻の分量があるので、『無門関』との関連を中心に講読したい。テキストは、東洋文庫と叡山文庫に貴重な宋版が存し、『宗門統要集』が中華大藏経の明藏に収められている。『統集』が、縮刷藏経や卍藏経に収められてはいるが、研究に利用されることは、従来少なかった。しかし、宋版の『宗門統要集』が参考できる現時点においては、宋代禅籍（コピー配布）として、この講義では学んでいきたい。

講義の内容・授業スケジュール

①『宗門統要集』について。②『宗門統要集』と真字『正法眼蔵』。③本文講読の順で講義を進めたい。

履修上の留意点

教科書を何度も読むこと。授業で取り上げる研究所や参考書を、図書館に行って触れてみることを。

成績評価の方法

レポート（夏休み後に提出）20点と学年末試験80点で評価し、評価には出席数も考慮する。

教科書

石井修道『中国禅宗史話』（禅文化研究所）3,605円

参考書等

西村恵信『無門関』（岩波文庫）等『無門関』ならいずれでも。他は授業で紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|------|------------------|----|
| 禅籍講読Ⅲ | 佐藤秀孝 | 禅3・4選必 仏教3・4選 | 4 |

講義のねらい

この講義は日本禅宗でも初期の禅籍（禅宗文献）を講読するものであり、それを通して日本の禅宗の特質を考えていくことを目的とする。日本への禅宗の伝来は平安末期から鎌倉時代に始まり、南北朝時代から室町・戦国時代にはその隆盛期を迎えている。ここで初期の日本禅籍というのは、こうした中世禅林に成立したものをその対象としている。

はじめに日本への禅宗の伝来、兼修禅と純粹禅、臨済宗と曹洞宗の展開とその状況、五山叢林と林下、漢文語録と仮名法語などの問題を概観し、日本禅籍の分類や特徴を講ずる。とくに永平道元（1200～53）や瑩山紹瑾（1264～1325）に始まる曹洞宗の禅籍についてはいくぶん詳しく説明したい。

その後当該の禅籍を講読するわけであるが、今年は『道元禅師語録』をその対象とし、特徴的な上堂語その他を順次を読み進めることにしたい。本書は道元の語録である『道元和尚広録』（『永平広録』とも）10巻を抜粋編集して1巻となした『永平元禅師語録』すなわち『永平略録』のことであり、その編集は道元と同門に当たる南宋の無外義遠（?～1266）によってなされているらしい。その間の事情などを踏まえて本書を精読吟味していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

はじめは講義形式で行ない、後半は内容の講読へと進みたい。

履修上の留意点

仮名の『正法眼蔵』と違い、本書は漢文の語録であるので、読解力を増すように努力してもらいたい。

成績評価の方法

平常点（出席率や学習・発表態度）と年度末の定期試験による。

教科書

鏡島元隆訳註『道元禅師語録』（講談社学術文庫）700円

参考書等

大久保道舟訳註『道元禅師語録』（岩波文庫・岩波書店）520円
酒井得元訳註『永平元禅師語録』（『道元禅師全集』第5巻に所収）（春秋社）4,120円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|------|------------------|----|
| 禅籍講読Ⅳ | 石井清純 | 禅3・4選必 仏教3・4選 | 4 |

講義のねらい

『禅林口実混名集』を講読する。本書は、正徳5年（1715）に刊行された、禅僧の渾名（あだ名）集である。あだ名とはいっても、それは禅僧ひとりひとりの行動や足跡に基づいたものであり、その由来を知ることは、あだ名の主の人となりを理解することに直結する。

本講義は、達摩に始まる諸禅僧のあだ名と、その基となった有名な逸話を手がかりに、その人の性格や思想を理解してゆくとともに、漢文の読解力を養うことを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

巻下の冒頭より読み進める。

成績評価の方法

前期2回、後期1回の小テストと、年度末試験の計4回の筆記試験によって成績を評価する。

教科書

プリントにて配布。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-------------------------|------------------|-----|
| 仏 典 講 読 I | いけ だ れん たろう 池 田 練 太郎 | 仏教3・4選必 禅3・4選 | 4 |

講義のねらい

上座部・大寺派の学僧ブッダゴーサ（仏音）によって5世紀に著され、今日においても南方バリー仏教において最も権威ある論書とされる『清浄道論』(Visuddhimagga)を講読する。本書は、『解脱道論』(Vimuttimagga)を底本とし、それに『サマタパーサーディカー』『アッタサーリニー』など数多くの義疏を参照して、大寺派の立場から上座部の基本的アビダンマ論書であるいわゆる南伝7論の教理や、それ以後に展開した説などをまとめたものである。本書の構造は、戒・定・慧の三学によってその骨格が創られており、さらに、それぞれのテーマごとに全部で23の章から構成されている。授業では、この中から主要なテーマを取り上げて講読し、上座部の基本的な教理を理解することをめざしたい。また、根本分裂によって別れた大衆部系の主張や、同じく上座部系でありながら、異なった教理体系を確立した説一切有部の主張などとも比較をしてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

授業では、智慧の問題や禅定の問題など、いくつかのテーマを選んで該当する箇所を講読する。なお、『南伝大蔵経』所収の水野弘元博士の和訳をテキストとして用い、バリー語の原典は必要に応じて参照するつもりである。

成績評価の方法

基本的には、年度末の定期試験によって評価するが、授業の際に小テストを行うこともある。

教科書

プリントを配布する予定。

その他

出席者に順番に音読してもらう予定である。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|------------|-----------------------|------------------|-----|
| 仏 典 講 読 II | まつ もと し ろう 松 本 史 朗 | 仏教3・4選必 禅3・4選 | 4 |

講義のねらい

『法華経』(Saddharma-pundarīka-sūtra)を、サンスクリット本(荻原・土田本)によって講読し、仏教思想の意義について考察する。

講義の内容・授業スケジュール

『法華経』について若干解説し、「方便品」よりテキストを読み、解説する。漢訳の『妙法蓮華経』も参照して説明する。

履修上の留意点

受講者には、サンスクリットのテキストを読み、一応の和訳を示してもらう。

成績評価の方法

年度末の定期試験と平常点。

教科書

第1回目の授業で指示する。

参考書等

『大乘仏典 4 法華経I』(中央公論社)、『法華経(上)』(岩波文庫)

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|------|----------------------|----|
| 仏典講読Ⅲ | 平井俊榮 | 仏教3・4選 必 禪3・4選 | 4 |

講義のねらい

吉蔵撰「三論玄義」の講読

「三論玄義」は隋代に三論（中論・百論・十二門論）の教学を大成した嘉祥大師吉蔵（549～623）の初期の代表的な著作で、三論の立場から書かれた代表的な中国仏教の概説、入門の書である。本書の講読によって、中国仏教特に中観仏教の中国的展開の一端を理解して貰えるようにしたい。

講義の内容・
授業スケジュール

第1篇 すべての教えの根本

第1章 破邪

第1節 外道に対する批判

第2節 毘曇に対する批判

第3節 成実に対する批判

第4節 大乘仏教の執見に対する批判

第2章 顕正

第1節 人についての正義

第2節 教えについての正義

第2篇 別積

第1章 経典と論書の互助関係

第2章 論書がつくられたゆかり

第3章 諸部派における通別の意味

第4章 題名の立て方

第5章 多くの論書が帰着する趣旨

第6章 四論の破斥と主張

第7章 別の立場からの解釈

第8章 三論の通と別

第9章 教化のための手段の相違

第10章 破斥の対象の相違

第11章 中論の題名の解釈

履修上の留意点

期末筆記試験の成績

教科書

「首書三論玄義」（刊本をコピーすること。刊本の入手が困難な時は大正大蔵経45巻の該当部分を各自コピーすること。）

参考書等

平井俊榮著『大乘仏典 中国日本篇2 三論玄義』（中央公論社）4,200円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|------|----------------------|----|
| 仏典講読Ⅳ | 飯塚大展 | 仏教3・4選 必 禪3・4選 | 4 |

講義のねらい

無住道暁（1226～1312）の著作である『沙石集』を講読する。『沙石集』は鎌倉時代成立の説話集であり、古今東西の説話をとりあげて、仏教の要旨や処生訓を説く啓蒙書である。本書を通して、中世日本における仏教者の生き方とその主張をあきらかにしたい。

講義の内容・
授業スケジュール

まず無住の伝記と仏教者としての思想的経歴を明らかにした上で、原典の講読を行なう。

履修上の留意点

受講者の解釈が前提とされるため、予習は不可欠である。

成績評価の方法

授業時における読解内容と、前・後期一回ずつのレポートとによって評価する。

教科書

随時紹介する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|-----------------------|--------------|-----|
| 宗 教 史 | はせべ はちろう 長 谷 部 八 朗 | 禅・仏教1・2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

本講義では、仏教を中心に日本宗教史の概説を行う予定である。

講義の内容・
授業スケジュール

前期は古代、中世を、後期には近世、近代を扱う計画である。古代では、とくに天台宗、真言宗の展開に焦点を当てる。中世は、鎌倉仏教、神道流派の形成に着目する。次いで、修験道から本山派、当山派が興り、組織化を進めたことに触れる。近世では、徳川幕府の宗教政策との関連で、仏教、神道、儒教などの展開をたどる。また一向宗や日蓮宗不受不施派、隠れキリシタンなどの禁圧された宗教についても論ずる。さらに、修験系や法華系の講社が多数出現した社会的背景を探る。そして、近代においては、神仏分離、廃仏毀釈の打撃から仏教がどのように復興していったかをみる。新宗教の歴史にも言及したい。

成績評価の方法

未定である。なお、授業時に1、2回小論文を書いてもらい、評価に加算することも考えている。

教 科 書

用いない。板書を中心に進めるので、ノートの充実を望む。

参 考 書 等

授業時に必要に応じて紹介する予定である。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|----------|----------------------|--------------|-----|
| インド仏教文化史 | な ら やす あき 奈 良 康 明 | 禅・仏教1・2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

インド仏教を「教理」としてではなく、「文化」としてとらえて、検討したい。ここに「文化」とは生活様式、行動様式としての文化であり、「仏教徒」という社会を構成する人々（出家修行者および在家信者を含む）が、事実として、何を考え、どのように生活していたかをさぐる。したがって、悟りのレベルにある修行や教理、悟りに基づく倫理的生き方などは、無論、仏教である。同時に、功德を積んで良き後生を願う観念や行動、六道輪廻の理解、通過儀礼、祖先崇拜、呪術、祈願儀礼、占星等も仏教徒の生活「文化」である。両者は宗教的レベルと機能を異にするが故に、相互補完の形で共存し、その共存のあり方が興味ある研究対象である。又、インド仏教（徒）はそれを生み、育てたヒンドゥー世界とどうかかわり、如何に位置づけられるか、も興味ある研究テーマである。資料は梵語、パーリ（そして漢訳）語の経・律典と碑文、考古学的遺品等が中心となる。文献学的操作を経て得られた結果は、当時の仏教徒の現実の生活文化と、数学が主張するところとは大きなギャップのあることを示しているし、この構造は中国、韓国、日本ないし東南アジアのテーラヴァーダの仏教文化でも同様である。そして、このギャップこそが仏教（宗教）教団の社会への定着・発展のダイナミズムとしてとらえられるべきものである。

以上の問題意識のもとに今年度は、おおよそ次のテーマにしたがって講義したい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 仏教を「文化」としてとらえるとはどういうことか。
「仏教」をどうとらえるか
「文化」とは何か？
仏教（宗教）の二つのレベル：「世間」（自我充足）と出世間（自己凝視）
仏教文化の「表層」と「基層」
仏教文化研究の方法論：M. Spiro, M. Ames, 他
2. 古代インドにおける仏教文化とヒンドゥー文化。
民族宗教としてのヒンドゥー教（世界）
ヒンドゥー教の特徴：神観念・宗派・特定の教義のないこと・ダルマ
カースト・ヴァルナ制度と仏教
古代インドの仏教徒とヒンドゥー教徒の関係（特にカーストをめぐる）
3. 仏教文化における業・輪廻思想の意味。
古代インドにおける業・輪廻思想の成立
業思想の構造と機能（含む 死後世界の構造と機能）
一般的業論の「自覚的業論」への昇華
懺悔の思想と実践
業と果報の関係
業の止滅と改変
4. 功德観念の文化史的発展。
善業と功德（punya）・悪業と悪徳（papa）
「作功德→生天」の図式的倫理的・宗教的意味
功德観念の「出世間レベル」への関係付けないし昇華
功德の廻向（adesana）と廻向（parinama）
死者儀礼・祖先崇拜儀礼における功德観念
「生天」観念の発展と解脱の関係
5. 「餓鬼」（preta）研究。
ヒンドゥー教におけるプレータと祖霊祭
古代インド仏典にみる「餓鬼世界」の住人としての餓鬼
古代インド仏典にみる死者儀礼と関わる餓鬼
『ベータヴァットゥ』『ヴィマーナヴァットゥ』における餓鬼供養の構造と意味
テーラヴァーダ仏教における餓鬼観念の変遷と儀礼
中国、日本における餓鬼供養の構造と変遷

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------|---|--------------|----|
| 中国仏教文化史 | ^{なが} 永 ^い 井 ^{まさ} 政 ^し 之 | 禅・仏教1・2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

ここでいう「文化」とは、現代の我々が日常的にイメージするそれではなく、「人間の営み」としての文化である。そのような文化を中国の歴史の上で見たいとするのが、本講義の主眼となる。言葉をかえていうなら、各時代を通じて中国人と仏教がどのような関係にあったかということになる。

今年度は、主として宋という中央集権国家に組み込まれた「禅宗」が、政治・経済・社会とどのように対応していったかを考える。

本来は「方外」の上であるべきにも関わらず、中国の仏教者は、その当初から国家権力への配慮を余儀なくされる。それが伽藍や教団の盛衰に直結していたからである。このような二律背反の世界を抱えつつも、彼らは仏教の中国的な理解に励み、またその受容に努力する。このことは現代に生きる我々にとってもさまざまな示唆をあたえるのではないかな。

成績評価の方法

成績評価は平常点に期末試験の結果を加味する。

教科書

必要なテキストは授業において指示する。またコピーを配布する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------|---|--------------|----|
| 日本仏教文化史 | ^{はかま} 袴 ^や 谷 ^{のり} 憲 ^{あき} 昭 | 禅・仏教1・2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

私は日本の「仏教文化」について講義する資格を有しないと自らは思っている。それを私は仏教学部に申し出ているが、私の思うとおりをやっけて頂いてよい、ということなので、通常の講義と違って出る方は、失望と落胆を味わうことになると思うので遠慮されたい。この授業は講義ではなく、『国体の本義』の批判的な講説を通して、日本における「仏教文化」の問題点を考えていこうという、むしろ演習であると了解されたい。

講義の内容・授業スケジュール

『国体の本義』を冒頭より演習形式で読みすすめる。最初の数時間のみは、本書の成立状況等について講義するが、これが1年間続くのだとは、履修登録の際には決して考えないでほしい。

履修上の留意点

教科書はもとより関連諸文献を自ら読もうとする者でない限りは履修は無理と思われるので、その点留意されたい。

成績評価の方法

平常点とする。

教科書

『国体の本義』（昭和12年3月、文部省刊）。もちろん、現物を今求めることは難しいが、図書館には多数所蔵されているので、借り出すかコピーするかして授業には必ず持参してほしい。

参考書等

家永三郎『日本文化史』第二版（岩波書店）1982年 600円
袴谷憲昭『法然と明恵——日本仏教思想史序説——』（大蔵出版）1998年 4,800円＋税

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|------------------|--------------|----|
| 日用経典 | みながわひろよし 皆川広義 | 禅・仏教1・2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

般若心経・法華経・修証義
 現在、礼拝の場などでよく読まれている代表的仏教経典を、教理を正しくふまえてわかりやすく講義したい。
 はじめに、仏教の開祖・釈尊の悟りの世界を述べている『般若心経』を学び、仏教の教えの根本を明らかにする。
 次に、釈尊の人々への思いやりより生まれた伝道の心を述べている『法華経』を学び、仏教の説く慈と安心を学び得たい。
 最後には、明治時代、我国で新しく編纂された経典である『修証義』を学ぶことによって、自己の生死の苦悩を超越して、悟りと安心をつくりだしたい。
 以上の般若心経・法華経・修証義の三経典は、多くの日本人に影響を与え、安心と生きがいをつくりだした、日本仏教の根本聖典である。

講義の内容・授業スケジュール

- I 仏教の経典
 - 1. インドの経典（パーリー語経典、サンスクリット語経典）
 - 2. 中国の経典
 - 3. 日本の経典
- II 般若心経
 - 1. 般若経について
 - 2. 般若心経について
 - 3. 本文解釈
 - 4. 般若心経に説示された悟りの世界
- III 法華経
 - 1. 法華経について
 - 2. 本文解釈 ①寿量品偈 ②普門品偈
 - 3. 法華経に説示された慈の世界
- IV 修証義
 - 1. 正法眼蔵と修証義
 - 2. 修証義について
 - 3. 本文解釈
 - 4. 修証義に説示された安心と生きがい

履修上の留意点

積極的に聴講し、学習することを希望する。経典を主体的に学んで、自己の思想を確立し、人格を完成していただきたい。

成績評価の方法

聴講の態度（出席率など）、レポート・年度末の定期試験などによって、総合的に評価する。

教科書

『日用経典テキスト』 プリント代 500円 教室で配布する。

参考書等

紀野一義著『般若心経を読む』（講談社現代新書）420円
 紀野一義著『法華経を読む』（講談社現代新書）420円
 桜井秀雄著『修証義を読む』（名著普及会）1,500円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|---------|--------------|-----|
| 禪 学 概 論 | 佐 藤 秀 孝 | 禪・仏教1・2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

禅学とは禅に関する学である。禅（禪那）という修行法はインドに発生し、仏教に取り入れられ、中国や朝鮮さらに日本など広範に展開したものである。一概には規定できないが、この講義では禅と禅宗に関する基本的な知識を歴史面と思想面から概説し、あわせてそれら禅学研究のあり方について触れるものである。禅宗は仏教の中でもっとも実践的な宗派であり、中国・日本の歴史と文化に大きな足跡を記し、今日においては国際的関心も高い。この禅を学問的に考察せんとするのが禅学であり、本講義はその概論・概説にほかならない。

はじめにインド仏教における禅（禅定）について触れ、さらに禅の歴史的考察として、菩提達磨に始まる中国禅（禅宗）の基本的な歴史（禅宗史）を禅思想の展開を踏まえつつ概観し、また日本の禅宗にも及びたい。さらに思想面としては、禅の立場、禅の人間観・修行観、禅の生活さらに禅と文化、禅の今日的課題（本覚思想・見性の問題）など、およそ禅に関する諸方面からの概説的考察をなしたい。そして、これらに並行して禅学に関するそれぞれの分野における研究方法や基本的な資料などについても解説するつもりである。

教 科 書

教科書はとくに指定しないで、その都度、諸資料をコピーなどで配布する。

参 考 書 等

参考書としては駒澤大学仏教学研究室編『宗教学Ⅱ』（更生社）や田中良昭編『禅学研究入門』（大東出版）が有効であろう。

そ の 他

授業方法としては原則として講義方式で行なう。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|---------|--------------|-----|
| 仏 教 概 論 | 平 井 俊 榮 | 禪・仏教1・2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

仏教について基本的な教理を中心に概説する。

講義の内容・
授業スケジュール

次の大綱にしたがって授業をすすめる。

- 序 章 仏教とは何か
- 第1章 仏陀の生涯
- 第2章 仏の本質
- 第3章 法——仏教の真理観——
- 第4章 一切法——法の分類——
- 第5章 輪廻と業の煩惱
- 第6章 悟りへの道
- 第7章 心——実践の主体——
- 第8章 修行者の理想像
- 第9章 戒律と教団の組織
- 第10章 仏教の歴史

履修上の留意点

出欠は随時採る。

成績評価の方法

期末筆記試験の成績により評価。

教 科 書

高崎直道著『仏教入門』（東京大学出版会）1,600円（変更あるやも知れず）

参 考 書 等

平川彰著『三国仏教通史』（春秋社）2,575円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------|-----------------------|--------------|----|
| 中国古典語初級 | いし い こう せい 石 井 公 成 | 禅・仏教1・2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

漢文読解の基本的な力と、中国思想の基本的な知識を身につけることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

基本的な文法から始め、中国仏教に大きな影響を及ぼした『老子』『莊子』『易経』およびそれらの注釈を読む。

履修上の留意点

口頭での訓読、現代語訳、訓読からの漢文の復原など、学生諸君に作業を課しながら講読してゆくため、予習が必要である。

成績評価の方法

試験を行うが、授業中に上記の作業をよく担当している者については、平常点を加算する。

教科書

使用せず、コピーを配布する。

参考書等

教場で指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------|--------------------|------------|----|
| インド哲学史 | かな さわ あつし 金 沢 篤 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

仏教を産んだインドのヴェーダ体制の内実を探り、宗教・哲学の変遷を概観する。

講義の内容・授業スケジュール

定評ある以下の教材に沿って、ヴェーダ時代より中世に到るまでの主だったトピックを通史的に概説する。併せて、インド哲学研究の方法論・問題点なども検討する。

履修上の留意点

日頃よりインドに関心の目を向け、主体的に常にながしかの問題意識をもって授業に参加することが望ましい。

成績評価の方法

数回のレポートと年度末の筆記試験など。

教科書

早鳥鏡正他著『インド思想史』（東京大学出版会）

参考書等

講義の中で適宜紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|--|------------|-----|
| 中国哲学史 | <small>まえ</small> 前 <small>かわ</small> 川 <small>とむる</small> 亨 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

中国人の世界観・人間観・死生観などを歴史的に把握することを目的とする。具体的には儒教・仏教・道教の思想とその相互関係を理解するように努める。その際、東アジアの思想史という広い視野を失わないように心掛けたい。中国人の思考様式、諸思想（宗教）がいかに我々日本人に受け容れられたか、また受け容れられなかったかを考えてみたい。一見抽象的にみえる思想史も、実は我々の現実と深くつながっているのだということを、共に学んでいこうと思っている。

講義の内容・授業スケジュール

受講者の顔ぶれ・関心の方向を勘案して、前年度同様に孔子から始めて唐・宋代に及ぶか、それとも前年度に引き続いて唐・宋代から始めて近・現代に及ぶかを決めたい。いずれにしても、断代史的にはなく、問題史的に進めていくつもりである。受講者はそこから関心のある問題を発見して行ってほしい。

履修上の留意点

中国の思想・宗教・文化など多方面の関心のある諸君の受講を期待する。現代中国語もしくは古典中国語の初歩的な知識をもっていること（持とうという意欲を持っていること）が望ましいが、授業したいはそれなしでも理解可能であろう。但し当然ながら、本講義内容に関心をもち、継続して出席する意欲と意志を有する者に限る。レポートだけ提出して単位を取得しようなどという安易な気持ちで登録してはならない。

成績評価の方法

授業に関連するレポートを前期・後期に提出してもらう。それ以外の評価方法も検討したい。

教科書

特に必要としない。

参考書等

授業中に適宜紹介する。

そ の 他

できるだけ多くの情報を提供するため、講義形式をとるが、受講者の皆さんの意見なども聞きながら進めたい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|---|------------|-----|
| 西洋哲学史 | <small>なか</small> 中 <small>むら</small> 村 <small>とも</small> 友 <small>たろう</small> 太郎 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

古典的なテキストになるべく豊かに触れる機会を設けつつ、それらの思想の背後にある精神史を探訪する。特にここでは、ユダヤ・キリスト教文化の中での哲学思索のあり方を歴史的形成の面から追求することを主眼としたい。

講義の内容・授業スケジュール

授業は毎回二つの部分から成る。
 (a) テキストおよびプリント資料を参考に古代から中世にかけての哲学史の展望。
 (b) 講義内容への各自のリアクション、また教材への各自の取り組みを前提とするディスカッション。
 したがって、聴講者の積極的な取り組みが特に期待される。

成績評価の方法

上記の授業の特性に対応して、レポート及び試験の他、毎回の簡単なリアクション・ペーパーなどによる出席状況をも考慮して総合的に評価する。

教科書

開講時および授業の進捗状況に応じて指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|----------|------------------|------------|----|
| インド仏教思想史 | まつもと しろう 松本史朗 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

| | |
|----------------|--|
| 講義のねらい | インド仏教の思想的展開を概説することによって、仏教思想の特質を明らかにするのが、本講義のねらいである。 |
| 講義の内容・授業スケジュール | 講義の内容・スケジュールは、ほぼ次の通りである。(a)仏教成立以前のインド思想(ヴェーダ・ウパニシャッド・ジャイナ教)、(b)原始仏教の思想(縁起説・四諦説・無我説等)、(c)部派仏教のアビダルマ哲学、(d)大乘経典の思想(『般若経』『華嚴経』『法華経』『涅槃経』等の思想)、(e)中観派の空思想、(f)瑜伽行派の唯識思想、(g)仏教論理学の思想。 |
| 履修上の留意点 | 厳正な試験を行なうので、安易な気持ちで履修することは、避けられたい。 |
| 成績評価の方法 | 年度末の試験により、成績を評価する。 |
| 教科書 | 早島鏡正等著『インド思想史』(東京大学出版会) |

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------|------------------|------------|----|
| 中国仏教思想史 | いとう たかとし 伊藤隆壽 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

| | |
|----------------|---|
| 講義のねらい | 中国仏教思想の形成について、仏教と中国の伝統思想である儒家思想や道家思想との交流の視点から講義する。 |
| 講義の内容・授業スケジュール | 1. 仏教伝来以前の中国思想 2. 仏教の基本思想 3. 仏教の中国への伝来 4. 中国での仏教理解のあり方 5. 中国仏教思想の諸相 |
| 履修上の留意点 | 仏教のみならず中国伝統思想についても関心をもち、自主的に参加し学習してほしい。 |
| 成績評価の方法 | 年度末の試験による。 |
| 教科書 | コピー資料を配布する。 |
| 参考書等 | 授業中に適宜紹介する。 |

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|------------------------|------------|----|
| 原始仏教 | かた やま いち ろう 片 山 一 良 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

仏教の源泉を原始仏教という。大乘であれ小乗であれ、そのすべては後代の呼び名に過ぎず、いずれの考えも原始仏教から出発している。釈尊が示されたものは、縁起、四諦の教え、あるいは無常・苦・無我という三相の見方であった。戒律を保ちまもることに始まり、少欲知足の生活をつねに教え導かれた。そこには智慧と慈悲の教えがあるのみで、何ら飾りは見られない。本講義では、このような原始仏教の教えを具体的に示し、またこの教えを通して「仏教」とは何かを考えたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、仏伝を紹介し、縁起・四諦などの基本的思想について、後期は、中道ないし戒律の実践について見ることにする。

履修上の留意点

受講生は、まず、従来の「仏教」に対する先入見を排除し、原始仏典を直接読むことが望ましい。

成績評価の方法

レポート（夏期）および年度末テストによる。

教科書

とくに使用しない。

参考書等

適宜指示する。

その他

随時、資料プリントを配布する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|-----------------------|------------|----|
| 真宗学概論 | ほん だ ひろ ゆき 本 多 弘 之 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

現代の科学技術によってもたらされている豊かさや便利さのなかで、人間自身の内面の空虚さや人間関係の希薄さが増幅されている。こういう時代だからこそ、真に人間が充実しうする方法としての宗教的自覚を、各自が見出すべきことを明かにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

宗教的な要求のなかで、何故釈尊が新たな道として、仏道を開いたのか。そしてその教えが中国・日本と伝わってきて、私たちの祖先がどのように仏教を取入れたのか。その中で、親鸞という人がどうして、浄土真宗という考え方、その人間の見方を顕わしたのか、いわゆる浄土真宗の教えの特質とは何か。現代の私たちとしてそこから何を学ぶことができるのか。

成績評価の方法

出席率と講義内容をどれだけ受け止めているか（ペーパーテスト）を相加える。

教科書

『東本願寺版真宗聖典』3,000円

参考書等

本多弘之著『はじめての親鸞』（草光舎）2,400円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|------------------------|------------|-----|
| 日 蓮 教 学 概 論 | わた なべ ほう よう 渡 辺 寶 陽 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

この講座は、日蓮（1222-1282）の思想・教学を概観する試みである。
鎌倉新仏教の宗祖の一人に挙げられる日蓮聖人は、道元禅師の二十二年後に、安房の国（現在の千葉県）に生誕し、道元禅師も重要視した「法華経」を依経とする宗教活動を行なった。道元禅師の名著『正法眼蔵』中、もっとも引用の多い経典が「法華経」であることは、駒沢大学の歴代の教授によって研究されてきたことであるが、この講座ではできるだけ、そうした研究を意識しつつ、日蓮の法華経への取り組み方の特色を通じて、皆さんと一緒に法華仏教のありようを念頭に入れながら、仏教の存在を考えてみたい。

講座の内容は、簡単に日蓮の生涯を紹介し、「法華経の行者」として活動した軌跡をたどることによって、积尊→天台大師智顛→伝教大師最澄→日蓮という系譜意識をもとにしつつも、次第に独特の仏教理解を発表していく日蓮の思想と教学を概観していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

- おおよそ、次のようなスケジュールで進めたい。
- ・日本仏教の歴史を意識しながら、日蓮の生涯をたどる。
 - ・比叡山遊学後、故郷を追放され、鎌倉に活動の場を求めた日蓮が、社会の動揺に直面して執筆した『立正安国論』について考える。
 - ・『立正安国論』を幕府関係の実力者に献呈した後に受けた、大難四ヶ度、小難数知れずという受難の生涯のなかで、どのように法華経の行者意識が高まっていくかをたどる。
 - ・最大の大難＝龍口法難ののち、佐渡に流罪され、その地で著わした重要著作、『開目抄』『如来滅後後五百歳初観心本尊抄』の概要とその意義について考える。
 - ・ちょうど、後に『東方見聞録』を書いたマルコ・ポーロが大都（西安）に着いた頃、日蓮は佐渡流罪の地から甲斐（山梨県南巨摩郡）の身延山に隠棲する。時代は蒙古来襲に怯える危機が現実のものとなってきていた。その最中に著わした『撰時抄』『報恩抄』について考える。
 - ・身延山は新たな布教の拠点となっていった。特に「書簡」を通しての信徒の教化、心の通い合いは、今日になまなましく伝えられている。身延山時代の活動について考える。
 - ・鎌倉新仏教（浄土宗・浄土真宗・曹洞宗・日蓮宗）の成立後、それぞれの宗派はさまざまな条件に沿いながら、教団の社会への定着を余儀なくされる。これらについては改めての講義をすすめる迄には到らないが、折々に皆さんと考えてみたい。

成績評価の方法

皆さんと一緒に考えていく雰囲気での講義を進めたい。
したがって、簡単なペーパー等による意見表明を求めることもあろうし、夏休みに一定の課題について勉強して、それを報告してもらうこともあろう。

教 科 書

講義時にプリントを配布する。

参 考 書 等

立正大学日蓮教学研究部編『日蓮宗読本』（平楽寺書店）
久保田正文『日蓮』（所談社現代新書）
その他については講義時に紹介したい。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-----------------------|------------|-----|
| 新 宗 教 概 説 | はせべ ほんろう 長 谷 部 八 朗 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

本講義は、我が国における新宗教の消長・変遷の歴史と現在の状況についての講述を通して、新宗教に関する基礎的な理解をめざすことを目的としている。

講義の内容・
授業スケジュール

前期はおおむね、近世末に源を発する新宗教が、その後の時代の変化と呼応しつつ、どのような展開を示したかを、さまざまな教団を例にあげてたどる。
後期は、教祖のカリスマ的、シャーマンの性格、教義の内容と解釈、教団の組織分析、メディアとの関連、他宗教との比較など、多面的な視野から新宗教の実態を探ってみたい。

成績評価の方法

具体的な評価方法は、開講してから決めたい。なお、授業時に小論文を課し、評価の一部に組み入れる予定である。

教 科 書

用いない。

参 考 書 等

参考文献については、授業の中で紹介していきたい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|-----------------------|------------|-----|
| 外国語仏書講読 | よし ず よし ひで 吉 津 宜 英 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

外国語仏書演習は英仏独などの諸外国語によって著された仏教書を精読することを目的とする。外国語の仏書の学習を通して外国語の実力を高めることは勿論であるが、それ以上に海外の研究者の仏教研究の問題意識や研究方法論の問題にも認識を深めることが出来る。

講義の内容・授業スケジュール

今年度は“*Saicho ; The Establishment of the Japanese Tendai School*, (Berkeley Buddhist Studies Series) 1984 Paul Groner”を読む。著者はアメリカのヴァージニア大学宗教学部の教授であり、アメリカの日本仏教研究の第一人者である。この『最澄』に続いて、近時比叡山中興の祖師良源について研究を纏め、出版の予定である。

履修上の留意点

音読を重視し、出来るだけ多く読むようにしたい。

成績評価の方法

平常の演習点で評価する。

教科書

プリントを配布する。

参考書等

随時、指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|-------------------------|------------|-----|
| 外国語禅書講読 | おお にし りゅう ほう 大 西 龍 峯 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

禅独特の表現や考え方を、日本語のみで触れていると、つい曖昧な形で感覚的に受けとめていたり、論理的な意味などにかまわず漠然と理解してしまっていることが少なくない。その点、英語に翻訳された禅の文献を読むことで、それらが具体的にどんな意味をもつのか、また実践的にどうとらえるべきかについて、より明確に考えてみる事ができよう。

講義の内容・授業スケジュール

今年は Ruth Sasaki ‘*The Recorded Sayings of Ch’an Master Lin-Chi Hui-Chao of Chen Prefecture*’ (臨濟録) を読むことにします。

成績評価の方法

平常点を重視します。

教科書

テキスト、資料等は、授業で配布します。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|--------------------------------------|------------|----|
| 禅学特講Ⅰ | 原 田 弘 道 <small>はら だ ひろ みち</small> | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

禅宗と公案
公案は禅宗における經典観と深いかわりを持つ。そこで、公案の成立とその歴史的展開を通し、その意義と機能について考察する。
中でも中国禅学史上あるいはその思想史の上で、大きな課題は「看話禅」の成立の問題の究明である。看話禅は公案（趙州無学）の工夫によって見性を果たす特殊な禅である。
これについては中国の文化的背景を通して、叢林の体質変化を見、それに伴う学道の形態の変化を考察し、それらを通して看話禅成立の問題の解明を行う。
それと共に黙照禅の意義を明らかにし、更に、道元禅を通して、公案、現成公案の意義を明らかにしてゆく。

講義の内容・授業スケジュール

一、公案の起源と歴史、二、看話禅の成立、三、曹洞禅と公案、四、公案の諸相、五、公案の意義と機能。以上の順序で講義をすすめる。

履修上の留意点

講義の始めに、禅宗全般に亘る基本思想である、不立文字、教外別伝、直指人心、見性成佛の意義を明らかにするが、この理解が講義全般に亘って重要になる。であるから先づ明確に理解するよう努めること。

成績評価の方法

平常点（出席）と試験（又はレポート）による総合評価。

参考書等

柳田聖山『初期禅宗史書の研究』『禅の歴史—中国—』（講座禅第三巻）
荒木見悟『大慧書』

その他

随時プリント資料配布。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|--------------------------------------|------------|----|
| 禅学特講Ⅱ | 黒 丸 寛 之 <small>くろ まる かん じ</small> | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

鎌倉時代の高僧で卓越した思想家としても知られる道元禅師の宗教思想について、その名著『正法眼蔵』を中心として、Ⅰ仏教と禅、Ⅱ大乘菩薩道、Ⅲ生命の実相、Ⅳ自然と人生、などについて考察する。

講義の内容・授業スケジュール

この講座は、他学部履修科目になっているが、仏教学部生はもとより、受講生は全てテキストとして『正法眼蔵』（岩波文庫本4冊、その他）を用意しなければならない。

成績評価の方法

1年間の受講状況による平常点と期末試験によって行う。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|----------|-------|------------|----|
| 禅学特講 III | 大谷 哲夫 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

『従容録』を中心にして“禅”の神髄を参究する。
『従容録』は、詳しくは『万松老人評唱天童覚和尚従容庵録』という。
これは、宏智正覚（1091～1157）が古徳の妙則100則を収集し、それに頌古したものが『宏智頌古』として存在し、後に万松行秀が嘉定16年（1223）到北京の報恩寺にて従容庵を築いて幽居中に、元の太祖の西域親征に従っていた湛然居士（耶律楚材）の懇請によって、先の『宏智頌古』に示衆・評唱・著語を付し、庵名をもって書名としたからである。
本書は、『碧巖録』とともに禅林において並び行われ、その頌古は風格が高く、宏智の技倆古今越格と称されている。『碧巖録』が看話禅の臨済宗で用いられるのに対して、『従容録』は黙照禅の曹洞宗の宗風を挙揚したものと広く用いられているので、本講座では、その成立から詳細に参究する。

履修上の留意点

『従容録』を演習の形式をとりながら、講義を進めるので、予習は必ず行なってもらいたい。

成績評価の方法

出欠・レポート・期末試験による。

教科書

『従容録』を用いるが、開講時にコピーを配布する。

参考書等

適宜に指示し、参考文献などはその都度配布する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------|-------|------------|----|
| 禅学特講 IV | 青龍 宗二 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

道元禅師の思想と行動
鎌倉新仏教の祖師と仰がれる道元禅師が、政治的にも文化的にも移り変る激動の中世社会において、公家の家庭に生まれ育ちながら、無常の意識から生涯を宗教者として生き貫いた、その思想と行動を文化史的に再検討し、宗教者としての道元禅師の人間像を発掘してみたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義は次のような内容で進める。
1. 鎌倉新仏教とは
2. 宗教思想の形成について
3. 京都時代の思想と行動
4. 越前時代の思想と行動

履修上の留意点

講義は限られた時間で行うわけであるから、上記の項目の内、従来全く問題にされていない主要課題を中心にノートで進めるが、直接その思想を味得してゆくために原典講読をも併用する。

教科書

原典はその都度指示する。

参考書等

教場で指示するが、次に掲げる参考書は比較的手に入り易いと思われる。
川添昭二『鎌倉文化』（教育社）、今枝愛真『道元——行動と思想』（評論社）
水野弥穂子『道元禅師の人間像』（岩波書店）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-------------------------|------------|-----|
| 仏 教 特 講 I | たか ぼし しゅう えい 高 橋 秀 栄 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

この講座では、新出発見の「天狗草紙」やその他のテキストを通じて、南都北嶺の諸寺院の歴史、高僧、靈驗、説話などを学ぶ予定である。南都北嶺の諸寺院といえば、東大寺、興福寺、延暦寺、園城寺、東寺、金剛峯寺などが連想されるが、幸いにしてこれらの寺院に関しては数多くの縁起や記録、説話が残されているので、創建以後の歩みを人物とからめて学ぶことができるので、大いに勉強になるかと思う。講師自身にとっても楽しい講座である。京都、奈良方面に旅行する際のガイド的な情報を得たいと思う人にとっても恰好な講座かと思う。興味と関心のある学生の受講を歓迎する。

講義の内容・授業スケジュール

前期（『天狗草紙』を読む）。後期（仏教説話集を読む）

履修上の留意点

鎌倉時代の仏教に限らず、仏教の教えを学ぶことは容易でない。古い歴史を伝える諸寺院の縁起や高僧の歩みを学ぶにしても、基礎的な仏教知識を身につけておかなければなかなか理解が深まらないと思う。そこで常日頃から、仏教辞典や密教辞典に親しんで、講義に臨んでほしい。また鎌倉時代の写本や江戸時代の版本をテキストにするので、書誌学に関する参考図書や辞典類も座右に備えてほしい。

成績評価の方法

十枚以上のレポート提出

教 科 書

プリントを配布

参 考 書 等

随時紹介

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|------------|------------------------|------------|-----|
| 仏 教 特 講 II | いい づか ひろ のぶ 飯 塚 大 展 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

松永貞徳と林羅山の間で交わされた論争の書である『儒仏問答』を講読する。

講義の内容・授業スケジュール

原典の講読を行なうための基礎的な説明をした上で、講義を進める。

履修上の留意点

受講者の解釈が前提とされるため、予習は不可欠である。

成績評価の方法

授業時における読解内容と、前・後期一回ずつのレポートによって評価する。

教 科 書

原典のプリントを配布する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|----------------------|------------|-----|
| 仏教特講Ⅲ | よつや こう どう 四津谷 孝 道 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

本講座では、中観思想を思想史的観点から理解することを通して、大乘仏教の中に於ける中観思想の思想的意義を考究する。

講義の内容・授業スケジュール

まず、インド、チベット、そして中国に互る中観派の歴史的・地域的發展を概説する。次に、思想史の観点から以下のようなテーマの下で中観思想を検討してゆきたい。i) ナーガールジュナの『中論』 ii) 『中論』の注釈史を中心としたインドに於ける中観思想の展開 iii) チベットに於ける中観思想の受容 iv) 中国に於ける中観思想の受容。以上を前期期間中に終えたい。後期はまず、仏教内の他派の思想と中観思想とを以下のテーマの下で比較する。i) 唯識思想と中観思想 ii) 如来蔵思想と中観思想。次に、中観思想の研究史を、特に幾人かの著名な研究者に焦点をあてて、方法論的観点から扱ってみたい。最後に、Claus Oetke等による『中論』研究をもとにして、最近の『中論』の研究の状況について述べてみたい。

履修上の留意点

受講生には出来るだけ発言の機会を与えるので、自らの考えを積極的に述べてもらいたい。

成績評価の方法

前期・後期のレポートに基づいて、受講生の成績を評価する。

教 科 書

特定の教科書を用いず、毎回の講義の内容に応じて講師が作成したもの（諸研究所よりの抜粋のコピーも含める）を配布する。

参 考 書 等

梶山雄一・上山春平著『仏教思想 3 空の論理（中観）』（角川文庫10306）800円
『講座・大乘仏教 7 中観思想』（春秋社）2,500円
David Seyfort Ruegg : “The Literature of the Madhyamaka School of Philosophy in India”, A History of Indian Literature vol VIII, 1981, Otto Harassowitz.
中村 元著『ナーガールジュナ』人類の知的遺産13（講談社）1,500円
中村 元著『空の論理大乘仏教Ⅲ』中村 元選集〔決定版〕第22巻 8,925円
『チベット仏教』岩波講座東洋思想第2巻（岩波書店）2,880円
平川 彰訳『ドュ・ヨング仏教研究の歴史』（春秋社）2,500円
平川 彰『仏教研究入門』（大蔵出版）3,800円
Claus Oetke : “Die metaphysische Lehre Nāgārjunas”, *Conceptus*, Jahrgang XXX, Nr. 56 1988, pp. 47-64.
Claus Oetke : “Rationalismus und Mystik in der Philosophie Nāgārjunas”, *Studie zu Indologie und Iranistik*, XXX, 1989, 1-39.

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|------------|---|------------|-----|
| 仏 教 特 講 IV | おくの <small>みつ</small> 野 <small>よし</small> 光 賢 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

中国・日本仏教における如来蔵・仏性思想の思想的展開の概説を目標とする。
如来蔵・仏性思想とは、中国・日本の仏教諸宗派のほとんどが受け容れた代表的教理で、大乘仏教の根源的な教理でもあるといわれている。その教理を示す有名な言葉が、『涅槃経』の「一切衆生悉有仏性」であるが、本講義ではこの思想が果たした役割を主として中国・日本仏教上に見ることとしたい。

講義の内容・
授業スケジュール

主として中国・日本仏教における如来蔵・仏性思想の展開過程を考察するとはいっても、絶えずインド仏教の流れを意識することは言うまでもない。講義は如来蔵・仏性思想の淵源から説き進め、それが中国・日本においてどのように受容・展開されていったかに及びたい。授業は当初は講義形式で進めるが、必要に応じて原文を示し、各自に直接原文を読んでもらう場合もある。直接講読する文献としては、『涅槃経』、論としては最澄の『法華秀句』等を考えているが未定である。

また、如来蔵・仏性思想に対しては、最近その思想の評価をめぐって、批判的研究も提示されているので講義はそうした問題も意識しながら進めることになるであろう。

履修上の留意点

一年を通してかなりの枚数のプリントを配布する。欠席によるプリントの再配布は行なわないのであらかじめ留意されたい。

成績評価の方法

出席状況も考慮しながら、学年末のレポートによって評価する。

教 科 書

特に指定せず、プリントを配布して授業を進める。

参 考 書 等

参考書はあまたある。それらについては授業中において適宜指示するが、さしあたって次の書のみをあげておきたい。

高崎直道『(増補新版) 仏性とは何か』(法蔵館) 2,800円 (税別)

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|--------|------------------------|------------|-----|
| 仏教伝道概説 | みな がわ ひろ よし 皆 川 広 義 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

仏教における伝道について、理論と実践の二面より、概説したい。仏教伝道は、教主釈尊の生涯や教えを宣布する布教活動と、その教えにより人々を育成する教化活動よりなっている。理論面では、まず、釈尊の教えをふまえて、仏教における伝道の原理を明らかにして、なんのために伝道をするのかを把握したい。次に、①教法、②人間（対機）、③伝道法の三点より、生死の苦悩からの解脱道としての仏教伝道を説明する。実践面では、教えの広宣流布を中心とする布教活動と、教えにより人々を教化育成し、悟りと安心をあたえる教化活動に分け、現場における具体的実践を考察する。

講義の内容・授業スケジュール

- I 宗教における伝道 有所得の伝道と無所得の伝道
- II 仏教における伝道の原理
 - 1. 教主釈尊の伝道 悲智慈の展開としての伝道
 - 2. 仏教伝道の歩み インド・中国・日本・その他の国々へ
 - 3. 仏教伝道における①教法②人間（対機）③伝道法（布教と教化）
 - ① 教法（仏法 教理 教え）
 - 1 菩提樹下の悟り 2 根本教理 縁起説 四諦説 3 教え 対機相応の説法
 - ② 人間（対機）
 - 1 仏教における人間、生命論（縁起、無自性、空、仮説有）
 - 2 未信者と信者 3 現代人の意識と行動
 - ③ 伝道法
 - 1 伝道者の理念（自信教人信、自未得度先度他、四摂法、自利と利他の伝道）
 - 2 伝道者の資格 3 布教教化カリキュラム（信仰の誘引と形成）
 - 4 伝道組織としての教団と、伝道の場としての寺院
- III 仏教伝道における布教活動と教化活動
 - 1. 布教活動（未信者を対象とした伝道活動）
 - 1 文書布教 2 唱導布教 3 視聴覚布教 4 総合布教
 - 5 無意図的布教（仏教文化、寺院の社会活動など）
 - 2. 教化活動（信者を対象とした伝道活動）
 - 1 自己教化 2 1対1の教化
 - 3 禅的合宿研修による集団教化 4 法座（講、仏青、仏婦）
 - 5 儀礼（日曜礼拝、恒例法要、葬祭法要） 6 聖典講読会
 - 7 聖地巡礼（インド釈尊聖地巡礼、中国日本祖師聖地巡礼、観音霊地巡礼）
 - 8 写経 写仏など
- IV その他の伝道
 - 1. 世代別伝道
 - ① 児童布教 ② 青少年伝道 ③ 婦人伝道 ④ 壮年伝道 ⑤ 老人伝道
 - 2. 地域別伝道
 - ① 地方伝道 ② 都市伝道 ③ 国外伝道

履修上の留意点

積極的に聴講し、学習することを希望する。仏教伝道の活動は、人々への思いやりと自己の安心形成のためになされるものであることを、この授業を通して学びとっていただきたい。

成績評価の方法

聴講の態度（出席率など）、レポート、年度末の定期試験などによって、総合的に評価する。

教科書

増谷文雄編『仏教の根本聖典』（大蔵出版）定価2,500円

参考書等

大西憲明著『現代仏教教化法』（百華苑）定価2,000円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|--------|------------------------|------------|-----|
| 仏教伝道研究 | みな かわ ひろ よし 皆 川 広 義 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

— 対機研究と死の教育 —

この仏教伝道研究では、伝道上とくに重要な課題をとりあげて、詳細にかつ深く考察する。
このたびは、「対機研究」「葬祭儀礼」「死の教育」の三点をとりあげる。
「対機研究」では、仏教論、生命論をふまえ、新しい生命、人間科学の研究成果なども参照して、現代における伝道対機としての人間を考察する。
「葬祭儀礼」では、仏教の伝統的な葬祭儀則をふまえながら、現代人の葬祭に関する意識調査などを参照して、現在の仏教的葬祭より葬祭仏教を創造する道をさぐりたい。
「死の教育」では、生死の苦悩からの解脱道としての仏教の立場より、現代の「死の教育」の歴史、その内容などを考察して、安らかな死の受容をつくりだしてゆきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- I 対機研究と仏教伝道
 1. 釈尊における生命論と人間論
 2. 現代科学の生命論と人間論
 - ① 生命の歴史 (生命科学)
 - ② 生命の構造 (分子生物学)
 - ③ 人間の歴史 (文化人類学)
 - ④ 人間の生涯 (生理学 医学)
 - ⑤ 人間の心 (大脳生理学、心理学、社会学)
 - ⑥ 人間の苦悩 (臨床心理学)
 3. 現代の人間論と伝道
- II 葬祭と仏教伝道
 1. 人間と葬祭について
 2. 仏教における葬祭の歴史
 3. 葬祭仏教 儀則と儀礼
 4. 現代人の葬祭意識
 5. 葬祭仏教の創造と伝道
- III 死の教育と仏教伝道
 1. 生老病死の教育としての仏教
 2. 「死の教育」の歴史
 3. 死に関する文化
 4. 現代人の死生観 死の不在の時代
 5. 死に対する恐怖 (意識調査)
 6. 死の受容のプロセス
 7. 病名告知とターミナル・ケア
 8. ホスピス緩和ケアの理念と役割
 9. 悲嘆のケアと葬祭
 10. 脳死と臓器移植
 11. 現代における安らかな死の受容と伝道

履修上の留意点

積極的に聴講し、学習することを希望する。今年のテーマ「人間 生命論」「葬祭」「死の教育」の考察を通して、生きた仏教伝道を修得していただきたい。

成績評価の方法

聴講の態度 (出席率など)、レポート、年度末の定期試験などによって、総合的に評価する。

教科書

なし

参考書等

- I 「人間 生命論」
植原和郎著『人類進化学人間』(中央公論社)
『生命40億年はるかな旅』全6巻 (NHK 出版)
- II 「葬祭」
圭室諦成著『葬式仏教』(大法輪閣)
- III 「死の教育」
キューブラロス著『死の瞬間』(読売新聞社)
近藤裕著『自分の死にそなえる』(春秋社)

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|---------|------------|-----|
| 青少年問題研究 | 讃岐真佐子 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

この講義では、「青少年」つまり児童期、青年期（小学生～20代前半頃）に生じ得る諸問題について、主に発達の、臨床心理学的視点から学ぶ事を目的とする。現代は不適応状態や問題が低年齢化し、またその質的側面にも、従来の自己葛藤型から漠然とした無気力型の増大、さらに言語で訴えるよりも身体化の傾向等、様々な変化が見られるように思う。そういう意味でも「青少年」に関わる諸現象は、その時代を映し出す1つの鏡のようにも思われる。またこの時期は、一般に親や兄弟、友人、学校や地域等の多くの人との関わりを通して子どもが大人に成っていく、まさしく自分自身を作っていく時である。それだけにこれらの人々といかなる質の関係をもてるか、そしてそこからどう自分を育てていけるかという事が、この時期の中心的テーマになると思われる。講義では、このような問題意識を基に、この期間に発現する諸問題の実際を、発達にそって具体的に学んでいきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

まず人間の精神的発達に関する知見を、これまでの発達心理学や臨床心理学的見地から概観し、その中での青少年の発達段階の意味や位置づけを考えていく。そしてこれを踏まえ、主にテキスト記載の事例を中心に、児童期、青年期に生じる様々な状態（不登校、非行、対人緊張、思春期やせ症、無気力状態等々）について深く掘り下げて学んでいく。

履修上の留意点

出席を重視する予定。授業は講義中心となるだろうが、何らかの形で受講生のフィード・バックを得る方法を考えていきたい。

成績評価の方法

出席状況と定期試験の両方を考慮する。

教科書

氏原寛・東山紘久編『発達とカウンセリング』
別冊『発達』第18巻（ミネルヴァ書房）2,500円

参考書等

- ・馬場謙一・小川捷之他編『子どもの深層』『青年期の深層』
（『日本人の深層分析』第9巻と10巻）（有斐閣）
- ・季刊『仏教——特集癒し』No. 31（法蔵館）2,000円
- ・河合隼雄著『あなたが子どもだったころ』（檢出版）『子どもの宇宙』（岩波新書386）
- ・岩宮恵子著『生きにくい子どもたち』（岩波書店）1,200円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|-------------|------------|-----|
| 青少年指導演習 | ひらの 平野 学 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

青年期を生きる学生諸君が・青少年指導・について学ぶには微妙な難しさが伴う。まずかかわる側自身、自らの歩みを見つめると共に、かかわりを通して更に色々なことを見つめる作業が大切になってこよう。ここではこうした認識を土台に、青年心理学や臨床心理学、カウンセリング学等の立場から、現代の青少年の状況やトピックス等論じつつ、その援助や指導のあり方について互いに学びたい。

講義の内容・
授業スケジュール

“演習”科目でもあることから、できるだけ体験学習や討議の時間を多くとって行なっていきたい。一応年間予定としては下記の通りだが、受講者の希望も適宜取り入れて進めるつもりである。

〔前期〕

1. 互いに知り合うための、また自己理解を深めるためのエクササイズを実施。(4回)
2. 青少年について、主に発達の観点から自らのことを振り返りつつ学ぶ。(2回)
3. 援助の基本としてのカウンセリングについて、小グループ形式で主にデモンストレーションやロールプレイを通して体験的に学ぶ。(6回)

〔後期〕

4. 講師自身の援助例(不登校や非行に陥った青少年及び親へのカウンセリング)の提示と討議。(2回)
5. HIV・エイズ問題やカルト問題とそのカウンセリング(3回)
6. 夏休みレポートをもとに、受講者の様々な体験(ボランティア活動他)の報告と討議。(3回)
7. 1年間をまとめる意味で、河合隼雄氏等の文献のいくつかを輪読(分担発表)すると共に自由討議を行なう。特にカウンセリングと仏教との接点等についても互いに理解を深めたい。(2回)
8. その他(全体の振り返り他)。(2回)

履修上の留意点

讃岐真佐子講師による『青少年問題研究』を履修済であることが望ましい。
出席して討論に加わり、感想等も適宜記してもらい、いわばコミット型の共に築き上げる授業にしていきたく、意欲的な学生の参加を望みたい。(実習も行うので安易な受講は避けてほしい。)
尚、授業の初日に年間の大まかな予定等お話するが、履修希望者からも何を学びたいか等、記してもらいたく、必ず出席願いたい。

成績評価の方法

学年末レポート(年間授業を振り返る形でのもの)、夏休みレポート(体験報告または読書感想)、平常点(出席等)の三本柱で行なう予定。

教 科 書

河合隼雄『カウンセリングを語る(上下)』(創元社)各1,300円

参 考 書 等

河合隼雄『カウンセリングを考える(上下)』(創元社)各1,300円
同 『大人になることのむずかしさ』(岩波書店)1,240円
同 『ユング心理学と仏教』(岩波書店)1,800円
佐治守夫他『カウンセリングを学ぶ』(東大出版会)2,800円
他にも授業の中で随時紹介していきたい。

そ の 他

VTRやテープ等も多く使用して、具体的に学べるようにしたい。
授業という限られた場ではあるが、受講者それぞれに自らの成長に資するものとなるよう、心がけて参りたい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----------|---------------|------------|----|
| 宗 教 法 概 説 | あらい 洗 けん 建 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

現代日本の宗教法制について概説する。わが国における宗教法制の根幹は、憲法の保証する信教の自由と、政教分離の原則によって規定され、これに基づき宗教団体に法人格を賦与する目的で宗教法人法が定められている。憲法原理の意義をしっかりと理解した上で、民法と宗教法人法の間にある諸問題などを理解し、法の精神を理解することを目指したい。

講義の内容・授業スケジュール

前半は、現憲法の原理が導入されるまでの近代日本宗教法制史を概観する。信教の自由の理念がいかなる背景から生まれ、どのように導入されたのか、わが国の宗教文化との間にどのような問題が存在するのかを理解して貰いたい。

後半は、宗教法人法の諸規定について概説し、民法との関係、税制との関係、法の精神とその諸問題についての理解を深める。

履修上の留意点

将来、寺院に携わる人のために実務的問題にも触れなければならないが、寺院と関係のない人も多いようであるから、法の精神やその意義に力点を置いて講義する。具体的実務問題などで質問のある人は、積極的に質問して貰いたい。

成績評価の方法

試験またはレポートと、出席点を総合して評価する。

教科書

指定しないが、後半の授業では憲法第20条、第89条、および宗教法人法の条文を、六法全書などからコピーして、持っておくようにして貰いたい。

参考書等

随時、紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|----------------------|------------|----|
| 書道 | の野 村 宙 弘 むら おき ひろ | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

王羲之の蘭亭序をはじめ、各種古典の臨書による、実技の指導を行う。
書道実技の為、墨、硯、筆、文鎮、下敷、半紙等の文房四宝の用意が必要。
(正しい用筆法、正しい墨のすり方等、初歩的な基礎勉強の指導と、かんたんな書道史の説明を行う)

教科書

王 羲之『蘭亭序』(清雅堂) 360円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|------------------------|------------|----|
| 現代と仏教 | みね ぎし こう さい 峰 岸 孝 哉 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

仏教が現代からさらに未来社会において果たす責任・役割とは何であろうか。しかもこれらの課題をすすめる立場とはどのような視点が確立されなければならないのか。この課題を、人権・反差別という視座を中心にして、検討し確認することを、この講義の目標とする。仏教が有する普遍宗教としての性格やその有効性は、こうした検討を通して、より一層発揮されると考えられるからである。

講義の内容・授業スケジュール

人権思想の世界的なながれを学習し、差別事象をとりあげていく。とりわけ仏教と差別の関係について、中心課題とした。

履修上の留意点

単に知識としての学習ではなく、自分のくらしの中で、反差別とは何かを考えて欲しい。

成績評価の方法

レポート・期末テスト。

教科書

曹洞宗宗務庁編『差別語を考えるガイドブック』(解放出版社)

参考書等

講義の進行に合わせてその都度紹介する。

その他

必要に応じてコピーも参考にする。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----------|--------------------------|------------|----|
| 宗 教 学 概 論 | は せ べ はち ろう 長 谷 部 八 朗 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

専
門
教
育
科
目

講義のねらい

本講義は、日本人の宗教行動の特質を、既成宗教、新宗教、民俗宗教の比較検討を通して探究する。

講義の内容・
授業スケジュール

前期は、宗教学の基本的な術語や概念の解説を中心に進め、この学問の特徴を把握する。後期では、それを踏まえて日本宗教の性格を理解する。とくに、神仏習合と称される我が国の宗教の習合性・重層性に着目し、種々の儀礼を通して検証すると同時に、そのような形態を生んだ理由や背景について、歴史性を考慮しながら論ずる。

また、民衆の宗教的ニーズの在り様にも言及する。主に現代社会をめぐる、諸宗教の交錯する状況の下で、人びとは宗教に何を求め、かつ宗教はそれにどう対応しているのかを、具体例に沿って探ってみたい。

成績評価の方法

評価方法は未定である。なお、授業の中で小論文を課す予定である。

教 科 書

水野弘元・柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』（世界書院）

参 考 書 等

適宜紹介する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|----------------------|------------|-----|
| キリスト教概論 | ひき ち しげ お 挽 地 茂 男 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

ヨーロッパ精神は二つの源流、すなわち、ギリシア思想とキリスト教に遡ると言われる。ヨーロッパの長い文化と伝統を理解しようとする時、その根底に流れるキリスト教の理解を欠くことができない。本講はこのキリスト教を理解の対象とする。しかし対象に接近する仕方は様々である。一つの宗教を理解しようとする場合一般に宗教を構成する4つの要素を中心に考えることができる。すなわち宗教の根幹をなす神観、人間観、世界観を形成している①宗教思想(ピリーフ・システム)。これはそれぞれの宗教のもつ伝承や神話や教典・教義の中心に流れている。この宗教思想を原理として実践される②宗教儀礼。この象徴的な行為の体系である儀礼は、集団の成員間に連帯感を高め、メンバーとしての自覚をもたらす。このように形成される③宗教集団(教団)は宗教的な意味によって結ばれた一つの社会的グループである。宗教集団はそれぞれに独自のピリーフ・システムや儀礼的な行動様式とともに成員組織や物的施設を有している。④宗教体験はこのような宗教集団の集団的営みの内外で、集団的なものとして経験される。実際にはこの人間の内的な体験こそ、宗教現象の根本にあるものであって、それが外的に表現される場合、宗教思想、儀礼、教団といった形式をとるとも言える。

本講はこれら4つの側面から、他宗教との対比を重視しつつ、キリスト教の成立と展開、その思想と文化をとらえようとするものである。よって概ね以下のような計画にそって授業が進められる。

講義の内容・授業スケジュール

- | | | |
|----|----------------|----------------------|
| 前期 | ①総説－宗教研究の立場と分野 | (1)宗教研究の立場 |
| | ② | (2)宗教研究の諸分野 |
| | ③ユダヤ教からキリスト教へ | (1)起源－パレスチナのユダヤ教 |
| | ④ | (2)ディアスポラのユダヤ教 |
| | ⑤キリスト教の成立と展開 | (1)起源－イエスとキリスト教信仰の成立 |
| | ⑥ | (2)原始キリスト教の周辺世界 |
| | ⑦ | (3)古代教会の形成と展開 |
| | ⑧ | (4)中世・近世のキリスト教 |
| 後期 | ①聖書の思想 | (1)聖書の虚無思想 |
| | ② | (2)神の言の思想 |
| | ③ | (3)罪と救済の思想 |
| | ④ | (4)「救し」の思想 |
| | ⑤ | (5)キリスト教における愛の思想 |
| | ⑥ | (6)隣人愛の問題 |
| | ⑦キリスト教と文化 | (1)史的イエスとキリスト再考 |
| | ⑧ | (2)遠藤周作のキリスト論 |
| | ⑨ | (3)ドストエフスキーと聖書 |
| | ⑩まとめ－キリスト教的死生観 | |

履修上の留意点

(学生への要望等)：必ず聖書を購入し、授業で指示される当該箇所を参照すること。この講義では、キリスト教の根幹を形成する聖書に親しむことが、キリスト教理解の重要な一部として要求される。

成績評価の方法

試験と出席率

教科書

プリント(授業時に配布)、『旧・新約聖書』(版はいずれのものでもよい)

参考書等

浅野順一編『キリスト教概論』(創文社)
金子晴勇『キリスト教思想史入門』(日本基督教団出版局)
木田、山内、土岐『聖書の世界』(自由国民社)

その他

授業の進め方－講義を中心とするが、講義中数回ビデオ・フィルムを教材として用いる

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------|------|------------|----|
| イスラム教概論 | 菊地達也 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

世界の三大宗教の一つとされるイスラム教であるが、仏教やキリスト教と比べた場合、日本人はあまりにイスラム教というものに無知であるイスラム教に関する限られた知識も、戦争やテロリズムといった偏ったイメージによって覆われている場合が多い。

しかし、国際化が進み、否が応でもイスラム教徒の人々と無関係に生きることができなくなっているこの時代に、そのような無知が許されるわけがない。そこで、この講義においては、イスラム教の創生から現代に至るまでの幅広い時代を取り扱い、その全体像を解き明かすことを目指すことになる。

講義の内容・授業スケジュール

イスラム教においてはキリスト教のような政教分離が存在せず、我々が通常宗教に抱いているイメージからはかけ離れている要素も多い。したがって、講義の内容は、宗教思想だけに留まらず、イスラム教の一部である法学や政治学などにも関わっていく。現代日本では宗教的なものとしては考えられないような要素までも考慮しないと、イスラム教の全体像は見えてこないからである。

授業においては、7世紀におけるムハンマドのイスラム教創始と其後の歴史を概括し、宗教としてのイスラム教の基本的なあり方について先ずは説明する。その後は、神学、哲学、スーフズム、分派、法学などの個別分野を取り扱うことにする。授業の最終段階においては、モロコからインドネシアに至る広大な領域を幾つかの区域に分割し、それぞれの区域の現状を説明することにする。

履修上の留意点

さまざまな分野を取り扱うので、自分が興味を持っている分野だけを選んで受講してもらっても構わないが、イスラム教の全体像を把握するためには、なるべく全ての授業に出席してもらいたい。馴染みの薄い分野について話をする場合もありえるので、疑問がある場合には積極的に質問していただきたい。

成績評価の方法

現段階では、テストではなく、レポート提出を予定している。出欠はとるかもしれないが、とる場合であっても、成績評価においてはそれほど重視しない。

教科書

中村廣治郎『イスラム 思想と歴史』（東京大学出版会）を一応教科書とするが、この著作をそのまま読んでいく訳ではないので、必ずしも購入は義務ではない。

参考書等

下記の参考書の中には、新書版や文庫版で廉価なものもあるので、興味をもって、気楽に購入できる著作を任意読んでいきたい。文庫になっており、入手もしやすいので、イスラム教の聖典であるコーランをいきなり読んでみるのもいいかもしれない。イスラム教の全体像を理解したいと思う者には、中村廣治郎の著作がよいであろう。現代イスラム世界を揺るがしている原理主義に興味があるものには、小杉泰と山内昌之が編者となっている二作がよいであろう。仏教とイスラム教の比較に興味がある者には、井筒俊彦の著作をお薦めする。

板垣雄三監修 山岸智子・飯塚正人編『イスラム世界がよくわかる Q&A100』（亜紀書房）
板垣雄三監修 三浦徹・東長靖・黒木英充編『イスラム研究ハンドブック』（栄光教育文化研究所）

井筒俊彦『イスラム思想史』（中公文庫）
同『コスモスとアンチコスモス』（岩波書店）
同『イスラム哲学の現像』（岩波新書）
同『超越のことば』（岩波新書）
同『意味の深みへ』（岩波書店）

井筒俊彦約『コーラン』（岩波文庫）
小杉泰『イスラムとは何か』（講談社）
小杉泰編『イスラムに何がおきているのか』（平凡社）
H. コルバン『イスラム哲学史』（岩波書店）
東長靖『イスラムのとらえ方』（山川出版社）
中村廣治郎『イスラム教入門』（岩波新書）
同『イスラムと近代』（岩波書店）
山内昌之、大塚和夫編『イスラムを学ぶ人のために』（世界思想社）
山内昌之編『イスラム原理主義』とは何か』（岩波書店）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|----------------------|------------|----|
| 哲学概説 | つえ 杖 した 下 りゅう 隆 えい 英 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

| | |
|----------------|--|
| 講義のねらい | 古代から現代に至る西洋哲学の歴史的概観を与え、さらに古来反復して論じられてきた重要な課題をとりあげ、現代的視点から批判的に検討する。その際、論理的観点からの考察を重視する。 |
| 講義の内容・授業スケジュール | 前半は歴史的概観を主とし、それを踏まえ、後半において主として問題的検討を行う。 |
| 履修上の留意点 | テキストをよく読み、出席して講義を聴くこと、また、大学教育の一環としても、ノートをとることを練習し、それに上達することを希望する。 |
| 成績評価の方法 | 出欠を加味して期末の筆記試験によるが、中間試験を七月か九月に行う。 |
| 教科書 | 杖下隆英著『認識と価値』（東京大学出版会刊）5,047円 |
| 参考書等 | 必要に応じて授業で挙げる。 |
| その他 | 授業は講義であるが、質問を歓迎する。 |

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|--------------------|------------|----|
| 宗教哲学 | た 田 まる 丸 のり 徳 よし 善 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

| | |
|----------------|---|
| 講義のねらい | 宗教哲学の仕事は「宗教とは何か」という、その原理を明らかにすることにある。本講では、仏教をふくめた世界の諸宗教の実態をふまえ、またさまざまな角度からこの問題にアプローチするはずである。 |
| 講義の内容・授業スケジュール | 年間をつうじて、ほぼつぎのようなサブ・テーマを順次にとりあげる予定である。 a) 宗教と宗教研究／宗教哲学の成立と展開／宗教の科学と哲学／解釈・弁護・批判・実証／分析と構成 b) 宗教定義の問題／定義の意味と類型／宗教の分析枠組／宗教性の次元・構成要素／信念・教義・思想／儀礼・修行・行動／集団と組織／宗教体験と神秘主義 c) 宗教の歴史的形態／宗教史の解釈／宗教進化論／世俗化論の問題 d) 現代の諸問題／宗教と言語／宗教とコミュニケーション／宗教と癒し／宗教多元性の問題 |
| 履修上の留意点 | テーマの性質上、視聴覚素材などは用いず、主としてふつうの講義形式で行なうことになる。その場合、さまざまな術語（キーワード）を正確に理解することがとくに重要なので、この点に留意してほしい。適宜ノートを取り、また紹介された参考文献にもできるだけ目を通すことを要望したい。 |
| 成績評価の方法 | 通常の試験による。 |
| 参考書等 | 藤田富雄『宗教哲学』（大明堂）2,400円 田丸他編『宗教の哲学』（北樹出版）2,200円 |

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|----------------------|------------|-----|
| 現 代 哲 学 概 説 | く ぼ よう いち 久 保 陽 一 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

主に19～20世紀の哲学を概説し、現代における人間の生き方を考える手掛りとして。現代の哲学的状況の特徴の一つは、英米系の言語分析的な哲学と独仏系の観念論や弁証法の伝統に基づく哲学との対立にあると云われる。最近ではこの対立は確かに緩和されつつあるが、しかし依然として相互の不信や軽視は続いている。だからこの対立は根本的に近代の知の在り方に根ざしているように思われる。それは、科学的に捉えられるもの（「真」）が必ずしも同時に「善」や「美」を意味しなくなり、それ故科学と形而上学、事実認識と価値判断の峻別が前提されるようになったためと思われる。このような視点から現代の哲学の状況を捉え、同時に現代文明に直面させられた人間の諸問題を考察することしよう。

講義の内容・授業スケジュール

講義では次のような内容を扱う予定である。
 (イ) 近代知の在り方
 (ロ) ドイツ観念論、マルクス主義、実存主義、分析哲学等
 (ハ) 現代文明の諸問題

履修上の留意点

講義への積極的な取りくみが要件。哲学史についての子備知識を持つようにしてもらいたい（その為に、例えば『ソフィーの世界』等を読むことを勧める）。

教 科 書

開講時に指示する。

参 考 書 等

シュテークミュラー『現代哲学の主潮流』（法政大学出版局）
 渡辺二郎『構造と解釈』（日本放送出版協会）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-------------------------------------|------------|-----|
| 仏 教 民 俗 学 | 須 藤 寛 人 <small>す どう ひろ と</small> | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

葬儀や、先祖崇拝、位牌・仏壇といったものを通して、多くの日本人は仏教と接していると思われま。こういった日常的な仏教との接点を手がかりとして、大宗教としての仏教が民間に浸透していった経緯を本講義では考察したいと思います。また今日の日常的な仏教的な営みの背景にある民俗的基盤の歴史と意味を再考することによって、仏教とのこれまでとは違った接し方のきっかけになればと思います。

講義の内容・授業スケジュール

以下の三点を以て、本講義の枠組みとし、盆行事や彼岸などの具体的事例を交えながら考察を行っていききたいと思います。

a. 祖先祭祀

祖先とは何か、祖先との違いは何かを明確にすることからはじめる。今日の日本仏教における寺院の主たる活動が、死者の葬式と追善供養からなっており、追善供養は祖先祭祀を民俗的背景として成り立っていることから、祖先祭祀は重要なテーマであると考えられる。

b. 葬送儀礼

葬式は多くの日本人にとって最も「仏教的」であることを再認識させられる出来事である。しかし、ほとんどの場合、そこでなが行われているかは、一般の人には知らされていない。そこで、民俗的事例をあげながら葬式の構成を明らかにしそこにどういう意味があるのかを明らかにする。

c. 仏壇・位牌・墓

多くの日本人にとって最も馴染み深い「仏教的」なものが、仏壇・位牌や墓であろう。これらのものが、拝む対象になる所以を民俗的背景から明らかにする。

履修上の留意点

遅刻・欠席はできるだけなくしてください。私語は慎んでください。

成績評価の方法

試験・レポート等で総合的に評価します。

教 科 書

教科書は用いませんが、講義の内容に沿って資料を配付します。

参 考 書 等

適宜紹介したいと思います。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|---|------------|-----|
| 宗 教 教 育 | こ 小 ^{やま} 山 ^{かず} 一 ^{のり} 乗 | 禪・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

命題「法は風土の産物」(モンテスキュー『法の本質』)を問題意識の根柢におく。世界各国の風土、風習、習慣、慣習、法、比較法の知見に示唆されつつ、いわゆる「宗教(の)教育」の法的思考(Legal mind)、そこに看取されるいわゆる宗教的思考(religious mind)、教育的思考(educational mind)の総合的考察をし、各国の宗教教育の実態も眺めつつ、これからのいわゆる宗教教育での、教授概念検討を経て、意味、目的、目標、内容、方法について具体的なデザインを試みる。特に宗教の教育における寛容の態度育成について広く深く考察したい。

いわゆる「宗教教育」論議は、政策・法律論議で、「何を教えることができないのか」の禁止事項に注意が傾斜した論議が久しく盛んでその喧しさは大である。だが、この論議に反して、同じ現行憲法・法規下で、「何を教えることができるのか」の肯定的事項に注意を向けた教育方法上の教授概念検討論議が極めて少ない。これはいわゆる戦後教育の盲点でさえある。この不均衡を醸成してきた歴史的背景を検証する。幕末、明治維新、対日米占領宗教教育政策、憲法・教育基本法・教育関係法規立法審議制定過程を検証し、手垢の付いた用語としての「宗教教育」論を見直す。用語「宗教教育」は解釈者により一様ではない。本講義では、手垢の付いた先入観を回避し白紙から議論を構想したく、そのために、しばらくの間「宗教の教育」と措定したい。その上で、tell(告げる)とteach(教える)との差異、〈religious education〉と〈education about religion〉との差異につき、教授概念を検討する。

講義の内容・授業スケジュール

種々様々な事柄を取り上げ考察を試みる。用語・訳語としての宗教教育、宗教、religion、畏敬、注意深く観察する、(再)結合、宗、教、育、education、誓願、アニミズム、アニメーション等の字源・語源をさぐる。更に、何～何事、what～whatness、児童生徒の疑問態(の調査研究)、内外の種々の童謡、節分、雑祭り、節句、七夕、盆祭り、七五三、合格祈願、お守り、羽田空港長の朝、クリスマス、ターミナル・ケア等を狙上に乗せる。憲法20条・教育基本法9条・初期社会科学学習指導要領との絡みの中に、対日米占領教育政策が胚胎していた異文化理解問題の史実を見る。宗教を文化現象の一形態として考えるか否かについて、諸説を見ておきたい。道徳教育の内容項目上の宗教的用語が「宗教の定義集」・「現代日本の諸家の宗教観」の二典中では、どう規定されているか、その脈絡を意味論的に概観する。多民族多文化多宗教共住社会のうねり、隣人は異邦人等がいわれ日常生活化しつつある国際化社会時代の問題・課題解決に与する宗教教育の目的論・目標論・内容論・方法論を具体的に考えたい。今後は例えば、国際結婚等にもより、混血児も学級には数人は存在するとの推計もある。家庭教育・学校教育・社会教育のいずれの教育の場面も、まさに、迂闊ではいられなくなる。宗教的無知は宗教的偏見よりも致命的な悲劇を生もう。無知解消の教育が要る。

履修上の留意点

社会科・地理歴史科・公民科における宗教の教育、宗教科教育における宗教の教育、宗教教育における宗教の教育の異同点、及び、訳語としての用語「宗教」に関し熟考して欲しい。

成績評価の方法

レポート、出席点、口頭発表等による。特に出席を重視する。

教科書

小山一乗著『教育と寛容——宗教的事実・規範の取り扱いとそのおしえ方、評価の観点——』(宣協社) 2,940円
 小中高各『学習指導要領』(各230円 250円 370円)
 『仏教・キリスト教・イスラーム・神道どこが違うか』(大法輪閣) 1,600円

参考書等

指定図書→『宗教教育の理論と実際』(鈴木出版) 1985年
 土持ゲーリー法一著『米占領教育使節団の研究』(玉川大学出版部) 9,785円
 井上順孝監修『宗教教育資料集』(すずき出版) 3,900円
 杉原誠四郎『教育基本法の成立「人格の完成」をめぐる』(日本評論社)
 参考図書→KYOUKO INOUE. 1991. MACARTHUR'S JAPANESE CONSTITUTION THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS

その他

定例教場での講義を中心とするが、必要に応じ、視聴覚教室でのビデオ、スライド、OHPの視聴をするので視聴覚教場の掲示に注意しておくこと。プリントを配布するのでファイル表紙を用意して欲しい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|-----------------------|------------|----|
| 心理学概論 | ま じま ひで とし 間 島 英 俊 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

心理学は人間理解を科学的に究明する学問であるといえるだろう。研究方法はさまざまであるが、その目的は同じであり、人間理解をとおして自己理解に結びつくものと思われる。講義では、諸君等がその問題を考えるための基本的事実のみに限定して話していくことにします。心理学は科学であるために多くの近接領域の学問と関わっているがために、これらの事実もやがて過去の遺物になるかも知れません。そのためにも諸君等は科学の基礎として心理学を学び、興味と向学心をもって、さらなる目標追及に役立ててほしいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

講義内容ならびに授業スケジュールは以下のとおりである。

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| 1 ひととなりを考える | 6 学ぶこと・考えること |
| 2 発達——自己から自己へのタイムトラベリング | 7 ここを動かす・行動を起こす |
| 3 “こころ”のゆきづまり | 8 人・仲間とかかわる |
| 4 人と人との絆（家族と社会） | 9 ことばとコミュニケーション |
| 5 みること・きくこと | |

これらのテーマに基づいて、講義を中心に簡単な調査、検査、小実験を行なう予定です。

履修上の留意点

出席を重視します。

成績評価の方法

基本的には年度末定期試験にて評価しますが、出席はもとより調査、検査、実験への参加状況からも考査されます。

教科書

根本和雄編著『理解とふれあいの心理学』（ミネルヴァ書房）2,575円

参考書等

講義内にて紹介します。資料はその都度配布しますが、欠席したものへの後日配布はしません。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------|------------------------|------------|----|
| パーリ語初級 | かた やま いち ろう 片 山 一 良 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

| | |
|----------------|--|
| 講義のねらい | パーリ語は、原始仏教を学ぶ者にとって不可欠な「聖典語」である。本講は、パーリ語文法の確実な習得につとめ、原始仏典の正しい読解をめざすものである。 |
| 講義の内容・授業スケジュール | 前期は、文法全体について講義し、後半は、『アングリマーラ経』(Angulimāla-sutta)を直接に読みたいと思う。 |
| 履修上の留意点 | 習得に丁寧であることが望まれる。 |
| 成績評価の方法 | レポート(夏期)および年度末テストによる。 |
| 教科書 | コピーにて配布する。 |
| 参考書等 | 水野弘元『パーリ語辞典』(春秋社) |
| その他 | 随時、テープ等を使用する。 |

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------|----------------------|------------|----|
| パーリ語上級 | ふく だ たか お 福 田 孝 雄 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

| | |
|----------------|---|
| 講義のねらい | 仏教の発生の背景となる諸般の状況を検討しつつ、パーリ諸文献のなかの最古層に属すると認められるものを中心に講読していく予定である。必要に応じて、アッタカターなども参照する。 |
| 講義の内容・授業スケジュール | 講読中の当該文献に相当する他の資料も、適宜必要に応じて参照し検討する。 |
| 成績評価の方法 | 履修者の平常の授業における状態を勘案して、最終的に成績の評価を行う。 |
| 教科書 | 適宜必要に応じて、当方で用意する。 |

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|------------|--------------------|------------|-----|
| サンスクリット語初級 | かな ざわ あつし 金 沢 篤 | 禪・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

仏教などインド起源の宗教・哲学や文化・歴史を本格的に学ぶために不可欠の語学であるサンスクリット語の入門。

講義の内容・授業スケジュール

定評ある以下の初等文法書に沿って、サンスクリット語の特徴・概要を知ると共に、適宜練習問題などをふんだんに実習して、サンスクリット文解読のための実際的・基礎的な力を養う。

履修上の留意点

予習・復習を怠らず、常に主体的・積極的に授業に参加することが望ましい。

成績評価の方法

平常点と期末・年度末の筆記試験。

教 科 書

J・ゴンダ著『サンスクリット語初等文法』（春秋社）

参 考 書 等

辻直四郎著『サンスクリット文法』（岩波書店）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|------------|--------------------|------------|-----|
| サンスクリット語上級 | かな ざわ あつし 金 沢 篤 | 禪・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

仏教などのインド起源の宗教・哲学や文化・歴史を本格的に学ぶために不可欠の語学であるサンスクリット語の上級篇。

講義の内容・授業スケジュール

定評ある以下の教本をテキストに、サンスクリット語に関係の深いデーヴァナーガリー文字に習熟し、サンスクリット文法を改めて確認すると共に、サンスクリット文解読のための実際的な力を養う。演習形式。

履修上の留意点

サンスクリット語初級程度の修了者であることが望ましい。

教 科 書

ランマン著『サンスクリット読本』（Charles R. Lanman, A Sanskrit Reader）OUP

参 考 書 等

辻直四郎著『サンスクリット文法』（岩波書店）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|-----------------------|------------|-----|
| チベット語初級 | まつ もつ し ろう 松 本 史 朗 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

チベット語は、仏教思想の研究には不可欠な言語である。何故ならば、チベット語に訳された仏典、及び、チベット人仏教者が著した仏典を学ぶことがなければ、インド仏教の思想的研究は不可能であると、今日では考えられているからである。本講義のねらいは、このような仏教研究の目的のために、チベット語の文法を習得してもらうことである。

講義の内容・授業スケジュール

講義のスケジュールは、教科書に従い、チベット文字の習得から、名詞・形容詞・副詞・動詞・助詞・助動詞への説明へと進み、最後に、簡単な読みもの（チベット人の著作）を読んで、文法的知識を確実なものとする。

履修上の留意点

チベット文字を習得するまで、困難ではあるが、頑張ってもらいたい。

成績評価の方法

年度末の試験により、成績を評価する。

教科書

開講日初日に指示するので、必ず出席すること。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|----------------------|------------|-----|
| チベット語上級 | き むら せい じ 木 村 誠 司 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

ツォンカパの弟子タルマリチェン著『量の大備忘録』を講読する。内容は、かなり専門的であるが、時間をかけ、ていねいに読む。なお、受講者に希望があれば、協議の上、テキストを変更する場合もある。

講義の内容・授業スケジュール

テキストは、コピーで配布する。

成績評価の方法

講義内の平常点によって行う。

教科書

Tshad ma' i brjed byang chen mo.

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------|----------------------------|------------|----|
| 中国古典語上級 | 小川隆 <small>おがわ たかし</small> | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

漢語で書かれた書物を読む為には、当然のことながら、正確な漢語の読解力が要求される。この科目では、その最低限の基礎となる標準的な古典中国語（古代漢語）の文法を学習する。

講義の内容・授業スケジュール

授業では、古典中国語をその発音と文法に即して「語学」的に読むことを学んでゆく。具体的には、ふつうの外国語の授業と同様、まずテキストを現代中国音で音読し、その後その文章を語順・文法構造・虚詞（助字）の用法等に即しつつ、分析的に読み解いてゆく。いわゆる訓読書き下し文の訳も適宜参照する。

履修上の留意点

「中国古典語初級」とあわせて学ぶことが望ましいが、必ずしも初級→上級という順である必要はない。むしろこの科目を学ぶ為には、現代中国語の基礎を既に学んでいること（中国語ⅠA-ⅠB程度）が前提となる。現代中国語への理解が深ければ深いほど、古典中国語の学習も深まってゆく。この科目と平行して現代中国語の学習も続けていって欲しい。

成績評価の方法

テストは行わない。毎回、テキストの音読と翻訳が当たるので、そのレベルによって成績評価をする。当然、出席重視。

教科書

プリント配布。

参考書等

『禅学研究入門』（大東出版社）の第5章「原典読解のための基礎知識」辞書については、教場で詳しく説明する。

その他

中国の書物を読む為には、狭義の語学力のほか、中国に関するはば広い知識も不可欠である。中国哲学・中国文学・東洋史等の中国関係の科目を、なるべく多く履修して欲しい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|------------------------------|------------|----|
| ラテン語 | 佐藤玖美子 <small>さとう くみこ</small> | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

この講座は、英米語をはじめとする現代ヨーロッパ言語のより良い理解者となるための、古典ラテン語の基礎知識の習得、とくに文法規則を学び、動詞、名詞の変化に慣れることを目的としています。

講義の内容・授業スケジュール

ラテン語の文字及び推定される当時の発音の説明からはじめて、ラテン語の初級文法全般を出来る限りやさしく説明します。また皆さんの興味を少しでも高める目的で、おりに触れて現在私達の知る英語やその他フランス語、スペイン語、イタリア語などのラテン系の言語とのつながり、発展過程などについても話したいと思います。
また、文法の進度に従って、簡単な物語りの講読を行い、ローマの歴史や伝説にも親しんでもらいたいと思います。

履修上の留意点

テキストは一応講義のガイドとして用いますが、内容的にはテキストから逸脱する部分が多いので、必ずノートをとって下さい。また、教室に必ず辞書を持参して下さい。

成績評価の方法

前期の文法テスト及び後期の翻訳テストの結果に、平常の学習態度、出席状況を加味して成績評価を行います。

教科書

松本悦法著『ラテン語入門』（駿河台出版社）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|--|------------|-----|
| 仏 教 文 献 学 | <small>しい</small> 権 <small>な</small> 名 <small>こう</small> 宏 <small>ゆう</small> 雄 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

専
門
教
育
科
目

| | |
|--------------------|--|
| 講義のねらい | 漢文大蔵経の理解と大正大蔵経に収録されている禅籍についての理解 |
| 講義の内容・ 授業スケジュール | <p>仏教の基本文献を集成した全集が、経・律・論の三蔵を主とする大蔵経（一切経ともいう）である。大蔵経には、南伝・チベット・中国という三つの系統があり、昔から幾多の大蔵経が編さんされ、刊行されてきた。それらの中で現在、世界で最も高い評価と権威の与えられているのが、わが日本の大正大蔵経100巻である。</p> <p>ここには、中国と日本で著わされた禅の典籍約80種が収録されている。いうまでなくこれらの典籍は、無尽蔵に近い禅籍の中のエッセンスである。本講座は、これらの禅籍一つ一つについて、書誌と内容をくわしく解説し、基本禅籍に強くなることを目指す。</p> <p>もともと、初めの回数は大蔵経についての理解をはかるため、中国と日本の歴代漢文大蔵経について解説する。また、個々の禅籍については、単に表面的な解説だけではなく、その成立、編集、変遷、印刷、流行などに関する歴史的書誌的な方面にも力を入れたい。特に木版時代の雕造、料紙、製本、経費などについては、実物や写真を手にして、視覚的に文化史的な方面の理解もはかり、無味乾燥的な講義にならないように工夫したい。</p> |
| 履修上の留意点 | 旺盛な好奇心と吸収意欲に尽きる。これの欠けた者は受講の資格なし。 |
| 成績評価の方法 | 出席数と定期試験 |
| 教 科 書 | 多くのプリント資料（無料） |
| 参 考 書 等 | 『大蔵経全解説大辞典』（雄山閣）38,000円……購入の必要なし。 |

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|--------------------------------|------------|-----|
| 中国文学講読 | 末木恭彦 <small>すえ き やす ひこ</small> | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

本講義は中国古典文学文献講読であると理解してもらいたい。中国古典語（即ち漢文）で書かれた文献は、現代の文献と論理・修辞・構成が異っている。この差異を理解しなくては、中国古典文献を読みこなすことはできない。本講義では、中国古典語で書かれた文献を読む為の基礎的教養の獲得を目指す。

講義の内容・授業スケジュール

今年度は、江戸時代の僧千丈の詩文集『幽谷餘韻』から記事類を読む。この作品は一種の怪談集であり、東アジアの伝統的な意味での小説である。日本人の手になるが、正統の漢文（中国古典語）で書かれているので取りあげる。授業は、内容を深く掘り下げるよりも、怪談の面白さを楽しみながら、できるだけ読み進みたいと考えている。

履修上の留意点

正確に読めるように十分豫習して授業に臨んで欲しい。又、大学生にふさわしい漢和辞典を必ず携えて来ること。

成績評価の方法

- 以下のものを材料として成績をつける。
1. 平常点（出缺だけでなく、授業への参加の程度、豫習の有無なども重要な材料とする）
 2. 試験又はレポート
 3. その他（質問〈書面です出してもらう〉任意のレポートなど）

教科書

プリントを配布する。

参考書等

講義中に適宜指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----|-------------------------------|------------|-----|
| 禅美術 | 海老根聰郎 <small>えびね とし お</small> | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

日本の中世の絵画世界を、禅宗画僧による歴史として述べていく。鎌倉・南北朝・室町時代を対象とする。それらの画風の源泉は中国にあるから、合わせて、中国禅宗の中で描かれた絵画についても述べる。

その他

授業は毎回スライドを映写する。年度末に授業で述べたところから出題した筆記試験を行ない評価する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|--------------------|------------|----|
| 仏教美術 | やま した ゆう じ 山下裕二 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

| | |
|----------------|---|
| 講義のねらい | 仏像や仏画を見れば、だれもがそれを「仏教美術」だと認識する。だが、きらびやかな色彩の花鳥画や、落ちついた水墨の動物画にも、仏教的なイメージは流れこんでいる。この講義では、一見「仏教美術」とは思われぬような作品をあえてとりあげて、読み解いていくこととする。 |
| 講義の内容・授業スケジュール | ①江戸時代の画家・伊藤若冲 ②南宋時代の画家・牧谿 ③江戸時代初期の風俗画・彦根屏風 他にも適宜多数の作品を紹介し、最新の研究論文を読んでもらう。 |
| 履修上の留意点 | 仏教美術に対する固定化したイメージを捨てて講義に臨んでほしい。 |
| 成績評価の方法 | レポートにより評価する |
| 教科書 | なし |
| 参考書等 | 参考文献は適宜コピーして配布する。 |
| その他 | スライド・ビデオを多用する。 |

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|---------------------------------|------------|----|
| 坐禅Ⅱ | いしい せいじゆん なが い まさし 右井清純・永井政之 | 禅・仏教2・3・4選 | 4 |

| | |
|----------------|---|
| 講義のねらい | 只管打坐の実践・学習 |
| 講義の内容・授業スケジュール | 実習時間の前半は只管打坐、経行を挿んで後半は『坐禅用心記』を講じる。授業の実施要領および基本的な心構え等については、「坐禅Ⅰ」に全く同じ。 |
| 履修上の留意点 | 科目の性格上、遅刻を認めず、追再試験やレポート提出等による救済措置は、一切講じられない。また、坐禅堂内およびその周辺における、服装・態度・言語・動作等の厳粛・整齊なるを、きびしく要求するから、これらのことを予めよく承知しておくこと。 なお、学年度最初の授業には、席次の決定や必要な諸注意をするから、受講する者は全員かならず出席すること。 |
| 成績評価の方法 | 授業実施時間に対する出席時間数をもって機械的に判定する。ただし、坐禅堂の内外における服装・態度・言語・動作等に、著しく適当を欠くと思われる者、および、講本の忘失者は厳しく減点の対象とする。 |
| 教科書 | 『坐禅講本』（更生社）2,266円 |

2 他学部履修科目

2 他学部履修科目

| | | |
|-----------------|----------------|----|
| 禅学概論 | (佐藤秀孝) | 67 |
| 中国禅宗史 | (田中良昭) | 67 |
| 日本禅宗史 | (原田弘道) | 68 |
| 禅籍講読 I | (田中良昭) | 69 |
| 禅籍講読 III | (佐藤秀孝) | 70 |
| 仏教概論 | (平井俊榮) | 71 |
| インド仏教文化史 | (奈良康明) | 72 |
| 中国仏教文化史 | (永井政之) | 73 |
| 日本仏教文化史 | (袴谷憲昭) | 73 |
| 中国古典語初級 | (石井公成) | 74 |
| 中国哲学史 | (前川亨) | 74 |
| 上代文学研究 I | (小野寛) | 75 |
| 中古文学研究 I | (高橋文二) | 75 |
| 中世文学研究 I | (村上光徳) | 76 |
| 近世文学研究 I | (富士昭雄) | 76 |
| 近代文学研究 I | (畑實) | 77 |
| 比較文学 | (満谷マーガレット) | 77 |
| 児童文学 | (山口節子) | 78 |
| 西洋思想史 | (麻生建) | 78 |
| 演劇概論 | (井上理恵) | 79 |
| 編集実務 | (長谷川孝) | 79 |
| イギリス文学特講 I | (石原孝哉) | 80 |
| イギリス文学特講 II | (高野正夫) | 80 |
| イギリス文学特講 III | (岡崎寿一郎) | 81 |
| イギリス文学特講 IV | (富士川義之) | 81 |
| イギリス文学特講 V | (高松雄一) | 82 |
| イギリス文学特講 VI | (丸小哲雄) | 83 |
| アメリカ文学特講 I | (新倉俊一) | 84 |
| アメリカ文学特講 III | (足田和人) | 84 |
| 演劇特講(イギリス・アメリカ) | (荒井良雄) | 85 |
| 時事英語 | (サンダース, L. P.) | 86 |
| 地理思想史 | (休講) | |
| 地形学 | (小池一之) | 87 |
| 人口地理学 | (大友篤) | 87 |
| 文化地理学 | (小田匡保) | 88 |
| 応用地理学 | (高木正博) | 88 |
| 現代地理学特論 | (長谷川均) | 89 |
| 日本史特講VII〔近代〕 | (小泉雅弘) | 89 |
| 東洋史特講X〔近・現代〕 | (趙軍) | 90 |
| 考古学特講 III | (休講) | |
| 日本仏教史 II | (休講) | |
| 西洋文化史 I | (佐々木真) | 91 |
| 日本民俗学 | (谷口貢) | 92 |
| 哲学史 | (山口祐弘) | 93 |
| 歴史哲学 | (麻生建) | 93 |
| 産業・職業社会学 | (休講) | |

| | | |
|----------------------|-----|--|
| マスコミュニケーション論 (休 講) | | |
| 社会福祉発達史 (林 千代) | 94 | |
| 国民所得論 (吉野 紀) | 95 | |
| 日本経済史 (渡辺 新) | 96 | |
| 中小企業論 (三井 逸友) | 97 | |
| 社会政策 (光岡 博美) | 99 | |
| 教育経済論 (谷敷 正光) | 100 | |
| 日本経済論 (工藤 昌宏) | 101 | |
| アジア経済論 (郭 洋春) | 102 | |
| 中国経済論 (小杉 修二) | 103 | |
| アメリカ経済論 (瀬戸岡 紘) | 104 | |
| ロシア・東欧経済論 (山縣 弘志) | 106 | |
| 商業政策 (岩下 弘) | 107 | |
| マーケティング (曾我 信孝) | 108 | |
| 経営管理論 (百田 義治) | 109 | |
| 労務管理論 (石井 脩二) | 110 | |
| 財務会計論 (遠藤 孝) | 111 | |
| 会計監査論 (飯岡 透) | 113 | |
| 管理会計論 (中原 章吉) | 114 | |
| 原価計算論 (加藤 利安) | 115 | |
| 貿易論 (古沢 紘造) | 116 | |
| 銀行論 (齊藤 正) | 117 | |
| 行政法各論 (齊藤 寿) | 118 | |
| 比較憲法 (休 講) | | |
| 親族法 (竹中 智香) | 119 | |
| 相続法 (竹中 智香) | 119 | |
| 西洋法制史 (北野 かほる) | 120 | |
| 英米法 (北野 かほる) | 121 | |
| 国際政治学 (岡田 外司博) | 122 | |
| ヨーロッパ政治史 (小堀 訓男) | 123 | |
| 地方自治法 (浦田 早苗) | 123 | |
| 地方自治法 (富井 幸雄) | 124 | |
| 議会関係法 (休 講) | | |
| 立法過程論 (前田 英昭) | 125 | |
| 比較政治学 (岩崎 正洋) | 126 | |
| 現代国家論 (大塚 桂) | 127 | |
| 比較憲法 (休 講) | | |
| 営労務論 (鹿嶋 秀晃) | 128 | |
| 国際経営論 (茂垣 広志) | 129 | |
| 商業史 (山田 勝) | 130 | |
| 保険経営論 (石名坂 邦昭) | 131 | |
| 財務会計論 (休 講) | | |
| 経営分析論 (片桐 伸夫) | 132 | |
| 税務分會論 (高木 克己) | 133 | |
| 経営情報論 (高井 徹雄) | 134 | |
| 情報管理論 (西村 和夫) | 135 | |
| 経営統制論 (長 国強) | 136 | |
| 上代文学講読 (佐原 作美) | 137 | |

| | | |
|------------------|-------------|-----|
| 中古文学講読 | (鈴木裕子) | 137 |
| 中世文学講読 | (齒部幹生) | 138 |
| 近世文学講読 | (菅野一雄) | 138 |
| 近代文学講読 | (石割透) | 139 |
| 現代文学講読 | (安藤幸輔) | 139 |
| 時事英語 | (休講) | |
| 英語演習 I [英語音声の基礎] | (アシュエル, T.) | 140 |
| 応用計測学 (前期) | (檀尾英次) | 141 |

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------|------|---|-----|
| 禅学概論 | 佐藤秀孝 | 国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

禅学とは禅に関する学である。禅（禪那）という修行法はインドに発生し、仏教に取り入れられ、中国や朝鮮さらに日本など広範に展開したものである。一概には規定できないが、この講義では禅と禅宗に関する基本的な知識を歴史面と思想面から概説し、あわせてそれら禅学研究のあり方について触れるものである。禅宗は仏教の中でもっとも実践的な宗派であり、中国・日本の歴史と文化に大きな足跡を記し、今日においては国際的関心も高い。この禅を学問的に考察せんとするのが禅学であり、本講義はその概論・概説にほかならない。

はじめにインド仏教における禅（禪定）について触れ、さらに禅の歴史的考察として、菩提達磨に始まる中国禅（禪宗）の基本的な歴史（禪宗史）を禅思想の展開を踏まえつつ概観し、また日本の禅宗にも及びたい。さらに思想面としては、禅の立場、禅の人間観・修行観、禅の生活さらに禅と文化、禅の今日的課題（本覚思想・見性の問題）など、およそ禅に関する諸方面からの概説的考察をなしたい。そして、これらに並行して禅学に関するそれぞれの分野における研究方法や基本的な資料などについても解説するつもりである。

教科書

教科書はとくに指定しないで、その都度、諸資料をコピーなどで配布する。

参考書等

参考書としては駒澤大学仏教学研究室編『宗教学Ⅱ』（更生社）や田中良昭編『禅学研究入門』（大東出版）が有効であろう。

その他

授業方法としては原則として講義方式で行なう。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|------|---|-----|
| 中国禅宗史 | 田中良昭 | 国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

本講座は、中国の禅宗の歴史を考察するものである。仏教の実践道とされた禅が中国に伝来し、菩提達磨を初祖とする系統がやがて中国禅宗を形成し、更にそれが独自の展開を果たし、後にチベット、韓国、日本へと伝承された。この中国禅の歴史的展開を、近年出現した敦煌資料を活用しながら検討する。

講義の内容・授業スケジュール

菩提達磨の渡来以前の仏教における禅の状況を序説的に第Ⅰ部とし、達磨の渡来による独特の禅法の開示から、馬祖の洪洲宗、石頭の石頭宗によって禅宗が一宗として確立された中国禅宗の成立を第Ⅱ部とし、禅宗が五家七宗として各々その特性を発揮する唐末・五代から、日本の禅宗の元となった宋朝の禅、更に元代以後の禅という中国禅宗の展開を第Ⅲ部として全体を体系化する。

履修上の留意点

中国・日本の禅学や曹洞宗学を学ぼうとする学生諸君には、その基礎的な知識として歴史的な禅の流れを確かなものにしておくことが、その後の学習にとって最善の方法であると確信している。

成績評価の方法

学年末試験を中心とするが、平常の授業への出席を重視し、その結果を加味して評価する。

教科書

現在適当なものが存在しないので、ノートを使用する。

参考書等

比較的理解しやすいものに、〈講座禅〉第3巻『禅の歴史——中国——』中の柳田聖山稿『中国禅宗史』があるが、入手困難のため図書館を利用されたい。専門書としては、関口真大『禅宗思想史』、柳田聖山『初期禅宗史書の研究』、田中良昭『敦煌禅宗文献の研究』、篠原壽雄・田中良昭編『敦煌仏典と禅』、鈴木哲雄『唐五代禅宗史』、石井修道『宋代禅宗史の研究』等が代表的なものである。

その他

授業の方法は講義であり、ノートを使用し、必要に応じて資料を配布し、内容についての説明を可能な限り詳細に加えていきたい。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-----------------------|---|-----|
| 日 本 禅 宗 史 | はら だ ひろ みち 原 田 弘 道 | 国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

- 我国に伝来した禅はその主流となって、類型を異にするものが五つあったと考えられる。
- I. 荣西・聖一・法燈等の流派であり、教禅兼修の家風である兼修禅——教乘禅的性格をもったもの。
 - II. 蘭溪・祖元等の来朝した中国僧によって伝えられた鎌倉禅であり、これは禅林の清規によって祖師禅を挙揚した。
 - III. わが国の南浦紹明（大応国師）が入宋求法して松源一派の禅を伝え、純一無雑に祖師禅を挙揚し、大応・大燈・関山の三代に亘って基盤を築いた応燈関の一流である。
 - IV. これらの臨済禅とは別に道元によって伝来され、瑩山に至って、宗団として形成され、その門流によって展開された曹洞禅である。
 - V. 江戸時代に隠元によって伝えられた明朝禅——念仏禅——である。
講義ではこれらを中心にして日本禅宗の歴史を考察する。内容は伝来・受容、発展の実態とその思想史的意義も明らかにしておく。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 禅宗の伝来（奈良・平安時代）
2. 兼修禅の勃興とその系譜
3. 曹洞禅の伝来と原始僧団
4. 臨済禅の伝来と形成
5. 五山の成立と五山文学
6. 臨済禅（応・燈・関）の展開
7. 曹洞禅の地方展開
8. 近世の禅宗
9. 近代の禅宗

履修上の留意点

禅の教理、思想の理解、日本史の一般的知識の習得をしておくこと。

成績評価の方法

平常点（出席）と試験による総合評価。

参 考 書 等

『禅の歴史——日本——』（講座禅第四卷）、鈴木泰山『禅宗の地方発展』
荻須純道『中世日本禅宗史』

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|--------------------------|---|-----|
| 禅 籍 講 読 I | た な か りょう しょう 田 中 良 昭 | 国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

この講義は、中国で成立した初期の禅籍（禅宗語録）を講読するものである。本年は、初期の禅籍の内、六祖慧能（638～713）が韶州大梵寺で道俗のために説法した語録とされる『六祖壇経』を読む。『六祖壇経』は、長い年月にわたって数多くの異本が生まれ出されたが、現存最古のテキストである敦煌本の内、近年その内容が明らかにされた敦煌県博物館所蔵本（敦煌本）を用い、その読解を通じて、初期禅思想、特に南宗禅の特色を明らかにしていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

オリジナルテキストは写本であるが、近年、楊曾文氏の校定本、周紹良氏の影印・校写本が刊行されているので、両者を比較しながら読解を進める。尚、上記校訂本はいずれも白文（かえり点のない漢文）であるが、佐藤悦成氏による訓読と現代語訳が出版されているので、順番に読み下しと解釈をしてもらい、その上で読み方と内容について詳しい解説を加えていきたい。

履修上の留意点

この講義の履修を通して、原文に触れることの意義を体験し認識していただきたい。

成績評価の方法

平常の当番の際の読解力、出席状況、学年末試験の結果を総合して評価する。

教 科 書

楊曾文校写『敦煌新本・六祖壇経』（上海古籍出版社）、周紹良編著『敦煌写本壇経原本』（文物出版社）の該当部分をコピーして配布する。

参 考 書 等

佐藤悦成和訳『敦煌新本・六祖壇経』（全国曹洞宗青年会事務局）、柳田聖山訳『六祖壇経』（世界の名著）18 『禅語録』（中央公論社）、及び『世界古典文学全集』36A『禅家語録』I（筑摩書房）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|-----------------------|---|-----|
| 禅 籍 講 読 III | さ とう ひで たか 佐 藤 秀 孝 | 国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

この講義は日本禅宗でも初期の禅籍（禅宗文献）を講読するものであり、それを通して日本の禅宗の特質を考えていくことを目的とする。日本への禅宗の伝来は平安末期から鎌倉時代に始まり、南北朝時代から室町・戦国時代にはその隆盛期を迎えている。ここで初期の日本禅籍というのは、こうした中世禅林に成立したものをその対象としている。

はじめに日本への禅宗の伝来、兼修禅と純粹禅、臨済宗と曹洞宗の展開とその状況、五山叢林と林下、漢文語録と仮名語法などの問題を概観し、日本禅籍の分類や特徴を講ずる。とくに永平道元（1200～53）や瑩山紹瑾（1264～1325）に始まる曹洞宗の禅籍についてはいくぶん詳しく説明したい。

その後、当該の禅籍を講読するわけであるが、今年は『道元禅師語録』をその対象とし、特徴的な上堂語その他を順次に読み進めることにしたい。本書は道元の語録である『道元和尚広録』（『永平広録』とも）10巻を抜粋編集して1巻となした『永平元禅師語録』すなわち『永平略録』のことであり、その編集は道元と同門に当たる南宋の無外義遠（?～1266）によってなされているらしい。その間の事情などを踏まえて本書を精読吟味していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

はじめは講義形式で行ない、後半は内容の講読へと進みたい。

履修上の留意点

仮名の『正法眼蔵』と違い、本書は漢文の語録であるので、読解力を増すように努力してもらいたい。

成績評価の方法

平常点（出席率や学習・発表態度）と年度末の定期試験による。

教 科 書

鏡島元隆訳註『道元禅師語録』（講談社学術文庫）700円

参 考 書 等

大久保道舟訳註『道元禅師語録』岩波文庫（岩波書店）520円
酒井得元訳註『永平元禅師語録』『道元禅師全集』第5巻に所収（春秋社）4,120円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|---------------------|---------------------------------------|----|
| 仏教概論 | ひら い しゅん えい 平井俊榮 | 英文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

仏教について基本的な教理を中心に概説する。

講義の内容・
授業スケジュール

次の大綱にしたがって授業をすすめる。

- 序章 仏教とは何か
- 第1章 仏陀の生涯
- 第2章 仏の本質
- 第3章 法——仏教の真理観——
- 第4章 一切法——法の分類——
- 第5章 輪廻と業の煩惱
- 第6章 悟りへの道
- 第7章 心——実践の主体——
- 第8章 修行者の理想像
- 第9章 戒律と教団の組織
- 第10章 仏教の歴史

履修上の留意点

出欠は随時採る。

成績評価の方法

期末筆記試験の成績により評価

教科書

高崎直道著『仏教入門』（東京大学出版会）1,600円（変更あるやも知れず）

参考書等

平川彰著『三国仏教通史』（春秋社）2,575円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|----------|----------------------|---|-----|
| インド仏教文化史 | な ら やす あき 奈 良 康 明 | 国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

インド仏教を「教理」としてではなく、「文化」としてとらえて、検討したい。ここに「文化」とは生活様式、行動様式としての文化であり、「仏教徒」という社会を構成する人々（出家修行者および在家信者を含む）が、事実として、何を考え、どのように生活していたかをさぐる。したがって、悟りのレベルにある修行や教理、悟りに基づく倫理的生き方などは、無論、仏教である。同時に、功德を積んで良き後生を願う観念や行動、六道輪廻の理解、通過儀礼、祖先崇拜、呪術、祈願儀礼、占星等も仏教徒の生活「文化」である。両者は宗教的レベルと機能を異にするが故に、相互補完の形で共存し、その共存のあり方が興味ある研究対象である。又、インド仏教（徒）はそれを生み、育てたヒンドゥー世界とどうかかわり、如何に位置づけられるか、も興味ある研究テーマである。資料は梵語、パーリ（そして漢訳）語の経・律典と碑文、考古学的遺品等が中心となる。文献学的操作を経て得られた結果は、当時の仏教徒の現実の生活文化と、教学が主張するところとは大きなギャップのあることを示しているし、この構造は中国、韓国、日本ないし東南アジアのテーラヴァーダの仏教文化でも同様である。そして、このギャップこそが仏教（宗教）教団の社会への定着・発展のダイナミズムとしてとらえられるべきものである。

以上の問題意識のもとに今年度は、おおよそ次のテーマにしたがって講義したい。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 仏教を「文化」としてとらえるとはどういうことか。
「仏教」をどうとらえるか
「文化」とは何か？
仏教（宗教）の二つのレベル：「世間」（自我充足）と出世間（自己凝視）
仏教文化の「表層」と「基層」
仏教文化研究の方法論：M. Spiro, M. Ames, 他
2. 古代インドにおける仏教文化とヒンドゥー文化。
民族宗教としてのヒンドゥー教（世界）
ヒンドゥー教の特徴：神観念・宗派・特定の教義のないこと・ダルマ
カースト・ヴァルナ制度と仏教
古代インドの仏教徒とヒンドゥー教徒の関係（特にカーストをめぐる）
3. 仏教文化における業・輪廻思想の意味。
古代インドにおける業・輪廻思想の成立
業思想の構造と機能（含む 死後世界の構造と機能）
一般的業論の「自覚的業論」への昇華
懺悔の思想と実践
業と果報の関係
業の止滅と改変
4. 功德観念の文化史的発展。
善業と功德（punya）・悪業と悪徳（papa）
「作功德→生天」の図式的倫理的・宗教的意味
功德観念の「出世間レベル」への関係付けないし昇華
功德の廻向（adesana）と廻向（parinamana）
死者儀礼・祖先崇拜儀礼における功德観念
「生天」観念の発展と解脱の関係
5. 「餓鬼」（preta）研究。
ヒンドゥー教におけるプレータと祖霊祭
古代インド仏典にみる「餓鬼世界」の住人としての餓鬼
古代インド仏典にみる死者儀礼と関わる餓鬼
『パータヴァットゥ』『ヴィマーナヴァットゥ』における餓鬼供養の構造と意味
テーラヴァーダ仏教における餓鬼観念の変遷と儀礼
中国、日本における餓鬼供養の構造と変遷

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------|----------------------|---|----|
| 中国仏教文化史 | なが い まさ し 永 井 政 之 | 国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

ここでいう「文化」とは、現代の我々が日常的にイメージするそれではなく、「人間の営み」としての文化である。そのような文化を中国の歴史の上で見たいこうとするのが、本講義の主眼となる。言葉をかえていうなら、各時代を通じて中国人と仏教がどのような関係にあったかということになる。

今年度は、主として宋という中央集権国家に組み込まれた「禅宗」が、政治・経済・社会とどのように対応していったかを考える。

本来は「方外」の士であるべきにも関わらず、中国の仏教者は、その当初から国家権力への配慮を余儀なくされる。それが伽藍や教団の盛衰に直結していたからである。このような二律背反の世界を抱えつつも、彼らは仏教の中国的な理解に励み、またその受容に努力する。このことは現代に生きる我々にとってもさまざまな示唆をあたえるのではないのか。

成績評価の方法

成績評価は平常点に期末試験の結果を加味する。

教科書

必要なテキストは授業において指示する。またコピーを配布する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------|------------------------|---|----|
| 日本仏教文化史 | はかま や のり あき 袴 谷 憲 昭 | 国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

私は日本の「仏教文化」について講義する資格を有しないと自らは思っている。それを私は仏教学部に申し出ているが、私の思うとおりをやっけて頂いてよい、ということなので、通常の講義と思って出る方は、失望と落胆を味わうことになると思うので遠慮されたい。この授業は講義ではなく、『国体の本義』の批判的な講説を通して、日本における「仏教文化」の問題点を考えていこうという、むしろ演習であると了解されたい。

講義の内容・授業スケジュール

『国体の本義』を冒頭より演習形式で読みすすめる。最初の数時間のみは、本書の成立状況等について講義するが、これが1年間続くのだとは、履修登録の際には決して考えないでもらいたい。

履修上の留意点

教科書はもとより関連諸文献を自ら読もうとする者でない限りは履修は無理と思われるので、その点留意されたい。

成績評価の方法

平常点とする。

教科書

『国体の本義』（昭和12年3月、文部省刊）。
もちろん、現物を今求めることは難しいが、図書館には多数所蔵されているので、借り出すかコピーするかして授業には必ず持参してもらいたい。

参考書等

家永三郎『日本文化史』第二版（岩波書店）1982年 600円

袴谷憲昭『法然と明恵——日本仏教思想史序説——』（大蔵出版）1998年 4,800円＋税

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|-----------------------|---|-----|
| 中国古典語初級 | いし い こう せい 石 井 公 成 | 国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

漢文読解の基本的な力と、中国思想の基本的な知識を身につけることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

基本的な文法から始め、中国仏教に大きな影響を及ぼした『老子』『荘子』『易経』およびそれらの注釈を読む。

履修上の留意点

口頭での訓読、現代語訳、訓読からの漢文の復原など、学生諸君に作業を課しながら講読してゆくため、予習が必要である。

成績評価の方法

試験を行うが、授業中に上記の作業をよく担当している者については、平常点を加算する。

教 科 書

使用せず、コピーを配布する。

参 考 書 等

教場で指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|--------------------|---|-----|
| 中国哲学史 | まえ かわ とおる 前 川 亨 | 国文・英米文・地理・歴史 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

中国人の世界観・人間観・死生観などを歴史的に把握することを目的とする。具体的には儒教・仏教・道教の思想とその相互関係を理解するように努める。その際、東アジアの思想史という広い視野を失わないように心掛けたい。中国人の思考様式、諸思想（宗教）がいかにか我々日本人に受け容れられたか、また受け容れられなかったかを考えてみたい。一見抽象的にみえる思想史も、実は我々の現実と深くつながっているのだということを、共に学んでいこうと思っている。

講義の内容・
授業スケジュール

受講者の顔ぶれ・関心の方向を勘案して、前年度同様に孔子から始めて唐・宋代に及ぶか、それとも前年度に引き続いて唐・宋代から始めて近・現代に及ぶかを決めたい。いずれにしても、断代史的ではなく、問題史的に進めていくつもりである。受講者はそこから関心のある問題を発見して行ってほしい。

履修上の留意点

中国の思想・宗教・文化など多方面の関心のある諸君の受講を期待する。現代中国語もしくは古典中国語の初歩的な知識をもっていること（持とうという意欲を持っていること）が望ましいが、授業じたいはそれなしでも理解可能であろう。但し当然ながら、本講義内容に関心をもち、継続して出席する意欲を意志を有する者に限る。レポートだけ提出して単位を取得しようなどという安易な気持ちで登録してはならない。

成績評価の方法

授業に関連するレポートを前期・後期に提出してもらおう。それ以外の評価方法も検討したい。

教 科 書

特に必要としない。

参 考 書 等

授業中に適宜紹介する。

そ の 他

できるだけ多くの情報を提供するため、講義形式をとるが、受講者の皆さんの意見なども聞きながら進めたい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|----------------|--|-----|
| 上代文学研究Ⅰ | おののひろし 小野 寛 | 禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

万葉集をよむことから、上代文学の特質を考える。

講義の内容・
授業スケジュール

昨年は万葉集巻一をよみ進めて来たが、今年度はその続きを同じく巻一から、名作・問題作を選び、その作品について原文の検討、その訓みの確定、語句の研究、ことばの原義・語法、歴史的・社会的・地理的背景を詳細に調べる。授業は全面的講義方式による。毎時出欠をとる。

履修上の留意点

講義はその都度、新しく調査研究してまとめてゆくものだから、必ず出席して、ひたすらノートをとること。講義でわからないことはそのままにせず、チェックし、メモして、自分で調べてみる。質問も歓迎。

成績評価の方法

学年末の筆記試験（持込一切なし）によって評価する。

教科書

小野寛著『新選万葉集抄』（笠間書院刊）1,600円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|------------------|---|-----|
| 中古文学研究Ⅰ | たかほしぶんじ 高橋 文二 | 禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大・短英 | 4 |

講義のねらい

平安朝の女流文学作品の中に表れた人間観、宗教観、自然観の意味するところを問い尋ね、その文学世界の特質を考える。

履修上の留意点

講義の該当箇所を予習し、そこに出てきている作品の原文を確認しておくことが望ましい。

成績評価の方法

出席の状況、夏休みの課題レポートの提出、期末テストの成績で評価する。

教科書

未定（4月出版予定のものを使用予定）

参考書等

講義時間内に紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|----------|-----------------------|--|----|
| 中世文学研究 I | むら かが みつ のり 村上 光 徳 | 禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

中世隠者文学について講ずる。隠者とは何か。中世の隠者文学の特色などを考え、西行・長明・兼好・正徹、心敬などの遁世の動機や生き方、物の考え方、さらにそれぞれの作品を読み、自然観、無常観、美意識などを考察する。

講義の内容・授業スケジュール

講義が中心、そのときどきに応じて講読する作品を配布し、西行から一人一人について考えて行く。

成績評価の方法

①筆記試験、②出席状況。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|----------|---------------------|--|----|
| 近世文学研究 I | ふ じ あき お 富 士 昭 雄 | 禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

芭蕉の俳諧紀行の講読を通して、芭蕉の俳諧文学の特質を考察する。

講義の内容・授業スケジュール

『野ざらし紀行』『笈の小文』などを精読して、『おくのほそ道』へ至るまでの俳諧紀行文の成立と展開の諸相について理解を深める。

成績評価の方法

学年末の定期試験で評価するが、出席状況も考慮に入れる。

教科書

プリントを使用する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|-------------|--|-----|
| 近代文学研究Ⅰ | はた 実 みのる | 禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

明治の末に文壇の中心的存在であった自然主義文学をとりあげる。その当時に出た小説、評論類を考察して日本の自然主義文学の特色をあきらかにすると共に、文壇の主流を占めた理由、およびその限界等を考えていくことを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

前後期とも講義を中心とするが、必要に応じてプリントを配布し小説や評論の一部を読むことにより理解を深めたいと考えている。

成績評価の方法

学年末に試験を行い出席状況等を考慮しながら総合的に評価する。

教科書

使用しない。

参考書等

授業時に随時指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------|------------------|---------------------------------------|-----|
| 比較文学 | みつたに 満谷マーガレット | 禅・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

文化交流のもっとも重要な手段である翻訳の問題について考えてみたい。明治時代の日本は西欧文化のすべてを「翻訳」しようとしていたといっても過言ではないが、授業では、比較的扱いやすい詩の問題が中心になる。前期では、讚美歌、イギリスの浪漫派、フランスの象徴派の詩人たちやシェークスピアなどが近代日本にどのようにして翻訳されてきたか、作品を精読しながらみていきたい。後期では、逆に日本語の詩（短歌、俳句を含めて）の翻訳問題を焦点にして、十九世紀からの英訳短歌、E. パウンドの英訳謡曲や戦後のハイク・ブームなどをみていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義科目ではあるが、授業中、なるべくたくさんテキストを精密に読んでいきたい。教科書はないが、必要に応じてプリントを配る。

成績評価の方法

前期、後期と試験を行う。

教科書

プリント

参考書等

秋山勇造『翻訳の地平』（翰林書房）1995
日本近代思想体系15『翻訳の思想』（岩波書店）1991
西田直敏『「新体詩抄」研究と資料』（翰林書房）1994など

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|---------------------|--|-----|
| 児 童 文 学 | やまぐち せつこ 山 口 節 子 | 禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英 | 4 |

講義のねらい

子どもの発見に始まる日本児童文学の流れの中で、リアリズム作品、ファンタジー作品がそれぞれどう描かれてきたかを、具体的作品を通して理解する。特に宮沢賢治の日本的ファンタジー作品については、作品の底を流れる賢治童話のフィロソフィーを共に考え合う。また、ファンタジー作品が今日の状況をのりを超える力をもつことを、M. エンデの『モモ』やルグインの『ゲド戦記』などの海外児童文学も含めて読み解く。

講義の内容・授業スケジュール

日本児童文学の成立と展開を年代を追ってリアリズム、ファンタジー作品ごとにとりあげる。今日の現代児童文学の状況と新しい潮流について、作家・作品を具体的にとりあげながら児童文学の流れとこれからの展望を考察する。賢治作品については、人間とは何か、真実とは何か、生きるとは何かといった人間の本質を、作品を通して共に考え合い、生きる力を得る授業としたい。海外児童文学では、テーマ、モチーフ、全体の構成を理解し、ファンタジーのもつ力とは何かに迫る。

履修上の留意点

授業でとりあげる作品は事前に予告するので、必ず読んで授業に臨んでいただきたい。

成績評価の方法

成績評価は、前・後期2回のレポートによる。出席状況や授業態度も考慮に入れる。

教 科 書

授業の際に、事前に紹介する。

参 考 書 等

授業の進行に併せて関連図書を紹介する。

そ の 他

講義を中心に、ビデオなども用いる。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|------------------|--|-----|
| 西 洋 思 想 史 | あそ う けん 麻 生 建 | 禅・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理・経済 商・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

ヨーロッパ人の基本的なものの考え方、さらに思想史という形で何が形成され、求められてきたかを、できるだけ日本との比較の視点から明らかにする。

講義の内容・授業スケジュール

特に言語の問題に焦点を当て、教科書に基づきながら説き明かし、その背景をも考察する。

履修上の留意点

教科書は毎回持参すること。問題を自分なりに整理し直すため、ノートをとることを勧める。講義は連続しているので、可能なかぎり続けて出席するよう努力すること。

成績評価の方法

学年末の試験による。教科書に記述されていることのみが講義の内容ではないから、その都度の講義に留意すること。

教 科 書

麻生建著『ドイツ言語哲学の諸相』（東京大学出版会）3,502円

参 考 書 等

特になし。必要な場合は授業中に指示する。

そ の 他

講義。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|---------|---------------------------------------|-----|
| 演 劇 概 論 | 井 上 理 恵 | 禪・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英 | 4 |

講義のねらい

演劇とは何か、演劇学とは何か、について西洋及び日本のこれまでの演劇論を検討しながら考えていく。特に戯曲と演出、俳優、演技の関係、文学と演劇の間に横たわる深く広い大河をいかように収斂すればいいのかについて考察する。

講義の内容・授業スケジュール

演劇史、ドラマトウルクイー論、演劇理論史など、ギリシャからフランス、イギリス、ドイツ、そして日本の状況等について比較検討しながら触れることになる。ビデオで舞台に展開される演劇を視聴しながら西洋と日本の演劇の違いもりである。

履修上の留意点

個別な日本の戯曲を検討する時間はないので個別研究を学びたい者は国文学特講Xを同時に受講されることが望ましい。

また、実際の舞台を見にいて批評を書いてもらうつもりでいるから本講座を受講する者は劇場に足を運ぶことを条件としたい。(観劇料3,500~4,500円)

成績評価の方法

レポート(二回、観劇批評含む)とテストによる。

教 科 書

木下順二『劇的とは』(岩波新書)650円、平田オリザ『演劇入門』(講談社現代新書)640円(必携)

参 考 書 等

毛利三彌『東西演劇の比較』(放送大学教育振興会)

そ の 他

講義形式ではあるが、ビデオ視聴や観劇後に討論をする。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|---------|---------------------------------------|-----|
| 編 集 実 務 | 長 谷 川 孝 | 禪・仏教・英米文・地理 社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英 | 4 |

講義のねらい

編集とは、「だれかに—何かを—伝える」という過程に携わる仕事です。つまり「何か」に気づき、その中の意味をとりたて、表現の形を与えて、受け手に引き渡していく、一連の過程が編集という仕事です。そこでは、ものごとの何に目をつけ、何を讀みとるのかという「視点(目のつけどころ)」が問われます。この授業では、書籍・新聞・雑誌など印刷媒体の編集を中心に、企画・取材・原稿の整理やレイアウト、原稿づくりなどの、「どう」伝えるのかに必要な知識・技能とともに、「何を・なぜ」伝えるのかを主要なテーマとして、「自分の視点」を育てることを目指したいと考えています。

「だれかに—何かを—伝える」という過程は本来、日常生活や仕事の中でだれもが行っていることでもありますから、編集について考えることは実は、一人ひとりが何をどのように読みとり、どのように伝えて生きているかを考えることだ、とも言えます。現在の情報社会は、多様な情報を主体的に選択し活用できる「よき受信人」であるだけでなく、一人ひとりが情報の発信人になるよう求められていると言われます。こうした観点からも、編集を考えてみることであれば、と思います。個人紙(誌)づくりの課題は、こうしたねらいもあります。

成績評価の方法

B4判2つ折り4ページの個人紙(誌)を課題作品として提出してもらいます。

教 科 書

教科書は使いません。(随時、プリントを使用)

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----------|-------------------|---|----|
| イギリス文学特講Ⅰ | いしはら こうさい 石原孝哉 | 禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

シェイクスピアを中心にルネッサンス期のイギリス文学を、広くヨーロッパ文学の流れの中で講じる。

講義の内容・授業スケジュール

主としてとりあげる内容は：①神話と文学 ②文学の源流 ③詩・民話・劇 ④ルネッサンスと新学問 ⑤トマス・モアと新しい流れ ⑥エドモンド・スペンサーと『妖精の女王』 ⑦クリストファー・マーロウとヒューマニズム ⑧ウィリアム・シェイクスピアの世界Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ ⑨獄中作家ジョン・バニヤン ⑩ミルトンの世界 ⑪文学とイギリスの文化

履修上の留意点

完全な講義形式で行なうので予習は必要ないが、トマス・モア、エドモンド・スペンサー、クリストファー・マーロウ、ウィリアム・シェイクスピア、ジョン・バニヤン、ジョン・ミルトンなどの主要作品を、読んでいることが前提となる。このため3・4年生の受講を希望する。

成績評価の方法

成績はレポート、期末試験で評価する。

教科書

『シェイクスピア喜劇とロマンスの発展』（三修社）2,000円

参考書等

『同一性の寓話』（法政大学出版局）、その他教場にて指示。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----------|-----------------|---|----|
| イギリス文学特講Ⅱ | たかの まさお 高野正夫 | 禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

18世紀後半までの英詩の世界では、秩序のある洗練された詩が好まれ、自然に対してはそれほど強い関心が持たれなかった。「理性の時代」と呼ばれた18世紀であったからこそ、詩人は秩序を尊び、粗野で洗練されていないものを拒絶したのであろう。その結果として、ある意味では快適で居心地のよい都会が、人の近づき難い荒々しい自然よりも好まれたのである。

もちろん、Dryden や Pope など代表される古典主義的な詩の特徴である洗練された秩序に逆らった詩人もいた。James Thomson のように、人間を研究することなく、自然そのものの素朴な美しさを描いた詩人もいれば、また、Edward Young や Robert Blair そして Thomas Gray などのように、主に「死」を主題として陰うつな詩を書いた墓地派の詩人たちもいた。しかしながら、彼らのほとんどは18世紀の詩の特徴である、不自然で形式的な言葉遣いや技巧から抜け出すことはできなかった。

そして、1798年に William Wordsworth と Samuel Taylor Coleridge によって出版された Lyrical Ballads という、1冊の詩集によってこのような古典主義的で因襲的な詩の流れが大きく変わってしまっただけである。いわゆるロマン主義の時代の到来を告げるこの詩集に表現された素朴な言葉や主題は、保守的な批評家たちにとってはまったく受け入れ難い、あまりにも革新的なものであったが、この小さな流れは、その後19世紀の前半まで英詩の主流となっていった。

イギリスの北西部に位置する湖水地方を愛し、そこに住んだこの2人の詩人の中でも、特に自然を愛したのがワーズワスであった。ワーズワスの詩に描かれた美しい、しかし時には厳しい姿を露にする自然をうたった詩や、彼が得意とした、普通の人々の様々な人生の絵模様をうたった物語詩などを中心に読みながら、ワーズワスの詩の世界を見ていくことにする。

履修上の留意点

授業ではよくノートをとること。

教科書

教場にて指示します。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-----------------------------|---|-----|
| イギリス文学特講Ⅲ | おか ざき とし いち ろう 岡 崎 寿 一 郎 | 禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

おそらく、過去のいかなる瞬間もまた現在であったことの認識をもつことなく「現代」modernity という言葉の感覚を理解することは、むつかしいとおもいます。この認識の方法によって、19・20世紀の英詩について、その現代的な意味を確認します。

講義の内容・授業スケジュール

講義の進行については、前期では、ワーズワス、コールリッジ、バイロン、シェリー、そしてキーツのロマン派詩人たちの詩について、フランス革命・イギリスの産業革命という時代的背景を捨象することなく論究してみたい。後期では、ヴィクトリア朝の時代と詩人たちについて、テニスン、ブラウニング、スウィンバーン、そしてマシュー・アーノルドの詩を検証した後、イギリスの近代文学を拓いたオスカー・ワイルドの詩と批評を出発として、近代詩人イエーツ、エズラ・パウンド、T. S. エリオットの現代詩（モダニズム）、さらに D. H. ロレンスの詩の論究を経て、現代イギリスの詩人たちの詩にと到達したいとおもいます。

成績評価の方法

成績評価については、平常評価としての出席(50%)、前期試験に代わる夏季レポート(25%)、後期試験(25%)による総合評価とします。

教 科 書

講義では、とくに教科書は指定せず、毎回、対象とした詩人と詩について必要なプリントを配布します。

参 考 書 等

参考書・文献については講義中に適宜言及します。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|---------------------------|---|-----|
| イギリス文学特講Ⅳ | ふ じ がわ よし ゆき 富 士 川 義 之 | 禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

18世紀と19世紀における文学と絵画の関連（いわゆる「^{シスター・アーツ}姉妹芸術」）について、とくに風景画と風景庭園の流行、ピクチャレスク美学の成立、ワーズワスからラスキンやペイター等にいる文学者たちにおける風景志向等に注目しながら講義する。

講義の内容・授業スケジュール

主として取り上げるのは、理想風景、ピクチャレスク美学、風景の発見、ゲインズボロ、ターナー、コンスタブルなどの風景画家、ワーズワス『序曲』、ラスキンのターナー解釈、ペイターにおける風景と記憶の問題、ワイルドの庭など。

履修上の留意点

講義を中心とし、機器を使って風景画などを見る予定。

成績評価の方法

出席は毎回とる。成績はレポートと試験により評価する。

教 科 書

必要に応じて、プリントを配布する。

参 考 書 等

教室でその都度指示する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|------------|------------------------|---|-----|
| イギリス文学特講 V | たか まつ ゆう いち 高 松 雄 一 | 禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

本講義ではイギリスにおけるモダニズム文学の種々相を考察する。モダニズムとは20世紀の初め、1910年前後に、英米およびアイルランドに出現した若い文学者たち、たとえば小説のジェイムズ・ジョイス、ヴァージア・ウルフ、批評のT. E. ヒューム、詩のエズラ・パウンド、詩と批評のT. S. エリオット、それに年長の詩人イェイツなどが、それぞれの分野で新しい実験的な表現法による作品を生みだし、従来の伝統的な手法を革新した1つの文学運動というべきものである。

彼らはこの運動の存在理由を自らの批評活動によって論理づけ主張することを怠らず、1920年代から40年代の初めまでイギリス文学の主流を占めるに至ったが、今日のいわゆるポストモダニズムの時代にも、有形無形の影響を残していると言っている。

講義の内容・
授業スケジュール

この運動は、しかしながら、唐突に生じたのではない。当時の社会的な変動や、19世紀から20世紀にいたる一連の文学的な展開と密接に結びついている。本講義では19世紀初めのロマン主義文学運動、および世紀末の唯美主義批評との関連にも触れながら、モダニズムの特質を明らかにしてゆきたい。ただし主義主張を羅列するのではなく、上記の詩人や作家の作品から適宜抜粋して具体的に読み、分析しながら考察を進める。

教 科 書

講義内容に応じてプリントアウトした作品や批評を読む。

参 考 書 等

高松雄一編『イギリス文学』（放送大学教育振興会）。イギリス文学の流れをつかむのに役立つであろう。

高松雄一編『想像力の変容』（研究社出版）。主としてモダニズム関係の論考を集めたもの。内容は専門的。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|--------------------|---|-----|
| イギリス文学特講Ⅵ | まるこ てつお 丸 小 哲 雄 | 禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

批評行為は人間の本能です。文学テキストの読みについての論議が必要なのは、やみくもに文学テキストを読んでもそれほど大きな効用がなく、テキストの読み・解釈・批評の交通整理が必要であるからです。テキスト間の相違に折り合いをつける枠組は、いわば作者の「方法」を読みとるためであり、読み手自身のテキストを作ることもあります。その「方法」は一般化、普遍化できるものですが、人間の不合理や不条理を取り扱う文学論はテキストの神秘的な解釈から脱神秘的な解釈へいたる回路を、いかに創り出してゆくかが問題となります。

ですから、初発の読書体験を大切に、主体としての〈持続する〉テキストをどう形成してゆくかを説明し、そこから文学批評方法を修得し確立して、テキストの印象や感想に価値を見出せるようにしてゆきます。とりわけ批評行為は、テキストの読み・解釈・批評の過程にあって、テキストの構造の織り目をゆるめて、テキストの持つ価値や姿勢に対して対立し、そのイデオロギーと対決する最後の機会であり、テキストに対してどのようにして責任をとるかを発見することです。文学批評は個人の嗜好ではなく、集団的な判断の問題になってきますので、本講義は文学批評のさまざまな方法に親しみつつ、テキストの印象や感想に価値を見出せるように講義してゆきます。そのために文学テキスト内部からテキスト外部へどう出てゆくのかの手順を批評的ディスカールとして説明してゆきます。

講義の内容・授業スケジュール

テキストの読み方と研究の仕方を覚えるためにさまざまな文学テキストを利用して、レポートを作成してゆきます。従って、テキスト理論とテキスト実践を平行的に作業することになります。

1. 文学テキストの虚構の世界とその必要性について
2. 文学的言語とは何か：日常言語と虚構言語の差異について
3. 文学テキストの機能と力について
4. 英文学研究の成立過程：文学研究制度の問題について
5. 伝統的方法とテキスト演習
6. ロシア・フォルマリズム
7. ニュー・クリティシズムとテキスト演習
8. 受容理論（読者論の立場）
9. 「精神分析批評と原型批評」とテキスト演習
10. 構造主義
11. 記号論
12. 「構造主義と記号論」とテキスト演習
13. ポスト構造主義
14. ニュー・ヒストリシズム
15. 批評精神の遍在性と批評的態度について

成績評価の方法

試験等による成績評価については、平常点50%、前期・後期のターム・ペーパー（レポート作成）50%。クラスでの発表者には別途評価。

教 科 書

『〈持続する〉テキストへの意匠』（英宝社）

参 考 書 等

開講時に読書リストのプリントを配布します。また、読書のための参考書は適宜必要に応じて指示します。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----------|---|---|----|
| アメリカ文学特講Ⅰ | <small>にい</small> 新 <small>くら</small> 倉 <small>とし</small> 俊 <small>かず</small> 一 | 禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

アメリカにおける近代詩の成立の歴史的状況をふまえて、いかにイギリスとは異なるユニークなアメリカ詩が発展したかを、具体的な作品に即して説明していく。それと併せて、新体詩以来の日本の詩にアメリカ詩が及ぼした影響を取り上げたい。

講義の内容・授業スケジュール

前期は主として19世紀までのアメリカの詩人たちを紹介し、ポー、ホイットマン、エマソン、ディキンソンからロビンスン、フロストまでの作品を対象とする。後期は第一次大戦前後からアメリカ詩に大胆な革新をもたらしたパウンド、エリオット、ウィリアムズ、ステイヴンズ、ムア、カミングズ、ハート・クレインから、第二次大戦後に詩と人間の関係を問い直したロバート・ローエル、ベリマン、スナイダー、ギンズバーグ、プライなどの現代詩人の作品を取り上げる。なお、適宜に、エマソンと北村透谷、ポーと萩原朔太郎、ホイットマンと有島武郎、エリオットと西脇順三郎、それに「荒地」の詩人たちやギンズバーグらのいわゆる「ビート詩人」たちの影響などをふれていきたい。

履修上の留意点

講義を中心とし、適宜、ビデオで詩人の紹介を行う予定。

成績評価の方法

前期はレポート提出。後期は詩の解釈および訳についてテストを行う。

教科書

新倉『アメリカ詩の世界』（大修館書店）1,900円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----------|--|---|----|
| アメリカ文学特講Ⅲ | <small>あし</small> 足 <small>だ</small> 田 <small>かず</small> 和 <small>ひと</small> 人 | 禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

ロスト・ジェネレーションと呼ばれる作家の短編小説を読み、その特徴を探る。また、歴史的、文学史的背景を考慮に入れながら、彼らの技法を学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

それぞれの作家の作品に目を通しながら、講義を行う。

履修上の留意点

あらかじめ指定された英文テキストを読んでいることを前提に講義を進める。授業中に発言を求めることもあるので、積極的な参加を希望する。

成績評価の方法

毎時間、小レポートを提出してもらい出席とする。加えて、前期・後期あわせて2回のレポートを課し、年間の評価とする。

教科書

『現代アメリカ短編小説選(3)』（南雲堂）

参考書等

必要に応じて紹介する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|------------------------|----------------------|---|-----|
| 演 劇 特 講 (イギリス・アメリカ) | あら い よし お 荒 井 良 雄 | 禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

イギリス演劇史とアメリカ演劇史を、欧米演劇の原点であるギリシア・ローマ演劇の伝統をはじめ、最近のロンドンやブロードウェイにおける上演や、映画化作品、さらには日本における受容をも視界に入れて講義する。とくに近代劇と現代劇を中心に、ミュージカルも取り上げて、世界中で上演されている英米演劇の特色と魅力を明らかにしたい。

講義の内容・
授業スケジュール

前期はアメリカ演劇を、ユージン・オニールの作品を中心に講義する。後期はバーナード・ショーとノエル・カワードの演劇が中心である。

1. Tragedy and Comedy
2. Eugene O'Neill
3. Lillian Hellman
4. Arthur Miller
5. Tennessee Williams
6. Edward Albee and Sam Shepard
7. Mediaeval Religious Drama
8. Elizabethan Drama
9. William Shakespeare
10. Comedy of Manners
11. Oscar Wilde
12. Maugham, Coward and Rattigan
13. Peter Shaffer
14. Musicals
15. Theatre and Film

履修上の留意点

戯曲を読んだり、舞台を見たり、映画化作品を映画館やビデオで見たりして、英米演劇を積極的に鑑賞したり研究したりするのが好きな学生の受講を期待する。

成績評価の方法

レポートと学年末試験の成績で評価する。

教 科 書

特定の教科書は使用しない。戯曲や参考書は講義の主題毎に紹介する。

参 考 書 等

荒井良雄著『英米文学映画化作品論』（新樹社）2,500円
 太平和登・荒井良雄共著『ブロードウェイ！ブロードウェイ！』（朝日新聞社）1,200円

そ の 他

舞台や映画のビデオや演劇の朗読テープを随時使用する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|---------------------------------------|--|----|
| 時事英語 | Sanders, Leonard P. (サンダース, L. P.) | 禅・仏教・国文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大・短放 | 4 |

講義のねらい

このクラスでは、様々なマスメディア（ドキュメンタリーフィルム、TV ニュース、雑誌、タブロイドなど）で使われている英語を通じて、表現や文化を学んでいく。
Intertextual Analysis のメソッドで行う。

講義の内容・
授業スケジュール

テキストを読み内容を把握し、ビデオを見てエクササイズを行う。後半はディスカッションを行う。

成績評価の方法

年に2回テストを行う。

教科書

長谷川潔、L. P. サンダース著 *ASIAN CROSSROADS* (成美堂)

その他

ビデオを使用する。授業は英語で行う。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|-----------------------|---------------------------------------|-----|
| 地 形 学 | こ 池 一 之 こ いけ かず ゆき | 禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉 心理・経済・商・短大 | 4 |

講義のねらい

地形学は、地表の形態とその形成過程を研究する学問で、山がちで変化に富む日本列島には種々の地形が分布している。このため、日本列島は地形研究の上では、世界的にみても好都合な場所である。世界の最先端の研究が多く輩出している。まず、地形学の基礎的な概念から説明し、時に最先端の研究成果や地形変化事変（各種の災害など）にも言及する。

講義の内容・
授業スケジュール

年間の授業スケジュールの概要は次の通りである。
1. 地形学の成り立ち、2. 地表を変化させる種々の営力と地形の分類、3. 地表水の働きと地表の変化（マスウェスティング、種々の河成地形、組織地形）、4. 海水の働きと地形、5. 地球内部の力によって形成される地形（火山地形など）、6. 地形発達

履修上の留意点

地理学の中ではかなり理学的（地球科学の1分野でもある）な色彩の強い学問分野である。高校時代に地学を履修していることが望ましい。

成績評価の方法

基本的には、学年末試験の成績で評価する。出席など平常点はあまり加味しない。

教 科 書

貝塚爽平著『発達史地形学』（東京大学出版会）3,400円＋税

参 考 書 等

貝塚爽平・小池一之ほか編『写真と図でみる地形学』（東京大学出版会）4,532円
小池一之ほか訳『一般地質学Ⅱ』（東京大学出版会）3,708円

そ の 他

授業は講義形式で、最新の情報を知らせるプリント類を多く配布するとともに、スライド、ビデオなどを使用する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------|--------------------|--|-----|
| 人 口 地 理 学 | おお とも あつし 大 友 篤 | 禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短放 | 4 |

講義のねらい

地理学は、地域の特性や機能、地域的關係、地域間の相互作用、地域構造、あるいはこれらの変化を明らかにする学問である。しかし、地域は、地球表面上の一定の広がり（空間）と定義することができるが、きわめて抽象的な実在であるために、上記の諸要素を明かにするためには、地球上に存在している何らかの事象を媒介にすることが必要になる。すなわち、人口地理学は、人口現象を媒介にして、上記の諸要素を明かにしようとする学問である。したがって、人口地理学の研究にあたっては、まず、人口現象を正しく理解することが必要であり、そのためには、人口学の知識が必要となる。1年間という制約のなかでは、人口学とその知識に基づく人口地理学の2分野の講義はできないので、ここでは、人口学の基礎知識を説明しながら、これまでに人口地理学研究のなかで明らかにされた法則や理論などを平行して説明する。

講義の内容・
授業スケジュール

人口構造（基本的構造、社会的構造、文化的構造、経済的構造）、人口動態（出生、死亡）、人口移動（国内移動、国際移動）、人口の地域分布、人口変動と将来予測、人口と資源、人口と環境などの項目について、体系的に説明する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|--------|--|----|
| 文化地理学 | 小田 匡 保 | 禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短放 | 4 |

講義のねらい

広義の文化地理学は人文地理学とほとんど同じであるが、本講義では狭義の文化地理学に的を絞り、特に宗教地理学の研究例について述べる。

講義の内容・授業スケジュール

1. 文化地理学とその概要 2. 宗教地理学 3. 宗教分布 4. 宗教集落・宗教都市
5. 山岳宗教 6. 巡礼 7. 墓地

成績評価の方法

成績評価は、レポートと試験によって行なう。レポートが提出されない場合は、単位認定は保証できない。

教科書

使用しない。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|--------|--|----|
| 応用地理学 | 高木 正 博 | 禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短放 | 4 |

講義のねらい

この科目は、地理学と他の研究分野を視野に入れた学際的なテーマが求められるであろう。講義では「河川」を対象とし、これの専門分野である河川工学や農業水理学などの成果をふまえて、地理学として河川をどのように扱うかを考える。河川は、河道だけでなく流域全体として捉えることを基本とし、流域（地域）の自然とその土地の人々とのかかわりあいを利用・災害・自然環境などの視点から考える。また、ヨーロッパの河川特性・管理などについても紹介する。

講義の内容・授業スケジュール

まず、河川の流出に関する基本特性について水文学的に講ずる。つぎに、いくつかの具体的な河川を事例として、利用・災害・河川環境などの視点からそれぞれの河川特性を考える。また、都市の水環境など、川をめぐる現実的な課題について、その本質を探る。

履修上の留意点

講義が中心になるが、受講者にも意識を持ってもらうため、夏休み中に現地調査を伴う課題を提示する。

成績評価の方法

学年末試験と夏休みのレポートの他、授業中の課題など平常点も加味する。

教科書

授業時間に配布するプリントを使用。

参考書等

高橋 裕『河川工学』（東京大学出版会）その他随時紹介する。

その他

講義中心。事例紹介のためのスライドや OHP、ビデオも使用する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|-------------------|--|-----|
| 現代地理学特論 | はせがわ ひとし 長谷川 均 | 禅・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短放 | 4 |

講義のねらい

新聞やテレビで“沖縄”の二文字を目にすることが多い。沖縄県では、本土復帰以降、巨額な資金がつかぎ込まれ、島々の自然がいたるところで痛めつけられている。また最近、本島北部に米軍基地の移転と空港建設を目指した新知事が誕生し、それに伴う自然へのダメージを懸念する声も強い。この講義では、これらの現状とその背景にある沖縄の自然を解説し、地理学の分野で試みられている環境保全の取り組みや新しい調査方法を紹介したい。

講義の内容・授業スケジュール

前期のテーマは「沖縄の自然」「沖縄における土地改変と自然環境の悪化」である。これらは、私が最近興味をもって取り組んでいるテーマでもある。サンゴ礁の自然をとおして、これらの現状を解説したい。地元紙の記事やインターネットで流れている情報なども紹介する予定である。後期は、前期の内容を受け「リモートセンシングデータ」や「地理情報システム」を使って、地球や環境の変化を抽出する方法、地理学への応用例を沖縄での事例を中心に解説する。詳しいスケジュールについては、講義開始時に年間計画表（シラバス）を配布し説明する。

履修上の留意点

講義中の私語、いねむり、教室からの退中は認めない。

成績評価の方法

2回の定期試験結果により評価する。出席し講義をまじめに受けていれば単位取得は容易なはずである。

教科書

使用しない。毎回プリントを配布する。

参考書等

シラバスの付録として参考書のリストを示す予定である。

その他

VTR、スライド、PCによるプレゼンもおこなうが、基本的には講義形式の授業である。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|----------------|---------------------|--|-----|
| 日本史特講Ⅶ 〔近代〕 | こいずみ まさひろ 小泉 雅 弘 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

近代日本の出発点となった明治維新期の諸問題について講義し、最近の研究動向にも触れながら近代国家の成立について考える。

講義の内容・授業スケジュール

最初に明治維新史の時代区分に関する諸説を検証し、次いで幕藩体制の崩壊から明治国家成立の過程を検討する。その際、必要に応じて史料講読を行いながら授業を進める。具体的には、幕末の政治運動、戊辰戦争、維新政権、民権分離問題、廃藩置県、岩倉使節団と留守政府、明治六年の政変、文明開化、藩閥権力の生成、土族反乱と農民一揆、自由民権運動などを、集団・情報・国民国家といった観点も取り入れながら述べていく。

履修上の留意点

既成の歴史認識にとらわれるのではなく、史料批判や史料解釈などを基礎とした自ら歴史を考える姿勢を身につけてほしい。

成績評価の方法

定期試験により評価し、出席状況を加味する。

教科書

特にないが、必要な資料はコピーして配布する。

参考書等

講義内容に則して、適宜参考文献を紹介したい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------------------|--|--|-----|
| 東洋史特講 X 〔近・現代〕 | 趙 <small>ちやう</small> 軍 <small>ぐん</small> | 禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

太平洋の東に浮かぶ島国日本の経済生活は、他国との貿易に大きく依存している。特に中国を初めとするアジア各国とは、歴史的にも文化的にも極めて深い関係におかれてきた。本講義は外交・貿易・文化往来などの方面を通して、二千年以上にわたる日本と中国の間の友好と不友好の歴史を概要的に解説し、日本とアジア各国との関係を正しく理解できる知識や教養を深める。

講義の内容・
授業スケジュール

近代以前の日中関係史を概要的に紹介し、「西力東漸」以後、とりわけ第1次世界大戦以後の日中関係を具体的に解説する。

主な項目は次の通りである。

1. 近代以前の日中交通史
2. 「日清提携論」と「征軍論」の創生
3. 「アジア連帯」と国権主義の台頭
4. 宮崎滔天と中国
5. 頭山滿と中国
6. 辛亥革命・孫文と日本
7. 内田良平と中国
8. 中国の国民革命と日本の対応
9. 「満洲事変」から日中戦争へ
10. 日本の敗戦と台湾との「国交」
11. 政経分離と政経不可分
12. 国交正常化と日中平和友好条約
13. フィーバーと摩擦と
14. 「成熟の時代」
15. 改革開放と「新アジア主義」
16. 日本の対中国政策決定－組織と過程－
17. 真のアジア共生をめざして

履修上の留意点

特になし。

成績評価の方法

学期末にレポートの提出やペーパー試験を行う。試験成績と出席率による総合評価を行いたい。

教 科 書

- ① 趙軍『大アジア主義と中国』（亜紀書房）1996年
- ② 田中明彦『日中関係 1945－1990』（東京大学出版会）1991年

参 考 書 等

開講時に指示する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|----------------------|--|-----|
| 西 洋 文 化 史 I | さ さ き まこと 佐 々 木 真 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

近世末から近代にかけて、ヨーロッパ諸国において戦争や軍隊が有していた意味について講義をする。軍隊のあり方やその機能、国家による戦争の遂行は、近代国家や近代社会の形成に非常に大きな影響を与えており、最近ではそのような視点に立った研究が見られるようになった。本講義では、そのような研究動向をふまえ、フランスを主な題材として、近世から近代への移行において、戦争や軍隊がどのような役割を果たしたのかを考える。

講義の内容・授業スケジュール

講義のサブテーマとしては、以下のものを考えている。

1. 絶対王政期の軍隊と戦争（戦術の変化、軍隊の実態、軍制改革、王権と戦争）
2. フランス革命と戦争（革命下の軍制改革、兵士と市民的自由）
3. 近代社会と戦争・軍隊（国民化・近代システムと軍隊、国家と軍隊、総力戦体制）

履修上の留意点

授業中に紹介する文献をなるべく多く読み、広い知識を身につけてほしい。

成績評価の方法

成績は学年末に行う筆記試験の成績に、不定期に調査する出席点を加算して判定する。

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

参考文献は、授業中に随時紹介するが、主要なものとしては以下のようなものがある。
アルフレート・ファークツ『ミリタリズムの歴史』（福村出版）
山内進『掠奪の法観念史』（東京大学出版会）

そ の 他

授業は講義形式で行う。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|---------|---------------------------------------|-----|
| 日 本 民 俗 学 | 谷 口 貢 | 禅・仏教・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

日本民俗学は世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の考察を通して、日本社会に展開する生活文化を究明する学問である。民俗はよく「民族」と混同されるので注意を要する。本講義は、民俗学をはじめて学ぶ人のための入門編として、基礎的知識をしっかりと把握できるようにしたい。また近年、国際的視野をもった人材の育成が叫ばれているが、真の国際理解の前提には、自国の伝統文化に対する一定の素養をもつことが益々大切になってきている。講義では、こうした点にも配慮していく予定である。

講義の内容・
授業スケジュール

本年度は「日本人の一生」をめぐる民俗文化に焦点をあてながら、生活文化において何が変化し、何が持続しているのかを検証し、われわれの現在の生活のありようを再考していくことにしたい。年間の講義予定は以下に掲げるとおりで、各々2回程に分けて行う。

- 第1講 家族と社会
- 第2講 産育儀礼－出産と子育て－
- 第3講 子どもと遊び
- 第4講 若者の民俗文化
- 第5講 成人儀礼
- 第6講 婚姻儀礼
- 第7講 女性の民俗文化
- 第8講 交際と贈答
- 第9講 老人の民俗文化
- 第10講 日本人の靈魂観
- 第11講 葬送儀礼
- 第12講 墓と先祖祭祀

成績評価の方法

夏休みの課題としてレポートの提出を求める。したがって受講者の成績評価は、夏期レポートと学年末の筆記試験の合計をもって行うものとする。

教 科 書

本講義では教科書は使用しない。

参 考 書 等

谷口貢・他編『現代民俗学入門』（吉川弘文館）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|------------------|------------------------------------|----|
| 哲学史 | やまぐちまさひろ 山口祐弘 | 国・英米文・地理 社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

カントを源とするドイツ観念論の諸思想は現代に様々な照明を与えてくれる。今日確実な思索を行おうとするならば、繰り返しそこに立ち返ることが求められ、またその意義は尽きない。だが、その発展を一望のもとに収めることはたやすいことではない。その根本にあった問題は何か、それを駆動してものは何か、が問われねばならない。そうした問題論的展開として捉えた時に、ドイツ観念論は一つの歴史となるのである。本講は、この意味でドイツ観念論に歴史を発見しようとする試みである。カントが提起しかつ後世に残した課題を明らかにし、それが如何なる方向に解決を求めていったかをフィヒテ、シェリング、ヘーゲルを軸として考察する。

参考書等

山口祐弘『カントにおける人間観の探求』『ドイツ観念論における反省理論』（勁草書房）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|---------------|--|----|
| 歴史哲学 | あまそうけん 麻生建 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

「歴史とは何か」、「歴史認識はいかにして可能か」という問題は、単なる歴史学の問題ではなく、広く人文科学一般の問題である。講義は、この二つのテーマを中心に行われる。

講義の内容・授業スケジュール

前半はいわゆる「歴史哲学」の変遷をギリシア時代から19世紀に至るまで概括し、そこで展開された諸問題を検討する。後半は主として歴史認識の問題を解釈学を中心に講義する。教科書として下記のものを使う。

履修上の留意点

前半は純粋な講義の形をとるので、きちんとノートを取り、自分なりに問題を整理する努力をすること。後半は教科書に基づいて行なう。

成績評価の方法

学年末の試験による。

教科書

麻生建著『解釈学』（世界書院）2,500円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|------------------|--|-----|
| 社会福祉発達史 | はやし 林 ちよ 代 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・経済・商 法律・政治・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

いつの時代にも、人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想、その関連等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

教 科 書

特になし

参 考 書 等

今岡 他編『社会福祉事業発達史』（ミネルヴァ書房）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-------------------|--|-----|
| 国 民 所 得 論 | よし の 野 紀 | 禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放 | 4 |

講義のねらい

わが国は法人企業だけで277万(平成3年)あり、就業者6,400万人のうちの約68%にあたる4,380万人がここで働いている。この生産活動からさまざまな財(商品)やサービスが産出されてくるが、その種類や数量たるや膨大なものとなる。この大きさを1年という単位期間内で集計し、金額表示にしたものが大雑把に言ってGDP(国内総生産)にあたる。生産された財・サービスは、誰かが貨幣を支払って支出・購入してくれるからこそ、また次の年の生産活動を実現可能にしてくれる。その誰かは、一つは4,400万に昇る家計世帯であり、二つには他の企業であり、その他に政府もあり、日本からの輸出を引き受けてくれる海外の購入者であったりもする。ここには、財・サービスの売渡しの見返りにあたる円や外貨で支払われる貨幣の流れがみられる。これを称して経済循環とよぶが、わが国の1年間の規模は平成7暦年のGDPによって483兆円に達すると評価されている。

一つの国民経済を眺めようとするれば、このように大きな集計量と接することが不可欠となる。このことは、数限りない取引が日々結ばれていることを考えればむしろ当然と言えよう。こうした取引関係は複雑に入り込んでおり、その1つ1つを追跡すると、国民経済全体という大きな森の中に迷い込むことにもなりかねない。そこで、森の上に舞い上がって、これらの取引を上空から眺める工夫が生まれてくる。このような視点に立つ経済の分析手法が、巨視的(マクロ)分析とよばれ、経済全体の活動の成果を集計量でとらえようと編み出された国民経済計算の整備とともに発展してきたのである。そこでは、無数の複雑に絡みあった諸取引を、いくつかの類似した性質を共有するグループ(経済主体)毎に分け、それぞれの取引額を記録し、そして経済主体のさまざまな取引相互間の依存関係を説明しようとするところに狙いがさだめられている。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 「国民経済計算の話」……………5回
GDP、GNPなどの経済指標や消費、投資、輸出入などの国民経済全体をとらえる単位を理解することと、さまざまな諸取引間の相互関係を日本経済の循環図を通してとらえることが主題である。
《参考》経済企画庁「平成6年日本経済の循環図」(配布資料)
2. 「総需要・均衡産出量・均衡所得」……………4回
いわゆる単純なケインズ派の所得決定理論が、モデル分析に則って説明され、次の第3講で活躍するIS曲線の基礎理解を得ることが目標となる。このテーマの終了後、練習問題を解くレポートが課せられる。解答は配布され、解説は授業の中で行なわれる。
《参考》中谷巖『入門マクロ経済学』(日本評論社)第3章
3. 「貨幣・利子および同時均衡」……………8回
この段階で貨幣の果たす役割が明示的に導入され、前講までの主題との接合がはかられて、IS曲線とLM曲線を主な武器とする分析が進められてゆく。モデルを用いた説明が中心となるが、日本経済の現況との関連が説明の中に登場する機会も増えてゆくであろう。また、利子率に触れるとき、預貯金の利率に加えて有価証券の利回りにも馴染んでもらうことになるであろう。その他、国家公務員、地方公務員、国税専門官などの専門科目試験の例題を示す事もある。本テーマの終了時にも、簡単な練習問題がレポートの課題として課せられる。正解と解説は授業中で示す。
《参考》伊達邦春(編)『マクロ経済学』(八千代出版)第9章
4. 「金融政策、財政政策」……………4回
前講までの内容が理解されれば、金融政策と財政政策の発動によって、望ましい所得水準を達成するプロセスは比較的容易に理解できるものと思われる。その上で、国内のおよび国際的クラウディング・アウト効果を取り扱われる。アメリカのベトナム戦争時に生じた国内的クラウディング・アウト効果に関するケース・スタディは興味をよぶのであるまいか。
《参考》ドーンブッシュ・フィッシャー『マクロ経済学(上)』(CAP出版)第4章
5. 「労働市場を組み込んだ総需要・総供給分析」……………5回
ここまで扱われてきたのは、財・サービスの市場と貨幣市場であったが、これに労働市場が明示的に組み合わされる。さらに物価の変動が重要なテーマとして加わる。

成績評価の方法

基本的には期末試験による。2回の練習問題に対するレポートは一定の評価対象となりうる。

教 科 書

R. J. ゴードン『現代マクロエコノミクス(上)』(第6版)(多賀出版)

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|---|--|-----|
| 日本経済史 | わた <small>なべ</small> 渡 辺 あらた 新 | 禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・短国・短放 | 4 |

講義のねらい

日本経済の歴史的分析を通じ、第1に日本経済の通史的理解を深め、第2に経済史的な考え方や
および経済史の基礎的知識を学び、広い意味での歴史認識を養うことを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

主な講義内容は以下の通りであるが、近年の歴史学の研究動向を反映させ、できる限り隣接諸
科学（たとえば国家論、地域社会論、女性論など）との接点を探っていききたい。

- ① 日本経済史の課題
- ② 前近代の経済構造
- ③ 日本における原始的蓄積
- ④ 日本における産業革命
- ⑤ 日本帝国主義の構造
- ⑥ 昭和恐慌と戦時統制経済
- ⑦ 戦後改革と高度経済成長

成績評価の方法

筆記試験ないしはレポートによって評価する。

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

その都度指示する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|---------|--|-----|
| 中 小 企 業 論 | 三 井 逸 友 | 権・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放 | 4 |

講義のねらい

「中小企業」を論じるということは、意外に容易ではない。なぜなら、「社会科学的概念」を抽象的に論じるのではなく、慣れ親しんでおり、それなりの「固定観念」や「イメージ」が「言霊」としてつきまとっているのが、日本語の慣用語の一つとしての「チューショーキギョー」だからである。しかしそんな「日用語」を一年もかけて論じようというのがここでのねらいではない。ねらいはむしろ、「中小企業は経済のきわめて重要な（critical）構成要素である」（クリントン米大統領）と評される事実を、客観的総合的にとらえ、考えていくことにある。

日本の中小企業はその数約600万、企業の99%、従業者数の80%を占め、製造業中心企業に限っても80万を数え、付加価値の50%以上を生み出している。まさしく、『日本は「中小企業国」だから強い』（森清著、ダイヤモンド社刊）のである。しかしこのことは、中小企業の地位が安定し、そこに働く人々が十分その成果の恩恵にあずかっていることを示すものではない。中小企業をめぐる格差・不利・経営不安などの「問題状況」も依然広く見られ、長期不況と信用収縮の中でまた、きわめて深刻ともなっている。しかもこのように「期待」と「困難」とが交錯するという事態は、いずれの国でも共通して確認できる。

中小企業をめぐる現実をとくカギを、その役割と当面する問題、そしてこれに対する経済学的な理解の方法を検討し、中小企業の役割・可能性とこれを妨げる諸問題への政策的対応の意味を通じて明らかにしていくのが、この講義のねらいである。

講義の内容・授業スケジュール

第一部 中小企業論の課題と対象、規定と構成、問題状況

ここでは、「中小企業論」の性格と方法を示し、その対象としての中小企業の存在の実態を、国際比較を含めて概観する。その上で、中小企業が直面している問題状況や、中小企業の新生・成長と転廃業・退出の経済的社会的メカニズムを具体的に検討し、「日本の中小企業問題」の位相と今日性を再確認する。

第二部 「中小企業論」研究の理論と方法

ここでは、中小企業の存立と問題性をめぐる従来の理論・研究を振り返り、新たな方法を提起する。「中小企業存立論」「問題論」や「貢献論」だけでなく、今日の「企業家論」、さらに、いわゆる「ベンチャー企業論」や「企業家精神論」、「ポストフォーディズム論」もここでの批判的検討対象である。それらの限界性をふまえて、現代経済における中小企業の「構造論」的位置づけの方法を指摘する。

第三部 中小企業の現代的存在形態と「経済システム」「経済的関係」

ここでは、うえの研究方法にもとづいて、中小企業の存在の実態を構造的に解明する。「下請制」「地場産業産地」「大都市中小工業」などといった、我が国の従来の中小企業群の形成する分業と協働・集団の諸形態の特徴と最近の動向を追う。あわせて、80年代後半以降の、日本企業の「国際化」のもとの、日本的企業間関係と管理手法の「輸出」「現地化」の示した特徴と限界から、中小企業の存立の普遍的意味をあらためて考える。結合生産力の「効率性」と、競争と統制・管理の原理の貫徹がもたらす「経済的関係」のうちの問題状況・「自立」企業の可能性と経営展開の意義が、基本的視角となる。

第四部 中小企業政策の展開と国際比較

ここでは、「中小企業問題」の展開とこれに対する各国の「中小企業政策」の国際比較研究を行う。ポイントは「生産力的」に成功を収めてきた我が国の「中小企業の近代化政策」の評価であるが、これに対する欧米の政策の相違、そして世界経済の一体化、地域経済圏の形成のもとで、近年の「収斂傾向」を検討し、特にEU欧州連合ならびに欧州諸国の政策の最新の特徴にふれる。また、我が国についても、近年の「構造転換」対応策、創業促進策、ベンチャー企画支援策なども検討する。

履修上の留意点

中小企業の研究は、ナマの企業の実態から始まるものであり、その意味で現実感覚が大切である。講義の中では、「教科書をなぞる」ようなことはなるべく避け、今日的現実的な話題を重視したいので、教科書くらいは事前に読んでおくようにしてほしい。また、夏休みには補足的資料として、『中小企業白書』を読んでもらい、希望者にはレポートを書いてもらっている。

成績評価の方法

基本的には、他の専門科目同様、学年末定期試験を中心とする。「出席」を取るという空しい作業をするつもりはないが、「出席状況」は加味する。

教科書

三井逸友『現代経済と中小企業』（青木書店）2,800円（税抜）
同編『日本の生産システムの評価と展望』（ミネルヴァ書房）（予定）

参考書等

三井『EU欧州連合と中小企業政策』（白桃書房）2,300円

巽・佐藤編『新中小企業論を学ぶ新版』（有斐閣）2,200円
中小企業庁編『中小企業白書』[各年次]
中小企業総合研究機構訳編『ヨーロッパ中小企業白書 1997』（同友館）3,500円
佐藤編『21世紀、中小企業はどうなるか』（慶大出版会）2,300円

そ の 他

「講義」形式を基本とするが、企業のナマの現場を理解してもらうため、ビデオ、スライドの上映、「ベンチャー」起業家、企業経営者や行政関係者の方々の話なども取り入れたい。その中で、企業の経営実態、産業動向等についての、担当者の世界各地や全国での最新の見聞も豊富に活用していく。また、諸方面のWEBサイトの提供する情報は（担当者自身のものを含めて）、必須の材料である。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|-----------------------|----------------------------------|-----|
| 社 会 政 策 | みつ おか はく み 光 岡 博 美 | 禅・仏教・国文 英米文・地理・歴史 経営・短国・短放 | 4 |

講義のねらい

社会政策とは、資本主義社会で発生する社会問題や労働問題を体制内において解決する思想や政府の政策を意味している。この社会政策という学問は19世紀の中葉に、その当時のヨーロッパでは後進国であったドイツで発生したが、やがて近代化をめざす日本に紹介された。この意味で、戦前から社会政策学は日本の経済学のなかでも重要な位置を占めてきたが、それは戦前日本の経済学がドイツ経済学から大きな影響を受けてきたからであった。

戦後の時代になると、社会問題や労働問題の処理は、政府の政策によってだけではなく、国民の権利を前提にして、その解決が意図されるようになってきた。殊に、労働問題は政府の介入を避け、労使の自主的な団体交渉によって事態に対峙していくという方向に向かった。労働基準法、労働組合法、労働関係調整法といった労働法体系は、このような体制を作り出すために制定された法律だったのである。

このような現実世界の変化は、社会・労働問題へのアプローチの方法として、労使関係論の学問的発達を促すこととなった。戦後の日本においても欧米社会で開拓された労使関係論を吸収し、労使関係をその実態に即して理解しようという研究が大きな影響を及ぼしている。

なお、全体の講義を通じて、その時々々の社会政策や労働運動・社会運動によってどのような問題が解決され、どのような問題が未解決のまま残されその解決が迫られているのかを考えてみることにする。

講義の内容・授業スケジュール

そこで、上に述べたような社会政策論や労使関係論の動向を視野に置いたうえで、本年度は、次のような講義内容で授業を行うこととしたい。

- (1) 社会改良の思想と理論
- (2) 労使関係論の思想と理論
- (3) 日本における社会政策・労働問題（戦前）
- (4) 日本における社会政策・労働問題（戦後）
- (5) 戦後日本における労使関係の展開
- (6) 高齢化社会と社会保障
- (7) 日本の労使関係の現実と未来

上にのべた(1)～(7)のテーマについて、各々約3回程度の講義を予定している。しかし、時には、社会政策や労働問題を勉強するための専門書の解説、最近注目されている外国人労働者問題やフェミニズム論、また私が専門的に研究してきた問題なども解説したいと考えている。

履修上の留意点

特にないが、これまでは毎年かなりの数の履修者がいるために教場も比較的大きな教場であった。そのためか、時として後部座席での私語が目立った。教場での私語は慎むこと。また私の講義では黒板をフルに利用するので、受講者はなるべく黒板の近くで聞いてほしい。

成績評価の方法

本年度は前期末に試験を行うか、あるいはレポートの提出を求める。どちらにするかは適当な時期に講義のなかで指示する。年度末試験については2～3週間前の授業で詳しく解説する。成績評価は前期末の試験かレポートと年度末試験の成績による。

教 科 書

特にないが、講義の内容と関連して参考書を適時指示する予定である。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|-----------|---|-----|
| 教育経済論 | や 谷 敷 正 光 | 祥・仏教・国文・英米文 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放 | 4 |

講義のねらい

この講義は経済発展に産業教育が果たした意義とその役割について明らかにするのがねらいである。

日本は近年、「経済大国」として世界的に認められるようになったが、この発展を築いた基礎に日本の高い教育水準と人材養成があるといわれている。そして欧米各国では経済面での国際競争力の低下が教育水準の低下と密接に関連しているとの観点から日本の産業教育政策を解明するとともに、2000年に向けて一斉に教育改革に着手している。アメリカの「危機に立つ国家」「全米教育サミット」「2000年アメリカ」、イギリスの「教育改革法」「二十一世紀に向けての教育・訓練」、フランスの「ジョスパン法」など各国の改革の中心は厳しい経済競争に勝ち残るための教育水準の向上、教育に市場原理の導入、高等教育の質的充実、教育投資の拡大など教育を「国の最優先課題」と位置づけている。

そこで本年度は、こうした欧米先進国の経済再建と教育改革の動向、日本の現状をまず明らかにする。

次に、外国からは高く評価されている日本の高い教育水準、人材養成教育を戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は朝鮮戦争を契機に復興した経済復興期から平成景気までを中心にそれぞれの経済発展段階の特徴とそれに応じた産業界の人材教育要求と国の教育政策、産業教育政策を明らかにしたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 先進国の経済発展と教育
 - (1) 日本の産業化と教育
 - (2) 日本の経済成長と教育
 - (3) 日本の産業高度化と教育
 - (4) 日本の「新高度成長」と教育
 - (5) 日本の人的開発政策
 - (6) レーガン大統領の経済政策と教育 (一部ビデオ)
 - (7) ブッシュ大統領の経済政策と教育 (一部ビデオ)
 - (8) クリントン大統領の経済政策と教育 (一部ビデオ)
 - (9) サッチャー首相の経済政策と教育 (一部ビデオ)
 - (10) メージャー首相の経済政策と教育 (一部ビデオ)
 - (11) ブレア首相の経済政策と教育 (一部ビデオ)
2. 戦前日本の経済発展と実業教育政策
 - (12) 学制時代における実業教育政策 1 富国強兵・殖産興業 (映画)
 - (13) 学制時代における実業教育政策 2 学制公布と実業教育
 - (14) 教育令時代における実業教育政策 1 工場私下
 - (15) 教育令時代における実業教育政策 2 教育令公布と実業教育
 - (16) 学校令時代における実業教育政策 1 産業革命
 - (17) 学校令時代における実業教育政策 2 学校令公布と実業教育
 - (18) 実業学校令時代における実業教育政策 実業学校令、専門学校令公布と実務教育
3. 戦後日本の経済発展と産業教育政策
 - (19) 復興期の経済発展と教育 1 (一部ビデオ)
 - (20) 復興期の経済発展と教育 2 産業教育振興法公布 (一部ビデオ)
 - (21) 高度成長第1期の経済発展と教育 (一部ビデオ)
 - (22) 高度成長第2期の経済発展と教育 (一部ビデオ)
 - (23) 高度成長第3期の経済発展と教育 (一部ビデオ)
 - (24) 高度成長終焉後の産業教育

履修上の留意点

- ① 年間5回程度小テストを実施し、平常点とする。
- ② 現実的理解のため視聴覚教室でビデオ・映画を使用する。
- ③ 毎時間、講義用のプリントを配布する。一度配布したプリントは、後の時間では配布しない。
- ④ 毎時間かなり板書するので、黒板が見えにくい人はできるだけ前に着席のこと。

成績評価の方法

授業中の小テストと期末試験の成績によって評価する。

教科書

毎時間、講義の教材として年間30~40枚のプリントを配布するので、教科書は特に使用しない。

参考書等

沼口 博『学校教育と経済発展』(学文社)
 小林泰宏『アメリカで進む教育改革』(朝日新聞社)
 原田和男『ブッシュの米国経済』(日本経済新聞社)
 宮崎正弘『クリントンの日米経済』(銀河出版)
 森嶋通夫『サッチャー時代のイギリス』(岩波新書)
 天野郁夫『教育と近代化』(玉川大学出版部)
 その他、講義の中で適宜紹介するので、興味のある人は読んで講義の参考にして下さい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------|-----------------------|-------------------------------------|-----|
| 日 本 経 済 論 | く どう まさ ひろ 工 藤 昌 宏 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・法律 政治・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

第二次大戦後の日本経済と、そこに貫かれる資本主義経済システムの論理を探ることをねらいにします。

講義の内容・授業スケジュール

講義内容は大きく前期と後期に分け、前期は主に50年代後半以降今日までの世界経済の動向とその中で日本経済の位置を確認し、それを通じて日本経済の特殊性と問題点を検出します。具体的には、IMF や世界銀行を重要な装置にしたパクス・アメリカナ体制とその動揺、50年代後半から70年代初頭にかけての高度経済成長過程、石油危機と日本経済、日本経済摩擦の展開、バブル経済とその崩壊などを中心に講義します。

後期は前期の内容を踏まえて、敗戦後の日本経済の基本的枠組みとそれを形成した経済再建過程、朝鮮戦争とその影響、高度経済成長に至る過程を分析します。その中ではとくに経済主体としての個別企業に焦点を当て、その発展とそれを支えた条件を明らかにします。

講義の進め方。

1回ごとにテーマを設定しますが、全体として連続性をもたせます。また具体例、数値を用いて、日本経済の在り方とそれを担う経済主体の行動に焦点を当てて考察します。

講義の到達目標。

戦後日本経済の推移、基本構造、問題点を捉えることができるように認識を高めるようにします。また新聞などの経済記事の内容についてある程度理解できるようにし、今日の様々な経済現象とその根底にある論理を大筋で捉えることができるようにします。

履修上の留意点

講義は1回ごとに独立したテーマを設定しているため、講義時間に遅れないこと。ノートは確実にとること。

成績評価の方法

前期、後期各1回ずつの試験によって評価します。

教科書

サブ・テキストを含めて、開講時以降、随時紹介します。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|-----------------------|--|-----|
| ア ジ ア 経 済 論 | かく 郭 よう 洋 しゅん 春 | 禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放 | 4 |

講義のねらい

「世界経済の成長のセンター」「開発途上国の優等生」、これらは1980年代に入り急速に成長してきたアジア諸国（特に東・東南アジア）を指して使われた言葉である。

植民地支配解放後、長く低開発に喘いでいた開発途上国の中から登場したこれらアジア諸国は、今や先進国の仲間入り寸前のところまで来ている。しかし、1997年7月以降、アジア各地に波及した通貨・金融危機は、世界経済そのものの根幹を揺るがしている。

一方で、インドネシアの「東チモール問題」、ミャンマーの「民主化問題」、中国の「三峡ダム問題」「南沙諸島、尖閣列島問題」など民族紛争、人権問題、環境破壊、領土問題など冷戦後特に、賦の遺産が噴出しているのもアジア地域なのである。

従って、本講義では急成長を遂げたアジア諸国の経済メカニズムの解明と、その陰に隠れて見落とされがちな負の要因の分析の両面から、アジア経済の実態を明らかにしていく。その際、我々の身の回りから見たアジア、という視点についても触れていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容は以下の通りであるが、状況に応じて多少の変更はあり得る。

I アジアの台頭

- ①NICsの登場、②NIEsへの転換、③ASEANとは何か、④変貌するASEAN
- ⑤日本に来るアジア人旅行者、

II ダイナミック・アジア

- ①アジアの経済政策、②経済開発に果たした国家の役割、③外資導入とアジアの工業化
- ④日本のODAとアジアの工業化、⑤経済開発の推進母体としての財閥、ビッグ・ビジネス

III 迷走するアジア

- ①アジアの環境破壊、②飢餓と飽食のアジア、③軍事大国化するアジア、④アジアの開発独裁
- ⑤アジアに広がる日本文化

IV 21世紀のアジア

- ①地域経済圏とアジア、②継続するか「成長のセンター」、③アジアは先進国の仲間入りをするのか

履修上の留意点

教員による一方通行的な授業ではなく、応答的授業形態を模索するので、積極的・主体的姿勢で参加すること。授業中は私語・携帯電話類は厳禁。

成績評価の方法

授業中に行う小テストと前期末レポート、学年末試験を合わせた総合評価

教 科 書

郭 洋春『アジア経済論』（中央経済社）3,360円

参 考 書 等

横山正樹・涌井秀行編著『ポスト冷戦とアジア』（中央経済社）3,045円。他は授業中に随時紹介する。

そ の 他

授業方法は講義中心であるが、学生との討論も考えている。また、ビデオを多用し視覚からも授業を理解してもらうつもりである。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|---------|--|-----|
| 中 国 経 済 論 | 小 杉 修 二 | 禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放 | 4 |

講義のねらい

この講義は中国の長期的動態をとらえる。
現在の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気がみなぎるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」「6.4天安門事件」等々話題に事欠かない状況である。
本講義ではこのような目前的変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

講義の内容・授業スケジュール

この講義は3つのキー・ワードで歴史的解明をはかる。
前期授業のはじめに、キーワードを3週間分かけて説明する。ここでは、地域研究が本来もっている特徴である、問題のさまざまな面をとらえる、ということと、そのうち比重の大きい側面は何であるかをつかむ、といった点に留意する。特に、私独自の見方である中国の超大国志向について詳しく説明する。
これにつづいて、中国経済の解明に取り組むが、それは一言でいえば歴史的方法をとる。すなわち、中華人民共和国の成立(1949年)から今日までを、3つの特徴的な時期に分けて、(1)ソ連モデル(1949～57年)、(2)毛沢東モデル(1958～78年)、(3)鄧小平モデル(1978～)として、それぞれの時期の特質とその変化の動因を説明する。
このような方法をとるのは、今現在の目先の出来事も何かの方向へ向かって動いている訳だが、その方向というものは、あまり近くで見ているとわかりにくいものだからである。つまり、現在および将来というのは、過去の何らかの延長であると考えからである。それが単純な延長である場合もあろうし、新しい条件に見合った微修正の延長である場合もあろうし、また全く過去の否定的総括に立った転換である場合もあろう。その場合も、過去の何が否定的に総括されたのかを知らねば、将来への延長線は引かれないであろう。そこで歴史的方法をとるわけである。
上記の3つのモデルを超大国志向、社会主義、発展途上国の3つのキー・ワードを軸にして説明していくが、そこでの中国は著しく軍事大国志向、経済成長志向である。世界の他の国々がそのような志向性をもっている中で、また中国が途上国であることからして、やむを得ない面もあるが、世界が環境問題で行き詰まりつつある中で、このような志向性のもつ問題点をも相対化し得る見方をもてるように留意したいと思う。

履修上の留意点

授業の進め方は、教科書に沿った講義とビデオ上映による説明の二本立てで行っている。
教科書は専門家向けに書かれており、自明のことや初歩的なことは書かれていない。したがって、中国経済に全くの初心者であると思われる学部学生に対しては、自明とされていることや、初歩的な知識の説明を補いながら講義を行う。
また、何分にも外国のことなのでイメージがわきにくいといった問題があるので、年に数回、中国関係のビデオを見る。例えば、新日鉄宝山製鉄所、天津の用水路、長春第1自動車工場、江南億元郷、天安門激動の40年等。

成績評価の方法

受験勉強の本質は正解当てクイズである。しかし、このような方法は実社会では通用しない場合が多いし、正解も変わっていく。諸君が物事(中国経済)を自前の頭で理解し判断できるための勉強が高等教育の場である。そのために、無数にいる専門家の意見の比較、優劣判定、取捨選択、時間による検証、といった作業が必要になる。その前提になるのが、各専門家の学説の正確な理解である(学説の受入れとは異なる)。テストは基準となる一つの学説(とりあえず、私の説)の正確な理解ができたかどうかを見るものである。

教 科 書

小杉修二著『増補 現代中国の国家目的と経済建設——超大国志向・低開発経済・社会主義』(龍溪書舎)4,000円

そ の 他

学習が正解当てクイズに終わるかどうかは諸君の学習意欲にも係わっている。教科書の脚注引用文献や同第5章「諸学説の検討」あるいは授業中にその都度指摘する文献を積極的に読むことを希望する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|-------|--|-----|
| アメリカ経済論 | 瀬戸岡 紘 | 禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放 | 4 |

講義のねらい

現代のアメリカ経済事情を幅ひろくわかりやすく解説します

最新のアメリカ情報と、過去の私のアメリカ生活および研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情について、幅ひろく、トータルな解説をするのがこの講義です。それとともに、アメリカのできごとと関係のふかい世界的情勢を、ひろく検討します。

特別な経済学の予備知識がなくても理解できる授業です

この講義を受講するために特別な経済学の予備知識は必要としません。経済学部以外の学生でも十分に理解できるように、理路整然と、わかりやすく話をすすめます。しかし同時に、アメリカ経済につよい関心をもつ学生諸君には、さらに深めた研究をしていく動機をつかめるような学問的挑発を試みようかとも考えています。他方、講義でとりあげるニュースとキーワードは、就職などでの試験を受けようとする者にも役にたつものとなるでしょう。全体として、この講義は、いわゆる専門的な特定領域の探究をこころみるものではなく、奥深く興味をつきないアメリカ経済の世界に諸君を道案内するものなのです。

アメリカ経済について自力で学習していく力をつけることが目標です

受講者のみなさんが、アメリカ経済について自分の力で学習研究していくための動機をつかみ、その基礎的能力をつけることが、この講義のねらいです。ビデオの多用とか、資料の過剰な配布などはしませんが、それもむしろ受講者諸君が自力でビデオを活用し資料を収集する力量がつくように指導したいと考えるからです。この講義は、新入生から卒業年度生まで、いずれの学年でも受講できますが、以上にのべたこの講義の性格からして、3年生までに受講することをすすめます。

講義の内容・授業スケジュール

年間をとおしてきくと現代のアメリカ経済の全体の輪郭がわかるように講義を組んでいます。とりあげるテーマには、おおむねつぎのようなものを予定しています。

《導入の話題》

◇大統領の今年の経済政策とアメリカ経済の近況

《総論》

◇アメリカの建国の理念と現代の経済

◇アメリカ経済の歴史的過程

《アメリカ経済各論》

◇アメリカの農業

◇アメリカの工業

◇アメリカの企業家とベンチャービジネス

◇アメリカの雇用と労働者

◇アメリカの商業とサービス

◇アメリカの交通・通信・情報

◇アメリカの金融

◇アメリカの教育と経済

◇アメリカの科学技術

◇アメリカの先端産業

◇アメリカ経済と環境問題

◇アメリカ社会とボランティア

◇女性・マイノリティーとアメリカ経済

《世界とアメリカ》

◇国際通貨ドルの地位と IMF

◇アメリカと貿易 (GATT と WTO)

◇アメリカ軍の世界的ネットワークとその経済的意義

◇アメリカの海外援助

◇アメリカの多国籍企業

◇多国籍企業とアメリカ経済

《アメリカと世界の諸地域》

- ◇アメリカとカナダ・メキシコ
- ◇アメリカとEU
- ◇アメリカと日本
- ◇アメリカとアジア・太平洋
- 《むすびの話題》
- ◇アメリカの経済学（あたらしい学派の見解）

1回の講義でひとつのテーマをとりあげます

原則として1回ごとに独立したひとつのテーマをとりあげ、完結させるように話します。毎回の講義では、まずテーマに即した最新のニュースを話題にするところから話をはじめ、ついでそれぞれのテーマを理解するための基礎的な事実とキーワードを具体的な資料やデータにもとづいて解説します。各講義のしめくりには、受講者諸君との対話を大切にしながらテーマの本質について考えてみます。

あたらしい情報やトピックスを、解説つきで、つねに受講者に紹介します

年間予定とは別に、あたらしいニュースや情報は、随時、解説をつけて、お話しします。ただし、ただあたらしいことを追うばかりにおちいらしないで、ことの真相や本質的なことがらを、ちょっとたちどまって考えることができるような、多少とも理論的な視角をもちこみます。

アメリカの諸大学にみられる長所をとりいれた授業です

講義は、極力、受講者諸君の希望をいかして、たのしくすすめるつもりです。とくに、この講義には、アメリカの大学に見られる望ましい習慣をとりいれるようにこころがけています。たとえば、ながい時間の講義に諸君がつかれて集中力をおとさないように、講義の途中で小休止をおくようにしています。講義のなかでの受講者諸君の発言や質問は大歓迎です。講義にたいする受講者の側からの評価や採点、改善提案などは、もちろん今年も実施します。

成績評価の方法

熱心な受講者には楽勝の、単位だけがほしい学生には恐怖の科目です

この講義については、いわば単位をかすめとることなど考えないほうが無難でしょう。すすんで受講しようとする者には、退屈させない楽しい講義をするつもりですし、また、そういう受講者がよい成績をおさめられるように評価のしかたを工夫しています。すなわち、この講義では、一発の年度末試験よりも、平常点や時間をかけて書きあげたレポートを重視する予定なのです。たとえば、授業で学んだことがらや感想を簡単に記した文章を何回か提出してもらうことを考えていますし、受講者の希望により、この講義のなかでいただくようになった問題意識をもとにアメリカ経済にかんする自由論題で小論文を年度末に提出してもらい試験に替えることも考えています。今年度も受講者との合意が成立すれば、平常点を考慮にいれつつ小論文を中心に成績評価をすることにしたいと考えています。

教科書

最新の情報をもとに講義をすすめます。だから特定のテキストは使用しません

この講義では、特定の図書を教科書として使用しません。アメリカ経済をあつかった文献はあまりにたくさんあって、しかもどの一冊も、これさえ読めばアメリカ経済が把握できるというほどアメリカ経済は単純ではないからです。講義では、その都度よい文献などを紹介していきます。日々のニュースと諸君の周囲にあるさまざまなアメリカものの本の全体が、この講義の教科書ですが、今、どうしてもといわれれば、グリーンバーグ著『資本主義とアメリカの政治理念』（瀬戸岡訳、青木書店、1994年）をおすすめします。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|--------------------|--|-----|
| ロシア・東欧経済論 | やまがたひろし 山 縣 弘 志 | 禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放 | 4 |

講義のねらい

外国経済研究の課題を、その経済事情に通じることという形で、狭く設定する必要はないので、各自の問題意識に引きつけてとらえてもらえばよいが、とりわけ、独特のソ連経済からロシア的・資本主義的・市場経済への転換を、資本主義世界経済のあり方、日本経済のあり方を念頭に置きつつ講義する予定である。その際、ソ連経済史の評価のためには社会主義論の捉え直しが不可欠であり、他方で政策も含めた経済現象の総体を文化的基盤と切り離して論じることはできないから、常に総合的視点と批判精神を伴った受けとめを期待する。

講義の内容・授業スケジュール

ソ連邦が解体し、東欧諸国も再編成されて、一つの歴史的移行過程にあるが、「どこからどこへ？」の問題は必ずしも決着済みではない。この地域が従来の歴史的経緯を背負って今後も多少とも独自の経済圏を形成していくことは確かであろう。

ロシア・東欧圏は、ヨーロッパとアジアにまたがりオリエントと接するユーラシア地域として、独自の、また内部的には多様な文化を醸成してきた。この地域は、帝国主義の時代に入って、第1段階としてロシア革命、第2段階として第2次大戦を契機に社会主義をめざすことになった。そしてその歴史は通例まぎれもない社会主義の歴史として通俗的に理解されてきたが、本来は社会主義の模索として開始されたものであり、社会主義に到達しえたか否か自体が吟味の対象である。これは同時代史の問いかけに応えるために必要な認識であろう。

社会主義論の歴史的な捉え直しの上に立って、1930年代にソ連邦で形成され40年代に東欧に移植された独特の体制の認識が深まれば、「どこからどこへ？」の問題の第1段階に答える可能性が生まれるであろうし、その第2段階を検討することは、我々の時代の当面している課題を明らかにすることに通じるであろう。

1. 社会主義とロシア革命
 - (1) 社会主義論とマルクス
 - (2) ロシア革命のめざしたもの — レーニン時代 —
2. ソ連経済体制の成立とスターリン時代
 - (1) 1920年代から30年代への転換
 - (2) ソ連型「社会主義」の特質と行きづまり
3. 「計画経済」と経済管理システム
 - (1) 「計画経済」の成立と実態
 - (2) ソ連型経済管理システム
4. ソ連経済の生産力水準
 - (1) 経済構造の特質と軍事生産
 - (2) 工業生産力と工業技術
 - (3) 農業問題
5. 停滞からペレストロイカへ
 - (1) 経済改革の時代
 - (2) プレジネフと停滞の時代
 - (3) ペレストロイカとその挫折
6. ロシア・東欧経済の現状と課題
 - (1) ロシア・東欧の文化と社会
 - (2) 資本主義化の諸問題
 - (3) ロシアと日本 — 比較経済史 —

履修上の留意点

トピックスにコメントすることが多いと思われるので、必ずしも授業計画通り、またその全てを網羅して進むとは限らないが、部分から全体を照射するように心がけたい。敢えて挑発的な講義にしたいので、学生諸君にはステレオタイプから脱して自分自身の頭で考えることを期待する。

成績評価の方法

成績評価はレポート（9月提出、40点配点）と定期試験（自筆ノート持込み可、60点配点）によって行う。模範答案等の丸写しは認めない。オリジナリティを評価する。

教科書

教科書はない。参考書は適宜指示する。歴史の見直しが必要とされ、変化の激しい時代に、万全の教科書はありえない。

その他

教科書はないので、授業中にノートを取るのとは当然のことになるだろう。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|-------------------------------|--|-----|
| 商 業 政 策 | い 岩 した 下 ひろし 弘 | 禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放 | 4 |

講義の内容・
授業スケジュール

- 一 わが国の小売商業構造と蓄積構造
 - 1 90年代の小売商業構造
 - 2 80年代の大手小売業の資本蓄積構造
 - 3 90年代の大手小売業の資本蓄積構造
- 二 わが国の流通政策論
 - 1 中小小売商保護政策論
 - 2 流通近代化政策論
 - 3 流通システム化計画論
 - 4 流通革命論
- 三 流通ビジョンと流通政策
 - 1 70年代の流通
 - 2 80年代流通産業ビジョン
 - 3 90年代流通ビジョン
 - 4 21世紀へ向けた流通ビジョン
- 四 わが国の小売商業調整政策の展開過程
 - 1 百貨店法
 - 1) 第一次百貨店法 2) 第二次百貨店法
 - 2 中小小売商業振興法
 - 3 小売商業調整特別措置法
 - 4 大店法
 - 1) 1973年法 2) 1979年改正法
 - 3) 1991年改正法
 - 5 凍結宣言、要綱及び条例
 - 6 通産省による行政指導＝抑制措置
 - 7 規制緩和
 - 1) 規制緩和の流れ－前川レポート、行革審報告
 - 2) 日米構造問題協議 3) 適正化措置
 - 8 特定商業集積法
 - 9 街づくりと都市計画
- 五 流通政策の転換
 - 1 大店立地法
 - 2 中心市街地活性化法
- 六 海外の流通政策
 - 1 イギリス
 - 1) 出店調整政策－都市・農村計画法
 - 2) 日曜営業問題－商店法
 - 2 フランス－ロワイエ法
 - 3 ドイツ－土地利用計画
 - 4 アメリカ－ゾーニング規制

成績評価の方法

試験、レポート、出席により評価。

教 科 書

岩下弘編『流通国際化と海外の小売業』（白桃書房）2,800円

参 考 書 等

保田芳昭編『日本と欧米の流通政策』（大月書店）2,600円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|---------|--|-----|
| マーケティング | 曾 我 信 孝 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短国・短放 | 4 |

講義の内容・
授業スケジュール

- 前期はマーケティングの基本的な政策である4つの政策を現状をふまえながら講義する。その概要は次のとおりである。
 - 製品政策……マーケティングで展開される製品にかかわる政策の内容を説明し、それらが需要創造にどのように作用しているかも同時に説明していく。その内容は、①製品の差別化、②市場の細分化と製品の細分化、③製品のライフサイクルの短縮化と陳腐化政策の関係などである。
 - 価格政策……現代の価格は需要と供給で決定されているとはいえない。また、小売価格は生産原価と必ずしも因果関係があるとはいえなくなっている。一般的には購買環境を前提にして価格は設定されているといっても過言ではない。そのような価格設定がマーケティングの政策のひとつである。そこで、①価格設定の方法、②差別価格と消費者との関係、③価格による消費者支配などを説明する。
 - チャンネル政策……自己製品の流通経路の政策について説明する。企業にとって、自己の製品の特性にあわせて、もっとも合理的な流通経路を選択しようとしている。それにはたんに流通コストの問題だけではなく、販売チャンスや需要創造の問題にもかかわるからである。そこで①商業の排除と系列化、②流通支配の形態、③新業態への対応などを説明する。
 - 促進政策……上記の3つの政策も販売促進政策の効果があるが、それらに含まれない販売促進政策について説明する。その内容は①販売員管理、②広告の方法と実態についてである。
- 後期はマーケティング理論の応用と国際マーケティングについて説明する。とりわけ、日本企業が国際マーケティングを展開するようになった背景を説明し、日本企業の多国籍化の過程について説明する。その内容は次のとおりである。
 - 国際経済環境の変化と日本企業の対応……NAFTA、EUなどブロック経済化に日本企業が現地法人で対応してきた過程を説明する。その内容は①アメリカでの現地化の過程、②EUへの現地化の方法と過程、③日本企業の現地化と総合商社の役割などである。
 - 国内市場の変化と国際化……とりわけ価格志向品の現地生産とその製品の輸入について説明する。その内容は、①日本の規制緩和と製品輸入、②途上国・共産国での現地生産と輸入、③中小企業の現地化と総合商社との関係などである。
 - 日本企業の多国籍化と財務……日本の多くの企業が多国籍化を展開したのは、外的要因によるところが大きい。しかもそれは急速に展開しなければならない状態であった。それを実現できた日本の企業は、膨大な資金調達が可能であったからである。その内容を①資金調達の多様化、②エクイティ・ファイナンスと金利などの面から説明する。
 - 総合商社と国際マーケティング……日本の多国籍企業の典型である総合商社のマーケティングの展開について説明する。これまで総合商社は素材を中心とした貿易業務を主体としてきたが、日本企業を取り巻く環境の変化によっていっそう排除の傾向が強くなってきた。それに対応する政策として、自ら生産や小売部門に進出しマーケティングを展開している。そこで、①総合商社の子会社戦略、②総合商社のマーケティングの特性などについて説明する。

成績評価の方法

定期試験（場合によって小テスト、出席等）によって評価する。定期試験に大きなウエイトをおいていることはいうまでもないが、ここでは講義内容の理解はもちろん、問題に対する自分なりの解決の力と応用力を期待している。

教 科 書

曾我信孝『総合商社とマーケティング』（白桃書房）4,000円

参 考 書 等

必要に応じて紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|------------------------|----------------------------------|-----|
| 経営管理論 | ひゃく た よし はる 百 田 義 治 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・社会 福祉・心理・短国 | 4 |

講義のねらい

現代企業の経営管理（組織と管理）について、大学生に必要な基礎知識を提供することと、その現代的諸課題の現状と問題点を明らかにすることが一年間の講義を通しての課題です。

講義の内容・授業スケジュール

多数の人々の協働体である組織が、さまざまに変化する環境の中で、目的・目標の設定から達成までのプロセスを効率的に運営する活動が経営管理です。したがって、経営管理は、学校や病院や政府諸機関など非営利組織（NPO）、あるいはボランティア活動の組織（NGO）にも必要不可欠な活動です。しかし、現代社会において組織という場合に、企業を除いて組織を語ることはできません。一年間の講義の中では、NPO や NGO の組織の特性や管理の課題についても up-to-date な話題にふれて言及しますが、講義の中心は現代企業の経営管理問題です。

一年間の授業スケジュールは以下の通りです。

前期（4月－7月）は経営管理論の流れを「個人と組織」の問題を中心にフォローし、その現代的意義について考えます。前期の授業の内容は次のような問題です。

- ① 授業ガイダンス（経営管理論では何を学ぶのか？）
 - ② 現代の組織と経営管理（企業の経営管理と NPO・NGO の経営管理は異なるか？）
 - ③ 経営管理論の源流 1：科学的管理法（唯一最善の管理法は存在するか？）
 - ④ 経営管理論の源流 2：管理過程と管理原則（経営管理は学校教育で学べるか？）
 - ⑤ 組織の人間関係（人間の非論理的・非合理的行動とは何か？）
 - ⑥ 現代組織論 1：個人と組織の統合理論（個人の欲求充足と組織目標の達成は両立するか？）
 - ⑦ 現代組織論 2：意思決定論（経営者の意思決定は科学の対象になるか？）
 - ⑧ モチベーション論（自己実現とは？勤労意欲は何から生みだされるか？）
 - ⑨ 人的資源管理論（行動科学とは？「労働力」と「人的資源」では何が異なるか？）
- （夏休みの課題）前期の授業についてレポートの提出を求めます。

後期（9月－1月）は現代企業の経営管理の実際（当面する諸問題）を具体的に検討します。

- ⑩ 企業戦略論（現代企業のもっとも重要な経営管理問題とは何か？）
 - ⑪ 日本企業の国際競争力（トヨタ・システムはフォード・システムを超えたか？）
 - ⑫ グローバリゼーションとジャパナイゼーション（日本の経営は国際的に通用するか？）
 - ⑬ 日本企業の国際化（グローバル化とローカル化の両立は可能か？）
 - ⑭ 経営管理と情報化 1（企業内・企業間ネットワーク化は経営管理を根本的に変革するか？）
 - ⑮ 経営管理と情報化 2（情報化は中間管理職を無用化するか？）
 - ⑯ 地球環境問題と経営管理（共生の時代の経営管理に求められるものは何か？）
 - ⑰ コーポレート・ガバナンスと企業倫理（経営者の社会的責任とは何か？）
 - ⑱ 労働の未来と経営管理の課題（一年間のまとめ）
- （学年末試験）

履修上の留意点

新聞・雑誌・ニュースなどを通して現代の企業と経営に関心を持つことが大事です。「なぜ」という疑問がなければ勉学意欲は持続しません。現実の経営管理問題にマークシート方式の解答はありません。すべてが応用問題です。洞察力と問題解決能力も90%は経験と学習です。

成績評価の方法

出席（10%）、小レポート（10%）、夏季レポート（20%）、学年末試験（60%）で総合的に評価します。

教科書

笹川・山下・仲田・渡辺編著『現代の企業経営を学ぶ』（ミネルヴァ書房）1996年
片岡・篠崎・高橋編著『新しい時代と経営学』（ミネルヴァ書房）1998年

参考書等

授業や夏期レポートに関連して随時紹介する。

その他

授業に関する質問などがあれば研究室（第2研究館4階2436：電話03-3418-9345）を気楽に訪ねるか、E-mail（授業で説明）で問い合わせ下さい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|-----------------------|---|-----|
| 労務管理論 | いし 井 しょう じ 石 井 脩 二 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短教 | 4 |

講義のねらい

日本企業を取り巻く経営環境は、急激に変化しつつある。国際的にはいわゆる冷戦体制の崩壊の中で、欧州・アメリカ・アジアを中心とする世界三局経済体制への動きを背景に、国際市場で激しく展開される企業間競争は今やメガコンペティションといわれる様相を現出させている。他方、国内に目を向ければ急速に進行する情報技術革命を背景とした産業構造の転換、豊かさを背景とした市場の不透明度の高まり、企業戦略の変化など従来までの経営理念や経営姿勢ではもはや環境変化に対応できない状況が生まれている。さらに近年の日本企業を特徴づける政官財癒着にみられる企業倫理観のない企業犯罪の多発、中高年層のみならず若年層をも巻き込んだ容赦のない人員整理などは、改めて企業とはいかなる存在意義を持つのかという疑問を抱かせるに十分である。このような企業環境の変化や企業の社会的存在意義への疑問は、日本企業がこれからのような方向へ進んでいくのかという「将来展望」を曖昧にしているばかりでなく、その予測をきわめて困難なものにしている。社会の進む方向も企業の将来も極めて透明な時代に必要とされることは、現実には生じている様々な動きや事例についての多くの情報を集め、これらの事実情報に基づいて次なる時代の方向性を自分なりに見定めることである。この講義では、日本企業を取り巻く経営環境の変化や日本企業の現実に関する最新の情報に基づきながらこれからの日本企業の動向やそこでの勤労生活の変化などを経営側からの様々な従業員対策の展開に即して検討しようとするものである。

講義の内容・授業スケジュール

企業は、一般にヒト・モノ・カネ、さらには情報といった有形無形の経営資源を組み合わせ利用することによってその目的とするものを実現する。かつて日本企業が世界市場で強い競争力を発揮し日本経済の豊かさを実現したのは、これら経営資源の中でもヒト資源の活用が巧みであったことによるといわれてきた。このヒト資源の活用に関わる一連の経営活動がこれまで人事労務管理といわれてきたものである。日本企業における人事労務管理こそは、日本の経営の別名でもあり、日本企業の競争力の源泉であったということである。しかし、今日、日本企業の競争力にかげりが見え始めているといわれる。これは、従来まで日本の経営が競争力を発揮する事のできた経営環境が急速に変化していることを反映している。経営環境の変化は、この講義のキーワードの一つである工業化社会から情報化社会への転換ということに他ならない。この講義では、日本企業が工業化社会というモノ作り中心の産業社会で築き上げてきたヒト資源の活用システムすなわち「人事労務管理」が情報化社会という知識創造や情報創造が中心となる産業社会で妥当性を持たなくなり「人材資源管理」という名称に変化していることに注目し、情報化社会でのヒト資源の活用に関わる最近の企業の動きを中心に検討を加える。同時に、ヒト資源に対する新しい活用への企業側の取り組みが従業員側からみたときにどのような結果を生み出すことになるのかも併せて検討する。このような検討を通して、最終的には日本企業の将来を考えるとということにこの講義の焦点がある。以下のような順序に従って進めていく。

| | |
|--------------------------|---------------|
| 序 章 人事労務管理から人材資源管理へ | 第 5 章 報酬管理 |
| 第 1 章 企業内従業員秩序の編成原理とその変化 | 第 6 章 労働時間管理 |
| 第 2 章 採用管理 | 第 7 章 福利厚生管理 |
| 第 3 章 教育訓練と能力開発 | 第 8 章 女性労働の管理 |
| 第 4 章 昇進管理 | 第 9 章 国際人事 |

成績評価の方法

定期試験のみにて評価。評価の基準は解答内容の論理性と説得性。

教 科 書

現在作成中のため、当面は授業時間中に配布するプリントを中心に行う。

参 考 書 等

津田真澄編著『人事労務管理論』（ミネルヴァ書房）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|--------------------|---|-----|
| 財 務 会 計 論 | えん どう たかし 遠 藤 孝 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短大 | 4 |

講義のねらい

会計学、とくに企業の活動内容を外部に伝達開示することを目的とする財務会計(FINANCIAL ACCOUNTING)について、その伝達、開示の手段である貸借対照表(BALANCE SHEET)、損益計算書(INCOME STATEMENT)を中心に、その性格、内容、役割について講義する。できるだけ時の実務上の会計問題にひきつけて講義する。例えば、'98年度ではヤオハン、三田工業の粉飾問題。

講義の内容・
授業スケジュール

前 期

- (1) 4月第1週
企業会計、財務会計とは何か。会計学、財務会計論とは何か。その企業会計、財務会計の何を学ぶのか。
- (2) 4月第2週
先週に引続き、企業会計、財務会計とは何か。企業会計、財務会計がわれわれの生活とどのように関係しているのかを中心に講義。
- (3) 5月第1週
財務会計の制度性について。
財務会計制度とは何か。日本の企業会計制度、各国企業会計制度のタイプ。
- (4) 5月第2週
貸借対照表論。貸借対照表とは何か、実際に企業が作成した貸借対照表で説明。貸借対照表の役割、貸借対照表学説。
- (5) 5月第3週
資産評価について。流動資産－棚卸資産の評価、有価証券の評価、現行評価制度の問題点。
- (6) 6月第1週
資産評価について。固定資産の評価、土地評価、減価償却について。
- (7) 6月第2週
繰越資産について。繰延資産の特殊性、繰延資産項目とその償却。
- (8) 6月第3週
引当金について。引当金とは何か。引当金の設定基準－商法、「企業会計原則」の引当金、引当金会計の問題点。
- (9) 6月第4週
同上。
- (10) 7月第1週
資本会計について。

後 期

- (11) 9月第1週
損益計算書とは何か。費用収益の認識。
- (12) 9月第2週
連結財務諸表とは何か。
- (13) 9月第3週
同上。
- (14) 10月第1週
セグメント会計について。
リース会計について。
年金会計、退職給与引当金と年金会計
- (15) 10月第2週
企業内容、会計内容の開示について。
注記 財務諸表附属明細表(書)。
- (16) 10月第3週
同上。
- (17) 10月第4週
財務諸表の監査、商法上の監査。
- (18) 11月第1週
財務諸表の監査、証券取引法上の監査。
「企業会計原則」について。
- (19) 11月第2週
会計の国際化、会計基準の国際的調整。
- (20) 11月第3週

- 同上。
- (21) 11月第4週
日本、世界企業会計の最新動向。
- (22) 12月第1週
同上。
- (23) 12月第2週
会計学を学ぶについて考えるべきこと。パソコン時代の企業会計。総括。
- (24) 最終週
予備。
以上のスケジュールは、学会出張、大学祭など大学の行事によって変更することがある。

履修上の留意点

講義には必ず出席すること。

成績評価の方法

試験による。(前期、後期2回実施の予定)

教科書

遠藤孝他著『会計学』(森山書店)1998年

参考書等

遠藤孝著『引当金会計制度の展開』(森山書店)1998年

その他

授業の方法、教科書、OHP、ときにプリント配布。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-----------------------------|---|-----|
| 会 計 監 査 論 | い い 飯 お か 岡 と お ろ う 透 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放 | 4 |

講義のねらい

会計監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて、監査人が意見を表明することであり、企業規模の拡大、利害関係者の多様化、企業活動の複雑化、一部企業における不正問題の発生などに伴い、近年、その役割はますます重要になってきている。そこで、この講義では、こうした会計監査の発展過程、制度、社会的役割などを中心に会計監査について受講者の理解を深めることを目的としている。

講義の内容・
授業スケジュール

この講義での授業内容とそのスケジュールは次のとおりである。

〔前 期〕

4月 会計監査の目的と種類

- (1) 会計監査の目的
- (2) 会計監査の種類
- (3) 監査基準の必要性和その構造

5月 わが国監査制度の展開

- (1) 第2次世界大戦前におけるわが国監査制度の展開
- (2) 第2次世界大戦後におけるわが国監査制度の展開

監査人の要件と責任

- (1) 監査人の要件
- (2) 監査人の選任と解任
- (3) 監査人の職務権限と責任

6月 監査要点と監査手続の選択適用

- (1) 監査要点の意義と種類
- (2) 通常実施すべき監査手続とその内容

7月 監査証拠の種類と内容

- (1) 監査証拠の意義と分類
- (2) 十分な監査証拠と合理的な基礎

〔後 期〕

9月 内部統制と監査リスク

- (1) 内部統制の構成要素
- (2) 内部統制の評価
- (3) 監査リスクと重要性

10月 監査計画と組織的監査

- (1) 監査契約と予備調査
- (2) 監査計画の目的とその設定
- (3) 組織的監査の重要性と審査機能の整備
- (4) 他の監査人の監査結果の利用

11月 監査調書の目的と種類

- (1) 監査調書の目的と作成要件
 - (2) 監査調書の種類と保存
- 経営者確認書の意義と記載内容
- (1) 経営者確認書の意義と目的
 - (2) 経営者確認書の記載内容

12月 監査報告書と監査概要書

- (1) 監査報告書の意義と機能
- (2) 監査報告書の種類
- (3) 短文体監査報告書の記載内容
- (4) 特記事項の記載内容
- (5) 監査概要書の目的と記載内容

1月 この講義の総括と年度末試験の説明

なお、以上のスケジュールは、学会出張や大学祭などにより変更することがある。

履修上の留意点

会計監査は、財務諸表の適正性についての意見表明を目的とするものであるから、会計学総論・簿記論及び財務会計論の講義を履修し、財務諸表について十分に理解していることが望まれる。

成績評価の方法

成績は、レポート（30%）及び年度末のテスト（70%）の結果によって評価する。

教科書

飯岡・市村・島崎共著『会計監査概論』（中央経済社）3,500円

参考書等

飯岡透著『中間財務情報制度論』（中央経済社）3,800円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|------------------------|---|----|
| 管理会計論 | なか ほん しょう きち 中原 章 吉 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放 | 4 |

講義のねらい

「管理会計」という分野は、多くの人にとって、大学に入って初めてお目にかかるものです。どの分野でも、ある段階に達するまでには、何段もの段階を一段一段昇ってゆかねばなりません。この「管理会計論」は、その二段目にあたる科目です。一段目の科目は「会計学総論」です。「管理会計論」は、企業の「ことば」である会計、その知識体系である会計学の学習に必須な会計学の主要な2領域である「財務会計」と「管理会計」のうちの一つであるということができると思います。「財務会計」が企業の外への「ことば」であるのに対して、「管理会計」は企業の内での「ことば」です。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、管理会計の本質、体系その中での「意思決定会計」と「業績管理会計」をキーとして管理会計の基礎的概念を説明すると共に予算管理や原価管理との関連についても講義していきます。

後期は、管理会計の豊富な各論のなかから、「財務諸表分析」と「付加価値管理会計」をキーとして管理会計の問題点を検討します。「財務諸表分析」については、その企業の健康診断としての役割を、方法とその留意点、収益性の分析、生産性の分析、安全性の分析、総括的方法を内容として説明します。「付加価値管理会計」については、経営計画とくに要員計画と付加価値会計、経営管理のための付加価値生産性を内容として説明します。

履修上の留意点

1年生で「会計学総論」を選択しなかった経済学科の学生は会計学の入門書を読んでおくと講義が理解しやすいと思います。例えば、『企業会計の基礎』（創成社）

教科書

『管理会計論』（税務経理協会）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|------------------|---|-----|
| 原 価 計 算 論 | かとうとし やす 加藤利安 | 禪・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放 | 4 |

講義のねらい

19世紀中葉において確立した原価計算は、目的手段体系として、その成立の当初から現在に至るまでさまざまな実践の場から提起され、時代とともに変容する各種の目的に応えることが期待されてきた。わが国の「原価計算基準」は原価計算の果たす目的を5つ列挙している。換言すると、財務諸表作成目的（財務会計目的）と経営管理目的という包括的な2つの目的を達成すべきものとして設定されている。しかしながら、基本的には財務会計的側面に強く傾斜しており、全部原価計算による製品原価の計算に主眼が置かれている。しかし他方において、戦後における原価計算の研究は、その経営管理的利用面において大いに開発されてきている。標準原価計算、直接原価計算そして貢献利益計算等が提唱され、さらに最近に至ってはプロジェクト・プランニングや戦略的な経営管理の計数的技法として関連原価計算や活動基準原価計算が論議されている。このように、一定の時代的、環境的状况の認識の下で、ある特定の社会的役割を果すべく設定されてきた原価計算制度・「原価計算基準」も、その変容した今日的な経済的、社会的な環境下で、現実的な課題への適合性が問題とされるに至り、原価計算システムの再構築や管理会計基準設定等の提言が数多くみられるようになってきている。それは、「異なる目的には異なる原価計算システム」の開発可能性という様相を表わしている。一定の環境状況の下で、企業経営の現実的課題と関連して計算目的が設定され、目的達成の手段であるとするれば、原価計算の目的手段体系の因果的理解ができるのでないか。このような趣旨で本年度の授業内容は、わが国の原価計算基準を所論展開の中心としながらも、その後展開された各種委員会の研究成果を踏まえつつ、それらを一過性の会計現象として捉え、それをできるだけ系統的に分析し、原価計算の展開過程を論理的に解明することをこころがける。

講義の内容・
授業スケジュール

前期では、原価計算の基礎的考察を行う。原価の諸概念の検討や「原価計算基準」設定の意義、そしてその構成上の特質について検討を加える。

後期では、近年における原価計算の展開過程の特徴を「原価計算基準」と関連させながら解明する。そこでは主として、意思決定指向的な原価計算としての関連原価計算、活動基準原価計算について検討を加える。

成績評価の方法

原則として、学年末の定期試験の成績に基づいて評価するが、夏期休暇前の最終授業時において簡単な試験も行う。

教 科 書

最初の授業時に指示する。

参 考 書 等

授業時に適宜挙げる。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----|------------------------|--|-----|
| 貿易論 | ふる さわ こう ぞう 古 沢 紘 造 | 禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 法律・政治・経営・短放 | 4 |

講義のねらい

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまで来ています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って、貿易問題、さらには国際分業のあり方について深く考えてみたいと思います。その中で、経済学、生態学、倫理学からなる総合的視角の重要性を認識しつつ、私たちの生活のありようを問うことにも力を注ぎたい。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生命との共存、などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提出する経済学です。詳しくはポール・エキンズ編著『生命系の経済学』（御茶の水書房）を読まれるとよいでしょう。

講義の内容・授業スケジュール

- I. 生産・消費と貿易
 1. 農産物と貿易
 2. 水産物と貿易
 3. 林産物と貿易
 4. 鉱物資源と貿易
 5. 工業製品と貿易
- II. 政治・経済・社会と貿易
 1. 開発援助と貿易
 2. 環境と貿易
 3. 公正と貿易
 4. グローバリゼーション
 5. 持続可能な発展と貿易

具体的な内容については、最初の講義のときに話したい。

成績評価の方法

ペーパーテスト、レポート、討論、報告発表など、できれば多面的な評価を試みたい。答案やレポートを書くとき、論点を明確にし、自分の考えをしっかりと出すように努力してもらいたい。思考の跡がうかがえないものは、評価の対象とはならないでしょう。

教科書

とくにこれといった教科書は使いません。専門用語などむずかしいことは、そのつど説明しますので、授業に出てもらえれば内容は充分理解できると思います。

参考書等

講義の中で特に興味をもち、もう少し掘り下げてみたいことがありましたら、遠慮なく相談にきてください。参考になる本など教えます（研究室：第2研究館、4階34号室）。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|-------------------|---|----|
| 銀行論 | さいとう 藤 正 齋 藤 正 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・社会・福祉・心理 法律・政治・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

近年、経済の様々な分野で「規制緩和」、すなわち自由化が喧伝され、金融業においても「6大改革」の重要な柱として金融ビッグバン構想が展開されている。官僚的規制には様々な問題が指摘できるが、モラルを欠いた「自由化」がそのまま認められることにはならない。とりわけ銀行は、「預金通貨の供給」を通じて経済社会の決済システムを担っており、その安定性（信用秩序の維持）なしには経済社会の安定も達成されないという意味で、他の産業と異なる独自の「社会的責任」が存在する。相次ぐ経営破綻、数々の金融スキャンダル、巨額の不良債権など信用秩序の動揺は、「野放しの自由化」が銀行を収益至上主義に陥らせ、その結果経済社会に対しても多大な否定的な影響を及ぼすことの例証である。また、「堅実で、比較的高賃金」というイメージで、就職先としての人気も高いとされる銀行の職場は現在、自由化の下での競争激化に伴う「経営合理化」によって、サービス残業、苛酷なノルマなど、「長時間・過密労働」がさらに強められるとともに、出向・転籍が常態化し、健康と将来への不安を抱く行員が増えている。

このように銀行を取り巻く状況は内外ともに問題が多いと言わざるをえないが、しかし、銀行は依然として「貨幣の供給」及び決済システムを担う唯一の主体であり、社会的に不可欠の役割を果たしている。それゆえ、今こそ銀行の健全なあり方が強く望まれるのである。

本講義では銀行の基礎理論を踏まえたうえで、戦後の日本経済の展開に果たした銀行の役割を具体的に検証し、今後のあるべき姿を考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 1) 前期は銀行の基礎理論を中心に講義する。
 - ① ここでは古代からすでに存在した「金貸し業者」や「高利貸」と「銀行」との違いがどこにあるのかを検討しながら、「銀行」の基本的機能及び経済社会（メーカー、商社、消費者、さらに国家など）との関連を明らかにする。
 - ② 銀行が、一方で預金を受け入れ、他方で貸出を行っていることは広く知られている。だが、銀行は受け入れた預金をそのまま現金で貸し出すわけではなく、受け入れた預金を基礎として、貸し出す際に「信用貨幣」（預金通貨）を創造する。現代社会では、エレクトロニクス技術の進展に伴い、ファームバンキングやホームバンキング、さらには電子マネーといった「キャッシュレス社会」現象がみられるが、それは銀行を頂点とした信用（債権債務）関係の高度な発展であると同時に、返済の確実性を前提に成り立っていることを忘れてはならない。
- 2) 後期は戦後日本の経済に果たした銀行の役割を、時期毎に検証し、将来の銀行制度の望ましいあり方について検討する。
 - ① まず、専門的金融機関制度あるいは分業主義といわれる戦後日本の金融制度の特殊性とそれぞれの専門機関（普通銀行、中小企業金融専門機関、証券会社、保険会社など）の果たした役割の理解を目指す。
 - ② 時期区分は、おおまかに高度成長期、スタグフレーション期、自由化以後、とし、欧米の動向も参照しながら、それぞれの時期にどのような「銀行理論」が展開されたのかを併せて紹介する。
 - ③ とりわけ、現代の銀行制度が抱えている主要な問題を浮かび上がらせる契機となったのが、80年代後半の「バブル経済」と90年代以後の「バブル崩壊」である。戦後銀行制度の構造的転換という視角からこの時期の諸問題を検証する。
 - ④ 以上を通じて現在日本の銀行が抱える問題を理論的にも制度的にも的確にとらえ、金融ビッグバン構想について検討を加えながら望ましい銀行制度のあり方についての理解を深めたい。

成績評価の方法

成績は、基本的には前期試験（レポートに変更の場合もありうる）と後期試験によって評価するが、出席状況、授業態度における積極性も十分加味する。また、履修にあたっては、「独自の銀行観」の習得を目指すことを望む。

教科書

教科書は特に指定しないが、最初の講義で紹介する。また、毎回レジメを配布し、それに沿って講義する。

参考書等

- 谷田・野田・久留間編『現代金融の制度と理論』、熊野・龍編『現代日本の金融』いずれも大月書店 1992年。山田・野田編『現代日本の金融』（新日本出版社）1997年
- 日本銀行『新版 わが国の金融制度』

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-------------------|---|-----|
| 行 政 法 各 論 | さいとう ひまし 齊 藤 寿 | 禪・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・経済・商・経営・短放 | 4 |

講義のねらい

「各種行政法原理の究明」

1年間・全体を通して、極めて楽しい雰囲気の中で、各種行政法の法理究明を、興味深く行います。特にこの講義は、生きた行政法を重視しながら行います。

講義の内容・授業スケジュール

- 第1回 「行政組織法」の概要について。
- 第2回 国家行政組織法について。
- 第3回 内閣法について。
- 第4回 行政官庁について。
- 第5回 府・省・委員会・庁・地方支分部局について。
- 第6回 人事院と会計検査院について。
- 第7回 地方自治法について。
- 第8回 地方公共団体の種類と性質と区域と名称について。
- 第9回 大都市の特例と特別地方公共団体について。
- 第10回 公共組合と営造物法人について。
- 第11回 地方公共団体の議決機関と執行機関について。
- 第12回 地方公共団体の住民の諸権利と事務と権能について。
- 第13回 国と地方公共団体の関係について。
- 第14回 公務員法の概要について。
- 第15回 国家公務員法について。
- 第16回 地方公務員法について。
- 第17回 公物法について。
- 第18回 営造物法について。
- 第19回 「行政作用法」の概要について。
- 第20回 警察法・消防法・防衛法について。
- 第21回 警察行政における五大原則と規制手段について。
- 第22回 統制法について。
- 第23回 公企業法について。
- 第24回 公用負担法について。
- 第25回 公用収用について。
- 第26回 財政法について。
- 第27回 会計法について。
- 第28回 租税法について。
- 第29回 試験

履修上の留意点

※学生への要望

この講義は、楽しくかつ役に立つ講義です。私といっしょになって、「行政法各論」を楽しく研究してみませんか。

— 私が、みなさんを、「水飲み場」へ、道案内します。

目には火を、顔には光をいだいて、ついてきて下さい。

Rouse up, O, Young Men of the New Age! (目覚めよ、新時代の若者たちよ!) — との、イギリスの詩人、ウィリアム・ブレイクの叫びを、この際、みなさんに送りましょう。

成績評価の方法

試験の成績とレポートの成績を合わせて、学年の成績とします。

教科書

拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|----------------------|---------------------------------------|-----|
| 親 族 法 | たけ なか ち か 竹 中 智 香 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・経済・商 政治・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

民法典第四編にあたる「親族法」の講義を行う。親族法は最も身近な家族生活を規制する部分であることから、民法の他の部分に比べて、初めて法律を勉強する者にとっても取り組みやすいと思われる。本講義では、家族という身近な問題の検討を通して民法になじみ、法的な視点・考え方を身につけることを目指す。

講義の内容・授業スケジュール

親族法の講義ではあるが、民法の初学者にとってわかりやすい私法入門であることも目指したい。民法の中でも親族法は、家族生活を規制する法律であるために、財産法の領域と異なる特徴を有している。この相違と親族法の特徴、さらに欧米家族法と比較したときのわが国の親族法の特徴を示しつつ、親族・婚姻・離婚・親子・親権・後見・扶養について順次論説していく。また、親族法に関する今日的な問題にも、できる限り触れたい。

履修上の留意点

教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。

成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も加味する。

教 科 書

遠藤浩ほか編『民法(8)親族〔第4版〕』(有斐閣双書) 1,648円

参 考 書 等

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選〔第5版〕』(有斐閣) 2,200円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|----------------------|--|-----|
| 相 続 法 | たけ なか ち か 竹 中 智 香 | 禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・政治・経営・短大 | 4 |

講義のねらい

民法典第五編にあたる「相続法」の講義を行う。わが国の相続法は、戦前の家督相続から戦後の均分共同相続へと変遷し、さらに今日においては遺言制度の利用も増加するなど、大きく変化している。本講義では、こうした動向とその背景の理解とともに、財産法の応用問題といわれるほど難解な相続法の理解を図りたい。

講義の内容・授業スケジュール

わが国の相続法の変遷とその背景を検討したうえで、相続人・相続の効力・相続の承認および放棄・財産の分離・相続人の不存在・遺言・遺留分について、順次論説していく。

履修上の留意点

教科書を読んだうえで講義に出席することが望ましい。

成績評価の方法

おもに定期試験によって成績を評価するが、出席状況などの平常点も加味する。

教 科 書

遠藤浩ほか編『民法(9)相続〔第4版〕』(有斐閣双書) 1,648円

参 考 書 等

久貴忠彦・米倉明編『家族法判例百選〔第5版〕』(有斐閣) 2,200円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|----------------------|--|-----|
| 西 洋 法 制 史 | また の 北 野 か ほ る | 禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

イギリスの法制度の歴史を、社会の法的構造と国家統治機構のかかわりを軸に解説する。イギリスの法制度の歴史を、特に注目される法的現象を挙げながら、各時代毎の法制度の全般的特徴と、基本的社会・政治構造との関連について考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1部 総論
 - 第1章 法制史学概説
 - 第1節 法制史学の方法と対象
 - 第2節 法制史学の目的と効用
 - 第3節 イングランド法制史学の対象と方法
 - 第2章 イギリス歴史学の基本的知識
 - 第1節 時間的範囲
 - 第2節 空間的範囲
- 第2部 イングランド法制史
 - 第1章 古代
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造
 - 第3節 法構造
 - 第2章 中世 (1066-1350)
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造Ⅰ 中世ヨーロッパの封建制
 - 第3節 社会構造Ⅱ イングランドの封建制
 - 第4節 統治構造 封建制の解体
 - 第3章 近世 (1350-1650)
 - 第1節 歴史過程
 - 第2節 社会構造
 - 第3節 統治構造
 - 第4節 法構造

履修上の留意点

講義中の私語・騒音は厳しく規制する。予め十分留意すること。

成績評価の方法

論文式筆記試験（後期試験期間・年1回）

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

年度当初に指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|----------------|--|-----|
| 英 米 法 | きたの 北 野 かほる | 禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

近現代法治国家の主要法系のひとつである英米法系について、日本法を含む大陸法系と比較しての基本的特徴を概観し、その主要な理由をなすと考えられる。法形成における裁判の意味について、司法機構と判例法を中心に考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

- 第1編 概論
 - 第1章 法系論
 - 第1節 西洋近代法の法系
 - 第2節 英米法系の特色
 - 第2章 英米法の特徴
 - 第1節 法内容の歴史性
 - 第2節 法観念の社会性
 - 第3節 法思考の実務性
 - 第3章 判例法の理論
 - 第1節 総論：「判例法主義」
 - 第2節 先例拘束性の原理
 - 第3節 判決における「法」
 - 第4節 法形成作用
- 第2編 司法制度
 - 第1章 裁判所制度
 - 第1節 イギリス
 - 第2節 アメリカ合衆国
 - 第2章 訴訟過程
 - 第1節 英米訴訟制度の特徴
 - 第2節 陪審

履修上の留意点

講義中の私語・騒音は厳しく規制する。予め十分留意すること。

成績評価の方法

論文式筆記試験（後期試験期間・年1回）

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

望月礼二郎『英米法（改訂第二版）』（青林書院）現代法律学全集55 5,150円
その他の参考書：年度当初に指示する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|--------------------------|---|-----|
| 経 済 法 | おが だ と し ひろ 岡 田 外 司 博 | 禅・仏教・国文・英米文 地 理 ・ 歴 史 ・ 社 会 福 祉 ・ 心 理 ・ 経 営 ・ 短 放 | 4 |

講義のねらい

独占禁止法は、企業の経済活動に関する世界共通のルールとしてますます重要になりつつあるのみならず、実は私達の生活にも深く関わっている。ところが、独占禁止法の条文を見ると、一般になじみのうすい抽象的な用語が並んでいて難解であり、その理解は決して容易ではない。そこで、本講義では、最初数回は理論的問題にも触れるが、その後は独禁法の規制の内容とその実際の解釈運用について、具体的事例を多くふまえてできるだけわかりやすく解説することを目標にしたいと考えている。

講義の内容・
授業スケジュール

講義は2回に1枚プリントを配布し、そのプリントに書かれた設問にこちらの方で答えて行くという方法をとる。

履修上の留意点

プリントを受け取らずに講義を聴いても意味がないので、出席は取らないが、講義に出席して少なくともプリントを受け取ることを勧める。

成績評価の方法

試験（後期1回のみ）によって判定する。

参 考 書 等

初回の講義の時に紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|----------------|---|-----|
| 国際政治学 | 小堀のりお 堀 訓 男 | 禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理・経済 商・法律・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

国際社会に展開する政治現象を、政治学的アプローチで論及し、国際政治の本質を理解することが、本講義のねらいである。

前期の講義は、国際政治とは、いかなるものか、分かり易く概説する。具体的には、国家、権力、民族、階級、国際政治における権力と道義、国内政治と国際政治等をテーマに“国際政治の本質”について考察する。つぎに、より理解を深めるために、“国際政治の基調”と題して、国際政治が展開し、現在に至るまでの、各時代の国際政治の基調を、歴史的に概観する。

後期では、“国際政治の問題”と題して、冷戦後の国際政治、ナショナリズム、地域的安全保障、エネルギーと環境問題、国連の使命と限界、地域統合と国家の役割の変化等の、国際政治学が取り組むべき課題を、理論的かつ実証的に解明しながら、受講生と共に考えたい。

履修上の留意点

講義のテーマ、内容については予告する。受講生は、必ず予習をして、講義に出ること。基本的な知識については、共通の理解を徹底したいので、全員で討論しながら授業をすすめたい。よって、積極的な参加を求める。

成績評価の方法

1年間に数回程度、授業中に30分のショートテストを実施する。これは講義の理解の程度を知るためであるが、このテストの評価を30%とし、定期試験を70%の評価とする。

教科書

必要に応じて講義のなかで紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|----------|------------------------------|--|-----|
| ヨーロッパ政治史 | 浦田早苗 うら た き なえ 浦 田 早 苗 | 禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・経営・短放 | 4 |

講義のねらい

現代西ヨーロッパの政治は、そこから多くのことを学んできた我々の先達が描いたほど理想的な状態で機能しているわけではなく、数々の矛盾にみちている。自由、平等の精神なり、『華やかなりし議会政治』の概念は、激動の現代政治のなかにあっては時として空虚な響きを投げかけてくることは否定できない。しかし、国家や政党、国民や民族といった西洋で生まれた近代政治の概念に再検討が迫られている今ほど、そうした概念の本質を成立した歴史過程のなかで考察することの重要性が問われたときはなかった。本講義では、近代ヨーロッパの歴史全般を概説しながら、ヨーロッパが抱える問題の本質を明らかにすること及び、現代政治を誤りなく把握する上で必要な基礎概念を検討することに視点が置かれている。

講義の内容・授業スケジュール

- 近代の始点—ルネサンス期と18世紀
- 英国革命とIRA
- ジャコバイトと英国王室
- 議院内閣制の成立変遷過程
- 英国における政治腐敗防止過程
- フランス革命と国家の概念
- フランス政治におけるジャコバン主義
- 「後発国型近代化」の問題点—ドイツの場合—
- 統合ヨーロッパの源流

成績評価の方法

前期レポート 7～8×400字 は任意ではあるが、年5～6回との出席点とともに学年末試験に加算する。試験はあらかじめ指示した5問から2題出題する。(ノートの持ち込みは不可)

教科書

特に教科書は指定しないが、さらに詳細な研究を望む学生には適宜参考書を推薦する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|----------------------|--|-----|
| 地 方 自 治 法 | とみ い ゆき お 富 井 幸 雄 | 禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短国・短放 | 4 |

講義のねらい

日本国憲法下における地方自治の法制度を体系的に理解する。すなわち、昭和22年に制定された地方自治法が具体的にいかなる意味をもち現実化されているか、憲法の意図する地方自治の理念がそこに具体化されているかを批判的に検討する。その際、現在進行している地方分権推進のシナリオは参考になる。

講義の内容・
授業スケジュール

地方自治法の体系に沿って講義を行う。前期は、憲法と地方制度の関係を比較法的ならびに歴史的に考察を行った後、地方公共団体の概念、住民の地位、自治立法権について議論を行う。後期は、地方公共団体の事務、組織、財政、地方公務員制度について勉強する。

成績評価の方法

前期試験（40％）と学年末試験（60％）で総合的に評価する。なお、出席は適宜とする予定である。単位認定のとき考慮することがある。

教 科 書

南博方他『行政法(3) (第3版)』(有斐閣双書) 1,800円

参 考 書 等

原田尚彦『地方自治の法としくみ』(学陽書房)。『地方自治判例百選 (第2版)』(別冊ジュリスト)

なお制度の概要を大まかに理解するには、鈴木正明他『図解 地方自治法』(良書普及会)は便利。地方自治の制度的問題を勉強するには、新藤宗幸『地方自治』(岩波書店)、同他『概説日本の地方自治』(東京大学出版会)は必読。

そ の 他

講義では頻りに法律の条文に言及するので、六法(『地方自治小六法』(学陽書房)があるがポケット六法でよい。)は必携。その都度チェックすること。憲法や行政法の履修者が望ましいが、少なくとも両法分野について高い関心を持つこと。わからないことは遠慮なく質問に来て欲しい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|----------------------|---|-----|
| 立法過程論 | まえだ ひで あき 前 田 英 昭 | 禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理・経済 商・法律・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

法律はどのような経過を経て、どのような人々の手によって、どのようにつくられるのかを勉強することによって、法律、政令、条例などの法令の起案の仕方や、社会生活において必要とされる規則のつくり方に習熟し、法令や規則の理解を容易にすることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

立法過程とは、立法を中心に議会でのさまざまな決定をめぐる繰り広げられる議会内外諸勢力の公式・非公式の相互作用の実質的な過程であり、狭義には、議会内部での法律制定に関する立法手続の諸過程をさす。今年度は、後者を主として対象とする。
[取り上げるテーマ] 立法過程とは、国会における審議過程。立法過程における政府の役割。立法過程における議員の役割。内閣提出法律案。議員提出法律案。内閣法制局と議院法制局。常任委員会制。法律の体裁と用語の解説。法律・政令・条例。政府委員。審議会。会議制。会議の公開。委任立法（行政立法）。法律と予算。法律の公布・施行。その他サッカーくじ法など個別法案。（順不同）

履修上の留意点

この講義は、公務員志望の学生、立法機関としての国会や地方議会に関心のある学生向きである。できるだけ出席して国会職員としての経験談も聞き講義のテーマに関連した時事問題の解説にも注目すること。

成績評価の方法

平常点と期末試験（ノート持ち込み可）

教科書

前田英昭『国会の立法活動』（信山社）

参考書等

小島和夫『法律のできるまで』（日本評論社）
浅野一郎『立法過程』（ぎょうせい）
前田英昭『国会の100年』（原書房）
岩井泰信『立法過程』（東大出版会）
林修三『法令用語の常識』（日本評論社）
中村睦男・前田英昭『立法過程の研究』（信山社）近刊

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|------------------------|---|-----|
| 比較政治学 | いわ さま まさ ひろ 岩 崎 正 洋 | 祥・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理・経済 商・法律・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

この科目で取り扱うテーマは、現代世界の民主主義諸国の政治に関する問題を、現代の比較政治学の理論の観点から検討することである。科目名は、「比較政治学」であるが、広義に捉えれば、「現代政治分析論」ということもできよう。

本講義では、比較政治学の基本的な理論の検討を通して、「比較政治学は現実政治を考える上でどのように役立つのか」という点を考える。比較政治学が研究対象とするのは、世界のあらゆる国々である。それ故、焦点を向けるのは、先進諸国だけではなく、また発展途上国だけだということでもない。先進国同士を比較することもあれば、発展途上国同士を比較することもある。さらには、先進国と発展途上国との比較を行うこともある。

本講義では、各国の政治現象を説明するさまざまな議論に言及し、現実政治の理解と政治理論の理解との間を架橋することを目的とする。この講義でとり上げる比較政治学の諸理論は、各国の政治の類似点や相違点を明らかにするための視点を提供することになるだろう。

講義の内容・授業スケジュール

以下のような項目に従って、比較政治学の理論を広範に見渡し、現実政治が政治理論によってどのように説明され、捉えられているのかを明らかにする。それにより、現実政治と政治理論との間の橋渡しを行うこととする。

- I 比較政治学の課題と方法
- II 政治システム
- III 政治発展
- IV 政治文化
- V 政治体制
- VI 連立政権
- VII コーポラティズム
- VIII 福祉国家
- IX 民主化
- X 政党システム

なお内容・スケジュールについては、現実政治の変動を受けて、若干変更することもあるので、その点に留意されたい。

履修上の留意点

この科目のみが学部内の政治学に関連する科目として独立して存在するのではないため、関連分野の他の科目と併せて履修することが望ましい。

しかし、本講義のテーマに関心をもつ者が初学者であったとしても、何ら履修上の差し支えはない。受講者の知識の習得と理解の増進に役立つような授業展開としたい。

日常生活や研究においても、この科目に関連する情報を、新聞や雑誌、ニュース、インターネットを通じて収集し、理解増進に役立てられたい(例えば、各国の選挙結果についてのデータ・アーカイブや政党や政府のホームページなど)。

成績評価の方法

原則として、定期試験およびレポートの評価を総合して行う。前期もしくは後期のいずれかを試験とし、もう一方の学期をレポートとするような形態を考えている。

ただし履修者の数などにより、その方式に変更がありうることを念頭に置かれたい。

教科書

教科書というかたちで、何か特定の書物を一年間にわたり使用することはないが、授業中に適宜、参考書および関連文献を提示する。

参考書等

講義の際に詳細な文献目録を提示するが、さしあたり、以下に挙げる書物は、比較政治学について考える際に役立つだろう。

- *M. ドガン&D. ベラッシー／櫻井陽二訳『比較政治社会学』（芦書房）1983年
- *西川知一編『比較政治の分析枠組』（ミネルヴァ書房）1986年
- *H. J. ウィアールダ編／大木啓介他訳『比較政治学の新動向』（東信堂）1988年
- *砂田一郎・藪野祐三編『比較政治学の理論』（東海大学出版会）1990年
- *青木一能・野口忠彦・岩崎正洋編『比較政治学の視座』（新評論）1998年
- *Jan-Eric Lane and Svante O. Ersson, *Politics and Society in Western Europe*, 3rd ed., (Sage), 1994.
- *Jan-Eric Lane and Svante O. Ersson, *Comparative Politics: An Introduction and New Approach*, (Polity Press), 1994.

その他

基本的に講義中心とする。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|-----------------------|---|-----|
| 現代国家論 | おお 大 塚 かつら 桂 | 禅・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理・経済 商・法律・経営・短国・短英 | 4 |

講義のねらい

福祉国家の見通しが叫ばれて久しい状況にあります。ありうべき国家とは何か、が今日の重要課題とされています。本講義は、諸君がいままで履修してきた政治学、憲法などの学科目の知識をふまえて、現代国家の実相にせまるのを目的とします。

さしあたって、現代国家を理解するには、国家概念の展開を理論（史）的に整理することからはじめるのが、ヘダーでしょう。政治学の発達を顧みるとき、政治学＝国家論であったことがわかります。講義では、隣接科目（憲法・行政法・政治哲学・政治思想史・政治史・行政学）の研究成果をとりいれながら「国家」の問題を討究していきます。国家論は総合科学としての性格をもつものといえるでしょう。

講義の内容・授業スケジュール

- A 国家論の課題ならびに研究方法
- B 国家学説の史的展開
 - ①古代国家学説 ②中世国家学説 ③近代国家学説 ④現代国家学説
- C 法治国家の構成原理
 - ①法治国家論 ②政治制度 ③官僚制 ④国家緊急権
- D 行政国家の構成原理
 - ①福祉国家 ②ネオ・コーポラティズム ③シティズンシップ ④きたるべき国家

成績評価の方法

受講生と相談の上で、以下のいずれかにより単位を認定します。

A方式（レポートによる単位認定）

～年4回の課題を提出してもらい成績を評価します。レポート作成を通して、読解力と書く能力を涵養します。

B方式（試験による単位認定）

～中間・期末試験により、成績を評価します。B方式のみ追・再試験を実施します。

教科書

大塚桂『現代国家へのアプローチ』（成文堂）3,000円

その他

上記テキスト所収の〈参考文献〉を参照のこと。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-----------------------|---|-----|
| 経 営 労 務 論 | か しま ひで あき 鹿 嶋 秀 晃 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放 | 4 |

講義のねらい

この講義では、現代の日本企業とそこに働く労働者が抱える経営労務問題を幅広く扱っていく。具体的には経営学と経営労務論、戦後日本経済と日本的経営論、経営労務学説史、終身雇用、年功序列賃金、企業別組合制度、福利厚生制度、異動と昇進、人材形成、日本の生産システム、ホワイトカラーの労働問題、女性労働問題、90年代の労働問題などの小テーマを設けて講義していく。学生には講義を受講することで企業と労働、社会について幅広い問題関心を持ってもらいたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義は1コマ1テーマの原則。各回の最初に「日本は本当に終身雇用なのか？」といったように問題点を掲げ、その解説をおこなう。

履修上の留意点

詳細は最初の講義で説明をするので、初回は重要。出席は取らないので、出席点はなし。私語は他の学生に迷惑になるので遠慮してもらいたい。

成績評価の方法

学期末の試験のみによる。内容はA方式：①空欄補充問題（約50点分）②論述問題1問（約50点分）の計100点、またはB方式：論述問題1問（100点）のいずれかを選択のこと。詳細は初回の講義で説明する。

教 科 書

テキストは津田真澄『人事労務管理』（ミネルヴァ書房）1993 定価3,000円程度

参 考 書 等

労務学説史をわかりやすく説明したものとして渡辺峻『企業組織の労働と管理』（中央経済社）1995 定価2,600円程度、経営労務をより体系的に深く学習するのによい白井泰四郎『現代日本の労務管理第2版』（東洋経済新報社）1992 定価3,500円程度をあげておく。この他にも講義の中で適宜いろいろな文献を紹介していく。

そ の 他

授業は講義の形式でおこなうが、図表やグラフを多用し、ただ聞いてノートを取るだけでなく「頭をつかう」ような形にする。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|------|--|----|
| 国際経営論 | 茂垣広志 | 祥・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短放 | 4 |

講義のねらい

国際経営とは、「国境を越えて事業展開しているその各拠点間の諸活動をどのようにマネジメントするのか？」という課題に取り組んでいる経営学の一領域である。したがって、既存の経営諸理論を基礎として、各事業拠点を高度に海外に分散化した多国籍企業特有の問題を扱っている。本講義のねらいとしては、経営戦略論、マネジメント論、組織論等をベースとして、比較経営論ないし異文化経営論の視点を加味して、多国籍企業の戦略行動とマネジメントを考える際の基本的フレームワークについて、種々の理論（アプローチ）、データ、ケースを援用し考察していきたい。つまり、企業の国際化、多国籍化にまつわる諸現象を企業経営の観点から多面的に捉え、検討することを通じて、国際経営に関する理解を深めることを目的としている。

講義の内容・授業スケジュール

海外に拠点を高度に分散化している MNC にとっての大きな課題は、それら拠点の現地化（適応性）の要請とグローバルな統合化（効率性）の要請のバランスないしその同時達成である。日本企業の場合、急速な海外展開と日本のマネジメントの特徴から、アメリカ系および欧州系 MNC と異なる様相を示している。授業では、その日系 MNC の戦略及びマネジメントの特徴を理論、欧米系 MNC との比較、ケースを通じて理解し、課題ないし問題点を理解することに主眼を置くことにする。より具体的には、以下のような内容を予定している。

- I. 国際経営のフレームワーク（隣接領域との異同と関連性）
- II. 企業の多国籍化を説明する諸理論の検討（IPLC 仮説、寡占反応仮説、差別化優位仮説、内部化優位仮説、経営資源優位仮説、折衷仮説等）
- III. 国際経営／企業多国籍化の発展段階モデル（ロビンソン・モデル、小林モデル、マッキンゼー・モデル、ルートの海外市場参入段階モデル、EPRG モデル等）
- IV. 国際経営の戦略選択モデル（国際競争戦略）
 1. 国際競争優位性（規模の経済・範囲の経済・連結の経済、比較優位・国家特殊優位性）
 2. 国際競争戦略の類型（ポーター・モデル、ドズ＝プラハラード・モデル、バートレット＝ゴシヤール・モデル等）
- V. 国際戦略と国際経営管理
 1. マクロ構造（国際事業部制、世界的地域別構造、世界的製品別構造、世界的マトリックス構造）とミクロ構造および内部ネットワーク
 2. 欧州系 MNC とアメリカ系 MNC の戦略およびマネジメント上の特徴（経営伝統と現状）
 3. 日系多国籍企業の海外子会社マネジメントの特徴（その現状と課題）
- VI. 国際マーケティング戦略
 1. 海外市場参入と現地マーケティング戦略の展開（現地マーケティングミクス）
 2. 国際マーケティング戦略における現地適応化とグローバル標準化
- VI. 日本企業の国際化と人的資源管理
 1. 異文化マネジメント
 2. 海外派遣社員の人事管理
 3. 国際人的資源管理（能力開発、処遇、キャリアデベロップメント）
- VII. 国際研究開発戦略
 1. R&D の集中化と分散化
 2. 規格競争と戦略提携（R&D コンソーシアの形成）

以上が講義内容の要目であるが、講義では単なる理論の紹介のみならず、各種調査データや具体的な企業のケースを通じて理解を深めていきたい。

履修上の留意点

経営学、経営戦略論の知識があった方が理解しやすいので、そのような関連科目を既に履修しているか、現在している方が望ましい。ただ、授業中にも概説する。

成績評価の方法

成績は、出席状況および期末試験の結果により判断します。

教科書

茂垣広志・池田芳彦『国際経営論』（学文社）2,800円＋税

参考書等

根本孝・諸上茂彦『国際経営の進化』（学文社）

その他

講義が中心であるが、その際 OHP ないしプロジェクターを用いてビジュアル的な授業を行う。その際、使用資料について配布する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|-------------------|--|-----|
| 商 業 史 | やま だ まさる 山 田 勝 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短国・短放 | 4 |

講義のねらい

商業経営の歴史的発展の過程を、文化との関係に留意しながら講義する。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容の主なテーマは次のとおりである。

- | | |
|-----------------|---------------|
| (1) 商業史の視点 | (6) 継 続 性 |
| (2) 歴史研究とパラダイム論 | (7) 流 通 量 |
| (3) 利 潤 | (8) 大衆消費社会の特質 |
| (4) 商 品 | (9) 価 格 革 命 |
| (5) 市 場 | (10) 情報社会と商業 |

履修上の留意点

講義を聴くことのみが学習の方法ではないが、講義は各自の学習の導きとしては有益であると思う。出席はとらないが、聴講に努めて欲しい。質問は歓迎する。
教場での私語は他人の迷惑となるので厳禁とする。必要があれば教場から出て話すこと。

成績評価の方法

成績評価は定期試験による。

教 科 書

山田勝著『現代商業史』（創成社）2,800円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-------------------|---|-----|
| 保 險 経 営 論 | いしなざかにあき 石名坂邦昭 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放 | 4 |

講義のねらい

本講義においては、保険学のアプローチとして近年一般化しつつあるリスク・マネジメントの基本的事柄につき理解した後に、保険理論の基本的知識を正確にし、わが国の保険事業並びに一般企業がかかえているリスクに関する諸問題にどのように対処したらよいかの応用能力が持てるようになることを目標とする。

講義の内容・
授業スケジュール

保険学の研究は、保険法学的アプローチ、保険経済学的アプローチ、保険経営学的アプローチとそれぞれの時代を背景に論じられてきた。今日、保険学研究については保険経営学的研究をより発展させた「危機管理論」(リスク・マネジメント)研究が主流となっている。本講義においては、最初にリスク・マネジメントの基本的体系について論じ、リスク・マネジメントの理論、歴史的発展について見た後に、リスク・マネジメントの中心となる保険の機能、保険本質、保険技術について詳しく見ていきたい。

前期はリスク・マネジメントを中心とした講義を行い、後期に保険論を中心とした講義を行う。講義は理解しやすいように工夫をこらしていく。教科書は使用するが、それは本講義を理解するための基本的共通知識として使用し、講義は教科書に書かれている事柄が理解されていることを前提として進めていく。

履修上の留意点

保険およびリスク・マネジメントを理解するためには使用される専門用語を理解されなければならない、学ぶことも広範囲にわたるため、講義を受ける前に必ず教科書を読み講義後の復習も忘れないようにしてほしい。学生諸君の積極的な授業への参加を望む。

成績評価の方法

講義への出席状況及び授業時の態度と定期試験の結果を総合して成績評価を行う。

教 科 書

石名坂著『リスク・マネジメントの理論』(白桃書房) 3,500円

参 考 書 等

石名坂著『ファミリーリスク・マネジメント』(白桃書房)
石名坂著『リスク・マネジメントの基礎』(白桃書房)

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-----------------------|--|-----|
| 経 営 分 析 論 | かた ぎり のぶ お 片 桐 伸 夫 | 禪・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短放 | 4 |

講義のねらい

経営分析とは、文字どおり「企業の経営を分析すること」であり、かなり多方面にわたる内容をもっています。

皆さんが将来を託そうとする会社は、

- 1 財政的に安定しているだろうか (安定性分析)、
- 2 「儲け」はどうかだろうか (収益性分析)、
- 3 経営活動の成果はきちんと配分されているだろうか (生産性分析)、
- 4 長期的な会社の「伸び」はどうかだろうか (成長性分析)、また、
- 5 社会に対してどのように貢献しているだろうか (社会性分析)、

といった内容です。

講義の内容・
授業スケジュール

前期は、企業の毎期の経営活動を報告する「貸借対照表」や「損益計算書」などの「財務諸表」の読み方をまず説明し、安定性・収益性分析を学習します。

後期は生産性・成長性・社会性分析や、さらに、損益分岐点・利益増減その他の分析をとりあげます。

「各自が企業の経営を分析できるようになる」ため、教科書で必要最小限の理論を学び、ただちに、新聞などの最新のトピックによって企業の現実にふれます。

履修上の留意点

この授業の目的は、「財務諸表分析」を中心に、各人が就職を希望する、あるいは興味を持っている会社の「分析」をしていただくことにあります。つたなくても、ささやかでも、その成果は皆さんの貴重な「財産」です。

成績評価の方法

成績評価はレポートと学年末試験で行います。

*レポート・テーマ：前期「各自が関心を持っている企業の収益性・安定性分析」

：後期「各自が関心を持っている企業の成長性その他の分析（続）」

☆提出日（授業はじめに配布するシラバスに明記）以外は受け付けませんのでご注意ください。

*テ ス ト 範 囲：財務諸表数値を用いた経営比率の算出問題。

☆質問は授業以外にも研究室2307号室で随時受け付けますので、遠慮なくおいでください。

教 科 書

渋谷武夫著『経営分析の考え方・すすめ方』（中央経済社）3,568円

参 考 書 等

随時、紹介します。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|------------------|---|----|
| 税務会計論 | たかき かつみ 高木 克己 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉 心理・法律・政治・短放 | 4 |

講義のねらい

今日、租税は我々個人にとっては、所得税、相続税等の問題として、また、企業にとっては、法人税の問題が大きな関心事として存在している。ここ数年、法人税も税率の引き下げをはじめ、多くの改正が行われている。本講義では、普通法人（株式会社等）を前提とした法人税の算定過程を中心に講義を進めていく。

税務会計とは、一般に企業における課税所得の算定過程を研究する分野をいう。この課税所得は、商法あるいは企業会計原則等によって算出された利益にもとづいて算定される。そこでは、法人税法固有の規定（いわゆる別段の定め）が適用され、負担の公平、簡便性、あるいは政策的配慮等さまざまな考え方が反映されている。講義では、こうした税法固有の考え方の根拠、背景等を出来るだけやさしく説明しながら、今日、法人税法の抱えている問題点を明らかにしていきたいと考える。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容の概要は次のとおりである。

1. 法人の種類及び課税所得の範囲等
2. 同族会社と青色申告
3. 課税所得の計算構造
 - (1) 企業利益と課税所得の関係
 - (2) 益金の額及び損金の額
 - (3) 公正処理基準及び資本等取引
4. 収益の計上基準についての原則的な考え方
 - (1) 引渡基準
 - (2) 特殊販売収益の計上基準
 - (3) 役務、請負、譲渡収益等の計上基準
5. 受取配当金益金不算入
6. リース取引
7. 給与（報酬、給料、賞与）の税務処理基準
8. 交際費及び寄付金
9. 有価証券、棚卸資産、固定資産、繰延資産等の税務処理
10. 圧縮記帳
11. 引当金と準備金
12. 企業を巡る国際課税の問題
 - (1) 移転価格税制
 - (2) タックス・ヘイブン対策税制
 - (3) 外国税額控除制度
13. 法人税額の計算

履修上の留意点

「簿記学」「会計学」等の基礎的な会計科目を修得した上で履修した方がより理解が深まると思われる。

成績評価の方法

原則として学年末の試験によって評価する。レポートは年1回程度提出を求める。

教科書

開講時に指示する。

参考書等

開講時に指示する。

その他

毎回出欠をとるかどうかは、初回の講義の中で受講生諸君と相談して決めたい。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|--------------------|--|-----|
| 経 営 情 報 論 | たか い てつ 高 井 徹 雄 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短国 | 4 |

講義のねらい

経営スタッフの役割は、意思決定を支援すること、すなわち、意思決定者が適切な意思決定を行えるよう、決定の指針となる情報を提供することに外ならない。

本講義では、将来、企業や官庁における経営スタッフを目指す諸君のために、経営情報に関するシステムの観点と、情報利用技術の基礎について解説する。

講義の内容・
授業スケジュール

I. 経営情報とシステムの観点（前期）

(1) 科学とシステムの観点（4月～5月：4週）

情報学のバックグラウンドにある考え方や知識について整理する。科学の方法とシステムの形質のものの見方、それに基づく問題へのアプローチとはどのようなものかについて理解を深める。

(2) 情報学の基礎と周辺領域（5月～6月：5週）

情報処理技術に関わる基礎的な勉強をする。主としてコンピュータベースのシステムによる情報の取り扱いに関し、知っておくべき基礎的事項について整理する。

(3) 情報環境の発展と経営における利用（6月～7月：5週）

経営の場における意思決定と情報利用技術の関わりについて学ぶ。企業における情報利用の形態の変遷を概観する。また、インターネットと同様な環境をベースとした、イントラネット・エクストラネットに触れ、現在から近未来における戦略的な情報の利用とはどうあるべきかについて考察する。

II. 情報の利用技術（後期）

(1) 多変量データ解析（9月～10月：7週）

調査収集された生のデータは、そのままでは情報としての価値はない。データを加工・分析し、それが表す意味を解釈することで初めて意思決定のための情報が得られる。ここでは、定量的データを分析するための、重回帰分析、主成分分析、判別分析法を、またアンケート調査などで得られる定性的データを分析するための数量化I、II、III類法について、その原理と適用方法を学ぶ。

(2) シミュレーション（11月～12月：4週）

複雑な対象の動的な特徴を分析するための有力な方法としてシミュレーション技法がある。ここでは、モンテカルロ法など乱数を用いる基礎的方法に触れた後、離散系シミュレーションモデルの構築方法を学ぶ。

(3) DSSとES（12月～1月：3週）

人工知能の原理と、その経営の場での応用として期待されるDSS（意思決定支援システム）、ES（専門家システム）の概要について学ぶ。

※なお、適宜（前期3、後期5回程度）、情報教育センターのコンピュータルームを利用して実習形式で授業を行う。

成績評価の方法

前期、後期末に実施する筆記試験に基づき評価する。
その他、出席状況と実習授業時の課題も評価に反映する。

教 科 書

高原康彦・高津信三編、高井徹雄他著『経営情報システム』（日刊工業新聞社）3,200円
上記教科書の他に、適宜プリントで補足する。

そ の 他

情報処理基礎、統計原論を先にまたは同時に履修しておくことが望ましい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------|-----------------|--|-----|
| 情報理論 | にしむらかずお 西村和夫 | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短国 | 4 |

講義のねらい

近年では日常的に使われる言葉となっている“情報”の本質を探ります。主に、情報の量（情報量）を定義したシャノン（C. E. Shannon）流の情報理論について講義します。

この授業を受講すれば、ある通報や記号のもっている情報量を、具体的な数値として（ビットという単位で）計算できるようになります。これによって、たとえばDNAの情報をつロッピーディスクに記録するために十分な枚数が、たちどころに計算できるようになります。

また、情報量の期待値（平均値）であるエントロピーという概念も理解できます。これは、経営情報論、符号理論、通信理論、暗号理論などで利用される重要な概念です。

講義の内容・
授業スケジュール

| 月 | 回数 | 内 容 |
|----|----|---------------------------------|
| 4 | 3 | 授業内容概説、情報とは、情報量への要求 |
| 5 | 3 | 対数の原理と性質、計算練習 |
| 6 | 4 | 情報量の定義、練習、情報量の利用 |
| 7 | 3 | 暗号系と用語、古典的な暗号 |
| 9 | 2 | 現代的な暗号、暗号技術を使ってできること |
| 10 | 2 | 符号化（JISコード、万国共通文字符号）、対数・情報量の間試験 |
| 10 | 2 | 確率過程およびマルコフ過程 |
| 11 | 2 | 遷移確率と同時確率 |
| 11 | 1 | エントロピーの定義 |
| 12 | 2 | 冗長度、言語のエントロピー |
| 12 | 1 | 価格以外の情報がない場合の市場占有率予測 |
| 1 | 1 | チェック桁、情報の圧縮と乱数、デジタルとアナログ |

履修上の留意点

4年生が履修するのは困難です。2～3年生のうちに履修しておくように強く奨めます。また、毎回出席して計算練習に参加していないと、試験問題を解くことは無理でしょう。

内容の性質上、確率と対数に関する多少の数学的知識が必要になりますが、これらについて全く知らなくても理解できるように配慮しています（上表5月参照）。

成績評価の方法

10月の中間試験（30%）と定期試験（70%）との合計点によります。

教科書

クイズと計算練習を適宜とりいれます。また、OHPとプリントを使います。適当な教科書はありません。

参考書等

各種の参考書をそのつと紹介します。

その他

〔関連科目〕→ 経営情報論

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------|-------------|--|-----|
| 経営統計 | ちょう 国 きょう 強 | 禪・仏教・国文・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・法律・政治・短放 | 4 |

講義のねらい

統計と企業経営の関わりについてを展開する経営統計とは、分析目的に対応して主に経営情報としてのデータを収集・処理・分析し、複雑な現象を理解すると共に、データを生成した集団や構造についてを予測し、いろいろな意志決定をサポートすることである。経営的意志決定において最も重要なことは、将来の経営状況をどう見るかであり、その予測に対して経営統計は十分な役割を果たされるはずである。

この講義では、企業経営における統計データの具体例を数多く取り入れることによって、経営統計の手法をわかりやすく説明していく。また、数学苦手の学生を配慮し、講義の内容説明は微積分などの計算をいっさい用いず、数式の使用も必要最小限に止める。

講義の内容・授業スケジュール

予定している講義内容は以下の通りである。

| | | |
|------------|-------------------|----|
| 経営統計について： | 経営統計の役割、基礎概念 | 1回 |
| 統計特性値： | 平均、分散、正規分布 | 2回 |
| 市場調査と統計整理： | 調査の諸段階、標本設計、データ整理 | 6回 |
| 統計推測： | 標本分布、区間推定、仮説検定 | 2回 |
| 前期復習と中間試験： | (七月中旬) | 2回 |
| 経営時系列： | 季節指数、時系列予測 | 4回 |
| 経営指数： | 物価指数、数量指数 | 2回 |
| 分散・回帰分析： | 一元配置法、相関係数、最小2乗法 | 3回 |
| 統計的意志決定理論： | 意思決定基準、期待効用理論 | 2回 |
| 後期復習と定期試験： | (翌年一月中旬) | 2回 |

履修上の留意点

年間6回程度の演習問題を適時に配布し、それを独自かつ理解的に解ければ、中間試験や定期試験に心配する必要はない。

成績評価の方法

講義への出席状況と中間・定期試験の結果により総合的に判断する。

教科書

特に使用しないが、プリントは適時に配布する。

参考書等

西田俊夫・田畑吉雄共著『経済・経営の統計学』（培風館）1992
守口栄一・竹田仁共著『経営数学：経営統計とその応用』（日本理工出版社）1992

その他

統計学、あるいは統計原論を先にまたは同時に履修することが望ましい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|------|---|-----|
| 上代文学講読 | 佐原作美 | 禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放 | 4 |

講義のねらい

授業では『万葉集』を対象にその講読を行う。『万葉集』は承知のごとく、舒明朝(629-641)の頃から奈良朝の天平宝字3年(759)までの約120年間の和歌約4,500首が収められている、わが国最大の和歌集である。そこで授業では、『万葉集』の中から代表的な歌人で個性豊かな、山上憶良等の和歌を中心に講読していきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

『万葉集』を理解するには、作品を読解し作者を知るほかに、当時の歴史や社会的文化的な背景を視野に入れながら読んでいくことが大切である。そうした点を考慮に入れ踏まえながら、作品を読んでいきたい。

成績評価の方法

レポートや出席状況をもって評価する。

教科書

土橋 寛編『作者別 万葉集』おうふう(桜楓社)刊 1,800円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|------|---|-----|
| 中古文学講読 | 鈴木裕子 | 禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放 | 4 |

講義のねらい

『源氏物語』は、それが書かれた平安の昔からたくさんの人々に読み継がれて来た日本文学の傑作です。『源氏物語』のどこにそのような価値があるのでしょうか。受講者一人一人に答を見つけてもらいたいと思います。そのためには、とにかく原文を自分の力で読まなくてはなりません。作品を正確に読み、理解し、感じ、考え、といったことを授業を通して繰り返し、最後には、他者の評価を鵜呑みにするのではない、自分自身の『源氏物語』評価がもてるようになるとよいと考えています。

講義の内容・
授業スケジュール

今年は、初音の巻から読みます。完成した六条院に玉鬘を迎え、いよいよはなやかに我が世の春を誇る光源氏。いわゆる玉鬘十帖の構造や意味についても理解を深めていきたいと思います。

履修上の留意点

授業は、テキストを用いての講義を中心に行ないます。が、教師の一方通行にならないように、受講生の積極的な質問や感想・意見など建設的な発言は歓迎します。

成績評価の方法

期末に試験を行ないます。(前期一回、後期一回) その他、授業中に適宜レポート等を課し、出席状態などの平常点を加味して評価します。

教科書

『源氏物語四』新潮日本古典集成(新潮社)

参考書等

秋山虔・室伏信助編『源氏物語必携事典』(角川書店)

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|------------|---|-----|
| 中世文学講読 | その 園 部 幹 生 | 禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放 | 4 |

講義のねらい

中世文学の中から、本年度は『御伽草子』をとりあげる。『御伽草子』は、「一寸法師」「浦島太郎」「物くさ太郎」「鉢かづき」「酒呑童子」その他（狭義では二十三編）のたいへんによく親しまれた作品群であるが、古典の原文を読むことで、幼い頃に親しんだ御伽話とはまた異なる作品世界を味わいたい。作品それ自体が持つおもしろさを堪能することも講座のねらいではあるが、加えて、それ以前の古典作品とは質的に変貌してきた中世文学のあり方や享受の問題について考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

前後期を通して、『御伽草子』の中の作品を出来るだけ多く講読する。

履修上の留意点

毎時間、その日の講義内容に対する意見文の提出を求めるので、必ず原稿用紙を持参すること。

成績評価の方法

毎時限に提出する意見文によって50点分を評価し、12月末の時間内に50点満点の筆記試験を行う（試験はテキスト・ノート・辞書・参考書等何でも持ち込み参照可）。なお、追再試験はレポート提出とするが、これについては1月の授業時間内に指示するので、必ず出席すること。

教科書

臼田甚五郎・藤島秀隆・岡田啓助・成田守編『御伽草子』（おうふう）1,848円

参考書等

必要に応じて時間内に指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|-----------------|---|-----|
| 近世文学講読 | かん の かず お 野 一 雄 | 禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放 | 4 |

講義のねらい

現在の劇場で上演される「文楽」は、「浄瑠璃」演奏による人形芝居で、世界の人形劇の中で独特なものである。この「浄瑠璃」とは、中世後期に発生し、近世に発展・盛行した芸能である。浄瑠璃詞章の作者として代表的なのが近松門左衛門である。近松はたくさんの名作を残したが、『曾根崎心中』は元禄16年に初めて身の廻りの町人の生活から取材して書いた作品で、大当りをとったものである。醤油屋の手代徳兵衛と遊女お初が、愛し合っているが心中に至ってしまう物語で、現在の「文楽」でも繰り返し上演される人気演目である。

この講義において、浄瑠璃とはどういうものか、近松はどういう作品を作ったか、『曾根崎心中』の二人の主人公やその周囲の人々に近松がどういう眼を向けていたか、何を観客に訴えようとしていたか、などを学習して考えてもらう。

講義の内容・授業スケジュール

浄瑠璃の歴史、近松門左衛門の略歴などを説明し、『曾根崎心中』をくわしく読む。言葉の意味、引用されている先行作品、表現技巧などをこまかく吟味し、現在の「文楽」で上演する形態も適宜考察しながら読んで行く。

履修上の留意点

だいたい講義式で進める。時々全員での斉読を行う。毎時出欠をとる。学生の私語や無礼には厳しく対応する。

成績評価の方法

随時小テスト（テキスト・ノート携行）を行い、その結果と出欠状況などを総合して評価する。

教科書

祐田善雄校注『曾根崎心中・冥途の飛脚他五篇』（岩波文庫）

参考書等

講義の進展につれ、随時参考資料や観劇資料を紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------|----------------|---|----|
| 近代文学講読 | いしわりとある 石割透 | 禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放 | 4 |

講義のねらい

1910年代から1920年代に発表された、わが国の代表的な小説を、多様な角度から読み、同時代の文学史、表現史の検討の一助としたい。

講義の内容・授業スケジュール

扱う作品は芥川龍之介「奉教人の死」「秋」「歯車」、谷崎潤一郎「少年」「幫間」「痴人の愛」志賀直哉「十一月三日午後の事」「雨蛙」、内田百閒「冥途」「施順入城式」宇野浩二「蔵の中」など。また、それらの作品や時代に共通する課題をかかえた菊池寛、近松秋江、江戸川乱歩などの作品も自由にとり入れて、この時代の文学の問題を考えていく予定。

履修上の留意点

文庫本などで接することが難しい作品を扱う場合もあるが、そうした作品も、受講者は必ず授業でとりあげる作品を前もって読んで授業に臨んでほしい。

成績評価の方法

レポートなどでは、これまでの研究文献にもたれかかることのない、斬新な視覚によるものを期待したい。

教科書

『奉教人の死・煙草と悪魔』『大導師信輔の半生・手中・湘南の扇』（以上、岩波文庫）、谷崎潤一郎『刺青・秘密』（新潮文庫）、『美食倶楽部－谷崎潤一郎大正作品集』（ちくま文庫）、志賀直哉『小僧の神様・城の崎にて』（新潮文庫）、内田百閒『冥途・旅順入城式』（岩波文庫）

参考書等

授業時に適宜指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------|------------------|---|----|
| 現代文学講読 | あんどうこうすけ 安藤幸輔 | 禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉・心理 経済・商・経営・短英・短放 | 4 |

講義のねらい

「戦後文学」の代表的作家の作品を講読する。すなわち、
 ・太宰治『富嶽百景』『斜陽』『お伽草子』『ヴィヨンの妻』『駆け込み訴え』など。
 ・坂口安吾『風博士』『桜の森の満開の下』『青鬼の禪を洗う女』など。
 ・大岡昇平『俘虜記』『武蔵野夫人』など。
 ・三島由紀夫『金閣寺』『橋づくし』『近代能楽集』など。
 (上の各作家の作品は、掲げることのできなかつた作品も扱いたい。受講生が手にしやすい文庫本に収録されているものを選ぶようにするため、作品や順序に変更があるかもしれない。)

教科書

テキストは、そのつど指示する。

参考書等

参考文献は、そのつど指示する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|--------------------------------|-------------------------------|--|-----|
| 英 語 演 習 I 〔 英 語 音 声 の 基 礎 〕 | Ashwell, Tim (アシュウェル, ティム) | 禅・仏教・国文・英米文 地理・歴史・社会 福祉・心理・短国・短放 | 4 |

講義のねらい

It is hoped that by taking this course students will become proficient in aspects of the spoken language which may have been overlooked in their English language education to date, namely word and sentence stress, discourse stress and the equally important feature of reduction. By developing these aspects, it is hoped that students' listening comprehension will improve as well as their production of spoken English.

講義の内容・
授業スケジュール

Part of each lesson will be devoted to exercises from the textbook, 'Clear Speech', but time will also be set aside for working on the skills necessary to give an effective oral presentation in English. Facilities permitting, it is also hoped that students will engage in shadow speaking exercises, recording their own voices on tape alongside a model. Emphasis will, in any case, be laid upon the recordings students make for homework.

履修上の留意点

Students are expected to attend all classes and to be punctual. Reasons for absence are expected to be communicated to the teacher preferably in advance. Unexcused absences or lateness will incur penalties in the final grade.

成績評価の方法

"Grades will be based" on: 1). effort shown in class: 2). homework: 3) presentations: 4). attendance.

教 科 書

Clear Speech by Judy Gilbert (Cambridge University Press)

そ の 他

Students should buy a 90 minute cassette.

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|--------------------|---------------------|---------------------------------------|-----|
| 応 用 計 測 学 (前 期) | かし 尾 英 次 榎 尾 英 次 | 禅・仏教・英米文・地理 歴史・社会・福祉 心理・経済・商・経営 | 1 |

講義のねらい

放射線機器工学を2年次に学習し、医用機器工学を3年次に学習するが、これらの講義で含まれなかった重要な機器について行う。

医用画像診断装置を主体とするが、生体電気計測および生体磁気計測についてもそれらの基本を学ぶ。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1) 核医学診断装置
 - 放射性核種および放射線計測の基礎
 - ガンマカメラ
 - SPECT
 - PET
 - 核医学データ処理装置およびソフトウェア
- 2) X線診断装置
 - CR (Computed Radiography)
 - DSA (Digital Subtraction Angiography)
- 3) 超音波診断装置
- 4) PACS (画像管理システム)
- 5) 生体電気計測
- 6) 生体磁気計測

履修上の留意点

あらかじめ放射線計測学および放射線機器工学を習得していること。国家試験で核医学機器関連に対応できるよう講義するので全員受講することが望ましい。他学科にあっては高校で物理を習得していることが望ましい。

成績評価の方法

定期試験および出席状況により評価する。

教 科 書

教材としてプリントを使用する。

3 短大仏教科開設科目

3 短大仏教科開設科目

| | |
|---------------------|-----|
| インド・チベット仏教演習 (木村誠司) | 147 |
| 中国仏教演習 (奥野光賢) | 147 |
| 仏教思想演習 (袴谷憲昭) | 148 |
| 仏教文学演習 (石井公成) | 148 |

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------------------|------|----------|-----|
| インド・チベット 仏教演習 | 木村誠司 | 禅・仏教3・4選 | 4 |

講義のねらい

ダルマキールティは、後世に絶大な影響を与えた仏教論理学者である。彼の思想に関する知識なしでは、インド・チベット仏教の理解は不可能であろう。本講義では、ダルマキールティの著作を実際に読むことを目標とするが、まず始めは、その前提となるいくつかの基本的な事柄を講義する。

成績評価の方法

成績評価は、筆記試験あるいは、レポートによって行う。

教科書

資料・テキスト等は、適宜配布する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|------|----------|-----|
| 中国仏教演習 | 奥野光賢 | 禅・仏教3・4選 | 4 |

講義のねらい

この授業は純然たる「演習」科目なので、本来は毎週当番をきめて実際に文献を購読してもらうのが建前であるが、慣れるまでのしばらくの期間は丁寧に指導を行なう。一年間、徹底的に一つの文献に接することによって読解力を養成するのが本演習の目的である。

講義の内容・
授業スケジュール

本年度は鎌倉時代の碩学、凝然（1240-1321）の『八宗綱要』を講読する。『八宗綱要』は古来、簡にして要を得た仏教概論として読みつがれてきた古典的名著で、今日の研究水準から見ると部分的に誤りはあるものの、その価値はいささかも減るものではない。本演習では、その講読を通じて中国仏教各宗の歴史と基本的教義の把握を目標とする。その際、本演習はあくまで「中国仏教演習」であるので、随時中国撰述の文献も参照していく予定である。

履修上の留意点

演習科目なので、十分な事前の下調べが必要である。受講にあたっては、その点をあらかじめ認識しておいてもらいたい。下調べの方法は丁寧に指導を行なう。何よりも必要なことは自分で調べてみよう、読んでみようという意欲である。

成績評価の方法

演習科目なので、出席とレポートによって評価する。したがって、欠席の多い学生は、成績評価の対象としないのであらかじめ留意されたい。

教科書

プリントを配布する。

参考書等

鎌田茂雄『八宗綱要』（講談社学術文庫）、その他の参考書、受講にあたって是非揃えて欲しいもの等は開講初日に指示する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|--------|------------------------|----------|-----|
| 仏教思想演習 | はかま や のり あき 袴 谷 憲 昭 | 禅・仏教3・4選 | 4 |

講義のねらい

この授業は、日本における仏教思想の展開を検討していくために必要な仏教思想を取り上げ、それを素材に、仏教思想とはなにかを具体的に考えていく、演習形式で進められるクラスである。本年度は、日本の浄土思想一般の形式に大きな影響を及ぼした、中国三論宗の大成者吉蔵の『観無量寿経義疏』を最初から購読する。

講義の内容・授業スケジュール

上記より推測されうと思う。

履修上の留意点

常に出席して自ら講読に参加すること。

成績評価の方法

平常点

教科書

同上。大正蔵、37巻、233頁中-245頁下を底本として講読する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|--------|-----------------------|----------|-----|
| 仏教文学演習 | いし い こう せい 石 井 公 成 | 禅・仏教3・4選 | 4 |

講義のねらい

仏教は総合的な文化体系であって文学・音楽・美術・医学・建築その他の領域にまたがっており、それぞれの国の文化に大きな影響を与えている。本講座では、仏教文学と呼ばれる作品だけでなく、経典・論書・戒律などであっても文学的に価値の高い仏教文献をとりあげ、そこに現れた思想と表現の関係について検討すると同時に、それぞれの国の文化の特徴について考察を加える。漢文・古文の文献を主とするが、現代日本語訳や英訳を用いる場合もある。

講義の内容・授業スケジュール

男女の愛情・無常・自殺・夢その他のテーマを選び、そうしたテーマにかかわる文献をいくつか比較しながら読んでゆく。テーマについては希望のものがあれば考慮する。

履修上の留意点

学生諸君への問いかけと応答を通じて検討を進めてゆくと、積極的に参加しようとする意欲が必要である。希望する文献を選んで発表してもらおう機会を持つようにしたい。

成績評価の方法

期末試験とレポートによるが、討議などに積極的に参加していた者については評価する。

教科書

教科書を使用せず、コピーを配布する。

参考書等

テーマが決まった段階で、参考書や参考文献を指示する。

4 随意科目

4 随 意 科 目

| | |
|-------------------------------|-----|
| 英 語 (海 外 演 習) | 153 |
| 日 本 宗 教 文 化 史 (池 上 良 正) | 153 |
| 民 間 信 仰 論 (谷 口 貢) | 154 |
| 書 道 史 (那 須 隆 吉) | 154 |
| 編 集 実 務 (長 谷 川 孝) | 155 |

| 科目名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------------|------------------|-----|
| 英 語 (海外演習) | 全学科・短大 1 年次 ~ | 2 |

講義のねらい

この科目は本学の海外協定校であるクインズランド大学(オーストラリア)、プリティッシュ・コロンビア大学(カナダ)、エクセター大学(イギリス)、カリフォルニア大学アーバイン校(アメリカ)における短期留学英語セミナーでの4週間におよぶ現地での集中演習を中心としておこなわれる英語随意科目である。受講対象学生は全学部・短大の1年次生から卒業年次生までとする。

成績評価の方法

現地演習後に四大学より受講生の成績・評価等が出される。受講生には単位の認定がなされる。

そ の 他

受講希望者は、国際センターの短期留学英語セミナーに参加申込みをする。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|------------------------|----------------|-----|
| 日本宗教文化史 | いけ がみ よし まさ 池 上 良 正 | 禅・仏教 2 年次 ~ | 4 |

講義のねらい

主として東北地方や沖縄地方の民俗・民衆的な宗教現象の具体例を紹介しながら、日本の宗教文化を根底から支えてきた基盤の広がり、その独特の性格などを考えてみたい。具体的には、日本人の運命観、死生観、靈魂観、系譜へのこだわり、「のろい」「うらみ」などの情緒への対処、「平等」に対する感性、などが話題になろう。

講義の内容・
授業スケジュール

なるべく具体的な事例の考察を中心に話を進めたい。特に、東北地方のイタコ、カミサマ、沖縄地方のユタ、ムスシリなど、民間巫者などの総称によって捉えられてきた「野の宗教者」の世界に光を当てる。前期は東北地方、後期は沖縄地方の話が中心となる。

成績評価の方法

年度末のレポートによる。

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

授業中に適宜紹介する。

そ の 他

スライド・ビデオを適宜使用する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|----------------|--------------|----|
| 民間信仰論 | たに ぐち 谷 口 貢 | 禅・仏教 2年次～ | 4 |

講義のねらい

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な調査事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていくことにしたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題に考察を加えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

本年度は、「人と神との交流」をテーマとしてとりあげ、東京都青ヶ島の神祭り、福島県会津地方の神社参拝を中心とした講集団、東北地方の巫俗文化、死霊結婚の習俗、山岳信仰と修験道、憑霊信仰などを題材にしながら、民間信仰の基層性を明らかにしていきたい。そして、民間信仰と成立宗教との関係や、成立宗教が地域社会に受容されて土着化していく過程で民間信仰がどのような機能を果たすのかについても分析の目を注いでいくことにしたい。

成績評価の方法

学年末に課題に基づくレポートの提出を求めて成績評価を行う予定で、筆記試験は実施しない。

教科書

とくに教科書を使用しないが、参考書として、桜井徳太郎著『日本民俗宗教論』（春秋社）、宮家準著『日本の民俗宗教』（講談社学術文庫）、桜井徳太郎・他編『シャーマニズムとは何か』（春秋社）の3冊を紹介しておきたい。

その他

授業は講義形式で行う。講義に必要な資料等については、そのつどコピーで配付する。また、講義に関連したビデオを2回ほど見る予定にしている。

随
意
科
目

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-----|----------------------|--------------|----|
| 書道史 | な す たか よし 那 須 隆 吉 | 禅・仏教 2年次～ | 4 |

講義のねらい

東洋文化は今、世界の注目を集めている。中でも書道は文字を芸術にまで高めた特異な文化である。本講では、書道が古代よりいかなる変遷をたどってきたかを通覧し、東洋独自の文化への理解が深まるよう、出来るだけ分かりやすく講じたい。

講義の内容・授業スケジュール

殷代の亀甲獣骨文字を始めとし、時代と共に著しく変遷していく、書体、書風、書法をテキストによる書の古典、及びコピー資料により中日両国の書道史を講ずる。全授業数の約3分の2を中国書道史、残りを日本書道史にあてたい。

履修上の留意点

遅刻をしないように、又教場での私語を慎むように。

成績評価の方法

出席及び随時レポートの提出、年度末に行なう筆記試験等を総合して評価する。

教科書

伏見冲敬著『書の歴史』（二玄社）
日本書道史のテキストは後期に指示する。

参考書等

随時紹介する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|-------------------|--------------------|-----|
| 編 集 実 務 | は せ がわ 長 谷 川 孝 | 禪 ・ 仏 教 2 年 次 ~ | 4 |

講義のねらい

編集とは、「だれかに—何かを—伝える」という過程に携わる仕事です。つまり「何か」に気づき、その中の意味をとりたて、表現の形を与えて、受け手に引き渡していく、一連の過程が編集という仕事です。そこでは、ものごとの何に目をつけ、何を読みとるのかという「視点(目のつけどころ)」が問われます。この授業では、書籍・新聞・雑誌など印刷媒体の編集を中心に、企画・取材、原稿の整理やレイアウト、原稿づくりなどの、「どう」伝えるのかに必要な知識・技能とともに、「何を・なぜ」伝えるのかを主要なテーマとして、「自分の視点」を育てることを目指したいと思っています。

「だれかに—何かを—伝える」という過程は本来、日常生活や仕事の中でだれもが行っていることでもありますから、編集について考えることは実は、一人ひとりが何をどのように読みとり、どのように伝えて生きているかを考えることだ、とも言えます。現在の情報社会は、多様な情報を主体的に選択し活用できる「よき受信人」であるだけでなく、一人ひとりが情報の発信人になるよう求められていると言われます。こうした観点からも、編集を考えてみることができれば、と思います。個人紙(誌)づくりの課題は、こうしたねらいもあります。

成績評価の方法

B4判2つ折り4ページの個人紙(誌)を課題作品として提出してもらいます。

教科書

教科書は使いません。(随時、プリントを使用)。

5 日本語・日本事情科目

5 日本語・日本事情科目 (対象：外国人留学生・海外帰国子女)

《日本語科目》

| | | | | | |
|---|---|---|-------------|-------|-----|
| 日 | 本 | 語 | I (佐野典子) | | 161 |
| 日 | 本 | 語 | I (多田羅哲子) | | 161 |
| 日 | 本 | 語 | II (佐野典子) | | 162 |
| 日 | 本 | 語 | II (多田羅哲子) | | 162 |
| 日 | 本 | 語 | III (多田羅哲子) | | 163 |
| 日 | 本 | 語 | III (湯村礼子) | | 163 |
| 日 | 本 | 語 | IV (石川守) | | 164 |
| 日 | 本 | 語 | IV (湯村礼子) | | 164 |
| 日 | 本 | 語 | V (石川守) | | 165 |
| 日 | 本 | 語 | V (多田羅哲子) | | 165 |
| 日 | 本 | 語 | VI (石川守) | | 166 |
| 日 | 本 | 語 | VI (多田羅哲子) | | 166 |

《日本事情科目》

| | | | | | |
|----------------|-----|------|---------|-------|-----|
| 日本事情 I [地 | 理] | (後期) | (小池一之) | | 167 |
| 日本事情 II [自 | 然] | (前期) | (清水善和) | | 167 |
| 日本事情 III [歴 | 史] | (後期) | (宮本由紀子) | | 168 |
| 日本事情 IV [思 | 想] | (前期) | (赤羽由規子) | | 168 |
| 日本事情 V [社 | 会] | (後期) | (江上涉) | | 169 |
| 日本事情 VI [政治・ | 法律] | (前期) | (関口雅夫) | | 169 |
| 日本事情 VII [文 | 学] | (前期) | (奥原淳子) | | 170 |
| 日本事情 VIII [文化・ | 芸術] | (後期) | (赤羽由規子) | | 170 |
| 日本事情 IX [経 | 済] | (前期) | (瀬戸岡紘) | | 171 |
| 日本事情 X [経 | 営] | (前期) | (前田和利) | | 172 |

《日本語科目》

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|---------------------|------------------|-----|
| 日 本 語 I | さ の のり こ 佐 野 典 子 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

聴解を中心に、高度な日本語能力を養う。

講義の内容・ 授業スケジュール

前期は時事問題のビデオを教材とする。

成績評価の方法

小試験、提出物、研究発表、出席率などにより、総合的に評価する。

教 科 書

教材は、担当者が準備する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|-------------------------|------------------|-----|
| 日 本 語 I | た た ら あき こ 多 田 羅 哲 子 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

常用漢字の読み方を中心に日本語の知識を強化する。
漢字の正確な読み書き、語彙の様々な意味・使い方、文法、表現等の練習を通して日本での生活および専門教科の学習に役立つ日本語の知識を身につける。

講義の内容・ 授業スケジュール

- 常用漢字を正確に読めるようにする。そのためには読み方のルールも知る。
- 語句の基本的意味・用法とともに学生生活に必要なと思われる派生的意味や使い方も練習する。
- 助詞・機能語・慣用表現・文法事項等の復習もする。

成績評価の方法

平常点と期末試験の成績で評価する。

教 科 書

プリント教材（常用漢字を基本とした語彙集、および文系教科の概論、入門書、小説、新聞等から抜粋した例文集）を配布する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|----------|------------|------------------|-----|
| 日 本 語 II | 佐 野 のり 典 子 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

読解を中心に、日本語及び日本文化への総合的理解を深める。

講義の内容・
授業スケジュール

小説、小論文、雑誌記事、新聞記事などの読解を、ゼミ形式で行う。

成績評価の方法

小試験、提出物、討論への参加度、出席率などにより、総合的に評価する。

教 科 書

教材は、担当者が準備する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|----------|-------------|------------------|-----|
| 日 本 語 II | 多 田 ら あ き 子 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

話すことを中心に日本語の運用能力を養う。

- 事実の説明や、スピーチ、質疑応答、討論等を通して、正しく適切な表現を用いて日本語が自由に話せるようになることを目指す。
- 発音、アクセント、イントネーション等、自分の日本語を自分で見直し矯正する習慣をつける。
- あわせて書く練習もする。

講義の内容・
授業スケジュール

- 読んだこと、聞いた内容を自分の言葉で説明したり、それに対する自分の考えを述べる練習をする。
- スピーチをし、その内容について質疑応答、意見交換、討論等を行う。
- ディベートを通して適切な表現で自己主張したり、相手を説得する練習をする。
- 話したことを文章にまとめる。
- テープを聞き自分の日本語を意識し矯正する。

履修上の留意点

積極的に授業活動に参加し、提出物は必ず提出すること。

成績評価の方法

平常点を重視する。

教 科 書

必要に応じてコピーを配布する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------|-----------|------------------|-----|
| 日 本 語 III | 多 田 羅 哲 子 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

- 聴きとることを中心に日本語の総合的能力を養う。
- 話題になっていることについて生の日本語を通じて深く理解し、また的確に表現できるようになることを目指す。
 - 一つのテーマについて聴きとる（見る）・読む・話す・書く活動を通じてバランスのとれた日本語の力を身につける。

講義の内容・授業スケジュール

- 今話題になっているテーマについてビデオを見たり、本・新聞・雑誌などの文章を読んで内容を把握する。
- その内容を説明したり、それについて自分の考えを述べたり討論したりする。
- また、それらを文章に表現する練習もする。

履修上の留意点

必ず出席し、授業に積極的に参加すること。

成績評価の方法

平常点、つまり授業中の発言や提出物を重視する。

教科書

ビデオを使用。プリントを配布する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------|---------|------------------|-----|
| 日 本 語 III | 湯 村 礼 子 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

これまで修得してきた日本語能力をさらに強化し、文献を自分で調べながら読み、理解できるようにする。さらに、文献を通して、考え、自分の意見を持ち、発表・説明ができるようになること目指す。

講義の内容・授業スケジュール

新聞・雑誌・文学作品・専門書などから教材を選び、読み進める。読んだ後に、意見を出し合ったり、討論を行ったりし、さらに認識を深め、最後に小レポートを提出してもらう。後期には、各自分担を決めて調べたり、資料を収集したりしての発表も行なう。

履修上の留意点

授業活動を重視するので、当然、毎時間の出席を原則とする。

成績評価の方法

試験（漢字・語彙テスト etc）、内容把握小レポート、授業での発表、その他の授業活動（発言、他の人の意見を良く聴くこと・授業態度 etc）を総合的に評価する。

教科書

授業中にプリントを配布する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|----------|--------------------|------------------|-----|
| 日 本 語 IV | いし かわ まちる 石 川 守 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

日本語の中・上級のさまざまな文型の用法を分析して、理解するばかりでなく、会話や作文で使えるようにしていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

講義の進め方は、テキスト「日本語中上級文型」を使って、そこに出てくる文型や、文法事項、語彙、表現、アクセントの問題などをともに分析して進めていきたい。

履修上の留意点

授業は一方的な講義の形ではなく、教師の側が、学生に質問をしながら進めて行く。教師から教えてもらうのではなく、自分で考え、自分で準備し、積極的に参加するようにしてもらいたい。

成績評価の方法

成績評価は、筆記試験と平常点（出席、授業への参加度）の二つで評価する。

教 科 書

教材は、授業中にプリントを配布する。

参 考 書 等

特になし

そ の 他

授業は講義形式ではなく、常に教師から学生に質問をする形で行っていく。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|----------|----------------------|------------------|-----|
| 日 本 語 IV | ゆ むら けい こ 湯 村 礼 子 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

書くことを中心に授業を進める。日常生活、大学生活に必要な文章力をさらに高めることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

文・段落・文章の書き方、文章の種類などについて講義し、実践し学生に書いてもらう。書いたものについて再度見なおし進めていく。

履修上の留意点

講義・授業中の実践活動が重要なので、毎時間の出席を原則とする。

成績評価の方法

作文・レポートなど（5回程度）
授業活動（発言、授業態度、授業中の提出物 etc）

教 科 書

授業中にプリントを配布する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|--------------------|------------------|-----|
| 日 本 語 V | いし かわ まもる 石 川 守 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

日本語の「基礎文法」についてより深く理解するために詳しく分析し、そこに潜む日本語文法の特質を考え、ひいては話し、聞き、書き、読む際により正確に深く日本語が理解できるようになることを目指したい。したがって、基礎的な文法に特に自信のない学生に受講してもらいたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義は、テキスト「日本語基礎文法」を使って、そこに出てくる項目を中心に、ともに考え分析しながら進めていきたい。始めは、初級レベルから始め、時間が許せば中級レベルのものも分析してみたい。

履修上の留意点

扱う学習項目は主に初級文法であるが、文法的な問題は基本的なものほど難しく、また深く掘り下げて分析して行くので、内容は単なる初級であると考えないでほしい。

成績評価の方法

成績評価は、筆記試験と平常点（出席、授業への参加度）の二つで評価する。

教科書

教材は、授業中にプリントを配布する。

参考書等

特になし

その他

授業は講義形式ではなく、常に教師から学生に質問をする形で行っていく。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|-------------------------|------------------|-----|
| 日 本 語 V | た た ら あき こ 多 田 羅 哲 子 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

中上級の文法・表現練習及び作文演習。主としてレポート・論文等を正しく適切な表現を用いてわかり易く書くための基本的練習をする。

講義の内容・授業スケジュール

- 留学生の文章によく見られる問題箇所（たとえば「は」と「が」の使い分け、その他の助詞、自他動詞、接続表現、文末表現など）について正しく書けるよう練習する。
- より適切な表現が選べるよう中上級の文法・表現の復習をする。
- 話し言葉と書き言葉の使い分け、事実と意見の述べ方、表・グラフを使う表現等レポートを書くときに役立つ基礎的な練習をする。

履修上の留意点

平常の練習が大切なので必ず出席すること。

成績評価の方法

平常点を重視する。

教科書

プリントを配布する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------|--------------------|------------------|----|
| 日本語 VI | いし かわ まもる 石 川 守 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

| | |
|----------------|---|
| 講義のねらい | 日本語の「会話文型」を中心に、より高度な日本語の日常会話の表現について分析する。 |
| 講義の内容・授業スケジュール | 講義は ICJ (intermediate) の会話部分を用い、そこに出現する会話文型、会話特有の文型、アクセント等について分析をしながら進める。 |
| 履修上の留意点 | 講義は教師が一方向的に講義するというのではなく、常に学生に質問をしながら進めるため、自分の意見をはっきりもってもらいたい。また、本講義は、日常会話の文型や文法的要素を分析するもので、実際の会話をしたり、会話練習をするものではない。 |
| 成績評価の方法 | 成績評価は、筆記試験と平常点（出席、授業への参加度）の二つで評価する。 |
| 教科書 | コピーを配布する。 |
| 参考書等 | 特になし |
| その他 | 授業は講義形式ではなく、常に教師から学生に質問をする形で行っていく。 |

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------|-------------------------|------------------|----|
| 日本語 VI | た た ら あき こ 多 田 羅 哲 子 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

| | |
|----------------|--|
| 講義のねらい | 読むことを中心に話す力、聴解力、作文力など日本語の総合的な能力を高める。 |
| 講義の内容・授業スケジュール | <ul style="list-style-type: none"> ○今話題になっていることについて、語彙・表現・文法事項などを押さえながら、本・新聞・雑誌等の生教材を読む。 ○関連したビデオを見て、それらが実際にどう使われているかを知る。 ○テーマについて話し合ったり書いたりすることで日本語を豊かにする。 |
| 履修上の留意点 | 授業中の活動が大切なので必ず出席すること。 |
| 成績評価の方法 | 平常点を重視する。 |
| 教科書 | プリントを配布、ビデオを使用。 |

《日本事情科目》

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------------------|-------------------|------------------|-----|
| 日本事情Ⅰ 〔地理〕(後期) | こいけ かずゆき 小池 一之 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

この講義では、日本人が変化に富んだ日本列島とどのように付き合ってきたか考えてみる。

講義の内容・ 授業スケジュール

半年の講義の中で、重点的に触れるのは次のような点である。

- a. 稲作技術の伝来と平野の開発
- b. 江戸－東京の発展-その自然的な背景－
- c. 治山・治水事業－自然災害との闘い
- d. 「白砂青松」－代表的な日本の海岸成立の背景－

履修上の留意点

出来るだけ明瞭な日本語で講義するよう心掛けるが、学術的な用語が解りにくい場合、遠慮せずに質問すること。

成績評価の方法

平常の出席状況と課題レポートによる。

教科書

特定の教科書はないが、授業中に紹介する。

その他

出来るだけプリント類を配布し、スライド、ビデオなどを多用する予定である。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------------------|-------------------|------------------|-----|
| 日本事情Ⅱ 〔自然〕(前期) | しみず よしかず 清水 善和 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

日本はアジア大陸の東端に位置する島国であり、亜寒帯の北海道から温帯の本州を通り、亜熱帯の沖縄まで約3,000kmの細長い国土を有している。国土の67%は山地であり、複雑な海岸線とあいまって多様な地形を形成している。日本は複数のプレートの境界域に当たり、世界でも有数の火山・地震地帯となっている。このような多様な環境を反映して、日本には独特の動物・植物が多数生息・生育している。

本講義では日本の自然を気候、地形・地質、生物の3分野に分けて解説する。その際に次の3つの視点に留意する：(1)アジアの自然の中での日本の位置づけ、(2)現在の状態と過去の歴史とのつながり、(3)自然と日本の文化との関係。すなわち、できるだけ時間的、空間的に広い視野から日本の自然をとらえることによって、留学生の母国の自然とのつながりも確認できるようにしたい。また、講義の最後には日本の自然破壊の歴史とその保護の在り方についても言及する。

成績評価の方法

レポート（2、3回）と出席回数に基づいて評価する。

教科書

特定の教科書はなし。参考書は適宜紹介する。

その他

毎回配付する補助教材のプリントを用いて講義する。適宜スライドによる事例紹介を行なう。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------------------|--------------------|------------------|----|
| 日本事情Ⅲ 〔歴史〕(後期) | みやもと ゆきこ 宮本 由紀子 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

| | |
|--------------------|--|
| 講義のねらい | 日本の歴史を学ぶことで日本民族の持つ民族性を理解する手掛りとしたい。 |
| 講義の内容・ 授業スケジュール | 特に江戸時代に至る過程を講義し、鎖国制度の完成までを目安にする。 |
| 履修上の留意点 | 板書を中心とし、わかり安く楽しい講義をこころがけるので、ノートを取り、理解できないところは質問するなどして疑問を残さないようにすること。 |
| 成績評価の方法 | 出席日数を評価の参考とし、レポートで成績の評価とする。 |
| 教科書 | なし |
| 参考書等 | なし |
| その他 | 講義のみ |

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------------------|-------------------|------------------|----|
| 日本事情Ⅳ 〔思想〕(前期) | あかば ゆきこ 赤羽 由規子 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

| | |
|---------|---|
| 講義のねらい | 日本人が古くから伝承してきた民俗音楽の中に、日本人の精神世界を見ていく。 民俗音楽とは、古来、人々が生きていく上で、衣食住と同じように必要としてきた音楽で、それは、例えば信仰、祭り、作業、遊びなどに伴う形で存在している。ほとんどは作者不詳であり、楽譜もなく、普通の人々の間で口頭伝承されていく性質のものである。テープやビデオを用いて、実際に音楽を視聴しながら講義を進めていきたい。 |
| 履修上の留意点 | 第一回目にオリエンテーションを行うので必ず出席すること。 |
| 成績評価の方法 | 出席数、筆記試験によって採点する。 |
| その他 | その都度知らせる。 |

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------------------------|----------------------------------|------------------|-----|
| 日本事情 V 〔 社 会 〕 (後期) | 江 上 渉 <small>え がみ わたる</small> | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

この講義では、現代日本の社会の特質を素描する。
戦後における日本は、高度成長をとげ社会の構造的変動を経て、著しい変化をしてきた。その変動の過程でさまざまな社会問題が発生し、人びとの社会生活、社会意識等も大きく変容してきた。そうした日本社会の諸相について、社会学的なアプローチから概観する。

講義の内容・
授業スケジュール

ほぼ次のようなテーマを扱う予定である。
1. 日本社会の構造的変化
2. 大衆社会化の進展とマスコミ
3. 情報化社会の進展と社会生活

履修上の留意点

この講義は、社会学的な考察を行うので、社会学の基礎を学んでおくことが望ましい。

成績評価の方法

受講生の数にもよるが、レポートと試験を行い、場合によっては出席を加味して評価する。

教科書・
参考書等

教科書、参考書は特に指定しないが、講義の中で適宜紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------------------------|--------------------------------------|------------------|-----|
| 日本事情 VI 〔 政治・法律 〕 (前期) | 関 口 雅 夫 <small>せき ぐち まさ お</small> | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

日本事情VI〔政治・法律〕は、新聞にでてくる政治と法律についての記事を利用して、受講生の日本語を読む力、日本語を正確に話す力、日本語でよい答案を書く力を高めることを目的としています。

講義の内容・
授業スケジュール

まず先生が新聞の記事を読みます。つぎに受講生におなじ記事を読んでもらいます。それから、記事の内容を検討し、全員が理解できるようにします。その後、この記事に関連して話し合いをし、おわりに、この記事の内容を正確な日本語で表現できるようにします。

履修上の留意点

かならず出席してください。

成績評価の方法

平常点により評価します。

教科書

最初の授業の日に受講生の日本語の能力を見て、教材を作成します。コピー代は、150円ぐらいです。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|--------------------------------|-------------------------|------------------|-----|
| 日 本 事 情 VII 〔 文 学 〕 (前 期) | おく ほん じゅん こと 奥 原 淳 子 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

目標は、問題発見能力の涵養と、文学・言語に対する理解を深めることにあります。
具体的には、各自がテーマを選定し調査研究して発表する、という方式で授業を進めます。その際、内容はもちろん、言語面での問題点も共に考えていきましょう。
テーマは、文学作品、作家、また、日本語の言語項目を対象とします。なお、文学作品の中では、日本語の作品とその翻訳版との比較なども興味深いだろうと思います。

講義の内容・
授業スケジュール

第一回の授業には、予め、関心のある文学作品や作家、言語項目を持って出席できるといいと思います。
各自で調査研究を進め、順次教室で発表、検討していきます。

履修上の留意点

授業には、受身でなく、積極的な姿勢で臨むこと。

成績評価の方法

出席状況／研究発表

参 考 書 等

その都度指示します。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------------------------------|-------------------------|------------------|-----|
| 日 本 事 情 VIII 〔 文化・芸術 〕 (後 期) | あか び ゆ き こ 赤 羽 由 規 子 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

いわゆる「伝統邦楽」といわれている、日本の古くからの和楽器による音楽や芝居の中に、日本人の義意識を探っていく。
また、日本の伝統音楽は、そもそもアジア諸国の音楽を学ぶことから始まり、そこから次第に日本人に合った独特のものを生み出していったのであり、更に明治以後には西洋音楽からも多くの触発を受け、戦後には「現代邦楽」を目差している。そのような過程をも合わせて見て行きたい。テープやビデオを用いて、わかりやすく講義を進めていく。

履修上の留意点

第一回目にオリエンテーションを行うので必ず出席すること。

成績評価の方法

出席数、筆記試験によって採点する。

参 考 書 等

その都度知らせる。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------------------------|-----------------------|------------------|-----|
| 日 本 事 情 IX 〔 経 済 〕 (前 期) | せ と おか 瀬 戸 岡 ひろし 紘 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

日本の経済事情のアウトラインをわかりやすく解説します。わかっているようで、わからないことを、なるべくいいねいに話します。たとえば、明治時代以来の工業化は、アジア諸国のなかでなぜ日本が先んじて成功したのか？ 日本の経営が今あちこちで問題にされていますが、どのようにしてそれが日本に根をおろしていったのか？ 就業人口に占める農業人口の割合は、日本とオーストラリアとイギリスとアメリカでは、どこが一番高いか？ そして農業生産高はどうか？ そして時には余談もします。たとえば、この国本当の名前ってニホンなの？ ニッポンなの？ それともジャパンでもいいの？ など、みなさんが日本にきた以上、ぜひ知って帰りたいことを、たくさん話すことがねらいです。

講義の内容・授業スケジュール

以下のようなトピックを一回の講義でひとつずつとりあげます。しかし、とりあげる順序は、みなさんの希望に応じていれかえることがあります。

- 日本の工業地帯と工業
- 日本の農村と農業および日本の水産業
- 日本のサービス業および金融
- 明治維新以前の日本経済の歴史
- 第2次世界大戦以降の日本経済の展開
- 日本経済とアメリカ経済
- 日本経済とアジア経済
- 日本経済と政府の役割
- 日本の労働者・サラリーマンの生活
- 日本経済と社会や文化の変化
- その他

成績評価の方法

日ごろの授業態度で評価します。具体的には、出席40%、小テスト(クイズ)30%、宿題30%が目安です。

教科書

日本経済について書かれた本はあまりにたくさんあるので、特定の本を指定することはいたしません。しかし、授業のなかでその都度適切な本を紹介し、日々のニュースをよく聞いてください。この講義では、日ごろあなたが目にするそのものを題材として授業をすすめます。いわば、あなたの周囲にあるものそれ自体が教科書です。とくに、よい本をもとめたい人は、私に相談してください。いくらでも紹介します。

その他

授業は、おおむね日本語です。しかし、その日の要点は、英語でも話します。質問は、日本語でも英語でもどちらでも受けつけます。授業のなかで、みなさんが積極的に発言することを期待しています。はじめのうち、どうしても日本語がうまくつかえなければ、英語で発言してもかまいません。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------------------|-----------------------|------------------|-----|
| 日本事情 X 〔経営〕(前期) | まえ だ かず とし 前 田 和 利 | 全学科・短大 (短放随意) | 2 |

講義のねらい

日本の経営とよばれるものが歴史的にどのように形成されてきたかを、企業の具体的経営行動のケースをとおして明らかにする。

講義の内容・授業スケジュール

1. コーポレート・ガバナンス、2. 雇用システム、3. 生産・流通システム、4. 政府と企業の関係というテーマにそってケースをとりあげていく。

履修上の留意点

講義形式はとらない。あらかじめ担当者を決めておき、その報告にもとづいてディスカッションしながら日本の企業経営についての理解を深めることとする。自主的受講態度が望まれる。

成績評価の方法

平常点と筆記試験によって評価する。

教科書

伊丹敬之・加護野忠男・宮本又郎、米倉誠一郎編『日本的経営の生成と発展』（有斐閣）1998年。

6 教職・資格講座

- I 教 職 課 程
- II 学校図書館司書教諭講座
- III 社会教育主事講座
- IV 博物館学講座
- V 社会福祉主事講座
社会福祉士基礎

※上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されていますが、各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりです。
(履修についての詳細は、『教職課程・資格講座履修要項』を参照すること。)

| 課程・講座名 | 資格取得学部 |
|---------------------|----------|
| 教 職 課 程 | 全 学 部 |
| 学校図書館司書教諭講座 | 全 学 部 |
| 社会教育主事講座 | 全 学 部 |
| 博物館学講座 | 仏教学部・文学部 |
| 社会福祉主事講座 社会福祉士基礎 | 全 学 部 |

6 教職・資格講座

〔注意〕頁（ ）は、他の課程・講座と兼用科目のため、講義内容は、主たる課程・講座にのみ掲載し、その頁を表示しています。

I 教 職 課 程

(1) 教職に関する専門科目（必修）

| | |
|--------------------------------|-----|
| 教 育 原 理 (豊 田 千代子) | 183 |
| 教 育 原 理 (北 村 三 子) | 183 |
| 教 育 原 理 (伊 藤 茂 樹) | 184 |
| 教 育 原 理 (村 山 輝 吉) | 185 |
| 教 育 原 理 (坂 本 信 昭) | 185 |
| 教育心理学〔教育方法論を含む〕(大 浜 幾久子) | 186 |
| 教育心理学〔教育方法論を含む〕(国 眼 眞理子) | 186 |
| 教育心理学〔教育方法論を含む〕(角 野 善 司) | 187 |
| 教育心理学〔教育方法論を含む〕(遠 藤 司) | 188 |
| 青年心理学〔教育方法論を含む〕(大 浜 幾久子) | 188 |
| 青年心理学〔教育方法論を含む〕(川 田 三 夫) | 189 |
| 青年心理学〔教育方法論を含む〕(小宮山 要) | 190 |
| 青年心理学〔教育方法論を含む〕(川 原 誠 司) | 190 |
| 道 徳 教 育 の 研 究 (加 藤 幸 夫) | 191 |
| 道 徳 教 育 の 研 究 (加 藤 幸 夫) | 192 |
| 道 徳 教 育 の 研 究 (鶴 卷 武) | 193 |
| 特 別 活 動 (小 川 一 郎) | 193 |
| 特 別 活 動 (鶴 卷 武) | 194 |
| 生 活 指 導 (遠 藤 司) | 195 |
| 生 活 指 導 (佐 藤 尚 人) | 196 |
| 宗 教 科 教 育 法 (小 山 一 乘) | 197 |
| 国 語 科 教 育 法 (神 谷 道 倫) | 198 |
| 書 道 科 教 育 法 (那 須 隆 吉) | 198 |
| 英 語 科 教 育 法 (佐 藤 真 二) | 199 |
| 社会科・地理歴史科教育法 (久保田 武) | 200 |
| 社会科・地理歴史科教育法 (桜 井 明 久) | 200 |
| 社会科・地理歴史科教育法 (藤 木 正 国) | 201 |
| 社会科・公民科教育法 (橋 爪 敏) | 201 |
| 社会科・公民科教育法 (谷 敷 正 光) | 202 |
| 社会科・公民科教育法 (上 條 末 夫) | 203 |
| 商 業 科 教 育 法 (谷 敷 正 光) | 204 |
| 職 業 科 教 育 法 (前 田 幸 一) | 205 |
| 教 育 実 習 (豊 田 千代子) | 205 |
| 教 育 実 習 (坂 本 信 昭) | 206 |
| 教 育 実 習 (村 山 輝 吉) | 206 |
| 教 育 実 習 (北 村 三 子) | 207 |
| 教 育 実 習 (伊 藤 茂 樹) | 207 |

(2) 教職に関する専門科目（選択）

| | |
|---------------------------|-----|
| 教 育 関 係 法 規 (広 沢 明) | 208 |
| 教 育 評 価 (大 浜 幾久子) | 208 |
| 教 育 法 規 研 究 (休 講) | |

| | | |
|-------------------------|-------------|-------|
| 教 育 哲 学 | (汐 見 稔 幸) | 209 |
| 教 育 情 報 学 | (小 倉 康 仁) | 210 |
| 教 育 臨 床 心 理 学 | (牟 田 隆 郎) | 210 |
| 教 育 社 会 学 | (熊 谷 一 乘) | 211 |
| 教 育 史 | (北 村 三 子) | 212 |
| 教 育 調 査 | (鈴 木 規 夫) | 213 |
| 芸 術 教 育 | (香 川 良 成) | 213 |
| 現代社会の諸問題と教育 | (熊 谷 一 乘) | 214 |
| 青 少 年 問 題 研 究 | (讚 岐 真 佐 子) | 215 |
| 宗 教 教 育 | (小 山 一 乘) | 216 |
| 生 涯 学 習 概 論 | (豊 田 千 代 子) | (217) |
| 視 聴 覚 教 育 | (飯 森 彬 彦) | (217) |
| 社 会 教 育 施 設 | (村 山 輝 吉) | (217) |
| 学 校 経 営 と 学 校 図 書 館 | (山 田 節 子) | (217) |
| 読 書 と 豊 かな 人 間 性 | (山 田 節 子) | (217) |
| 学 校 図 書 館 メ デ ィ ア の 構 成 | (源 昌 久) | (218) |
| 情 報 メ デ ィ ア の 活 用 | (源 昌 久) | (218) |
| 学 習 指 導 と 学 校 図 書 館 | (山 田 節 子) | (218) |

(3) 教科に関する専門科目(必修)

【社会・地理・歴史・公民】

| | | |
|---------------|-------------|-------|
| 東 洋 思 想 史 | (末 木 恭 彦) | 219 |
| 美 術 史 概 説 | (矢 野 陽 子) | 219 |
| 民 間 信 仰 論 | (谷 口 貢) | 220 |
| 人 文 地 理 学 概 説 | (小 池 と み 子) | 220 |
| 自 然 地 理 学 概 説 | (高 木 正 博) | 221 |
| 自 然 地 理 学 概 説 | (早 船 元 峰) | 221 |
| 地 誌 学 概 説 | (川 元 豊 和) | 222 |
| 地 誌 学 概 説 | (久 保 田 武) | 223 |
| 地 誌 学 概 説 | (藤 島 範 孝) | 224 |
| 日 本 仏 教 史 | (遠 藤 廣 昭) | 224 |
| 日 本 文 化 史 I | (廣 瀬 良 弘) | 225 |
| 日 本 文 化 史 II | (休 講) | |
| 歴 史 哲 学 | (麻 生 建) | 225 |
| 日 本 史 概 説 | (黒 田 基 樹) | 226 |
| 日 本 史 概 説 | (小 松 寿 治) | 226 |
| 世 界 史 概 説 | (井 村 行 子) | 227 |
| 世 界 史 概 説 | (松 本 弘) | 227 |
| 社 会 学 原 論 | (渡 辺 源 樹) | 228 |
| 宗 教 人 類 学 | (佐々木 宏 幹) | (229) |
| 経 済 原 論 | (浅 田 統 一 郎) | 230 |
| 経 済 原 論 | (天 野 光 則) | 231 |
| 経 済 原 論 | (小 野 俊 夫) | 232 |
| 民 法 I | (大 官 隆) | 233 |
| 政 治 学 原 論 | (大 塚 桂) | 234 |
| 日 本 宗 教 文 化 史 | (池 上 良 正) | 235 |
| 民 衆 宗 教 成 立 史 | (津 城 寛 文) | 235 |
| 宗 教 学 概 説 | (洗 建) | 236 |
| 宗 教 学 概 説 | (池 上 良 正) | 236 |

| | | | | | | | | | | |
|----|----|---|---|----|----|---|----|-------|-------|-----|
| 宗 | 教 | 学 | 概 | 說 | (津 | 城 | 寛 | 文) | | 237 |
| 哲 | 学 | 概 | 說 | (国 | 嶋 | 一 | 則) | | 238 | |
| 哲 | 学 | 概 | 說 | (末 | 木 | 恭 | 彦) | | 238 | |
| 倫 | 理 | 学 | 概 | 說 | (久 | 保 | 陽 | 一) | | 239 |
| 【職 | 業】 | | | | | | | | | |
| 産 | 業 | 概 | 說 | (前 | 田 | 幸 | 一) | | 240 | |
| 職 | 業 | 指 | 導 | (山 | 田 | 勇 | 治) | | 240 | |
| 商 | 業 | 実 | 習 | (前 | 田 | 幸 | 一) | | 241 | |
| 【商 | 業】 | | | | | | | | | |
| 職 | 業 | 指 | 導 | (山 | 田 | 勇 | 治) | | (241) | |

II 学校図書館司書教諭講座

必修科目

| | |
|--------------------|-----|
| 学校経営と学校図書館 (山田節子) | 245 |
| 読書と豊かな人間性 (山田節子) | 245 |
| 学校図書館メディアの構成 (源昌久) | 246 |
| 情報メディアの活用 (源昌久) | 246 |
| 学習指導と学校図書館 (山田節子) | 247 |

III 社会教育主事講座

(1) 必修科目

| | |
|----------------|-----|
| 社会教育計画 (村山輝吉) | 251 |
| 生涯学習概論 (豊田千代子) | 252 |
| 社会教育実習 (豊田千代子) | 252 |
| 社会教育実習 (村山輝吉) | 253 |

(2) 選択必修科目

| | |
|--------------------|-------|
| 社会教育行政 (東寿隆) | 254 |
| 社会教育施設 (村山輝吉) | 254 |
| 成人学習論 (東寿隆) | 255 |
| 女性と学習 (矢口悦子) | 255 |
| 企業内教育・職業訓練 (塩川正人) | 256 |
| 社会体育Ⅰ (古田潤子) | 257 |
| 社会体育Ⅱ (古田潤子) | 257 |
| 教育原理 | (258) |
| 教育心理学〔教育方法論を含む〕 | (258) |
| 青年心理学〔教育方法論を含む〕 | (258) |
| 社会心理学 (坪井健) | 259 |
| 視聴覚教育 (飯森彬彦) | (259) |
| 教育社会学 (熊谷一乘) | (259) |
| 教育史 (北村三子) | (260) |
| 教育調査 (鈴木規夫) | (260) |
| 児童文化 (香川良成) | 260 |
| 現代社会の諸問題と教育 (熊谷一乘) | (260) |
| 青少年問題研究 (讃岐真佐子) | (261) |
| 青少年指導演習 (平野学) | 261 |
| 博物館学Ⅰ〔概論〕 (太田喜美子) | (262) |
| 博物館学Ⅱ〔資料論〕 (竹内順一) | (262) |

IV 博物館学講座

(1) 必修科目

| | |
|--|-------|
| 視聽覚教育(飯森彬彦) | 265 |
| 考古発掘実習(飯島武次・酒井清治) | 265 |
| 博物館学Ⅰ〔概論〕(太田喜美子) | 266 |
| 博物館学Ⅱ〔資料論〕(竹内順一) | 266 |
| 博物館学Ⅲ〔経営論・情報論〕(竹内順一) | 267 |
| 博物館実習Ⅰ〔館務〕(飯島武次・酒井清治・太田喜美子) | 268 |
| 博物館実習Ⅱ〔収集〕(酒井清治・太田喜美子・國見徹 久保田昌希・佐々木真・佐藤元英 所理喜夫・廣瀬良弘) | 268 |
| 博物館実習Ⅲ(見学)(酒井清治・太田喜美子・松本信道) | 269 |
| 教育原理 | (269) |
| 生涯学習概論(豊田千代子) | (269) |

(2) 選択必修科目

| | |
|------------------------|-----|
| インド仏教文化史(奈良康明) | 270 |
| 中国仏教文化史(永井政之) | 271 |
| 日本仏教文化史(袴谷憲昭) | 271 |
| 禅美術(海老根聰郎) | 272 |
| 仏教美術(山下裕二) | 272 |
| 仏教民俗学(須藤寛人) | 273 |
| 日本民俗学(谷口貢) | 274 |
| 美術史概説(矢野陽子) | 275 |
| 現代美術(矢野陽子) | 275 |
| 地形学(小池一之) | 276 |
| 第四紀学(鈴木毅彦) | 276 |
| 考古学概説Ⅰ〔日本〕(酒井清治) | 277 |
| 考古学概説Ⅱ〔外国〕(飯島武次) | 277 |
| 日本文化史Ⅰ(廣瀬良弘) | 278 |
| 西洋文化史Ⅰ(佐々木真) | 279 |
| 日本文化史Ⅱ(休講) | |
| 西洋文化史Ⅱ(休講) | |
| 考古学特講Ⅰ(休講) | |
| 考古学特講Ⅱ(高浜秀) | 280 |
| 考古学特講Ⅲ(休講) | |
| 考古学特講Ⅳ(矢野和之) | 281 |
| 西域美術史(松平美和子) | 282 |
| 宗教人類学(佐々木宏幹) | 282 |

V 社会福祉主事・社会福祉士基礎講座

(1) 必修科目

| | |
|---------------|-----|
| ※社会福祉原論(伊藤秀一) | 285 |
| ※社会福祉原論(船水浩行) | 286 |

(2) 選択科目

| | |
|------------------|-----|
| ※法学〔福祉〕(小林弘人) | 287 |
| 社会福祉発達史(林千代) | 287 |
| リハビリテーション論(生川善雄) | 288 |
| ※社会保障論(長尾譲治) | 289 |
| 家庭福祉論(岩上真珠) | 290 |
| 社会福祉計画論(川廷宗之) | 291 |
| 国際社会福祉論(山本真実) | 292 |
| 保健福祉論(長尾譲治) | 293 |
| ※公的扶助論(伊藤秀一) | 293 |
| ※障害者福祉論(生川善雄) | 294 |
| ※老人福祉論(東條光雅) | 295 |
| 児童福祉論(前期：山本真実) | 296 |
| (後期：許斐有) | |
| 女性福祉論(林千代) | 296 |
| 医療福祉論(春見静子) | 297 |
| ※地域福祉論(渡辺一城) | 298 |
| ※社会学〔福祉〕(橋爪敏) | 299 |
| ※心理学〔福祉〕(高橋良博) | 299 |

上記科目のうち、※印は、社会福祉主事、社会福祉士基礎に兼用する科目、それ以外は社会福祉主事のみを対象とする科目です。

I 教 職 課 程

(1) 教職に関する専門科目 (必修)

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------|------------------------|------------------------|-----|
| 教育原理 | とよ た ちよ こ 豊 田 千 代 子 | 教 職 2 必 (禪 ・ 仏 教) | 4 |

講義のねらい

自分自身の成長過程で経験した教育をふり返ることをとおして、教育について考えていきたい。取り上げるテーマとしては、次のものを考えている。

講義の内容・授業スケジュール

- ・現代の教育問題
- ・「子どもの権利条約」
- ・人権教育
- ・生涯教育論
- ・教師論
- ・国際理解教育
- ・教育改革の方向性

成績評価の方法

出席点、レポート等によって成績評価を行なう。

教科書

特になし。必要に応じて資料を配布する。

参考書等

篠田弘編『資料でみる教育学』（福村出版）
大学教育実践研究会編『教育を考える』（相川書房）

その他

自分たちで考えていくことを大切にしたいので、授業は、グループでの話しあいを中心に進める。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------|-----------------------|---|-----|
| 教育原理 | きた むら みつ こ 北 村 三 子 | 教 職 2 必 (国 文 ・ 英 米 文 ・ 社 会 ・ 福 祉 ・ 心 理) | 4 |

講義のねらい

第二次大戦後、民主主義と科学の精神を掲げて出発した日本の教育学は、今日の教育をめぐる様々な問題に十分に対応できなくなっている。また、誰もが環境問題に無関心ではいられない今日において、教育学も、それにふさわしい新たな人間観や、自然や自分や他者との関わりのあり方を模索しなければならない。この授業では、教育の新しい方向を見出すための一つの試みとして、(日本の教育学の源流である)西洋近代の教育学にとっては傍流であった、ゲーテやシュタイナーに焦点をあて、その可能性を探ってみたい。

講義の内容・授業スケジュール

R. シュタイナーは、近代教育学の中では極めて特異な存在であった。しかし、近代の矛盾が顕在化してきた今日では、シュタイナー学校への支持の高まりが見られるばかりでなく、欧米の公教育にも大きな影響を与え始めている。また、シュタイナーは、ゲーテの認識論を基礎にその思想を築いている。近代文明や近代科学によって見失われてきた、人間の身体性や全体性の追求がそこに見い出せるであろう。授業では、シュタイナーの著作をテキストにその教育思想や教育方法を検討するが、今日の子どもや若者をめぐる問題も、それと関連させて取り扱いたい。

履修上の留意点

多人数のためゼミ形式は取れないが、共に感じたり、考えたりできる時間にしたい。

成績評価の方法

年度末にレポート(4,000字程度)提出。また、授業時に資料についてのコメントを何回か求めるが、それも出席点として加算する。

教科書

R. シュタイナー『教育芸術1 方法論と教授法』(筑摩書房) 3,200円

参考書等

高橋巖『シュタイナー教育入門』(角川選書)、子安美知子『ミュンヘンの小学生』(中公新書)、同『ミュンヘンの中学生』(朝日文庫)など。詳しくは、教場で指示。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|-----------------------------------|--------------------------|-----|
| 教 育 原 理 | 伊 藤 茂 樹 <small>いとう しげき</small> | 教 職 2 必 (地理・歴史・法律・政治) | 4 |

講義のねらい

教員免許の取得をめざす受講者に、教育を考え、行うにあたって基本的なものとらえ方を身につけてもらうことを目的とする。

教育について、経験だけに基づいて考えても理解できないこと、解決できない問題は必ずある(例えばいじめ)。教育の歴史や成り立ち(構造)や仕組み(メカニズム)について、様々な側面から知ることが不可欠であり、そのために教育学はある。しかし、知ることには受動性という限界がある。知識をもとに自分なりに現象や状況について考えることが、変化し続ける教育に携わっていくうえで不可欠である。知識と経験をつなぐものとして、状況を理解し、判断するための「目」が重要なのである。

この「目」を養うための鍵は、教育と社会とのつながりに着目することにある。これには、社会と教育を対比させ、社会が教育に及ぼす影響、教育が社会に及ぼす影響を考える方向と、教育の世界や学校、学級、子どもの集団それじたいを社会としてとらえる方向があり、これらを通じて、未知の問題に対しても的確に自分なりの視野の広い理解ができるようになることをめざす。

講義の内容・
授業スケジュール

とりあげるテーマ群として以下のようなことがらを予定している。

- ・近代社会と教育
- ・現代の教育問題
- ・「学歴社会」とは
- ・現代の子ども、青少年
- ・学校という場
- ・教育改革の現在
- ・教育学という学問

履修上の留意点

ふだんから教育に関するニュースに気をつけ、自分なりに考えてみることを心がけること。

成績評価の方法

中間試験、学年末試験により評価する。

教 科 書

教科書は特に指定せず、参考書はその都度指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------|------------------------|--------------------|-----|
| 教育原理 | むら やま てる よし 村 山 輝 吉 | 教 職 2 必 (経 済) | 4 |

講義のねらい

教育事象にかかわる学生自身の個人的経験やおもいを出発点としながらも、テキストにそい、下村湖人の著作等をも参考にしながら、人間の形成と教育・文化・社会のかかわりについて原理的・総合的な考察をおこなう。人間形成にかかわる諸事象を狭い個人的見地を超え広く開かれた社会的視野から攻究できる能力を育てることをめざしている。

講義の内容・授業スケジュール

- 第1ステップ 教育にかかわる学生自身の体験やおもいの発表（口頭・作文）とその理論的な整理の作業
- 第2ステップ 第1ステップで整理された諸問題について、テキストその他の資料を参考にしながら、考察を深める作業
- 第3ステップ 夏休み中、関連する資料の読みとりとそのレポート作成
- 第4ステップ レポートを基に、日本の教育の現状についてその課題を明らかにし、望ましい改革の方向を探究する作業

成績評価の方法

出席、レポート、口頭発表、試験等により総合的に判定する。

教科書

堀尾輝久『教育入門』（岩波新書）480円

参考書等

『下村湖人全書』全10巻。
その他についてはそのつど紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------|------------------------|------------------------|-----|
| 教育原理 | さか もと のぶ あき 坂 本 信 昭 | 教 職 2 必 (商 ・ 経 営) | 4 |

講義のねらい

教育は、一面においては理論的研究を必要とするが、それだけに止まっていることができない。他面において、実際に被教育者をいかにして教育していくか、という実践的・技術的研究が必要とされる。したがって教育は、狭い専門領域に立てこもっているわけにはいかず、人間生活の万般に関係をもつことになる。

教育原理は、これまでの教育学の研究成果をとり入れることはもちろんであるが、それとともに、それらの成果を、どのように実践に生かして行くかをも探究する。教育学は教育を対象として理論的研究を進めるものであるが、教育原理は、教育に従事しようとする人たちに教育についての理解を深め、実際に教育にあたる場合の技術や心得を培うことについても検討しなければならない。

履修上の留意点

講義と並行して、参考書欄に記した②「きょういく VISUAL NOTE」を、自学自習のテキストとして活用し、各自で作業（ノート）を完成させ、完了次第提出してもらいます。

成績評価の方法

課題レポート、自主レポート、「きょういく VISUAL NOTE」及び年度末のテストなどによって、総合的に評価する。

教科書

西村絢子他著『現代教育を考える』（昭和堂）2,600円

参考書等

田村皖司他著『きょういく VISUAL NOTE』（エイデル研究所）1,800円

その他

必要な資料を適宜配布する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------------------|-------------------------|--------------------------|-----|
| 教育心理学 (教育方法論を含む) | おお しま きく こ 大 浜 幾 久 子 | 教 職 2 必 (禅・仏教・国文・英米文) | 4 |

講義のねらい

今世紀の心理学研究の流れをたどりながら、心理学の諸分野で明らかにされてきたことが、今日における日本の教育の諸側面と、どのように関わるのかを考えることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

基礎的な心理学実験や、性格テストなどの実習、さらにパソコンによる教育統計の入門など、できる限り実習の機会を多くとり、心理学の研究方法を知ると同時に、その背景にある理論について理解を深めていきたい。

成績評価の方法

年間4回程度のレポート提出を中心とした、平常点評価の予定である。

参 考 書 等

参考資料等については、必要に応じて準備、指示していく。

そ の 他

実習の他、ビデオ教材等も活用する。それらを通して、教育方法についても考えていきたい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------------------|-------------------------|------------------------------------|-----|
| 教育心理学 (教育方法論を含む) | こく がん まり こ 国 眼 眞 理 子 | 教 職 2 必 (国文・英米文・地理・歴史・社会・福祉・心理) | 4 |

講義のねらい

生徒理解や、生徒の心の発達を促すうえで役立つ基礎的な視点を学ぶ。

講義の内容・授業スケジュール

前半は教科書を用いて、心理学の基礎的な考え方を習得する。

1. われわれの世界の捉え方 (知覚)
2. 記憶や学習のメカニズム
3. 発達のメカニズムとその可能性
4. パーソナリティとは何か、その捉え方

後半は、前半で学んだ基礎知識をもとに、「青年期」理解を深めるとともに、教師と生徒間のコミュニケーションのあり方を考える。

1. 「青年期」と、その心理的な課題 (アイデンティティ形成)
2. 自己のアイデンティティを探る
3. 自己意識の発達
4. 自己の発達と対人関係 (親子関係、友人関係、その他)
5. 進路選択とアイデンティティ形成
6. サポーターとしての教師の役割 (「共感的理解」とは何か)
7. カウンセリングとは何か
8. コミュニケーション (非言語的なコミュニケーション、アサーションなど)

成績評価の方法

指定図書5冊の本の中から、2冊を選び、レポート提出。
前期終了時に小テストを実施。
後期終了時にレポートもしくは試験を実施。(受講者数による)

教 科 書

磯貝芳郎・下山剛編『心理学』(鷹書房)1996

参 考 書 等

- ① 河合隼雄『カウンセリングを考える(上)』(創元社)1995
- ② 菅佐和子『思春期女性の心理療法』(創元社)1988
- ③ 清水将之『思春期のこころ』(日本放送出版会)1996

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|----------------------------------|-------------|---|-----|
| 教 育 心 理 学 (教 育 方 法 論 を 含 む) | すみの 野 善 じ 司 | 教 職 2 必 (地理・歴史・社会・福祉・心理・ 経済・商・法律・政治・経営) | 4 |

講義のねらい

教育心理学は、教育場面に対して心理学的にアプローチする学問です。すなわち、教師が、生徒を理解し、効果的な教育を行うためにはどうしたらよいかを、心理学的な観点から考えようとするものです。

この講義で学び、そして考えたことを、教育場面で生徒と接するにあたっての1つのヒントにしてほしいと思います。

講義の内容・
授業スケジュール

以下の3つを中心テーマとして進めます。

- ① 発達：人間の生涯にわたる発達について
- ② 教授－学習：生徒の学習について、および学習に対する教授過程について
- ③ 測定・評価：教育場面における評価の目的やあり方について

履修上の留意点

自らの意志で免許・資格の取得を目指す以上は、毎回講義に出席し、主体的な態度で臨んでください。出席回数^が一定基準に達しない場合には、単位を付与しません。

成績評価の方法

出席点1割、平常課題の提出状況1割、前期・後期末のテスト3割、夏季・冬期休暇時のレポート5割の配点で、評価します。

教 科 書

指定しません。講義は、図表などを載せた資料プリントを活用して進めます。

参 考 書 等

子安増生ほか『ベーシック現代心理学6 教育心理学』（有斐閣）
この他、講義の進行に合わせて、適時紹介します。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------------------|--------------------|-----------------|-----|
| 教育心理学 (教育方法論を含む) | えん どう つかさ 遠 藤 司 | 教職2必 (法律・政治) | 4 |

講義のねらい

現在の教育に関する諸問題を考えるとき、心理学の様々な知見が影響力を持ち得ていることに気づかざるをえない。その様子を概観し、将来、教職に就こうとしている人間として、教育心理学的なものの方の見方とはどのようなものであるのか考えることを通して、自分なりの見方を確立することをテーマとする。

講義の内容・
授業スケジュール

教育心理学の中での主要なテーマを概観することが講義の主となる。中でも、「自己」の問題をテーマとして取り上げ、教育心理学の中で、「自己の成り立ち」、「自己と他者」等の問題がどのように考えられてきたかを見ながら、具体的な現象から考えていくこととしたい。また、「学習」の問題にも注目し、教育心理学の中で「学ぶ」ことをどのように考えてきたか、それに伴って「教える」ことをどのように考えてきたかを見直し、「評価」の問題、「教師-生徒関係のあり方」等の問題にも触れつつ、現在の学校において「学ぶ」ということを改めて問いなおしていきたい。

履修上の留意点

考えることを厭わない学生の履修を望む。

成績評価の方法

年度末試験を予定している。

教科書

特定の教科書は用いない。

参考書等

参考書等については授業中に随時紹介する。

その他

講義が中心になることは否めないが、ビデオ等を用い、できるだけ実際の場面などを見ながら、実践に即して様々な問題について考える機会を作りたい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------------------|----------------------|-----------------------|-----|
| 青年心理学 (教育方法論を含む) | おお はま きくこ 大 浜 幾久子 | 教職2必 (禅・仏教・国文・英米文) | 4 |

講義の内容・
授業スケジュール

はじめに青年期に限らず、人間の発達とは何か、について考える。その上で青年期の様々な問題をとりあげ、それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を検討していく。また、性格テストなどの実習や、基礎的な研究実習も可能な限り行っていきたい。

履修上の留意点

実習の機会を活かすためにも、毎回の講義への出席を大切にしてほしい。

成績評価の方法

年間4回程度のレポート提出を中心とした、平常点評価の予定である。

参考書等

参考資料については随時、準備し指示する。また、ビデオ教材なども活用していく。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|----------------------------------|------------------------|--|-----|
| 青 年 心 理 学 (教 育 方 法 論 を 含 む) | かわ だ みつ お 夫 川 田 三 夫 | 教 職 2 必 (国文・英米文・地理・ 歴史・社会・福祉・心理) | 4 |

講義のねらい

中学生になる頃から急速な体の成長や生理的变化を迎える。この第二次性徴をもって青年期が始まる。身体的な変化は内面的な変化を引き起こす訳だが、必ずしも良い方向への変化ばかりではなく悪くなることもある。良い方向への変化にしても、その経過は必ずしも順調にいくとは限らない。ともかく問題の多い時期である。そのことは新聞やテレビの報道を見てもよく分る。こういった青年期の特徴を理解するのが、この講義の第一の目的である。

講義の内容・
授業スケジュール

- ① 青年（期）について（発達段階、ライフサイクルの中での青年、歴史・文化的所産）
- ② 体と心の発達（第二次性徴、思春期危機）
- ③ 自己意識（自我～自己同一性）
- ④ 親子関係～対人関係（愛着、人見知り等）
- ⑤ 人格・性格（代表的な理論、自己愛）
- ⑥ 友達・仲間（近隣、学校、社会）
- ⑦ 若者文化（移り変わり、流行、風俗）
- ⑧ 性・恋愛（性意識・性行動、恋愛の発達）
- ⑨ 逸脱行動（非行・犯罪、道徳意識）
- ⑩ 心の病気（種類と症状、病理、背景）
- ⑪ 不登校（病理、背景要因、対処法）

大体以上の様なスケジュールで前期が終わる。後期はトピックや事件等をテーマにしながら講義をしたり学生に色々書いてもらったりしている。

成績評価の方法

- ① 前期末と後期末に筆記試験を行なう。
- ② 夏休みに別途課題が出る。
- ③ 不定期に小テストがある。特に後期に小論文テストが数回ある。
- ④ 以上を総合して最終的な評価が出る。

教 科 書

特に指定されたものはない。講義の時にプリント・資料が配布される。
文献は適宜紹介する。
時折体験的な心理テスト等を行なったりする（評価に際して若干考慮される）。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------------------|-------------------|--------------------------------|-----|
| 青年心理学 (教育方法論を含む) | こみやま かなめ 小宮山 要 | 教職 2 必 (地理・歴史・ 社会・福祉・心理) | 4 |

講義のねらい

青年期にある学生自身にとって、青年期をどう生きるかについて考えると同時に、青年期にある中・高校生を正しく理解してよき教育を実践できる能力を養う。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1) 青年期は人間関係の拡大と深化の時期であり、その良否は精神的健康にも影響する。そこで、好ましい人間関係の形成に必要な理論や、ルール及びスキル等について幅広く学習する。
- 2) いじめ、登校拒否、非行、スチューデント・アパシー等の青年期に見られる病理現象について、その発生のメカニズムと対応について学習する。
- 3) 青年期の中心的テーマである恋愛と結婚について学習する。

履修上の留意点

予定された内容を終わらせるためには、講義はかなりのスピードで行われるので、自分で積極的にノートをとる習慣を身につけて欲しい。

成績評価の方法

通常の授業の中で行う小テストとレポート及び授業に対する態度等を総合して評価する。

教科書

小宮山 要著『間違いだらけのいじめ指導』(明治図書)

参考書等

授業で適宜指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------------------|--------------------|-------------------------------|-----|
| 青年心理学 (教育方法論を含む) | かわはら せいし 川原 誠 司 | 教職 2 必 (経済・商・法律・ 政治・経営) | 4 |

講義のねらい

教職科目ですので、細かな心理学的理論の伝達を主眼に置くことはしません。「教師としてのあり方」「学校現場で教師の受けている種々のストレス」「具体的な学級経営方法」といった実際の教育場面での問題に対して、心理学的な見方や手法がどのように活かされるのかという点を理解してもらうことを目的とします。

講義の内容・
授業スケジュール

講義内容やスケジュールについては、受講者の数や受講者の動機などによって変わりますので、その状況を把握した上で、受講生に伝えます。

履修上の留意点

どのような学生がどの程度の人数受講するのかということを、私は最初の講義時間に把握したいと考えていますので、受講を希望する学生はそのつもりで行動して下さい。

成績評価の方法

受講人数や受講態度によって変わりますので、講義を進めていく中で受講生に伝えます。

教科書・
参考書等

講義を進めていく中で、必要なものを適宜紹介していきます。

そ の 他

授業の一部では、グループで検討する課題を出題したり、学級経営に関する英語の文献をグループで要約して発表してもらうことを予定しています。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|--------------------------|----------------------|---|-----|
| 道 徳 教 育 の 研 究 (前 期) | か とう ぬき お 加 藤 幸 夫 | 教 職 2 ・ 3 必 (地 理 ・ 歴 史 ・ 経 済 ・ 商 ・ 法 律 ・ 政 治 ・ 経 営) | 2 |

講義のねらい

道徳教育の問題は、単に学校教育だけの問題ではなく、子どもを取り巻く社会生活全体に係わる問題である。すなわち、時代や社会の変化の中で、人間（子ども）はいかに生きるべきかという課題と密接に関連している。それ故、道徳教育の研究においては、道徳性の原理的追究と学校教育における実際の側面を精確に把握することが常に求められる。

このような視点に立って、人間形成における道徳教育の位置づけを明確にし、且つ、道徳教育の歴史の変遷を概観しながら、現代における道徳教育の基本的課題を分析・考察することが本講義のねらいである。

講義の内容・
授業スケジュール

- I 現代社会と道徳教育
- II 道徳および道徳教育の本質
- III 戦前・戦後における道徳教育
- IV 道徳性の発達と道徳教育
- V 学校教育における道徳教育
- VI 道徳教育をめぐる諸問題

履修上の留意点

これまで各自が受けた道徳教育を想い起こし、整理しておくことが望ましい。

成績評価の方法

出席状況、レポート及び期末試験により総合的に評価する。

教 科 書

中野目直明・小川一郎編『新しい道徳教育』（酒井書店・育英堂）1,995円

参 考 書 等

岩村俊郎・志村欣一・他編『資料 道徳教育の研究』（北樹出版）

そ の 他

講義形式を主とするが、テーマに応じて適宜討論形式も併用する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|--------------------------|----------------------|---|-----|
| 道 徳 教 育 の 研 究 (後 期) | か とう ゆき お 加 藤 幸 夫 | 教 職 2 ・ 3 必 (禪 ・ 仏 教 ・ 国 文 ・ 英 米 文 社 会 ・ 福 祉 ・ 心 理) | 2 |

講義のねらい

道徳教育の問題は、単に学校教育だけの問題ではなく、子どもを取り巻く社会生活全体に係わる問題である。すなわち、時代や社会の変化の中で、人間（子ども）はいかに生きるべきかという課題と密接に関連している。それ故、道徳教育の研究においては、道徳性の原理的追究と学校教育における実際の側面を精確に把握することが常に求められる。

このような視点に立って、人間形成における道徳教育の位置づけを明確にし、且つ、道徳教育の歴史の変遷を概観しながら、現代における道徳教育の基本的課題を分析・考察することが本講義のねらいである。

講義の内容・
授業スケジュール

- I 人間形成と道徳教育
- II 道徳教育の歴史
- III 現代社会と道徳教育
- IV 道徳性の発達と道徳教育
- V 学校における道徳教育
- VI 現代道徳教育の課題

履修上の留意点

これまで各自が受けた道徳教育を思い起こし、整理しておくことが望ましい。

成績評価の方法

出席状況、レポート及び期末試験により総合的に評価する。

教 科 書

遠藤昭彦・鈴木博雄共編『現代道徳教育の課題』（振学出版）2,000円

参 考 書 等

岩村俊郎・志村欣一・他編『資料 道徳教育の研究』（北樹出版）

そ の 他

講義形式を主とするが、テーマに応じて適宜討論形式も併用する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------------------|----------|--------|-----|
| 道徳教育の研究 (前期)(後期) | つる 鶴 巻 武 | 教職2・3必 | 2 |

講義のねらい

今日の学校教育は、いじめ不登校をはじめとして、学校の在り方にかかわる様々な問題に直面し、生徒に生きる力を育む教師の力量が期待されている。この時間では、小・中学校においては、教育課程の一領域として、また、高校においては学校の教育計画の一環として位置づけられている「道徳」の教育的意義や目標及び内容、方法等についての研究を行う。また、教師としての実践的な指導力を身につけるために道徳の年間指導計画や1単位時間の指導計画(道徳学習指導案)などについて、実際に立案し、具体的な指導の方法などを研究する。

講義の内容・授業スケジュール

①道徳教育の基本的な在り方 ②道徳教育の目標と内容 ③道徳の時間の指導内容 ④主として自分自身に関すること ⑤主として他の人とのかかわりに関すること ⑥主として自然や崇高なもののかかわりに関すること ⑦主として集団や社会とのかかわりに関すること ⑧道徳の時間の指導計画とその作成 ⑨道徳の時間の指導方法 ⑩道徳教育における評価の在り方 ⑪学級経営と道徳教育 ⑫学校、家庭、社会における道徳教育と相互の連携

履修上の留意点

文献に基づく道徳や道徳教育に関する理論的な研究とともに、特に道徳の具体的な指導の内容や方法について理解し、実際に指導できる能力を身につけることが大切である。

成績評価の方法

レポート、試験、出席状況等を総合的に判断し、評価する。

教科書

文部省『中学校解説書道徳編』(新学習指導要領告示後発刊予定)

参考書等

教員養成基礎教養研究会編『新訂道徳教育の研究』(教育出版) 1,800円
教師養成研究会編『道徳教育の研究』新訂版(学芸図書株式会社) 1,000円

その他

講義及び年間指導計画、指導案の立案等

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------------------|------------|--------|-----|
| 特別活動 (前期)(後期) | お 小 川 いち 郎 | 教職2・3必 | 2 |

講義のねらい

特別活動が人間形成に果たす役割は大きい。特に、青少年の社会性の欠如が言われている現代では、望ましい集団活動を通じて人間形成を図る特別活動の重要性は増大している。すべての教員が学級活動(ホームルーム活動)を中心に特別活動を指導することになるので、その実践的指導力を身につけることがねらいとなる。

講義の内容・授業スケジュール

①特別活動の意義・目的 ②特別活動の方法的特質 ③特別活動の歴史の変遷 ④特別活動の内容 ⑤特別活動の指導計画と実践 ⑥特別活動と新しい学力観 ⑦特別活動と総合的な学習の時間 ⑧特別活動と生徒指導 ⑨特別活動と道徳教育 ⑩特別活動と進路指導 ⑪特別活動と地域との連携 ⑫特別活動と人間形成

履修上の留意点

単なる知識の記憶でなく、実践的指導力を身につけることをねらいとしているので、出席して、意見・疑問等を出すことを希望する。

成績評価の方法

授業への参加を重視する。レポートか筆記試験のどちらかを行う。

教科書

小川一郎、中野直明編著『現代の特別活動』(酒井書店) 2,000円

参考書等

小川一郎著『在り方生き方指導の理論と実践』(清水書院) 1,500円

その他

講義を主に、随時討議などを行う。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|----------------------------|-----------------------|----------|-----|
| 特 別 活 動 (前 期) (後 期) | つる 鶴 まき 巻 たけし 武 | 教職 2・3 必 | 2 |

講義のねらい

現在、教師には生徒の心身の健全な発達を図り、当面する課題に適切な指導や援助をする実践的な指導力が求められている。この時間で学ぶ「特別活動」は小・中・高等学校の教育課程の一領域であり、集団活動を通じた教育活動により、集団の一員としての自覚を深め、児童・生徒の個性の伸張と調和のとれた豊かな人間性を育成するとともに、学級（ホームルーム）や学校生活の基盤の形成に重要な役割を果たしている。この「特別活動」の教育的意義や目標、内容及び方法等について、理論と実践の両面から研究を行う。特に、実践的な面を重視し特別活動の内容や活動内容の取り扱い方、指導計画の作成及び指導方法などについての具体的な研究を行い、教師としての実践的な指導力を養う。

講義の内容・授業スケジュール

①生きる力の育成を目指す教育改革と特別活動の役割 ②特別活動の教育的意義と目標 ③特別活動の特質と内容相互の関連 ④特別活動の指導計画の作成と指導の工夫 ⑤学級活動の指導とガイダンスの充実 ⑥生徒会活動の特質とその活性化 ⑦学校行事の特質と指導 ⑧特別活動と生徒指導 ⑨特別活動と学級経営 ⑩学級活動と教育相談 ⑪進路指導の充実 ⑫特別活動の指導と評価 ⑬特別活動と総合学習との関連

履修上の留意点

文献による理論的な研究を深めるとともに、特に特別活動の具体的な実践にかかわる指導計画の作成や指導内容、指導方法等についての研究を深め、教師としての識見を高め、実戦的な指導力を身につけることが大切である。

成績評価の方法

レポート、試験、出席状況等を総合的に判断し評価する。

教 科 書

- ① 文部省『中学校解説書特別活動編』（新学習指導要領告示後発刊予定）
- ② 高橋哲夫・原口盛次・井上裕吉編『特別活動研究』（教育出版）1,900円

参 考 書 等

宇留田敬一著『特別活動論』（第一法規）1,800円

そ の 他

講義及び年間指導計画、指導案の作成

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|----------------------------|--------------------|----------|-----|
| 生 活 指 導 (前 期) (後 期) | えん どう つかさ 遠 藤 司 | 教職 2・3 必 | 2 |

講義のねらい

教師が生徒の生活面を指導することは現在の学校において様々な形で行われている。将来、教職に就こうとする人間として、生徒（他者）の生活を指導することの意味を改めて問いなおし、無意識のうちにもっている自らの生活指導観を自覚的にとらえなおすことが本講義の目的である。

講義の内容・授業スケジュール

「学校における問題行動とは何か」、「不登校問題はどのような視点から考えるべきか」などの問いについて考えることを通して、学校の中で適応的に生きることができない人に対して、教師としてどのような態度でのぞむかを考える。特に、現在の学校において様々な意味において不適應状態となっている人たちに対して、そのような状態にある生徒に対して、自分はどういう態度でのぞむかを考えることを通して、最終的には自分自身の生活指導観を問いなおしていくことにつなげていきたい。

履修上の留意点

考えることを厭わない学生の履修を望む。

成績評価の方法

期末試験を予定している。

参 考 書 等

参考書等については授業中随時紹介する。特定の教科書は用いない。

そ の 他

講義中心になることは否めないが、様々な問いを呈示し、それらに対して自らの考えに基づいて書いて答えるという機会をできるだけ多く作りたい。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|----------------------------|----------------------|----------|-----|
| 生 活 指 導 (前 期) (後 期) | さ とう なお と 佐 藤 尚 人 | 教職 2・3 必 | 2 |

講義のねらい

学校教育において、教科の学習や集団生活への参加が、一人ひとりの児童生徒でスムーズにくよくよ指導することを教師は求められる。しかしながら、子どもは決して等質・均一存在ではない。画一化された教師の指導方法や対応では日々起こりうる種々の問題の解決がうまくいかない、あるいはむしろ問題を引き起こしてしまうことすらあるであろう。

本授業では、昨今教育問題として取り上げられる機会の多い「いじめ」「不登校」「非行」などについて、そのような問題行動を示す子どものこころのありようの理解や対応の仕方、さらには問題行動を未然に防ぐための教師としての心構えなどを考えてゆく。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 X はじめに 学校教育の歴史と目的 教師のなすべきこと
- 2 X 子どもの理解 問題行動について医学的・工学的な理解と教育的な理解
- 3 X E. H. エリクソンの発達段階・課題の考え方 (その1)
- 4 X E. H. エリクソンの発達段階・課題の考え方 (その2)
- 5 X E. H. エリクソンの発達段階・課題の考え方 (その3)
- 6 X E. H. エリクソンの発達段階・課題の考え方 (その4)
- 7 X さまざまな問題行動とその理解「いじめ」
- 8 X さまざまな問題行動とその理解「不登校」
- 9 X さまざまな問題行動とその理解「非行」
- 10 X こころの病・不適応「神経症」「精神病」
- 11 X 問題行動への対応の方法「学習理論にもとづくもの」
- 12 X 問題行動への対応の方法「心理療法にもとづくもの」
- 13 X まとめ 生活指導において大切なこと

履修上の留意点

原則として出席はとらないが単位を取得することを希望する学生は毎回出席すること。さらに、授業中に質問や意見などを積極的に表現することが望ましい。

参加学生に対してはすべて公平にあつかう。(さまざまな事情があっても特別扱いはしない。)

成績評価の方法

原則として定期の筆記試験(ノート等の持ち込みは一切不可)の結果により成績を評価する。ただし、授業中の発言(質問・意見)や宿題等の課題の提出を試験の成績にプラスして評価する。

教 科 書

特に使用しない。講義ノートをもとに授業を進めてゆく。

参 考 書 等

大貫・佐々木編著『心の健康と適応』(福村出版) 2,200円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|-----------------------|------------------------|-----|
| 宗 教 科 教 育 法 | こ 山 一 乗 こ やま かず のり | 教 職 3 必 (禪 ・ 仏 教) | 4 |

講義のねらい

講義と模擬授業とで構成する。
 教育関係法規下での「宗教科教育」の位置づけを概観する。憲法、教育基本法、学校教育法、学習指導要領、教育職員免許法を概観する。
 特に、各教科と宗教科との関係、「宗教科教育」と「宗教教育」との異同点にも留意する。
 我が国にかかわる第2次世界大戦後の、対日米国占領教育改革施策に看取される「宗教教育」の諸問題を例示しつつ、日本国憲法20条と教育基本法9条との関係、基本法9条と初期社会科学習指導要領の文言との関係等を検証する。
 その上で、「宗教の定義集」への着目をし、「『宗教に関する寛容の態度』の涵養」への展開を検討する。そこからさらに「宗教の社会生活における地位」に関する「宗教的無知」解消を図る授業展開を考える。
 宗教一般知識教育、宗教的情操教育、宗派教育の学習指導方法を具体的に探究して、異文化理解の課題にも備えるようにしたい。適宜、童歌なども、導入し、幼稚園教育から高等学校教育までの接続も考察に含めたい。

講義の内容・授業スケジュール

『仏教概論 — 分かりやすい仏教 —』をテキストにして、原則として模擬授業(50分)を課します。教材研究の実際、学習指導要領、学習指導案の基礎的・基本的事項を講義する。その上で、具体的に、学習指導案の様式と教育観との関係が思量でき、主体的に選択した様式に基づいて実際に学習指導案を作成してもらおう。
 模擬授業は、その様子をビデオに収録し、再生して、爾後の授業分析の鏡利用とし、自己分析に供する。

履修上の留意点

学年、他教科との関連を常に勘案すること。社会科・地理歴史科・公民科における宗教の教育、宗教科教育における宗教の教育、宗教教育における宗教の教育の異同点、及び、訳語としての用語「宗教」に関し熟考して欲しい。

成績評価の方法

模擬授業、レポート、出席点などにより評価する。特に出席を重視する。

教 科 書

小山一乗著『教育と寛容 — 宗教的事実・規範の取り扱いとそのおしえ方、評価の観点 —』(宣協社) 2,940円
 『仏教概論 — 分かりやすい仏教 —』(曹洞宗宗務庁) 800円
 小中高各『学習指導要領』各 230円 250円 370円
 『仏教・キリスト教・イスラーム・神道 どこが違うか』(大法輪閣) 1,600円
 『教育小六法』(学陽書房) 2,200円

参 考 書 等

井上順孝監修『宗教教育資料集』(すずき出版) 3,900円
 『宗教教育の理論と実際』(鈴木出版) 1985年
 その他適宜紹介する。

そ の 他

講義を基調とするが、実際には、講義と模擬授業(演習)を折衷した形態となろう。定例教場での講義を中心とするが、必要に応じ、視聴覚教室でのビデオ、スライド、OHPの視聴をするので視聴覚教場の掲示に注意しておくこと。
 プリントを配布するのでファイル表紙を用意して欲しい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|-----------------------|-----------------|-----|
| 国語科教育法 | かみ や みち のり 神 谷 道 倫 | 教職 3 必 (国 文) | 4 |

講義のねらい

中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容、さらに各領域・教材に応じたそれぞれの指導方法等について概観したのち、実際の教材にあたって、基礎学力を点検するとともに、教材研究のあり方、指導事項、指導方法、指導過程等について、主に模擬授業の形式で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

講義の内容・
授業スケジュール

重点的に以下の三点を中心に進める。

- ① 国語科教育の現況の確認
- ② 国語科教育の方法、実践等について先人の試みの意義を探る。
- ③ 教育実践の準備

以上のうち①②については、教科書・プリント等を用いて講義形式で行う。③については、教材研究の実際、指導案の作成など課題形式のもの提出と、実際の教材による模擬授業の形式(グループ分けにより全員が何らかの形で必ず参加)で行う。基礎学力の点検にも配慮する予定。

履修上の留意点

科目の性質上、出席は当然重視する。(なお、中学校・高等学校時代使用の国語の教科書・副読本があれば、手元に整理して必要な場合参照できるようにしておくことが望ましい。)

成績評価の方法

定期試験の成績を主とするが、提出物、模擬授業の成果、授業参加(出席)の状況等の観点も加えて総合的に評価する。

教科書

全国大学国語教育学会編 新版中学校・高等学校『国語科教育研究』(学芸図書株式会社)
1,300円+消費税

参考書等

国語科教育法に関するもの、特に後半使用する教材に関するもの等少なからずあるが、その都度指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|----------------------|-----------------|-----|
| 書道科教育法 | な す たか よし 那 須 隆 吉 | 教職 3 必 (国 文) | 4 |

講義のねらい

長い歴史を持つ書道の特徴を考察し、その指導法を学習する。そして将来の教師としての自覚を促し、その指導力を養う。

講義の内容・
授業スケジュール

文部省の芸術科学習指導要領を理解し、芸術科書道の指導計画の作成についての基本的な考え方や、学習指導のあり方、指導法の工夫などについて事例を挙げながら講じたい。

履修上の留意点

遅刻をしないように、又教場での私語を慎むように。

成績評価の方法

出席及び随時レポートの提出により評価する。

教科書

高等学校芸術科書道指導資料 文部省編著『指導計画の作成と学習指導の工夫』(教育図書)
990円

参考書等

随時紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|--------|-----------------|-----|
| 英語科教育法 | 佐藤 真 二 | 教職 3 必 (英米文) | 4 |

講義のねらい

中学校及び高等学校において、英語教師として授業を行うために必要な事項を学ぶとともに、実際に教壇に立ち、教えることに慣れることを目標とする。

講義の内容・
授業スケジュール

主に取り上げる内容は以下のとおりである。

- 1) 英語科教育の目標
- 2) 主な教授法 (文法訳読式教授法、直接教授法、オーラル・メソッド、グレイデッド・ダイレクト・メソッド、オーラル・アプローチ、認知学習理論、ヒューマンスティック・アプローチ、コミュニケーション・アプローチ)
- 3) 言語材料と指導 (音声、文字、文法、語彙)
- 4) 言語活動 (聞く、話す、読む、書く)
- 5) 授業の展開 (授業計画、授業の構成、指導案、中学校の授業、高等学校の授業)
- 6) 指導形態 (一斉指導、グループ指導、ペア指導、個別指導、学習習熟度別指導、ネイティブ・スピーカーとのチーム・ティーチング)
- 7) 評価とテスト
- 8) 教具・視聴覚機器 (ピクチャー・カード、フラッシュ・カード、OHP、テープ・レコーダー、LL、VTR など)
- 9) 教師と学習者

履修上の留意点

自分が、近い将来、実際に教壇に立ち、生徒を前にして授業を行うことになるのだということを念頭におき、積極的に取り組んで欲しい。欠席は慎むこと。

成績評価の方法

試験、レポートのほか、授業内の発表も評価に加える。

教科書

塩沢利雄他著『新英語科教育の展開』(英潮社)

参考書等

教場において指示する。

その他

授業の方法は、教壇に立ち、授業を行うことに慣れるという目標を踏まえ、模擬授業を多く取り入れてゆく。また、本講義の中で学ぶ事項に関しても、担当の学生が、予習をしてまとめたうえで、他の学生に発表し、説明するという形式をとる予定である。それによって、人前で話し、教えることに馴染んで欲しいと願う。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------------|-------|--------|-----|
| 社会科・地理歴史科教育法 | 久保田 武 | 教職 3 必 | 4 |

講義のねらい

中学社会科、高校地歴科を教えるにあたって必要な基礎的知識・技法の修得
教科の目標（存在理由）と暗記科目にならない教授内容構成と教授法の考察

講義の内容・
授業スケジュール

- ◆講義の内容
毎回教授者による具体的な授業事例を通じて生徒の興味関心と学力を増す教授内容構成とその指導法を示す。
学習指導要領の変遷とその背景
生徒の学力評価法、生徒による教授者評価を利用する自己評価法
希望する学生に対しレポートによる指導案の作成作業とその内容指導
教育現場での体験談から具体的な学習指導法へのヒントを示す。
- ◆授業スケジュール
前期は講義（教授者による授業例）と、関連事項の質疑・実習・課題作成等
後期はそれに加え夏季休業中に教案作成課題を提出した学生の中から発表者を選んで模擬授業の機会を設ける。

履修上の留意点

授業の終わりに毎回授業内容に関連して、簡潔なまとめ、コメント、実習内容等の提出を求める（出欠調査に代える）。提出物は添削（質問、意見には回答）のうえ次回に返却する。

成績評価の方法

定期試験、毎授業後の提出物、授業への参加意欲（出席状況他）と実績（発表等）等を総合して評価。原則として授業時数の2/3以上出席しないと単位を認定しない。

教科書

使用しない。

参考書等

授業の時にそのつど紹介する。但し、地理、歴史、社会科教科書、地図帳、歴史年表、歴史地図、統計資料、文部省学習指導要領（地歴編、社会編）等は、この際揃えたほうがよい。とりあえず地図帳、年表と統計資料は初回から持参のこと。

その他

毎授業時間の前半は講義、後半は視聴覚学習、質疑、作業、実習を原則とする。
OHP、スライド、ビデオ、写真など視聴覚機材を多用し講義内容の理解と機材の利用法を示す。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------------|-------|--------|-----|
| 社会科・地理歴史科教育法 | 桜井 明久 | 教職 3 必 | 4 |

講義のねらい

中学校社会科、高等学校地理歴史科の教育の目標と方法について、地理分野、地理 A、B を例に概説する。

講義の内容・
授業スケジュール

- おおよその内容は、以下の通りである。
- ①地理教育の目標
 - ②マイクロティーチング
 - ③教授方法上の工夫
 - ④指導案の作成
 - ⑤模擬授業
 - ⑥授業の研究と方法
 - ⑦地理教師の仕事

履修上の留意点

各自マイクロティーチングを試み、個人またはグループで模擬授業を行うなど、実際に授業を試みってもらうので、授業への積極的な参加が求められる。このため、巡検や調査による公欠以外の欠席については厳しく取り扱われる。同時に、担当部分の放棄、担当日の欠席は許されない。それが避けられない場合は、事前に連絡し、相談すること。
中学校社会科地理分野と地理歴史科の科目・地理 A、B を中心題材とするので注意すること。

成績評価の方法

出欠、授業・討論への参加、マイクロティーチング・模擬授業の成果など 70点
夏休みレポート 10点 期末試験 20点

教科書

桜井明久『地理教育学入門』（古今書院）1999（予定）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------------|-------------------------------------|---------|-----|
| 社会科・地理歴史科教育法 | 藤 木 正 国 <small>ふじ き まさくに</small> | 教 職 3 必 | 4 |

講義のねらい

中学校社会科（特に歴史的分野）・高等学校地歴科（特に日本史）の教師として、自ら授業をくみため、実践できる能力を養う。直接的には教育実習にそなえる。

講義の内容・授業スケジュール

前期は講義を中心とする。
 ① 明治以降日本教育制度の変遷
 ② 社会科成立の事情とその理念
 ③ 学習指導要領の変遷と地歴科成立のいきさつ
 ④ 学習指導計画と指導案の作成
 ⑤ 評価の考え方とその方法
 ⑥ 社会科をめぐる諸問題の考察
 後期はグループ別に模擬授業を実施する。

履修上の留意点

受講する以上は、教員を旨し努力すること。安易な単位取得は考えない。出席状況と提出物とはとくに重視する。常に努力と創意工夫とを忘れぬよう。

成績評価の方法

年間を通じての出席状況、提出物、定期考査などを総合し評価する。

参 考 書 等

文部省学習指導要領、中・高教科書（必要に応じて授業時に紹介する）。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------------|-----------------------------------|---------|-----|
| 社会科・公民科教育法 | 橋 爪 敏 <small>はし つめ さとし</small> | 教 職 3 必 | 4 |

講義のねらい

この授業は、社会科・公民科教師に必要な基礎的認識や知識の習得などを主たる目標とする。

講義の内容・授業スケジュール

授業の内容としては、上に記したような目的を実現すべく、また、学生諸君の能動的参加が可能な形式で行ないたい。したがって、受講学生数によって、その方法は変わらざる得ない少人数（15名位迄）の場合は社会科・公民科に関わる文献講読を主としたい。15名以上の受講生の場合は、学生自身の自主研究の発表を主にしたい。いずれにせよ、模擬授業の意味を持たせ、学生の報告を主とする形式で行なう。

履修上の留意点

教師に成ることを目指すか否かにかかわらず、積極的に授業に参加する学生の受講を望む。

成績評価の方法

前期・後期のレポート提出ならびに普段の研究報告、授業参加状況、出席状況などを総合して決定する。

教 科 書

文献講読の場合は、授業開始後に指示する。

参 考 書 等

適宜、授業中に紹介する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|------------|-----------------------|---------|-----|
| 社会科・公民科教育法 | 谷 敷 正 光 や しき ただ みつ | 教 職 3 必 | 4 |

講義のねらい

社会科は民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者をめざす上で、重要な使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと言っても過言ではない教科である。この社会科教育も戦後の政治・経済の発展とともに大きく変遷し、動揺を続けてきた。学習指導要領は1989年に第6回目の改訂が行われた。第6次の改訂は単なる教科内容の改訂にとどまらずに小学校低学年の社会科と理科を廃止し、新たに生活科を設け、高等学校の社会科を再編し、新たに地理歴史科と公民科を設けたことの意味を考えなければならない。

この授業のねらいは、しっかりと社会科教育を樹立するため、単なる授業方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か社会教育とは何か」といったところまでさかのぼって検討してみることにある。その上で、社会科教育の歴史、社会科教育の基本原則とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

講義の内容・ 授業スケジュール

1. 日本教育の現状
2. 教育の基本概念
3. 社会科の成立
4. 社会科学学習指導要領の変遷
5. 中学校の教育課程と社会科
6. 高等学校の教育課程と公民科
7. 社会科の学習指導計画
8. 社会科学学習指導案の意義と作成
9. ビデオによる社会科教師の授業研究
10. 4年生による模範授業
11. 模擬授業を通じての社会科の学習指導、授業実践の研究
12. 中学校社会科の目標・内容・取り扱いと平成10年12月告示の中学校学習指導要領
13. 高等学校公民科の目標・内容・取り扱いと平成11年3月告示の高等学校学習指導要領
14. 教育評価
15. 社会科教育実習の意義
16. 社会科教師論
17. 社会科教師と教員採用試験
(教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。)

履修上の留意点

- ① 教科書の補充として年間かなりのプリントを配布するので、必ずその時間に受け取ること。
- ② 現実的理解のためビデオなどで視聴覚教室を利用するので、常に教場には注意しておくこと。

成績評価の方法

授業での課題の提出、学習指導案の作成、模擬授業実践などで総合的に評価する。

教 科 書

大森・谷敷共著『社会科教育研究』（梓出版）

参 考 書 等

社会科・公民科の『教科書』、『中学校・高等学校学習指導要領』

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|------------|------------------------|---------|-----|
| 社会科・公民科教育法 | かみ じょう すえ お 上 條 末 夫 | 教 職 3 必 | 4 |

講義のねらい

社会科・公民科は民主主義国家社会の一員としての自覚と実践行動ができる人間を育成する上に、欠くことのできない教科である。したがって、生徒が民主主義を十分理解し、かつそれを実践することができるような具体的な指針をあたえる教育をすることが必要である。その方法論および技能が身につくようにすることが、この講義のねらいである。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 学校教育とはなにか
2. 学校教育の制度と目的
3. 学校教育法と社会科教育
4. 社会化の過程と学校教育
5. 学校環境と教員の影響力
6. 発達心理学にみる教育レベル
7. 理解せしめるための方法論 ①心的アプローチ
8. 理解せしめるための方法論 ②物的アプローチ
9. 表現力の養成 ①記号としての言語
10. 表現力の養成 ②記号としての文字
11. 表現力の養成 ③記号としての数字
12. 表現力の養成 ④記号としての象徴
13. 民主主義の実践 ①アイスブレイキング
14. 民主主義の実践 ②参加と有効感覚
15. 民主主義の実践 ③コミュニケーション効果
16. 民主主義の実践 ④リーダーシップ論
17. 情熱と持続力

履修上の留意点

講義と演習の組み合わせの授業であるから必ず出席すること。

成績評価の方法

出席および演習態度によって評価する。

教 科 書

特に使用しない。

参 考 書 等

プリントを配付する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|-----------------------------------|------------------------|-----|
| 商 業 科 教 育 法 | 谷 敷 正 光 <small>やしきただみつ</small> | 教 職 3 必 (経 済・商・経 営) | 4 |

講義のねらい

「産業教育」(職業教育)の一つである商業教育は、日本の経済をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にもなつてめまぐるしく変遷してきた。先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、大きく改善されている。さらに1994年度からは、「普通科」と「職業科」の中間形態ともいえる「総合学科」が誕生し、高等学校教育の改革が急速に進んでいる。従つて、この講義のねらいは、「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりとした商業教育を樹立するために、この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終わらせることなく、より基本的な「教育とは何か」「商業教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来的な意味での商業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 日本経済の発展と産業教育
2. 商業教育の現状と課題
3. 職業教育・商業教育の概念
4. 高等学校における商業教育の変遷
5. 高等学校の教育課程
6. 商業科の教育課程
7. 商業科の学習指導計画
8. 商業科学習指導案の作成
9. ビデオによる商業科教師の授業研究
10. 4年生による模範授業
11. 模擬授業を通じての商業科の学習指導、授業実践の研究
12. 商業の各科目の個別目標・内容・取り扱い
13. 教育評価
14. 商業科教育実習の意義
15. 商業科教師論
16. 商業科教師と教員採用試験
(教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。)

履修上の留意点

- ① 教科書の補充として年間かなりのプリントを配布するので、必ずその時間に受け取ること。
- ② 現実的理解のためビデオなどで視聴覚教室を利用するので、常に教場には注意しておくこと。

成績評価の方法

授業での課題の提出、学習指導案の作成、模擬授業実践などで総合的に評価する。

教 科 書

岡田修二他『新商業教育論』(多賀出版)

参 考 書 等

高等学校商業科の『教科書』、『高等学校学習指導要領』

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|-----------------------|------------------------|-----|
| 職業科教育法 | まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一 | 教 職 3 必 (経 済 ・ 商) | 4 |

講義のねらい

基本的には以下の項目に沿って授業を進めていきます。

- ① 「技術・家庭のあり方」について、新聞の切り抜きを通して考えていく。
 - ② 「中学校学習指導要領」の技術・家庭科について、その新旧の違い、変化などを比較検討していく。
 - ③ 職業教育について考えていく。
- ①、②は前期授業、③は後期授業で行う予定です。

履修上の留意点

自分や周りの人の家庭や職業について改めて考えてきてほしい。

成績評価の方法

筆記試験はせず、平常点かレポートで成績評価をします。

教科書

『中学校学習指導要領』（文部省平成元年3月）。他については授業の際指示します。

参考書等

中学校で使用していた『技術・家庭』の教科書など。

そ の 他

授業を受ける人は少人数なので、ゼミ形式で授業を進めていきます。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------|-------------------------|--|-----|
| 教育実習 | とよ た ち よ こ 豊 田 千 代 子 | 教 職 4 必 (禪 ・ 仏 教 ・ 社 会 ・ 福 祉 ・ 心 理) | 3 |

講義のねらい

2週間の教育実習を充実させるための準備を行なうことと、実習をとおしてみえてきた教育のさまざまな課題について、ともに考えることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

- 事前指導 — ・実習の心がまえ
・生徒指導について
・教科指導について
・指導案作成
・模擬授業
- 訪問指導 — ・研究授業訪問指導
- 事後指導 — ・授業実習の検討

成績評価の方法

実習ノート、実習校からの評価、授業での実習報告、レポート。

教科書

教科書は用いず、必要に応じて資料を配布する。

参考書等

適宜指示する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|------------------------|--------------------------|-----|
| 教 育 実 習 | さか かも のぶ あさ 坂 本 信 昭 | 教 職 4 必 (国文・法律・政治・経営) | 3 |

講義のねらい

教育実習での失敗を未然に防ぎ、あるいはできるだけ少なくするというよりも、むしろ、不必要な先入観を捨て、持ち合わせている力で、全身で意欲的に向う姿勢に高め、教育実践の場で、間違いや失敗したことについて悩み、苦しむことを通して、自覚的に主体的に一つ一つの教育事象について考える機会にしたい。そのためには、いわゆる事前指導も大事であるが、事後指導（教育）も大事にしたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標・内容（領域）等に関する講義とビデオ教材なども視聴し、実習に際しての事前指導を行う。

教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪問したいと思っている。

教育実習後は、各自の教育実習報告、レポート作成（提出）、教育問題にかかわるビデオの視聴、ディスカッションなどから教育への理解を深め、教育とは何か—どうあるべきか—について、各自の教育観を明示できるようにし、さらに、望ましい教師像等についても一緒に考えたいと思う。

履修上の留意点

授業の出欠は厳密にとる。

成績評価の方法

①実習校からの教育実習評価及び教育実習ノート、②教育実習報告（口頭報告）及び報告レポート、③ビデオ視聴のコメント（感想）、④年度末試験（または、課題レポート）によって、総合的に評価します。なお、①～④について重視する度合は、全て同グレードに考えている。

教 科 書

栗原敦雄他編『教育実習ガイド』（宣協社）1,500円

参 考 書 等

寺崎昌雄他編『教育実習57の質問』（学文社）1,000円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|------------------------|------------------|-----|
| 教 育 実 習 | むら やま てる よし 村 山 輝 吉 | 教 職 4 必 (英米文) | 3 |

講義のねらい

学生が教育実習に主体的にとりくみ、教育実践について理解を深めることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

年間を通じておおむね次の事項を取りあげる。

- 教育実習の意義と心がまえ
- 学習指導について
- 生徒指導について
- 学校と教師に関する諸問題

実習校における実習体験をはさんで、講義、討議、レポート作成、面接指導等、適宜の方法と形態で進めていく。

成績評価の方法

実習校からの評価、口頭発表、レポート、試験、出席等により総合的に評価する。

教 科 書

教科書・参考書等はそのつど指示する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|--|----------------------|-----|
| 教 育 実 習 | また <small>ま</small> 北 <small>むら</small> 村 <small>みつ</small> 三 <small>こ</small> 子 | 教 職 4 必 (地理・経済・商) | 3 |

講義のねらい

二週間にわたって行なわれる中学・高校での実習は、教員免許を得るために乗り越えなくてはならない最大の課題であろう。教生とはいえ教師であることを求められる、責任の重い課題でもある。この授業は、その実習のための準備と、実習後その体験を他の人々と共有し、深めることを目的とするものである。実習がスムーズに進み、また、実り多いものとなるように、講義の内容・授業のスケジュールで述べるような様々なことを試みたい。また、実習後は、教える立場から新たに見えてきた、学校や教師、生徒の問題や、それらの存立基盤としての、社会や文化の問題を、考え合いたい。

講義の内容・授業スケジュール

実習の準備としては、全般的な諸注意、ビデオによる実習の概要把握、学習指導案の作成に関する指導、模擬授業などを行なう。実習後は、実習体験を語り合い、その中から、後期に検討すべきテーマを考えていく。夏休み明けには、それにそった資料を用意し、討議を中心とした授業を進める。具体的内容は、話し合いの上で決めたいが、今まで扱われたテーマは、いじめや体罰といった学校内での暴力、不登校、若者の文化や人間関係に関連するものなど、多岐にわたる。

履修上の留意点

実習の準備としては、教材研究を各自よくやること。後半は積極的に参加すること。教場を変更する場合がありますので注意すること。

成績評価の方法

実習ノート・評価表などの実習の記録、授業への参加度、最終授業時のまとめのテスト。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|--|------------------|-----|
| 教 育 実 習 | い <small>とう</small> 藤 <small>しげ</small> 茂 <small>き</small> 樹 | 教 職 4 必 (歴 史) | 3 |

講義のねらい

中学・高校での教育実習を実りあるものとするために、その準備と、実習の経験を生かして現代の教育と青少年、それをとりまく様々な社会的要因について考える機会を持つ。

講義の内容・授業スケジュール

実習前には、教育実習の意義や目的、内容に関しての講義と受講者による模擬授業を行う。実習後は、各自の実習の経験をふまえたうえで、そこから見えてきた教育や青少年の現実について、口頭発表、討論、文献講読、レポート作成などを通じて批判的にとらえる目を養うことをめざす。

履修上の留意点

受け身ではなく主体的な参加を求める。

成績評価の方法

実習校からの評価、実習ノート、授業への参加、レポートにより総合的に行う。

教 科 書

特になし。

参 考 書 等

授業の中で適宜指示・紹介する。

(2) 教職に関する専門科目 (選択)

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|------------------|------|-----|
| 教育関係法規 | ひろさわあきら 広 沢 明 | 教職2選 | 4 |

講義のねらい

憲法、教育基本法、学校教育法など教育に関する基本法規につき、具体的事例に触れながら講義を行う。校則、体罰、いじめ、内申書、日の丸、君が代、宗教、教科書検定、障害児、民族教育など今日的な教育問題について、法的観点から検討をしたい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 校則(1)―丸刈訴訟
2. 校則(2)―バイク裁判
3. 校則(3)―生徒会
4. 懲戒(1)―退学・停学
5. 懲戒(2)―体罰・精神罰
6. 教育情報(1)―家庭環境調査書
7. 教育情報(2)―内申書・指導要録
8. 教育と宗教(1)―日曜日訴訟
9. 教育と宗教(2)―エホバの証人事件
10. 日の丸・君が代
11. 教科書裁判(1)―検定の実事
12. 教科書裁判(2)―法律上の争点
13. 戦後教育政策の変遷
14. 教育と平等(1)―民族教育
15. 教育と平等(2)―性差別
16. 教育と平等(3)―障害児
17. 義務教育(登校拒否を含む)
18. いじめ

履修上の留意点

ただ漠然と聴講するだけでなく、授業で取り上げたテーマにつき、自ら調べたり考えたりする前向きな姿勢を求める。

成績評価の方法

試験と出席状況によって評価する。毎回出席をとり、その結果は成績にかなり反映される。

教科書

使用しない。

参考書等

『解説教育六法』(三省堂)を必携。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------|----------------------|----------|-----|
| 教育評価 | おおはまきくこ 大 浜 幾 久 子 | 教職2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

狭義の教育評価にとらわれず、人間の能力とは何か、学力とは何かについて、様々な側面から討論し、研究することを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

はじめに、教育心理学の研究方法(実験・観察・調査・テスト)の基礎を学ぶ。その上で、発達や学習の測定、評価にかかわる研究実習を行う。実習においては、必要に応じパソコンも活用していく。

履修上の留意点

ゼミ形式で進める。討論、実習への積極的参加が不可欠である。パソコンに関しては、まったくの初心者でも可。

成績評価の方法

平常点による。

参考書等

資料等は随時、準備し指示する。また、受講生からの提案も歓迎する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|-----------------------|----------|-----|
| 教 育 哲 学 | しお み とし ゆき 汐 見 稔 幸 | 教職2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

「教育哲学」と銘うっているが、形而上学的な哲学論議をしながら教育を考えるというわけではない。現場に出ようとしている人、教育について一度じっくりと考えてみたいと思っている人などを対象に、現実の教育の諸問題を考察すること窓口にして、教育とは何か、どのような可能性をもつ営みなのか、ということを中心に考えてみようという授業である。具体的なテーマ、テキストなどは参加者の希望をもとにはじめの授業で決める。

講義の内容・
授業スケジュール

例年4年生の受講者が多いので、教育実習（6月）教育採用試験（7～8月）、卒論しめきり（12月）などの前後には授業をしないで、かわって何回かの合宿ないし集中形式で行なう予定。

2002年より、学校教育の本格的な改革が始まるが、この改革によって、現代の学校が抱えている諸問題が解決できるのかということが、今年度の授業の通奏低音となろう。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|----------------------|----------|-----|
| 教育情報学 | おぐら やす よし 小 倉 康 仁 | 教職2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

- a. 教育分野でのコンピュータ利用方法・形態について、教育学の視点から理論的に考察する。
b. 普遍性のあるソフトウェアの操作実習を通して、教育現場で必要とされる実際的なコンピュータ（パソコン）活用能力とセンスを育成する。

講義の内容・
授業スケジュール

授業は常にコンピュータ教室で行い、講義と実習を適宜組み合わせる授業を進める。
前期の授業内容としては、以下のものを予定している。
コンピュータの基礎知識（講義）、パソコンの基本操作（実習）、ワープロソフトの基本操作（実習）、表計算ソフトの基本操作（実習）、インターネットの基礎知識（講義）、初歩的なネットサーフィン（実習）
後期の授業内容としては、以下のものを予定している。
教育分野でのコンピュータ利用形態の分類・整理（講義）、コンピュータの教育的活用とは？（講義）、教育用ソフトの選択・活用方法について（講義と実習）、コンピュータネットワーク（LAN、パソコン通信、インターネットなど）と教育（講義）、インターネット（WWW）上での情報検索の方法（実習）、HTMLによるホームページ作成の実際（実習）

履修上の留意点

パソコンに初めて触れるという初心者も歓迎する。履修者はなるべく早く総合情報センター主催のネットワーク講習会に参加して、電子メールアドレスを取得するように心掛けること。

成績評価の方法

平常点（出欠、学習態度）、小テスト（ペーパーテスト）、提出物（レポート、課題作品）の総合点によって成績評価を行う。

教科書

教科書は使用せず、配布プリントを利用して授業を進める予定である。

参考書等

参考書等については、そのつど授業時間内で指示する。

そ の 他

使用するパソコンはMacintoshのみを用いる。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|---------------------|----------|-----|
| 教育臨床心理学 | む た たか お 牟 田 隆 郎 | 教職2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

教育現場並びに教育をとりまく諸状況において生じている青少年の問題（教師、学校の問題も含む）の、臨床心理学的観点からの考察を施す。

講義の内容・
授業スケジュール

初めに、人間事象を見つめる基本的視点について講義する。次いで、リアルタイムに今現在教育並びにその周辺に生じている種々の出来事を、新聞・雑誌・書籍等の媒体をテキストとし、その「人間心理」的側面の解釈を試みる。

履修上の留意点

知識伝達型の講義ではなく、種々生起している事柄を「何故そうなのか」と共に考え、そしてまたそれらが、実は自ら自身にも深く関わるものとして考察する態度をもつことを期待したい。

成績評価の方法

出席点を基本とする。

教科書

特定の教科書・参考書は使用しない。必要とあらばその都度紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|------------------|----------|-----|
| 教育社会学 | くまがいのり 熊谷 一 乗 | 教職2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

教育が行なわれるために形成されるさまざまな社会的な関係を研究して教育上の問題の解決に寄与し、教育の充実、向上をめざす学問—これが教育社会学である。講義では、そういう教育社会学の研究の成果をもとに、人間を成長、発達させるいとなみ—教育は、どのような社会的な関係のもとに行なわれているのか、教育は社会とどのような関係で結ばれているのか、その関係のなかでどのような問題が発生するのか、これらの問題はどのように解決されてきたか、されようとしているか、について現代日本の事例を取り上げ、明らかにしようと思う。

どんな人間をいかに育成するか、ということは、いつの時代でも重要な課題であった。どのような社会も、その存続と発展のために未来をにう後継の世代を教育する課題に真剣に取り組まなければならなかった。この課題は、人類にとって普遍的なものであるが、実は、文明が高度に発展すればするほど、その重大性が増してきていることに注目しなければならない。現在、わが国で、学校に直接関係して生活している人々—児童生徒・学生、教員・事務職員の数は、全人口の四分の一に達している。近年、教育のために支出される費用は、国民所得の8%前後にのぼっている。こうした数字は、今日の社会で教育が占める位置の大きさ、意味の重さをよく示している。ところがその教育をめぐる不登校・校内暴力など困った問題が多発している。今日の教育問題をどう解決すればよいか、という問題意識のもとに戦後日本の教育と社会の関係を主な事例として講義をすすみたい。

講義の内容・授業スケジュール

I部 [教育の展開と社会の条件]

- (1) 教育の成立と展開における政治の要因：社会現象としての教育、教育の政治性と政治的教育性、教育への政治にインパクト、終戦と教育改革、冷戦構造と教育の混乱、教育をめぐるイデオロギーの対立、冷戦構造の崩壊と教育改革をめぐる動向 政治体制と教育、教育の資源配分と政治の役割（4～5月）
- (2) 教育の展開と経済の関係：教育の条件としての経済、経済の条件としての教育、高度経済成長と教育、人材開発と教育投資、教育と能力主義、経済の自由化と教育の自由化、経済と教育の機会（6月）
- (3) 教育と地域社会：教育の場としての地域社会、教育の地域性と地域差、地域社会と子供・学校、過疎・過密の教育問題、地域社会の変動と子供の発達（7月）
- (4) 教育と文化の動向：教育の内容としての文化、伝統文化のインパクト、マスメディアの影響、映像文化の時代と教育、大衆化文化と教育、物質的価値の支配と教育（9月）

II部 [現代社会の学校の病理と教育改革]

- (1) 学校化社会の現状：学校人口、就学率・進学率、教育費の問題、ライフサイクルと学校(10月)
- (2) 学校化社会の病理：子供の問題行動、学歴主義の支配、差別・選別・レイバリング、画一化・管理と競争、少子化にともなう問題、脱学校論のインパクト（11月）
- (3) 教育改革の視点と動向：改革の視点—子供の人権(権利)・学習権・個性重視・人間化等、“第三の教育改革”、1980年代以降の教育改革の動向（12、1月）

履修上の留意点

出席を重視、教育関係の分野に進出を希望する者を対象とする。

成績評価の方法

年度末の試験の成績と出席状況による。

参考書等

熊谷一乗『子どもの発達と社会』（東信堂）、熊谷一乗『現代教育制度論』（学文社）

その他

授業中に指示

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------|--------------------|----------|-----|
| 教 育 史 | きたむらみつこ 北 村 三 子 | 教職2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

90年代半ばから小学校の「学級崩壊」が問題化している。原因は複合的だが、行動や反応の幼児的化が指摘されることも多い。小学生ばかりでなく、中学・高校生のいわゆる問題行動にも、幼い子供時代の過ごし方に問題があるように見えるケースも多い。だが、どのような幼年期の体験が人間の心の成長にとって必要なのだろうか。この授業では、自伝的な作品の中で幼年期がどのように捉えられているかを歴史的な視点を入れて検討したい。また、幼年期の体験がその後の人生にとってどのような意味を持つのかも考えたい。

講義の内容・
授業スケジュール

以下のような文献を検討してゆく。
W. ベンヤミン『ベルリンの幼年時代』ベンヤミン著作集12（晶文社）
中勘助『銀の匙』（岩波文庫）
大岡昇平『幼年』『少年』（講談社文芸文庫）他

履修上の留意点

教育史のいわゆる「教科書」を授業で扱うことはないが、文献などに関して個別の相談には応じたい。授業はゼミ形式で行い、参加者の意見交換を大切にしたい。

成績評価の方法

平常点。ただし、発表回数が少ない場合には、レポート提出もありうる。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|---------|----------|-----|
| 教 育 調 査 | 鈴 木 規 夫 | 教職2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

人間の行動について科学的な方法によるリサーチの技術と推論の論理を身につけるため、教育にかかわる身近な問題について具体的に調査を実施する。

講義の内容・授業スケジュール

具体的な調査内容は受講者自身が主体的に提案するものとし、授業ではその内容について議論するとともに調査を実施するにあたっての必要な基本プロセスを学習する。また、実際に調査を実施し、コンピュータを利用して調査結果をまとめる。その際、結果を要約するために不可欠なデータの解析法や推論の論理についても分かりやすく解説する。

履修上の留意点

調査内容は受講者自身が提案することになるので、受講前に何を調査したいのか予め考えておくことが望ましい。また、コンピュータを利用して分析を行うので多少のコンピュータに関する知識を有していることが望ましい。

成績評価の方法

成績評価は提出された調査結果報告書によって行う。

教科書

講義要旨および資料のコピーを授業当日配付する。

参考書等

特に指定しない。

その他

授業は討論中心の形態をとる。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|---------|----------|-----|
| 芸 術 教 育 | 香 川 良 成 | 教職2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

日本の児童青少年演劇史（大人による子供のための演劇）と、演劇教育史（子供自身による子供のための演劇）を中心にすえ、各時代の児童文学・児童文化の流れにも目を配りながら、それらの明治以後の展開の歴史を振り返ってみたい。

講義の内容・授業スケジュール

以上の講義と、取り上げる諸作品の、受講者による研究発表とその講評とを併せながら授業を進めたい。

履修上の留意点

実習でやむをえない以外は、極力出席してもらいたい。

成績評価の方法

平常点と試験

参考書等

富田博之著『日本児童演劇史』（東京書籍）、『日本演劇教育史』（国土社）、菅忠道著『日本の児童文学 Ⅰ総論』（大月書店）

その他

現在行われている演劇教育の記録ビデオを観たり、舞台のビデオを観たり、実際観劇するというも行いたい。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|------------------------|----------|-----|
| 現代社会の諸問題と教育 | くま がい かず のり 熊 谷 一 乗 | 教職2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

わたしたちが生をいとなむ現代の社会は、解決の難しい問題に充ちている。科学技術の進歩に支えられた産業の高度な発展は、人々に豊かさと便利さという明るい「光」を与える一方で、人間疎外の進行・環境問題・エネルギー問題など厄介な暗い「陰」を落している。いま、教育の在り方は、この「光」と「陰」の影響を受けて激しく揺れ動き、変革を迫られている。教育も社会の「光」と「陰」のもとで問題に充ちているのである。社会の諸問題を解決するためにはどのような教育が必要となるのか。また望ましい教育のために社会は、どのようにあるべきなのか、何をなすべきなのか—講義は、以上の問題にこたえることをねらいとして行われる。

講義の内容・
授業スケジュール

以上の問題意識のもとに、授業は次ぎの小テーマにしたがって行われる。

- (1) 軍事占領下の社会的諸問題と教育改革（終戦にともなう社会諸問題と教育、第1次米国教育使節団報告書、教育基本法、学校教育法の成立など）－4～5月
- (2) 「冷戦」の激化にともなう社会的変化と「戦後教育」の転換（イデオロギーの対立・主権の回復と教育、「55年体制」の確立と教育の緊張、教育集権化の動向など）－5～6月
- (3) 高度経済成長にともなう諸問題と教育（経済のための“人づくり”、教育投資論の影響、豊かさのなかの非行問題、「期待される人間像」など）－6～7月
- (4) 高度経済成長以後の社会的変化－地域社会の変動、映像文化の浸透、中間的大衆層の形成と支配－と教育改革の提案（情報化と“第三の教育改革”など）－9～10月
- (5) 社会的変化にともなう生涯教育論の登場（P.ラングランの生涯教育論、社会教育審議会の答申など）－10～11月
- (6) 自由化の波と臨時教育審議会（新自由主義・保守主義と1980年代以降の教育政策、戦後日本の総決算と自由化、「臨教審」の設置など）－11月
- (7) 冷戦・55年体制の崩壊と「臨教審」以後の教育政策（変化する子供、文部省と日教組とのパートナーシップ、連立政権下の教育政策、第14・15・16期中教審答申と21世紀への教育改革など）－12～1月

成績評価の方法

学年末の試験と出席状態による。

教 科 書

使用せず。

参 考 書 等

熊谷『現代教育制度論』（学文社）等

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|---------------------|----------|-----|
| 青少年問題研究 | さぬきまきこ 讀 岐 真 佐 子 | 教職2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

この講義では、「青少年」つまり児童期、青年期（小学生～20代前半頃）に生じ得る諸問題について、主に発達の、臨床心理学的視点から学ぶ事を目的とする。現代は不適応状態や問題が低年齢化し、またその質的側面も、従来の自己着藤型から漠然とした無気力型の増大、さらに言語で訴えるよりも身体化の傾向等、様々な変化が見られるように思う。そういう意味でも「青少年」に関わる諸現象は、その時代を映し出す1つの鏡のようにも思われる。またこの時期は、一般に親や兄弟、友人、学校や地域等の多くの人との関わりを通して子どもが大人になっていく、まさしく自分自身を作っていく時である。それだけにこれらの人々といかなる質の関係をもてるか、そしてそこからどう自分を育てていけるかという事が、この時期の中心的テーマになると思われる。

講義では、このような問題意識を基に、この期間に発現する諸問題の実際を、発達にそって具体的に学んでいきたい。

講義の内容・授業スケジュール

まず人間の精神的発達に関する知見を、これまでの発達心理学や臨床心理学的見地から概観し、その中での青少年の発達段階の意味や位置づけを考えていく。そしてこれを踏まえ、主にテキスト記載の事例を中心に、児童期、青年期に生じる様々な状態（不登校、非行、対人緊張、思春期やせ症、無気力状態等々）について深く掘り下げて学んでいく。

履修上の留意点

出席を重視する予定。授業は講義中心となるだろうが、何らかの形で受講生のフィード・バックを得る方法を考えていきたい。

成績評価の方法

出席状況と定期試験

教科書

氏原寛・東山紘久編『発達とカウンセリング』
別冊『発達』第18巻（ミネルヴァ書房）2,500円

参考書等

- ・馬場謙一・小川捷之他編『子どもの深層』『青年期の深層』
『日本人の深層分析』第9巻と10巻（有斐閣）
- ・季刊『仏教——特集癒し』No. 31（法藏館）2,000円
- ・河合隼雄著『あなたが子どもだったころ』（楡出版）『子どもの宇宙』（岩波新書386）
- ・岩宮恵子著『生きにくい子どもたち』（岩波書店）1,200円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|---|----------|-----|
| 宗 教 教 育 | こ 小 ^{やま} 山 ^{かず} 一 ^{のり} 乗 | 教職2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

命題「法は風土の産物」(モンテスキュー『法の精神』)を問題意識の根柢におく。世界各国の風土、風習、習慣、慣習、法、比較法の知見に示唆されつつ、いわゆる「宗教(の)教育」の法的思考 (legal mind)、そこに看取れるいわゆる宗教的思考 (religious mind)、教育的思考 (educational mind) の総合的考察をし、各国の宗教教育の実態も眺めつつ、これからのいわゆる宗教教育での、教授概念検討を経て、意味、目的、目標、内容、方法について具体的なデザインを試みる。特に宗教の教育における寛容の態度育成について広く深く考察したい。

いわゆる「宗教教育」論議は、政策・法律論議で、「何を教えることができないのか」の禁止事項に注意が傾斜した論議が久しく盛んでその喧しさは大である。だが、この論議に反して、同じ現行憲法・法規下で、「何を教えることができるのか」の肯定的事項に注意を向けた教育方法上の教授概念検討論議が極めて少ない。これはいわゆる戦後教育の盲点でさえある。この不均衡を醸成してきた歴史的背景を検証する。幕末、明治維新、対日米国占領宗教教育政策、憲法・教育基本法・教育関係法規立法審議制定過程を検証し、手垢の付いた用語としての「宗教教育」論を見直す。用語「宗教教育」は解釈者により一様ではない。本講義では、手垢の付いた先入観を回避し白紙から議論を構想したく、そのために、しばらくの間「宗教の教育」と措定したい。その上で、tell (告げる) と teach (教える) との差異、(religious education) と (education about religion) との差異につき、教授概念を検討する。

講義の内容・授業スケジュール

種々様々な事柄を取り上げ考察を試みる。用語・訳語としての宗教教育、宗教、religion、畏敬、注意深く観察する、(再)結合、宗、教、育、education、誓願、アニミズム、アニメーション等の字源・語源をさぐる。更に、何〜何事、what〜whatness、児童生徒の疑問態(の調査研究)、内外の種々の童謡、節分、雛祭り、節句、七夕、盆祭り、七五三、合格祈願、お守り、羽田空港長の朝、クリスマス、ターミナル・ケアー等を粗上に載せる。憲法20条・教育基本法9条・初期社会科学学習指導要領との絡みの中に、対日米国占領教育改革政策が胚胎していた異文化理解問題の史実を見る。宗教を文化現象の一形態として考えるか否かについて、諸説を見ておきたい。道徳教育の内容項目上の宗教的用語が「宗教の定義集」・「現代日本の諸家の宗教観」の二典中では、どう規定されているか、その脈絡を意味論的に概観する。多民族多文化多宗教共住社会のうねり、隣人は異邦人等がいわれ日常生活化しつつある国際化社会時代の問題・課題解決に与する宗教教育の目的論・目標論・内容論・方法論を具体的に考えたい。今後は例えば、国際結婚等にもより、混血児も学級には数人は存在するとの推計もある。家庭教育・学校教育・社会教育のいずれの教育の場面も、まさに、迂闊ではいられなくなる。宗教的無知は宗教的偏見よりも致命的な悲劇を生もう。無知解消の教育が要る。

履修上の留意点

社会科・地理歴史科・公民科における宗教の教育、宗教科教育における宗教の教育、宗教教育における宗教の教育の異同点、及び、訳語としての用語「宗教」に関し熟考して欲しい。

成績評価の方法

レポート、出席点、口頭発表等による。特に出席を重視する。

教科書

小山一乗著『教育と寛容——宗教的事実・規範の取り扱いとそのおしえ方、評価の観点——』(宣協社) 2,940円
 小中高各『学習指導要領』各230円 250円 370円
 『仏教・キリスト教・イスラーム・神道どこが違うか』(大法輪閣) 1,600円

参考書等

指定図書→『宗教教育の理論と実際』(鈴木出版) 1985年
 土持ゲーリー法一著『米国教育使節団の研究』(玉川大学出版部) 9,785円
 井上順孝監修『宗教教育資料集』(すずき出版) 3,900円
 杉原誠四郎『教育基本法の成立「人格の完成」をめぐる』(日本評論社)
 参考図書→KYOUKO INOUE. 1991. *MACARTHUR'S JAPANESE CONSTITUTION* (THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS)

その他

定例教場での講義を中心とするが、必要に応じ、視聴覚教室でのビデオ、スライド、OHPの視聴をするので視聴覚教場の掲示に注意しておくこと。プリントを配布するのでファイル表紙を用意して欲しい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------|-------|----------|----|
| 生涯学習概論 | 豊田千代子 | 教職2・3・4選 | 4 |

(P.252) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|------|----------|----|
| 視聴覚教育 | 飯森彬彦 | 教職2・3・4選 | 4 |

(P.265) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------|------|----------|----|
| 社会教育施設 | 村山輝吉 | 教職2・3・4選 | 4 |

(P.254) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------------------|------|----------|----|
| 学校経営と学校図書館 (前期) | 山田節子 | 教職2・3・4選 | 2 |

(P.245) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------------------|------|----------|----|
| 読書と豊かな人間性 (後期) | 山田節子 | 教職2・3・4選 | 2 |

(P.245) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|----------------------|---|----------|-----|
| 学校図書館メディアの構成 (前期) | <small>みなもと</small> 源 <small>しょう</small> 昌 <small>きゅう</small> 久 | 教職2・3・4選 | 2 |

(P.246) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------------------|---|----------|-----|
| 情報メディアの活用 (後期) | <small>みなもと</small> 源 <small>しょう</small> 昌 <small>きゅう</small> 久 | 教職2・3・4選 | 2 |

(P.246) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------------------------|---|----------|-----|
| 学習指導と学校図書館 (前期)(後期) | <small>やま</small> 山 <small>だ</small> 田 <small>せつ</small> 節 <small>こ</small> 子 | 教職2・3・4選 | 2 |

(P.247) 参照

(3) 教科に関する専門科目（必修）

【社会・地理・歴史・公民】

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|-----------------------|------|-----|
| 東洋思想史 | すえ き やす ひこ 末 木 恭 彦 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

始めに、二つのことを断っておく。第一に「東洋思想」と題しているが、私は漢文による思想言説に限って問題とする。特に、中国と日本に限られるであろう。第二に、「思想史」と題しているが、通史や他の歴史現象との関連付けは主要な関心ではない。長い時間をかけて蓄積された、漢文文化の思想言説、その思想言説に光を当て、その一斑なりとも理解しよう——これが本講義の目指すところである。

講義の内容・
授業スケジュール

今年度は、『経史博論』を手掛りにして上記の試みを行う。但し、『経史博論』そのものの理解を目指すのではない。この書は、中国思想（儒教的教養）の概説書である。近代の眼差しが入る以前の儒教の基礎的教養を、この書を通じて確かめることができる。授業では、この書を購読する。購読を通じて、その背景にある中国の思想言説の伝統の一端に觸れてゆきたいと考えている。

履修上の留意点

最低書下し文が理解できる程度の漢文の基礎的教養が必要である。

成績評価の方法

成績判定は下記の材料を勘案して行う。
 1. 試験又はレポート（年1回以上）
 2. 平常の受講態度（年数回内容理解の調査を行う。なお、この調査は予告せずに行う。）
 3. 受講の積極性（質問、任意のレポートなどによって判断する。質問は書面で必ず質問者名を明記して提出して欲しい。）

教科書

授業は講師が用意したプリントを用いる。

参考書等

適宜授業中に指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|---------------------|------|-----|
| 美術史概説 | や の よう こ 矢 野 陽 子 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

美術史とはどういう学問か、その方法にはどんなものがあるのかを具体例を通して考えながら、西洋美術史の基礎知識を学んでいきます。

講義の内容・
授業スケジュール

研究分野としての美術史に関して以下のような視点で講義を進めます。

美術史の起源
 西洋美術史学の方法と歴史
 原作、複製、文献
 描写と解釈

合わせて古代から現代への流れを概観していきます。

成績評価の方法

前期レポートと学年末試験によって評価する予定です。

参考書等

マーク・ロスキル著、中森義宗訳『美術史とはなにか』（日貿出版社）
 マルシア・ポイント著、木下哲夫訳『はじめての美術史』（スカイドア）
 高階秀爾監修『カラー版西洋美術史』（美術出版社）
 このほか適宜、授業中に参考文献を紹介します。

その他

スライドで具体的に数多くの作品を見ながら、授業を行ないます。

教職・資格講座

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|------|------|----|
| 民間信仰論 | 谷口 貢 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な調査事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていくことにしたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題に考察を加えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

本年度は、「人と神との交流」をテーマとしてとりあげ、東京都青ヶ島の神祭り、福島県会津地方の神社参拝を中心とした講集団、東北地方の巫俗文化、死霊結婚の習俗、山岳信仰と修験道、憑霊信仰などを題材にしながら、民間信仰の基層性を明らかにしていきたい。そして、民間信仰と成立宗教との関係や、成立宗教が地域社会に受容されて土着化していく過程で民間信仰がどのような機能を果たすのかについても分析の目を注いでいくことにしたい。

成績評価の方法

学年末に課題に基づくレポートの提出を求めて成績評価を行う予定で、筆記試験は実施しない。

教科書

とくに使用しない

参考書等

桜井徳太郎著『日本民俗宗教論』（春秋社）、宮家準著『日本の民俗宗教』（講談社学術文庫）、桜井徳太郎・他編『シャーマニズムとは何か』（春秋社）

その他

授業は講義形式で行う。講義に必要な資料等については、そのつどコピーで配付する。また、講義に関連したビデオを2回ほど見る予定にしている。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------|--------|------|----|
| 人文地理学概説 | 小池 とみ子 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

地理学における人文地理学分野をとり扱う。地理学的視点から、世界の諸地域の問題を検討することによって、現代世界の現状と課題を明らかにすることをめざす。

講義の内容・授業スケジュール

最初に、地理学発達史・人文地理学と自然地理学・環境論・地域論などについて検討する。次に現代世界の概観をふまえた上で、人種・民族と国家、人口問題、産業立地と地域の変容などを柱として、世界各地が現在どのような問題をかかえているか、具体的に各地域をとりあげながら、概説を試みる。

履修上の留意点

地図帳を持参していただきたい。

成績評価の方法

試験を行う。また平常時のレポートも参考にする。

教科書

特に指定しない。講義時に資料プリントを配布する。

参考書等

高校用地図帳（『新詳高等地図』帝国書院など。高校時代に使用したものがあればそれでもよい。）
その他の参考書は講義の中で順次紹介する。

その他

授業は講義形式で行う。ときどきビデオ、スライドなどを取り入れる予定である。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|---------------------|------|-----|
| 自然地理学概説 | たかぎ まさひろ 高 木 正 博 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

自然地理学の分野のうち、河川や地下水などにかかわる水の地理学を講ずる。
近年、河川環境や地下水汚染などに関心が寄せられている。これらのテーマを考えるため、その基礎となる河川や地下水の特性について、地域事例をもとに説明する。

講義の内容・授業スケジュール

次の諸点について講ずる。
1) 水循環・水収支など水文学の基礎について
2) 河川や地下水の水量や水質など特性と地域とのかかわりについて
3) 河川地形と水災害、利水・自然環境など流域の自然と人々の関係について
4) 身近な水源としての地下水・湧水の保全などについて
地域事例を紹介する際、地形図や空中写真などを利用して地域調査の基礎についても概説する。

履修上の留意点

講義が中心になるが、受講者にも問題意識を持ってもらうため、夏休みに現地調査を伴う課題を提示する。地域を把握するために、地形図や地図帳などが必要である。

成績評価の方法

学年末定期試験と夏休みの課題の他、授業中に随時実施する課題など平常点も加味して行う。

教科書

授業時間にプリントを配布する。

参考書等

地学団体研究会編『地球の水圏－海洋と陸水』（東海大学出版会）
その他随時紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|-----------------------|------|-----|
| 自然地理学概説 | はやふね げん ほう 早 船 元 峰 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

人間生活の舞台である第四紀の大地の生成過程などを論じ、さらに自然に対し人間はいかにあるべきかを災害などの環境問題を通して共に考えていく。また、いくつかの地域をとりあげ、人間と自然とのかかわりあい（人間に対する自然の影響・自然への人間の働きかけ）を、歴史的観点をもとに、主に環境地誌学的立場から論じる。

講義の内容・授業スケジュール

- ・関東平野の地形発達史
- ・北海道本部の気候地形
- ・北海道美瑛町・富良野市における傾斜地の土地利用の変化と環境保全
- ・大気温・湖水温の垂直分布の季節的変化と人間とのかかわり
- ・その他

履修上の留意点

国土院の地形図を数枚用意してもらい、それらをもとに種々の作業（土地利用図・帯状平行投影地形断面図・切峰面図など）をして理解をより一層深めてもらう。直定規・方眼紙・トレース紙・硬質色鉛筆・黒色水性ペンを各人用意すること。

成績評価の方法

課題（地形図より主題図作成）・小テスト出席状況などによる平常点。

参考書等

水見山幸夫・岡本次郎編著『土地利用変化とその問題』（大明堂）
脇田武光・石原照敏編『観光開発と地域振興』（古今書院）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|------------------------------|---------|-----|
| 地 誌 学 概 説 | かわ 川 もと 元 とよ 豊 かず 和 | 教 職 教 科 | 4 |

講義のねらい

南及び東南アジアの地誌について講義する。テーマは「地域の変貌」であり、主な対象地域としてバングラデシュとマレーシアを予定している。

講義の内容・
授業スケジュール

前半では、主にバングラデシュの村落を対象とし、1960年代後半以降の「緑の革命」にともなう農耕の変化や農業開発の過程で生じる地主・小作関係に根ざす土地問題や小作制度の変更、労働力の問題などについて考えてゆきたい。また、農村から大量の人々を吸収し続けている都市についても考察したい。後半では、主にマレーシアを対象とし、多民族社会の地理的特徴やマレー村落とその変貌、社会経済構造の変化などについて最近の地域研究の成果を紹介しながら、地域の特性を明らかにしたい。また、近年の高度経済成長にともなう工業化・都市化の問題についても考えてゆきたい。

履修上の留意点

高校時代に使用したものでよいから、地図帳を持参して講義に臨んでもらいたい。

成績評価の方法

出席及び前期末のレポート提出を前提とし、学年末の筆記試験と併せて総合的に評価する。

教 科 書

特に定めず、プリントを配布する。

参 考 書 等

臼田雅之・佐藤宏・谷口晋吉編『もっと知りたいバングラデシュ』（弘文堂）1993 2,800円
水島司編『アジア読本マレーシア』（河出書房新社）1993 2,000円

そ の 他

年に2～3回はスライドを使用した授業を予定している。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------|-----------------|---------|-----|
| 地 誌 学 概 説 | くほ た 武 久 保 田 | 教 職 教 科 | 4 |

講義のねらい

一般教養として広く世界の諸地域の特色と課題について基礎的知識の修得と理解
高校地歴科、中学校社会科の授業で世界の諸地域を扱う際に必要な基礎知識の修得
暗記科目にせず世界の諸地域に対し生徒の興味関心を増す教授内容構成と教授法の考察

講義の内容・
授業スケジュール

- ◆講義の内容
世界の諸地域の地域学習（地理・歴史・その他の内容）。大地域は一通り学習。中小地域と国は範例学習的に選択
教授者による毎回の授業、夏季休業中学生による地域紹介作成課題とその内容指導、生徒の学習評価法、教授者の自己評価法、情報源になる資料紹介、その他
- ◆授業スケジュール
前期は講義（教授者による授業例）と関連事項の質疑・実習・課題作成等
後期はそれに加え夏季休業中の課題「学生による地域学習案作成」の添削指導

履修上の留意点

毎回授業の終わりに授業内容に関連して、簡潔なまとめ、コメント、実習内容等の提出を求め
出欠調査に代える。提出物は添削（質問、意見には回答）のうえ次回に返却する

成績評価の方法

定期試験、毎授業後の提出物、授業への参加意欲（出席状況他）等を総合して評価
原則として授業時数の2/3以上出席しないと単位を認定しない

教科書

使用しない

参考書等

授業の時に紹介する。但し、地理教科書、地図帳、歴史年表、歴史地図、統計資料等は、この際揃えた方がよい。とりあえず地図帳と統計資料、歴史年表は初回から持参のこと

そ の 他

毎授業時間の前半は講義、後半は質疑、実習、課題作成等を原則とする
OHP、スライド、ビデオ、写真など視聴覚機材を講義内容理解と補足のため頻繁に使用する

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|------------------------|------|-----|
| 地誌学概説 | ふじ しま のり たか 藤 島 範 孝 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

アジアには30億の人が居住し、古代文明を生み出したが、その後欧米至上主義によって旧態依然といわれる。更に民族独立と社会主義崩壊、人口爆発と飢餓、核汚染と地球環境の破壊など多くの問題をかかえてきた。この実情をアジアに見る。特に日本はアジアの一員であることを忘れてきた経緯を反省し、各分野から分析してみたいと思う。

講義の内容・授業スケジュール

アジアの地図を描き、最近の変貌を加え、新しいアジア観の把握に努める。

履修上の留意点

各種の地図を利用するので、描写及び着色することがある。作図できるようにしておく。国境及首都等は構造として把握する。

成績評価の方法

最近のアジア各地の変貌を報告発表を要求する。

教科書

大藪友和『アジアを読む地図』（講談社）1,800円

参考書等

浅井信雄『民族世界地図』（新潮社）1,000円
泉三郎『世界地図の新しい読み方』（日本実業出版社）1,300円
アンドリュース・ボイド『世界紛争地図』（創元社）1,600円

その他

講義、作図。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|------------------------|------|-----|
| 日本仏教史 | えん どう ひろ あき 遠 藤 廣 昭 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

中世の仏教諸宗派の展開を、特に関東にスポットをあてて概観し、その過程を明らかにしていきたい。その中でも、地域社会とのかかわりを中心に見ていきたい。また一見それらとかわりの無いように見える「学僧」とよばれた僧侶の活動も詳述して見たい。

講義の内容・授業スケジュール

昨年度は、仏教の伝来から奈良・平安時代の仏教について前期で講義した。本年度は古代仏教も概観するが、講義の中心は中世の関東における仏教諸宗派の展開にしばって見たい。中でも真言宗と曹洞宗については詳述する。なぜならば、関東においては、古代仏教諸宗派中真言宗が最も多く展開を見、いわゆる鎌倉新仏教の中では曹洞宗が最も展開をとげているから、両宗は地域社会とのかかわりも深いと考えられるからである。このうち真言宗の展開の場合は、鎌倉・室町時代を通して、京都や鎌倉との関係は無視できない。そのような視点からも講義を進めて見たい。

成績評価の方法

成績評価は、定期試験の結果を基本とするが、出席も重視する。

教科書・参考書等

教科書・参考書は特になし。必要な資料は、授業時に配布する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------|-------------------|------|----|
| 日本文化史 I | ひろせ りょうこう 廣瀬良弘 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

日本の文化の歴史が、社会の生産や生産組織の問題と深くかかわっていたことに留意し、朝廷・公家・武家ばかりでなく、民衆も文化の創造にかかわっていったことを、明らかにする。

講義の内容・授業スケジュール

日本文化の流れを概観し、平安期から江戸期にかけての文化について講述する。つぎのような順序で授業を進めていくが、とくに①～⑦の項目に重点を置く。

- ① 日本文化史概観
- ② 平安期の文化と中世文化、中世文化の成立
- ③ 中世文化史研究の動向
- ④ 中世文化の展開
- ⑤ 室町文化（北山・東山文化）
- ⑥ 禅宗と文化
- ⑦ 京都と大名領国の文化
- ⑧ 下剋上の世と文化
- ⑨ 桃山文化
- ⑩ 宣教師たちがみた日本の文化と南蛮文化
- ⑪ 近世文化史研究の動向
- ⑫ 寛永文化
- ⑬ 元禄文化と化政文化

履修上の留意点

日頃、身のまわりにある道具や私たちの“しぐさ”にも歴史・文化がみえかくれするものである。物・道具にも文化・歴史を感じとれる感覚を養ってほしい。また、受講中は、図書館に文化史・美術史などの資料やビデオが所蔵されているので大いに活用してほしい。

成績評価の方法

定期試験の結果、出席状況など。

教科書

特に指定しない。必要な資料は随時コピーを配布する。

参考書等

授業中に随時示していく。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|---------------|------|----|
| 歴史哲学 | あそう けん 麻生建 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

「歴史とは何か」、「歴史認識はいかにして可能か」という問題は単なる歴史学の問題ではなく、広く人文科学一般の問題である。講義は、この二つのテーマを中心に行われる。

講義の内容・授業スケジュール

前半はいわゆる「歴史哲学」の変遷をギリシア時代から19世紀に至るまで概括し、そこで展開された諸問題を検討する。後半は主として歴史認識の問題を解釈学を中心に講義する。教科書として下記のものを使う。

履修上の留意点

前半は、純粋な講義の形をとるので、きちんとノートを取り、自分なりに問題を整理する努力をすること。後半は、教科書に基づいて行なう。

成績評価の方法

学年末試験

教科書

麻生建著『解釈学』（世界書院）2,500円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|------|------|-----|
| 日本史概説 | 黒田基樹 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

歴史学という学問は、過去の社会を正確に認識するとともに、現代社会をどのように把握するか、ということを追究するものである。そのため、過去の日本社会を題材としつつも、常に現代の日本社会との対話を意識し、歴史を「考える」という観点を重視していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

日本史を通時的に概観するのではなく、主として平安時代末期から江戸時代初期を対象として、個々のテーマを設定し、検討する。

成績評価の方法

学年末に試験をおこない、出席数と試験の結果を総合して評価する。

教科書

特になし。

参考書等

授業のなかで随時紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|------|------|-----|
| 日本史概説 | 小松寿治 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

「日本史」が日本国の歴史について学ぶ学問であることは承知のことと思いますが、日本国に住みながら「日本史」を知らない人たちが多く思いませんか。日本という国に住んでいる人間ならば、日本で起こったこと、特に国際化が叫ばれる昨今、外国とどのようにかかわっていたかを知っていることは、必要なことと思います。国際社会の中で、自分の住んでいる国の歴史を知らないことは、恥かしいことではないでしょうか。社会科の教員免許を目指す皆さんは、それがたとえ歴史の免許でなくても、関連する専攻の状況を理解するために、歴史に関する目を持つことは重要なことと思います。

講義の内容・授業スケジュール

日本の歴史を現在国際問題となっている日本の歴史認識と関連づけながら講義をしたいと思っています。そのため通常の歴史の授業とは違い、若干、時代的には前後する話になるかもしれません。

成績評価の方法

前・後期二度の試験をします。教員となる人たちの授業ですので、出席を重視します。

教科書

特に用意しません。必要な資料は、授業の際に配布いたします。

参考書等

授業の時、随時話します。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|---------|------|-----|
| 世界史概説 | 井 村 行 子 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

近代世界システムの成立と展開の過程として世界近現代史を捉える。

講義の内容・
授業スケジュール

| | | | |
|------|-----------------|------|-------------|
| 第1回 | 近代世界体制成立の諸前提 | 第12回 | 19世紀後半のアジア |
| 第2回 | 18世紀の西ヨーロッパ | 第13回 | 帝国主義の開幕 |
| 第3回 | 18世紀の中・東ヨーロッパ | 第14回 | 帝国主義の世界分割 |
| 第4回 | 18世紀のアジア | 第15回 | 20世紀初頭の世界 |
| 第5回 | 二重革命の時代 | 第16回 | 第一次世界大戦 |
| 第6回 | ヴェーン体制の成立 | 第17回 | ヴェルサイユ体制の成立 |
| 第7回 | 19世紀前半のヨーロッパ | 第18回 | 1920年代の世界 |
| 第8回 | 19世紀前半のアメリカ | 第19回 | 1930年代の世界 |
| 第9回 | 19世紀前半のアジア | 第20回 | 第二次世界大戦 |
| 第10回 | 19世紀後半のヨーロッパ | 第21回 | 戦後世界の成立 |
| 第11回 | 19世紀後半のアメリカとロシア | | |

成績評価の方法

前期後期二回行う筆記試験による

教科書

使用しない。

参考書等

大江一道『世界近現代全史』全3巻 1991-97

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|-------------------|------|-----|
| 世界史概説 | まつもと ひろし 松 本 弘 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

本年度の世界史概説の東洋史は、中東の歴史を扱う。近い将来、学生諸君が教職について世界史を担当する際、最も困難を憶える部分は、おそらく中東やイスラムに関わるものであろう。近年、教科書における中東やイスラムに関わる記述は増えており、また中東和平問題やイスラム原理主義などの報道も大きく扱われている。にもかかわらず、中東は未だ「遠いところ」であり、その理解のための情報提供や教育はますます困難さを増しているように思われる。それゆえ本講義では、イスラム成立以後の中東の歴史を詳解し、学生諸君が教職につくという前提の下、中学及び高校において中東やイスラムに関する授業を行うために、最低限必要な情報と解説を示すことを講義の目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

「中東 (Middle East、地理用語では西アジア及び北アフリカ)」という言葉の意味から始めて、中東における民族や宗教を概観し、アイデンティティの問題を論じることによって、その社会の特質を明らかにする。加えて、ユダヤ教、キリスト教、イスラムという中東で成立した一神教の流れから、イスラムの占める位置も確認する。

次いで、預言者ムハンマドから正統カリフ、ウマイヤ朝、アッバース朝のイスラム史を概観し、その政治史や政治体制を解説するとともに、イスラム神学・法学やイスラム神秘主義といった思想史も扱いたい。

その後は、オスマン帝国の概説から中東の近代史に入り、ヨーロッパ列強の進出とそれに対する抵抗の過程を通して、「中東の近代」に関わる特質を論じる。そして、アラブ民族主義や中東和平問題から現代史に入り、イスラム原理主義や湾岸戦争後の情勢などを解説して、中東における歴史と現状の関わり合いについて、筆者なりの評価を示してみたい。

成績評価の方法

前後期2回の試験による。

教科書・
参考書等

教科書は特に用いない。参考書は適宜紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|-----------------------|------|-----|
| 社会学原論 | わた なべ もと き 渡 辺 源 樹 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

社会学の主要な対象である社会的人間、集団、組織を柱に据え、加えて社会変動の問題を加味させた社会意識論を配置し、その各々を構成する主要な問題を講述する。そのためのものとして社会学の概念や理論を用いて、身近な社会現象をとらえて社会学的な理解や認識を深めさせたい。

講義の内容・授業スケジュール

- 授業内容とそれに必要な準備
- 第1回 社会学とは何か
社会的事実／実証性 “予期せんがために見る”／社会学的分析／現代社会学の領域と方法
- 第2回 社会的行為
なぜ“action”からなのか／社会の基礎的単位として行為／行為の社会性・歴史性
- 第3回 相互行為・社会関係・社会過程
人間の行為は“inter”して社会的となる／人間関係・社会関係・国際関係／交換／社会過程
- 第4回 社会的役割の基本公準
1. 役割の取得 — 社会化 フロイドとパーソンズの“社会化の過程”を中心に
- 第5回 2. 役割の準拠 — 準拠集団 準拠枠／所属集団と準拠集団／動機と態度の概念
- 第6回 3. 役割の葛藤 — マージナル・マン アイデンティティとモラトリアム／マージナルマンとして青年期／マージナルマンとして職場人間
- 第7回 社会統制と逸脱行為
1. 規範と同調 — 逸脱の次元 行為と社会的秩序／サンクション・パターン
- 第8回 2. ラベリングと予言の自己成就 印象操作／シンボルとシンボル操作／逸脱とラベリング／予言の自己成就
- 第9回 アノミー デュルケムのアノミー、マートンのアノミー論、マクロ社会学とミクロ社会学
- 第10回 社会集団
- 第11回 1. 社会集団とは何か 集団の特質／集団の分類／家族と企業体
2. 集団の構造と機能 社会有機体説と構造・機能／機能連関／機能要件 (AGIL 図式)
- 第12回 3. 集団の構造と機能 地位と役割 集団の単位としての役割／ロールセット、地位系列／業績的地位・帰属的地位
- 第13回 4. 集団のリーダーシップ 集団目標／集団効果性／ホワイターのリーダーシップ論／PM 理論とリーダーシップ
- 第14回 5. 集団の凝集性・モラル 同調への圧力・斉一性／集団規範／凝集性を高める条件／モラル
- 第15回 集団・文化・パーソナルティ
- 第16回 組織論と官僚性
1. 組織の一般理論 現代社会と組織体／組織の一般理論
- 第17回 2. 官僚制組織の基本原理解 ウェーバーの支配の3類型／官僚制組織の基本原理解 (ウェーバー、ミヘルス)／支配・権力・権威
- 第18回 3. 官僚制組織の動態 官僚制組織における“目標の転移”／ホーソン実験／ゲルドナー、ブラウの官僚制論
- 第19回 社会意識
1. 社会意識とは何か 社会意識の2つの途／マルクスとウェーバー
- 第20回 2. ウェーバーのエートス論 「プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神」を中心として
- 第21回 3. 社会的性格
i) フロムの社会的性格 「自由からの逃走」を中心として
- 第22回 ii) ミルズ、リースマンの社会的性格 「ロンリー・クロード」を中心として
- 第23回 4. 社会的態度 (社会心理) 行為の科学的説明／ニューカムの社会的行動の説明図式
- 第24回 全体社会の構成
1. 経済と社会…経済と経済社会学／産業社会・消費社会／経済の国際化・従属理論
- 第25回 2. 政治と社会…政治と政治社会学／権力／政治文化
3. 法と社会…法と法社会学／法の機能／規範
4. 教育と社会…教育と教育社会学／学歴と社会移動
- 第26回 社会成層の社会学 階級と階層／職業構成／社会移動／地位の…貫性・非…貫性／成層研究の課題

成績評価の方法

定期試験（有り）、レポート（有り）

教科書

開講時に提示

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------|------------------------|------|-----|
| 宗 教 人 類 学 | さ さ き こう かん 佐々木 宏 幹 | 教職教科 | 4 |

(P.282) 参照

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|---------------------------|---------|-----|
| 経 済 原 論 | あさ だ どう いちろう 浅 田 統 一 郎 | 教 職 教 科 | 4 |

講義のねらい

本講義は、近代経済学の基礎理論をわかり易く体系的に解説し、『価格理論』および『国民所得理論』の一層進んだ内容を理解するための橋渡しをすることを目的としています。また、本講義を受講することによって得られた基礎知識は、現実の経済問題を解釈し、その解決策を考えるための指針としても役立ちます。

講義の内容・
授業スケジュール

近代経済学の理論体系は、「ミクロ経済学」と「マクロ経済学」という二大分野に分けられます。ミクロ経済学は、19世紀のジェボンズ、マーシャル、メンガー、ワルラス、20世紀に入ってからヒックス、サムエルソン、アロー、ドブリュー等によって発展させられてきた理論分野で、経済を構成する個別的な消費者や企業の行動にまでさかのぼって市場における価格決定の問題を分析し、完全競争、独占、独占的競争、寡占等の市場形態の相違が資源配分の効率性や所得分配にどのような影響を及ぼすかを分析します。(駒沢大学経済学部では、『価格理論』という科目がこれらの問題を専門的に扱っています。)他方、マクロ経済学は、20世紀前半にイギリスの経済学者ケインズによってその基礎が築かれた経済学的重要な一分野で、国民所得、物価水準、失業率、政府財政余剰、国際収支等の「集計概念」(様々な細かい個別の変数を合計して、あるいは平均して得られる概念)を用いて、経済全体の動きを大づかみに把握することを目的としています。(駒沢大学経済学部では、『国民所得理論』という科目がこれらの問題を専門的に扱っています。)マクロ経済学の理論は、現在、政府による経済政策が経済全体に対して及ぼす影響と効果を分析したり論じたりする際に必要不可欠な思考の枠組を提供してくれますが、同時に、この分野は、正統派ケインジアン、ポスト・ケインジアン、マネタリスト、サプライサイドの経済学、合理的期待学派等、様々な学派が並存して各学派の間で活発な論争が行われている分野でもあります。また、ハロッド、ドーマー、ロビンソン、ソロー等によって発展させられた経済成長理論、ヒックス、カルドア、グッドウィン等によって発展させられた景気循環理論も、マクロ経済学から派生した分野とみなすことができます。

本講義では、これら二つの理論体系の基礎知識を以下の順序に従ってわかり易く解説します。

- | | |
|-------------|----------------------|
| I. ミクロ経済学 | II. マクロ経済学 |
| 1. 消費者行動の理論 | 1. 国民所得の概念 |
| 2. 企業行動の理論 | 2. 国民所得決定の理論 |
| 3. 市場均衡の理論 | 3. 貨幣と利子率 (IS・LM 分析) |
| 4. 不完全競争の理論 | 4. 財政・金融政策の効果 |

なお、教科書は、浅野・荒木・浅田『エコノミックス』改訂版(成蹊堂)を使用しますが、本講義の範囲を越えてもっと詳しくミクロ経済学とマクロ経済学を勉強したい受講者や本講義の修了者のために、下記の「指定図書」を推薦しておきます。

成績評価の方法

成績は年2回(前期・後期)行う筆記試験によって評価します。

教 科 書

浅野克巳・荒木勝啓・浅田統一郎著『エコノミックス』改訂版(成蹊堂)

参 考 書 等

〔指定図書・文献等〕
 武隈慎一 著『ミクロ経済学』(新世社)
 中谷巖 著『入門マクロ経済学』(日本評論社)

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|------------------|---------|-----|
| 経 済 原 論 | あまののり 天 野 光 則 | 教 職 教 科 | 4 |

講義のねらい

経済学は、商品・貨幣経済を基礎とする近代社会（＝資本主義社会）の生成・発展のなかで、「社会認識」の学問として誕生した。

人々の生活はそれまでの自給自足的な生活から、自分の必要とするものを商品・貨幣関係＝市場を通して充足する生活へと変わって行き、それにともない人々の意識や行動も共同体的意識が次第にうすれ、個人が自己の利益を優先し、「損得勘定」に従うようになっていった。こうして人々は、「利己心」を中心に市場を通して関係を取り結ぶようになり、こうした社会にあって個人と社会の関係がどのように「調和」するかということをめぐって経済学という学問は生きたのである。経済学を一つの体系的な理論として示したのは、アダム・スミス『国富論』（1776年刊）であった。

スミスはイギリスにおける経済発展を考察しながら、近代社会が資本家・労働者・地主という三大階級からなり、階級間に貧富の差はあるけれども、分業にもとづく生産力の発展によってもっとも貧しい労働者階級にもその恩恵は及び、社会に「調和」が存在すると見なした。

しかし、18世紀末から19世紀初頭にかけての産業革命の進展とともに生産力は目ざましい発展を示しながら、資本主義社会の病理としての過剰生産恐慌は労働者を失業＝貧困に追いやり、社会の分裂・対立が大きな社会問題となった。この問題に真正面から取り組んだのが、マルクスであった。マルクスは資本主義社会を人類史における一つの歴史的・過渡的な社会ととらえ、そこにおける「経済的運動法則」の解明を意図して『資本論』（第一巻、1867年刊）を著わした。

本講義では、スミスからマルクスにいたるこうした経済学の流れを念頭におきながら、マルクスによって示された「資本主義の経済的運動法則」とはどのようなものであったかということ、明らかにして行きたい。

講義の内容・ 授業スケジュール

前期

- 第1篇 経済学の対象と方法
- 第2篇 商品・貨幣論
- 第3篇 資本・剰余価値論

後期

- 第4篇 資本蓄積論
- 第5篇 分配論（商業利潤論、利子論、地代論）

履修上の留意点

第2回の授業の出席者をもって受講登録者と見なすので、受講希望者は必ず出席すること。毎時間出席を取ることはいないが、適宜出席を取り、平常的評価として加味する。

成績評価の方法

前後期各2回、授業時に簡単なテストを行ない、出席状況を加味して成績評価を行なう。

教科書

平井規之他著『経済原論』（有斐閣）

参考書等

マルクス『資本論』第1巻（新日本新書）
内田義彦『社会認識の歩み』（岩波新書）
大塚久雄『社会科学の方法』（岩波新書）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|----------------|---------|-----|
| 経 済 原 論 | おのとしお夫 小野俊夫 | 教 職 教 科 | 4 |

講義のねらい

経済は現代社会の基本であり、経済学、特に経済学原論は広く社会諸科学を学習し理解するためには必須の学問である。この講義では、現代経済社会の仕組みと運行の仕方を理解し、正しく分析し得る力を身につけるためには不可欠な理論の基本を、いわゆる近代経済学の立場から体系的に解説する。

講義の内容・授業スケジュール

講義は次の順序で行う。

1. 経済学発展史要説
2. ミクロ経済学：ミクロ的経済循環とミクロ経済学、消費者行動の理論、企業行動の理論（企業の生産技術と生産費、完全競争下の企業行動、独占企業の行動）、完全競争市場と独占市場、現代企業と市場の理論。
3. マクロ経済学：マクロ的経済循環とマクロ経済学、国民所得の諸概念、ケインズの有効需要原理と理論体系要説、ケインズ経済学体系（消費関数と貯蓄関数、国民所得の決定と投資乗数の理論、投資決定の理論、利子率決定の流動性選好理論、ケインズ理論体系と IS-LM モデル）、経済成長と景気変動、政府および外国貿易を考慮する一般的分析。

履修上の留意点

講義を理解するために経済に関する予備知識は必要としないが、学問はそもそも一つの体系であるから、常に出席して講義の順を追って理解して行かねばならない。

成績評価の方法

次の3点の総合評価による。

- (a) 講義への出席率
- (b) 後期の適当な時期に課するレポート提出
- (c) 後期の最終講義時間に行う教場試験。

教 科 書

小野俊夫編著『現代経済学の基礎』（学文社）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|------------------|------|----|
| 民法 I | おおみやはたかし 大宮 隆 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

民法という法律は、日常の社会生活（財産関係と家族関係）を規律の対象とし、総則・物権・債権・親族・相続の五編に編別されている。本講の対象は、第一編総則、第二編物権である。なかでも総則は、全編に共通な規定と、どの編にも入れることができない規定を集めて構成されているので、抽象的な法文形式が多い。講義においては、具体例を挙げてわかりやすく説明したいと思っている。

講義の内容・授業スケジュール

- ① 民法の意義
- ② 民法典の編別
- ③ 民法の指導原理とその修正
- ④ 自然人
- ⑤ 法人
- ⑥ 物
- ⑦ 法律行為
- ⑧ 期間
- ⑨ 時効
- ⑩ 物権変動
- ⑪ 占有権
- ⑫ 所有権
- ⑬ 地上権
- ⑭ 永小作権
- ⑮ 地役権
- ⑯ 留置権
- ⑰ 先取特権
- ⑱ 質権
- ⑲ 抵当権

履修上の留意点

講義には六法持参のこと。講義終了時に次週の予告をするので、教科書を読んでくること。

成績評価の方法

年度末の定期試験と出席状況を総合して評価する。

教科書

玉田弘毅『図解民法講義 総則・物権』（住宅新報社）1,854円

参考書等

講義の中で随時紹介します。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|--------------------|---------|-----|
| 政 治 学 原 論 | おお つか かつら 大 塚 桂 | 教 職 教 科 | 4 |

講義のねらい

私は、いままでイギリスの政治的多元主義と新自由主義、ならびにフランスの社会連帯主義を研究してきました。現在は、日本における多元的国家論の受容過程に関して勉強をしています。このような私の研究経歴からして、講義内容は少しばかり哲学的、観念的なものになるかもしれませんが。政治学のみならず、ひろく隣接領域（法学・哲学・歴史学・社会学・経済学）にもふれながら一年間の授業をしてみたいと思います。

私の研究室は、第2研究館8階（2835）にあります。研究上支障が生じたときや質問があるときには訪問してください。なお、研究室の電話番号は、3418-9377（直）です。

講義の目的

第一の目的は、将来教壇にたったときに役立つ基本的な知識の習得をめざすことです。

第二の目的は、社会科学の思考方法を会得することです。

第三の目的は、自己の意見を論理的にはっきりと述べられるようにすることです。

講義の内容・
授業スケジュール

講義のすすめ方

政治学の基本問題を、一回一テーマ主義でとりあげます。ワン・ウェイの講義をするのではなく、学生諸君との対話・討論形式をとりいれて授業をすすめていきます（場合によっては、学生諸君の報告や模擬授業も）。質問には、はずかしがらずに積極的にこたえて授業を盛り上げてください。

授業では、政治学のみならず隣接科目にまで話がおよんでいきます。履修者はあらかじめ高校時代の「政治経済」の教科書や参考書などに目をとっておくとよいでしょう。

講義内容

講義でとりあげる問題は、以下のとおりです。

- | | |
|-----------------|----------|
| A 政治の思想 | C 日本の政治 |
| ～古代ギリシャ・ローマ政治思想 | ～明治国家の形成 |
| 中世政治思想 | 大正デモクラシー |
| 近代政治思想 | 軍部独裁 |
| 現代政治思想 | 戦後の政治 |
| B 政治の仕組み | D 国際政治 |
| ～議会 | ～国際連合 |
| 内閣 | N G O |
| 地方自治 | 国際関係 |
| 官僚制 | |
| 政党 | |
| 選挙 | |
| 世論 | |

履修上の留意点

将来教職を希望する人間が、教室に足を運ばないのはもってのほかです。単位の認定にあたっては、出席を特に重視します。正当な理由があって欠席する場合（実習・研修など）には、必ず届けを提出してください。

成績評価の方法

出席：50% 中間試験：20% 学年末試験：30%
以上の割合で評価します。
なお、追・再試験も実施します。

教科書

大塚桂編『政治学へのいざない』（成文堂）2,500円

参考書等

大塚桂『政治学原論序説』（勁草書房）3,296円
大塚桂『政治哲学入門』（法律文化社）2,900円

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|------------------------|------|-----|
| 日本宗教文化史 | いけ がみ よし まさ 池 上 良 正 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

主として東北地方や沖縄地方の民俗・民衆的な宗教現象の具体例を紹介しながら、日本の宗教文化を根底から支えてきた基盤の広がり、その独特の性格などを考えてみたい。具体的には、日本人の運命観、死生観、靈魂観、系譜へのこだわり、「のろい」「うらみ」などの情緒への対処、「平等」に対する感性、などが話題になろう。

講義の内容・授業スケジュール

なるべく具体的な事例の考察を中心に話を進めたい。特に、東北地方のイタコ、カミサマ、沖縄地方のユタ、ムヌシリなど、民間巫者などの総称によって捉えられてきた「野の宗教者」の世界に光を当てる。前期は東北地方、後期は沖縄地方の話が中心となる。

成績評価の方法

年度末のレポートによる。

教科書

特に指定しない。

参考書等

授業中に適宜紹介する。

その他

スライド、ビデオを適宜使用する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|-----------------------|------|-----|
| 民衆宗教成立史 | つ しろ ひろ ふみ 津 城 寛 文 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

深層文化論と宗教学の接点にたつて、民間信仰、民俗宗教、民衆宗教などの成立と基盤とを扱います。大伝統に対する小伝統、エリートに対する民衆、イデオロギーに対する非イデオロギー的な習慣習俗などに焦点を当てて、われわれの文化や社会や心の深層にある、民衆的な宗教性を浮き彫りにしたいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

主要テーマは下記の4つであり、前期は深層文化論を軸に、後期は民衆宗教論を軸に、講義を進めます。

- 前期
- ① 深層文化論の整理
 - ② 深層文化と宗教研究
- 後期
- ③ 民俗主義的な深層文化
 - ④ 新宗教の発生と展開

履修上の留意点

私語だけは慎んで下さい。

成績評価の方法

出席を参考に、主に前期後期のレポートで行います。

教科書

用いません。

参考書等

深層文化論に関しては、拙著『日本の深層文化序説 ― 三つの深層と宗教』(玉川大学出版部)1995年を用います。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------|------------|---------|-----|
| 宗 教 学 概 説 | あらい 洗 けん 建 | 教 職 教 科 | 4 |

講義のねらい

実証的研究としての宗教学の立場から、我々現代日本人とのかかわりを念頭に置いて、世界の諸宗教について概説し、宗教を理解することがあらゆる人間の営み（諸文化、諸学問）を理解することといかに深くかかわっているかを明らかにする。

この教科は教職科目であるので、できれば近代と宗教、憲法理念と宗教の問題にも言及したい。

講義の内容・授業スケジュール

宗教学の性格、原始宗教、民族宗教、仏教、キリスト教、イスラーム教、神道、新宗教運動、近代化、世俗化、信教の自由、政教分離などの諸問題について考える。

履修上の留意点

できるだけ出席し、事実を覚えることより、宗教学のものの見方を理解して貰いたい。したがって、原則として出席をとる。

成績評価の方法

試験またはレポートと、出席点を総合して評価する。

教科書

水野弘元、柴田道賢監修『宗教学ハンドブック』（世界書院）を持っていれば、参照すること。

参考書等

随時、紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------|---------------------|---------|-----|
| 宗 教 学 概 説 | いけ がみ よし まさ 池 上 良 正 | 教 職 教 科 | 4 |

講義のねらい

「宗教」とよばれる現象には、特定の教祖によって開かれ、制度的・教典的な背景や歴史をもった「世界宗教」とよばれるものから、共同体の生活慣習や年中行事に組み込まれた「習俗」、あるいは機能分化した近代社会に生きる個人の「生き甲斐」まで、多様な幅がある。また、教祖・聖者などの宗教的達人やエリートによって説かれた「思想」から、現世祈祷・死者供養・祭礼・禁忌・呪い、などとよばれるような庶民の「実践」まで、途方もない広がりをもっている。

本講義では、主として一般庶民の生活に根ざした、宗教の民俗・民衆的な側面に焦点を合わせ、宗教学の視点から、この側面を捉える方法や、その具体的な研究成果について考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義形式によって、代表的な研究を紹介することを予定しているが、受講者の人数によっては、学生諸君に課題を与えて発表してもらうこともある。

成績評価の方法

レポートを予定しているが、試験に変更する可能性もある。

教科書

特に指定しない。

参考書等

授業中に適宜紹介する。

さしあたり、佐々木宏幹・村武精一編『宗教学人類学』（新曜社）などが役に立つ。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|--------------------|---------|-----|
| 宗 教 学 概 説 | つ 津 しろ 城 ひろ 寛 ふみ 文 | 教 職 教 科 | 4 |

講義のねらい

世界宗教史と日本宗教史を軸にして、原始宗教・古代宗教から現代の宗教現象まで、宗教としての共通点と、それぞれに固有の特性が明らかになるような講義にしたいと思います。

講義の内容・授業スケジュール

前期は世界宗教を軸に、後期は日本宗教史を軸に、講義を進めます。日本宗教史は概説ではなく、仏教関係の話題も重複のないように省き、興味深い話題に焦点をあてた各論にします。おおまかなスケジュールは次のとおりです。

前期

比較宗教学の前提、呪術と宗教、アニミズム・シャーマニズム、原始宗教・古代宗教、ヒンドゥー教と仏教、ユダヤ教・キリスト教・イスラム教、世界の新宗教運動

後期

固有信仰、神と仏、宗教者の群像、近代化の中の宗教、宗教と国家、宗教と教育

履修上の留意点

私語だけは慎んで下さい。

成績評価の方法

出席を参考に、主に前期後期のレポートで行ないます。

教 科 書

用いません。

参 考 書 等

その都度紹介します。

そ の 他

数回ビデオを用います。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------|-----------------------|------|-----|
| 哲学概説 | くにしま かず のり 国 嶋 一 則 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

われわれは、生きてゆくための支えとなるものを求めざるをえない。「支え」となるものは価値のあるものである。価値とはいかなるものかを明らかにするには、まず価値が、自然や人間や歴史などの存在するものと、いかなる関係にあるかを、さらにその前に、存在するものがいかなるものであるかを、明らかにしなければならない。

ところで、世界、人間、歴史などの存在するものが、いかなる仕方で存在するかという存在論の問題を考えるためには、われわれは何を、いかに認識しうるかという認識論の問題について知っておかねばならない。そしてまたそのためには、認識の真偽を論ずる真理問題が明らかにされておらねばならない。

以上、価値、存在、認識（知識）、真理という哲学思索を進めるべき段階を辿ったが、その段階は哲学の体系でもある。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、哲学の基礎概念と思索を進めるための論理の学習。
後期は、体系的立場から、現代の主義を哲学的に考察する。

成績評価の方法

出席回数、筆記試験、レポート

教科書

学期のはじめに発表する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------|-----------------------|------|-----|
| 哲学概説 | すえ き やす ひこ 末 木 恭 彦 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

哲学とは何であろう。そして、それは人生に如何なる意味を持つのであろうか。—哲学を学ぶ以前にこの様な問いがある。この問いにこそ、この講義を通じて探究を試みる。始めに述べた問いは、我々東アジアの人間にとっては極く自然である。何故なら、東アジアの学問の伝統の中には哲学なる学問は無かったからである。この地域では近代欧米諸国文化の強い圧力下に、新しい学問として哲学を成立させた。その時、唯翻訳するのではなく東アジアの伝統的学問を再構成して、哲学として成立させようと努力する一群の人々もいた。中国にあって、伝統をふまえて独自の哲学を試みた人々の仕事を紹介し、それを通じて冒頭の問いに我々なりの見解を持ちたい—そのような企図の下に、この講義を行う。

講義の内容・授業スケジュール

今年度は、中国の近代哲学者として最も世界に名を知られた馮友蘭を取挙げる。始めに彼の哲学の背景を理解するために、伝記を紹介する。その後、彼独自の哲学新理学の主要著作の中から『新事論』『新世訓』の学説を紹介する。

成績評価の方法

次のものを材料にして成績をつける。

1. 試験あるいはレポート
2. 平常の受講態度（年数回抜き打ちの理解調査を行う）
3. 受講をこえる積極的な学習（任意のレポート、質問〈書面で提出して貰う〉などで判断する）

教科書

『馮友蘭自伝』、馮友蘭『新事論』『新世訓』（ともに和訳はないので、必要箇所を講師が訳し編集したものプリントして配布する。中文版については授業中に解説する）

参考書等

馮友蘭『哲学回憶録』（吾妻重二訳、『みすず』275号～284号）／柿村峻・吾妻重二訳『中国哲学史』（富山房）／島田虔次『新儒家哲学について』（同朋舎）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|----------------------|---------|-----|
| 倫 理 学 概 説 | く ぼ よう いち 久 保 陽 一 | 教 職 教 科 | 4 |

講義のねらい

古代から現代にいたる倫理学の主な学説を学び、現代社会における人間の生き方の手掛かりを得ることをめざす。現代はしばしば「ポスト・モダン」の時代だと云われる。それは、近代の科学技術文明や社会制度が様々な問題を露呈し、その解決が求められているからだろう。けだし近代では、それまで結びついていた経済と政治、政治と宗教、個人と社会、人間と自然、学問(真)と道徳(善)と芸術(美)とが相互に分裂し、それぞれ独立の権限を主張するようになる一方、その前提から新たな総合が求められてもいる。けれども、いまだ— かつこの宗教や国家に代る— 有効な統合原理は見出されえないでおり、そのため種々の混乱が生じている。そこで本講義では、近代の倫理学説を、一方で古代・中世の倫理学説との連関で取り上げると共に、他方で現代の倫理学説との連関で、批判的に考察することにする。

講義の内容・
授業スケジュール

近代の倫理学 — 快楽主義、功利主義、社会契約と人権の思想、理性主義、カント等。
現代の倫理学 — ヘーゲル、マルクス、ニーチェ、ハイデガー、ハーバーマス等。

履修上の留意点

講義に対する積極的な取り組みが受講の要件であり、そのために一年間で少くとも古典を一冊読了するようにすること。

成績評価の方法

中間試験と期末試験、レポート等で評価する。

教 科 書

開講時に指示する。

参 考 書 等

読むべき古典を含め、授業中に紹介する。

【職業】

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|-------------------|------|----|
| 産業概説 | まえだ ゆきかず 前田 幸一 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

授業は'85（昭和60）年以降の日本の産業界の動向を業種別に流れをつかんでいく。

講義の内容・授業スケジュール

（総論）バブル経済と平成不況
 （各論）非鉄金属、建設、食品、紙・パルプ、化学、繊維、石油、エネルギー、鉄鋼、産業機械、造船、重電、家電、コンピューター、半導体、自動車、商社、流通、銀行、生損保、証券、住宅、不動産、運輸、サービス、レジャー、外食産業、通信、ノンバンク、
 なお、受講者の要望を聞きながらですが、今年度は工場見学などを授業に組んで、実施したいと考えています。

履修上の留意点

日経新聞などの経済・産業欄に目を通して授業に望んで欲しい。

成績評価の方法

当授業は多分に受講者が少ないと思いますので、ペーパーテスト等はしません。平常点で決めます。

教科書

高村寿一・小山博之編『日本産業史4』（日本経済新聞社）1,500円

参考書等

授業の際に提示します。

その他

授業での受講者は恐らく少人数であろう。そこで授業の初段階では私が講義をしていきますが、その後はゼミ形式で、皆で議論しながら授業をすすめていきます。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|---------------------|------|----|
| 職業指導 | やま だ ゆうじ 山 田 勇 治 | 教職教科 | 4 |

講義のねらい

職業指導（進路指導）は教職科目であるから、将来教員として役立つような講義内容にするように心掛け、なるべく教育現場の現状をふまえた上で、実践的な授業にするつもりである。

講義の内容・授業スケジュール

前期は、職業指導の基礎的概念である「職業」についての理解を深めるとともに、職業の中でも特に公認会計士を中心にした会計専門職業についてアメリカの場合と比較しながら、特に教育面を中心に講義していきたいと考えています。
 後期は、中学・高校を中心とした学校進路指導の現状とその問題点について文部省が過去3回にわたって実施した実態調査を中心にしてその現状と問題点を考えていくような授業をするつもりである。なお、時間的な余裕があれば学校で実施されている心理テストについて説明したいと考えています。

履修上の留意点

受講する学生は、積極的に問題意識をもって教育問題を考えるようにしてほしい。

成績評価の方法

授業中における課題などの提出や出席状況を考慮しながら、期末のレポート提出によって評価します。

教科書

開講時に指示。

参考書等

有本章・近藤大生編『現代の職業と教育』（福村出版）2,000円
 寺田晃・佐藤怜監修『進路指導』（中央法規出版）2,500円
 仙崎武・野々村新・渡辺三枝子編著『進路指導論』（福村出版）2,300円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|-----------------------|---------|-----|
| 商 業 実 習 | まえ だ ゆき かず 前 田 幸 一 | 教 職 教 科 | 4 |

講義のねらい

貿易における商品取引の基礎的な実務を習得するに目標をおいて授業を進めていく。

講義の内容・
授業スケジュール

授業は基本的に以下の項目で進めていきます。

- | | |
|------------------|-------------|
| 1. 輸出実務の概要 | 10. 為替の予約 |
| 2. 取引関係の創設 | 11. 海上保険契約 |
| 3. 取引条件の取決め | 12. 輸出検査と包装 |
| 4. 売買条件の取決めと契約成立 | 13. 輸出通関 |
| 5. 輸出信用状の照合 | 14. 船積み |
| 6. 約定品の調達 | 15. 船積書類 |
| 7. 輸出保険 | 16. 輸出決済 |
| 8. 輸出承認と認証の取付け | 17. 貿易クレーム |
| 9. 運送契約の締結 | |

成績評価の方法

筆記試験はしない。評価は平常点かレポート提出等によって行います。

教 科 書

開講時に指示します。

参 考 書 等

石田貞夫『貿易取引の実務』（教出版）
 渋谷源蔵『貿易実務』（同文館）
 藤田栄一『貿易取引の英語』（勁草書房）

【商 業】

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|------------------------|---------|-----|
| 職 業 指 導 | やま だ ゆう し じ 山 田 勇 治 | 教 職 教 科 | 4 |

(P.240) 参照

II 学校図書館司書教諭講座

必修科目

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------------------|----------------------|-------------|-----|
| 学校経営と学校図書館 (前期) | やま だ せつ 子 山 田 節 子 | 図書(司)2・3・4必 | 2 |

講義のねらい

学校教育における学校図書館の果たす役割を明らかにし、学校図書館の理念、発達過程と課題・教育行政との関わり、学校図書館経営のあり方など、学校図書館全般についての基本的な理解をめざす。また司書教諭の任務と担うべき役割を明確にし、校内の協力体制作り、司書教諭としての研修の重要性にもふれる。さらに、学校図書館のメディア・学校図書館活動・他の館種を含めた図書館ネットワーク等についての基本的な理解を図る。

講義の内容・ 授業スケジュール

- 1 学校図書館の理念と教育的意義
- 2 学校図書館の発展と課題
- 3 教育行政と学校図書館
- 4 学校図書館の経営
- 5 司書教諭の役割と校内の協力体制、研修
- 6 学校図書館メディアの選択と管理、提供
- 7 学校図書館活動
- 8 図書館の相互協力とネットワーク

成績評価の方法

小論文とテストによる。

参考書等

- 全国 SLA 図書館学編集委員会編『学校図書館学 1 学校図書館の原理と運営』
- 全国 SLA 編『司書教諭の任務と職務』

そ の 他

講義・討論・ビデオ

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------------------|----------------------|-------------|-----|
| 読書と豊かな人間性 (後期) | やま だ せつ 子 山 田 節 子 | 図書(司)2・3・4必 | 2 |

講義のねらい

現代社会に生きる子どもの発達や、読みの多様化などの進展している実態に即した読書教育の理念を探る。さらに、子どもたちの読書生活の実情と読書資料の現状についての理解に基づき、子どもと本を結びつけ、読書の生活化を図る方法を探る。これらを通じて子どもたちの豊かな人間性の涵養に資するため、司書教諭の役割と白らの責務を中心に、活動の原理と方法、技能についても、具体的に体得してもらおう。

講義の内容・ 授業スケジュール

- 1 読書の意義と目的
- 2 子ども読書実態と指導
- 3 読書資料の種類と活用
- 4 発達段階に応じた読書指導
- 5 子どもと本を結ぶための方法
- 6 読書指導推進活動と教員の責務
- 7 地域社会の関連施設等との連携

成績評価の方法

小論文とテストによる

参考書等

- 全国 SLA 編『学校図書館白書 2 学校図書館と子どもの読書の現状と課題』
- 全国 SLA 編『司書教諭の任務と職務』

そ の 他

講義・討論・ビデオ・演習

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------------------|------------------------|-------------|-----|
| 学校図書館メディアの構成 (前 期) | みなもと しょう ききゅう 源 昌 久 | 図書(司)2・3・4必 | 2 |

| | |
|--------------------|--|
| 講義のねらい | 本講義は、学校図書館メディアの構成に関する理解および実務能力の育成を図る。 |
| 講義の内容・ 授業スケジュール | 1) 学校図書館メディアの概念的フレーム・ワーク 2) 分類法(表)の解説・演習 3) 目録の解説・演習 4) 資料組織の機械化 5) 多様な学習環と学校図書館メディアの配置 |
| 履修上の留意点 | 予習・復習をしっかりと行ってほしい。 |
| 成績評価の方法 | 平常点および試験の成績を併せて評価する。 |
| 教 科 書 | 『日本十進分類法 改訂9版』(日本図書館協会)セット定価 6,000円 『日本目録規則 1987年版 改訂版』(日本図書館協会) 3,500円 |
| 参 考 書 等 | 講義中に指示する。 |
| そ の 他 | 必要に応じて、ビデオを活用する。 |

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|--------------------|------------------------|-------------|-----|
| 情報メディアの活用 (後 期) | みなもと しょう ききゅう 源 昌 久 | 図書(司)2・3・4必 | 2 |

| | |
|--------------------|--|
| 講義のねらい | 学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用方法の理解を図る。 |
| 講義の内容・ 授業スケジュール | 1) 情報化社会と人間 2) 情報メディアの特性と選択 3) 視聴覚メディアの活用 4) 学校図書館におけるコンピュータの活用 5) 情報検索 |
| 履修上の留意点 | 予習・復習をしっかりと行ってほしい。 |
| 成績評価の方法 | 平常点および試験の成績を併せて評価する。 |
| 教 科 書 | 情報科学技術協会編『CD-ROM 版情報検索の演習』(日外アソシエーツ) 2,200円 |
| 参 考 書 等 | 講義中に指示する。 |

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------------------------|-----------------------|-------------|-----|
| 学習指導と学校図書館 (前期)(後期) | やま だ せつ こと 山 田 節 子 | 図書(司)2・3・4必 | 2 |

講義のねらい

学習において学校図書館が果たすべき役割は大きい。学習図書館は、児童生徒が、「自分で調べて学ぶ」学習を中心に、教育活動のさまざまな場面で、メディアを積極的に利用するよう指導し、それを活用する能力の育成を図らなければならない。
この科目は、その原理と方法を学ぶと共に教師に対するサービス・支援のあり方に関し、理解を深めることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 教育課程の展開と学校図書館
- 2 発達段階に応じた学校図書館メディアの選択
- 3 児童生徒の学校図書館メディア活用能力の育成
- 4 学習課程における学校図書館メディア活用の実際
- 5 学習指導における学校図書館の利用
- 6 学校図書館における情報サービス
- 7 教師への支援と働きかけ

成績評価の方法

小論文とテストによる。

参 考 書 等

- 全国 SLA 編『これからの学校図書館と司書教諭の役割：改正学校図書館法マニュアル』
- 井澤純著『図書館学大系7 読書教育原論』（全国 SLA 刊行）

そ の 他

講義・討論・ビデオ・演習

Ⅲ 社会教育主事講座

(1) 必修科目

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|------------------------|---------|-----|
| 社 会 教 育 計 画 | むら やま てる よし 村 山 輝 吉 | 社教主事2必 | 4 |

講義のねらい

かつて社会教育職員の専門性として、4P論（プランナー、プログラマー、プロデューサー、プロモーター）がいわれた。いま各自治体では住民の生活課題や地域づくりの課題に対応したきめ細かな生涯学習振興策とその計画化がもとめられている。この講義では、自治体の生涯学習計画の策定を中心に、できるだけ具体例に即して、ひろく生涯学習の方法、事業計画などの理論の理解を深められるようにしたい。

講義の内容・ 授業スケジュール

1. 生涯学習の方法と計画の今日的課題
2. 住民の課題と生涯学習計画
3. 生涯学習の方法と事業の計画・運営
4. 生涯学習と条件整備
5. 地域生涯学習計画の策定
6. 生涯学習計画と社会教育計画
7. 学習権の思想と社会教育計画の課題

履修上の留意点

できるだけ「生涯学習概論」を修得していることが望ましい。

成績評価の方法

出席、レポート、試験等により総合的に判定する。

教 科 書

酒匂・村山他編著『生涯学習の方法と計画』（国土社）2,800円

参 考 書 等

そのつど紹介する。

そ の 他

夏休み中に、各自、自分のまちの社会教育行政の実情について調査し、レポートにまとめることをもとめる。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|-------|--------|-----|
| 生涯学習概論 | 豊田千代子 | 社教主事2必 | 4 |

講義のねらい

1965年に、ユネスコのポール・ラングランによって「生涯教育」が提唱されて以来、教育を生涯教育・生涯学習という視点で捉えることが、教育改革の国際的動向となっている。わが国でも、今日、生涯学習の視点からの教育の見直しが課題となっている。

授業では、主にわが国の生涯学習政策についての概要を把握し、その検討を通して、今日求められている学校教育改革・社会教育改革の方向性について考えていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

- ・生涯教育・生涯学習の理念
(ユネスコの生涯教育論)
- ・生涯教育・生涯学習の国際的動向
- ・わが国における生涯学習政策
 - ・臨教審答申－「生涯学習体系化」への動き
 - ・国レベルの政策－「生涯学習振興整備法」の制定とその後の動き
 - ・地方自治体における生涯学習政策の展開
- ・生涯学習と学校計画
- ・生涯学習と社会教育
 - ・社会教育の概要（定義・社会教育施設・学習方法・形態など）
 - ・成人教育としての社会教育

成績評価の方法

出席点、レポート等によって成績評価を行なう。

教科書

碓井正久、倉内史郎編著『新社会教育』（学文社）2,000円

参考書等

適宜紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|-------|--------|-----|
| 社会教育実習 | 豊田千代子 | 社教主事3必 | 4 |

講義のねらい

公民館、図書館などの社会教育施設や、教育委員会での実習をとおして、社会教育についての理解を深めることを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

- 事前指導——社会教育の具体的なイメージをつかむために、様々な社会教育実践を取りあげ、グループで報告する。
- 訪問指導——実習先訪問指導。
- 事後指導——実習をとおして学んだこと、疑問に思ったことなどについて報告する。
実習報告書を作成する。

成績評価の方法

①実習ノート ②授業への参加度（授業での実習報告、報告書作成への取り組みなど）

教科書

小林文人編『公民館の再発見——その新しい実践』（国土社）

参考書等

社会教育推進全国協議会編『新版 社会教育・生涯学習ハンドブック』（エイデル研究所）

その他

適宜、公民館などの施設見学を行なう。
実習報告書の作成に関しては、企画、編集、印刷、製本のすべてを自分たちで行なう。このこととおして、共同で学ぶ方法を身につけたり、共同で学ぶことの楽しさに気づいてほしい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|------------------------|--------|-----|
| 社会教育実習 | むら やま てる よし 村 山 輝 吉 | 社教主事3必 | 4 |

講義のねらい

学生が社会教育実習に主体的にとり組み、社会教育実践について理解を深めることを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

- ・社会教育実習の意義と心がまえ——これまでの実習の経験に学ぶ事前指導
- ・実習期間——個別の訪問指導
- ・実習後——個別の体験の整理・検討と共通する課題の追求。
〔例〕社会教育職員の専門性とはなにか。

成績評価の方法

平常の受講態度（出席、口頭発表、レポート、討議の質等）や実習先の評価等により総合的に判定する。

参 考 書 等

そのつど紹介する。

そ の 他

社会教育実習を受講する学生は、前年11月中におこなわれるガイダンスに必ず出席すること。

(2) 選択必修科目

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|--------------------------|------------|-----|
| 社会教育行政 | ひがし 東 とし 寿 たか 隆 | 社教主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

憲法・教育基本法体制に沿った社会教育行政の本質について具体例を示しながら解明する。戦前・戦後の社会教育行政の歴史・社会教育法の成立の頃の実情、その後の社会教育行政の発展の状況・生涯学習行政の現情などを通して社会教育行政とは何かについて、社会教育主事などになった時に役立つような内容を明らかにしたい。

授業外に社会教育施設などに赴いてボランティア活動を積極的にやって欲しい。

教科書

島田修一編『生涯学習のあらたな地平』（国土社）2,718円＋税

月刊社会教育編集部『生涯学習時代の社会教育をつくる』（国土社）1,942円＋税

参考書等

社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック』（エイデル研究所）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|---------------------------------|------------|-----|
| 社会教育施設 | むら 村 やま 山 てる 輝 よし 吉 | 社教主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

社会教育の方法や形態を考えるうえで、戦後のわが国では公民館をはじめとする図書館・博物館社会教育施設の重要性があらためて認識された。本講ではその社会教育施設の歴史と現状について考察を深め、それが抱える諸問題について、望ましい展望を拓きたいと考えている。

講義の内容・授業スケジュール

- ・社会教育施設とは何か
- ・社会教育施設にかかわる人々
- ・公民館の歴史と現状
- ・図書館の歴史と現状
- ・博物館の歴史と現状
- ・社会体育施設の歴史と現状
- ・その他の社会教育施設・関連施設
- ・社会教育施設をめぐる最近の動向と課題

それぞれできるだけ具体例・実践例を挙げて理解をはかるようにしたい。

履修上の留意点

できればいくつかの施設見学を実施したいと考えているが、学生自身もすすんで適宜、施設の利用見学、施設で行われている学級・講座・サークル活動等に参加して施設体験を豊かにしてほしい。

成績評価の方法

出席・受講態度等の平常点、試験、レポート等により総合的に判定する。

教科書

適宜指示または紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|--------------------------|------------|----|
| 成人学習論 | ひがし 東 とし 寿 たか 隆 | 社教主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

成人が学習することによって発達することを各地の社会教育の事例を通して明らかにする。始めに社会教育の本質について語り、公民館・図書館・博物館などの社会教育施設等で行う学習活動の事例について、さらに地域づくりについて、また国際問題などの実践について学習させたい。授業外に社会教育施設などでボランティア活動を積極的に行うことをすすめる。

教科書

福尾武彦編著『現代を生きる学び』（民衆社）2,800円＋税

参考書等

酒匂一雄・千野陽一・那須野隆一・村山輝吉・谷貝忍共編著『生涯学習の方法と計画』（国土社）2,718円＋税

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|---------------------------|------------|----|
| 女性と学習 | やぐち 矢 口 えつ 悦 こ 子 | 社教主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

生涯学習が世界的潮流となった今日、学校以外の様々な場での学習が社会生活を支えている。そうした学習機会の提供について、特に女性問題（男性問題）の観点から検討を行うことが本授業のねらいである。

講義の内容・授業スケジュール

講義の前半では、ジェンダー、エンパワーメント等の概念を整理しつつ、基本的な視点の提示を試みる。後半では、具体的な学習事例を紹介し分析・検討を加える。

履修上の留意点

学生自身の問題関心に応えるような授業とするために、積極的な発言を求める。

成績評価の方法

レポート及びそれをもとにした発表の予定。

教科書

使用しない。必要な資料は配布する。

参考書等

参考文献は授業の中で、必要に応じて紹介する。

その他

授業のタイトルが「女性と学習」となっているが、男性の受講を拒むものではありません。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|------------|-----------------------|------------|-----|
| 企業内教育・職業訓練 | しお かわ まさ と 塩 川 正 人 | 社教主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

- この講義のねらいは「厳しい就職戦線に勝つ自分づくり」です。そのため毎回の授業は
1. 導入講義のあとは、対話と討論の授業とする。
 2. 大学卒業後の進路決定に直接役立つ授業とする。
 3. 就職を成功する決め手をつかむ授業とする。
 4. 企業と社会の現実をつかむ授業とする。
 5. 毎回、自己と対話し自己創造を積み上げる授業とする。

講義の内容・ 授業スケジュール

担当講師は、日本能率協会の経営コンサルタント。200社を超える各種企業の経営指導を担当してきている。講義内容は企業の指導で行う教育とコンサルティングの理論・技法を紹介しつつ、学生生活の「革新」を指導する。その骨子は

- 「考える授業」を行う。そのため
 - ・大学生生活の過ごし方を本気で考える学生だけを対象の授業とする。
 - ・卒業後の進む道を本気で考える学生だけを対象の授業とする。
- 「表現する授業」を行う。そのため
 - ・毎回、講師と学生、学生と学生による対話と討論を行なう。
 - ・自己表現の各種技法を習得し、就職試験などでの対応策を授業の中で体得する。
- 「実行する授業」を行う。そのため
 - ・授業で体得した内容を、大学生生活全般に活用する。
 - ・卒業後の進路開拓に活用する。

履修上の留意点

- ・本授業は三年生のための卒業後の進路開拓の支援を目指す授業です。授業の後半から就職準備が始まります。授業内容はそのまま就職への準備行動として展開します。
- ・必ず配布資料があります。討議のまとめもコピーします。各自ファイルを準備して下さい。

成績評価の方法

毎回の授業への参加内容を重視し併せて筆記試験も行います。

教 科 書

なし。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------------|-----------------|------------|----|
| 社会体育Ⅰ (前期) | ふるたじゅんこ 古田潤子 | 社教主事2・3・4選 | 2 |

講義のねらい

満ちて輝く心とからだ
他者とひびき合う豊かな関係
人間にとって本質的な生き方の問題を、自分のからだに向かい合うことから始めます。からだの感覚を手がかりに、からだの自然に気づき、自らの意思で、今を生きる確かさと自信を体得していきます。

講義の内容・授業スケジュール

前期では、自然の原理に沿った動きで、ゆるやかに自分自身の心とからだを拓いていくことを主眼とします。具体的には、動きの基本となる三要素①余分な緊張を取り去る。②その時々姿勢におけるからだの最下部に全体重を任せ切る。③動きに最適な自然な呼吸。を目安とし、自己能力を発掘し、可能性を追求します。

履修上の留意点

からだの内的感覚に基づく履修内容なので連続受講が必要です。

成績評価の方法

平常授業（レポートも含む）

参考書等

野口三千三著『原初生命体としての人間』（三笠書房）
野口三千三著『野口体操からだに貞く』（柏樹社）
野口三千三著『野口体操重さに貞く』（柏樹社）
池田潤子執筆「からだのレッスン」雑誌『ひと』（太郎次郎社）
古田潤子「自然なからだのあり方を考える【円筒エリア】の発見と意義」
駒沢大学教育学研究論集第13号 1997年

その他

授業は実技を主に行います。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|---------------|-----------------|------------|----|
| 社会体育Ⅱ (後期) | ふるたじゅんこ 古田潤子 | 社教主事2・3・4選 | 2 |

講義のねらい

後期では、他者との関係を豊かに拓いていくことを主眼とします。
環境の変化に応じて、的確に落ち着いて対処できる心とからだを、自らの力でとらえて自信を身に付けます。屋内、屋外のいろいろな場所での体験実習も考えています。
また、海外でのワークショップにおける豊富な経験をもとに様々な遊び道具の製作や、それを使った楽しい遊びも加味します。同時に日本人と外国人の考え方、感じ方、環境の変化に対する即応の仕方の違いなどについても一緒に研究をしていきます。

| 科目名 | 配当学科 | 単位 |
|------|------------|----|
| 教育原理 | 社教主事2・3・4選 | 4 |

(P.183) 参照

| 科目名 | 配当学科 | 単位 |
|---------------------|------------|----|
| 教育心理学 (教育方法論を含む) | 社教主事2・3・4選 | 4 |

(P.186) 参照

| 科目名 | 配当学科 | 単位 |
|---------------------|------------|----|
| 青年心理学 (教育方法論を含む) | 社教主事2・3・4選 | 4 |

(P.188) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|-----------------|------------|-----|
| 社会心理学 | つば 井 健 坪 井 健 | 社教主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

この講義は、個人の社会的行動、対人関係、集団行動と個人、集団心理現象など、われわれが日常的に出会うテーマについて、社会心理学の興味深い研究成果を紹介する。社会心理学は、元来社会学と心理学の境界科学であり、実験、テスト、観察、調査など社会学と心理学の研究方法が用いられており、社会学の領域から見れば、かなり心理学的色彩の強い研究が含まれる。この講義では、境界科学としての特徴を生かし、具体的テーマを中心に、ビデオ教材を利用したり、小実験や心理テストなど多彩な方法を用いて授業を展開したいと考えている。

講義の内容・
授業スケジュール

1. はじめに - 講義の方針と受講の仕方 -
2. 社会的自己のはなし - 自己過程の社会心理 -
3. 他者との関わり - 友人関係と対人魅力 -
4. 対人関係の心理 - 援助行動と社会的影響 -
5. 集団の中の個人 - 同調行動と意思決定 -
6. 文化現象と個人 - 異文化と日本人 -
7. 現代社会と個人 - 現代人の社会心理 -
8. その他 (社会的認知、社会的欲求、態度変容、リーダーシップなど)

履修上の留意点

1. 授業中に、小実験や心理テスト、エキササイズなどを行うことがあるので積極的に参加すること。
2. 授業内容は、通年テーマの概略である。授業の流れとの関係で内容や順序は変更することもある。
3. 授業中は配布プリントを参考にノートを取り、さらに深く研究する人は、紹介した文献を参考に自主的に学習することが望ましい。

成績評価の方法

1. 出席 + 毎時間の授業態度、感想、意見、質問など (30%)
2. 課題レポート・期末試験 (70%)

教科書

各テーマの授業時間に指示する。

参考書等

各テーマの授業時間に指示する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|-------------------------|------------|-----|
| 視聴覚教育 | い い もり あき ひこ 飯 森 彬 彦 | 社教主事2・3・4選 | 4 |

(P.265) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|------------------------|------------|-----|
| 教育社会学 | くま がい かず のり 熊 谷 一 乘 | 社教主事2・3・4選 | 4 |

(P.211) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|--------------------------------------|------------|-----|
| 教 育 史 | 北 村 三 子 <small>きた むら みつ こ</small> | 社教主事2・3・4選 | 4 |

(P.212) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|-------------------------------------|------------|-----|
| 教 育 調 査 | 鈴 木 規 夫 <small>すず き のり お</small> | 社教主事2・3・4選 | 4 |

(P.213) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|--------------------------------------|------------|-----|
| 児 童 文 化 | 香 川 良 成 <small>か がわ よし じげ</small> | 社教主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

日本の児童青少年演劇史（大人による子供のための演劇）と、演劇教育史（子供自身による子供のための演劇）を中心にすえ、各時代の児童文学・児童文化の流れにも目を配りながら、それらの明治以後の展開の歴史を振り返ってみたい。

講義の内容・授業スケジュール

以上の講義と、取り上げる諸作品の受講者による研究発表とその講評とを併せながら授業を進めたい。

履修上の留意点

実習でやむをえない以外は、極力出席してもらいたい。

成績評価の方法

平常点と試験で成績評価を決めたい。

参 考 書 等

富田博之著『日本児童演劇史』（東京書籍）『日本演劇教育史』（国土社）菅忠道著『日本の児童文学 I 総論』（大月書店）

そ の 他

現在行われている演劇教育の記録ビデオを観たり、舞台のビデオを観たり、実際観劇するというも行いたい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------------|---------------------------------------|------------|-----|
| 現代社会の諸問題と教育 | 熊 谷 一 乗 <small>くま がい かず のり</small> | 社教主事2・3・4選 | 4 |

(P.214) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|-------|------------|-----|
| 青少年問題研究 | 讃岐真佐子 | 社教主事2・3・4選 | 4 |

(P 215) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|-------|------------|-----|
| 青少年指導演習 | 平野まなぶ | 社教主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

青年期を生きる学生諸君が“青少年指導”について学ぶには微妙な難しさが伴う。まずかかわる側自身、自らの歩みを見つめると共に、かかわりを通して更に色々なことを見つめる作業が大切になってこよう。ここではこうした認識を土台に、青年心理学や臨床心理学、カウンセリング学等の立場から、現代の青少年の状況やトピックス等論じつつ、その援助や指導のあり方について互いに学びたい。

講義の内容・授業スケジュール

“演習”科目でもあることから、できるだけ体験学習や討議の時間を多くとって行なっていきたい。一応年間予定としては下記の通りだが、受講者の希望も適宜取り入れて進めるつもりである。

《前期》

1. 互いに知り合うための、また自己理解を深めるためのエクササイズを実施。(4回)
2. 青少年について、主に発達の観点から自らのことを振り返りつつ学ぶ。(2回)
3. 援助の基本としてのカウンセリングについて、小グループ形式で主にデモンストレーションやロールプレイを通して体験的に学ぶ。(6回)

《後期》

4. 講師自身の援助例(不登校や非行に陥った青少年及び親へのカウンセリング)の提示と討議。(2回)
5. HIV・エイズ問題やカルト問題とそのカウンセリング(3回)
6. 夏休みレポートをもとに、受講者の様々な体験(ボンティア活動他)の報告と討議。(3回)
7. 1年間をまとめる意味で、河合隼雄氏等の文献のいくつかを輪読(分担発表)すると共に自由討議を行なう。特にカウンセリングと仏教との接点等についても互いに理解を深めたい。(2回)
8. その他(全体の振り返り他)。(2回)

履修上の留意点

讃岐真佐子講師による『青少年問題研究』を履修済であることが望ましい。

出席して討論に加わり、感想等も適宜記してもらい、いわばコミット型の共に築き上げる授業にしていきたく、意欲的な学生の参加を望みたい。(実習も行なうので安易な受講は避けてほしい。)

尚、授業の初日に年間の大まかな予定等お話するが、履修希望者からも何を学びたいか等、記してもらいたく、必ず出席願いたい。

成績評価の方法

学年末レポート(年間授業を振り返る形でのもの)、夏休みレポート(体験報告または読書感想)、平常点(出席等)の三本柱で行なう予定。

教科書

河合隼雄『カウンセリングを語る(上・下)』(創元社)各1,300円

参考書等

河合隼雄『カウンセリングを考える(上・下)』(創元社)各1,300円

同 『大人になることのむずかしさ』(岩波書店)1,240円

同 『ユング心理学と仏教』(岩波書店)1,800円

佐治守夫他『カウンセリングを学ぶ』(東大出版会)2,800円

他にも授業の中で随時紹介していきたい。

その他

VTR やテープ等も多く使用して、具体的に学べるようにしたい。

授業という限られた場ではあるが、受講者それぞれに自らの成長に資するものとなるよう、心がけて参りたい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------------------|-------------------------|------------|----|
| 博物館学Ⅰ（概論） （前期） | おお た き み こ 太 田 喜 美 子 | 社教主事2・3・4選 | 2 |

(P.266) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|--------------------|-------------------------|------------|----|
| 博物館学Ⅱ（資料論） （前期） | たけ うち じゅん いち 竹 内 順 一 | 社教主事2・3・4選 | 2 |

(P.266) 参照

IV 博 物 館 学 講 座

(1) 必修科目

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------|---------------------------------------|---------|-----|
| 視 聴 覚 教 育 | 飯 森 彬 彦 <small>いい もり あき ひこ</small> | 学芸員2・3必 | 4 |

講義のねらい

視聴覚教育の背後にある基本的な考え方を理解する。
個々の視聴覚教材の基礎的な技法（教材の制作、利用の両面）を習得する。
変動する社会に即応し、メディアを活用する態度と能力を養う。

講義の内容・ 授業スケジュール

視聴覚教育の歴史とその思想的背景
コミュニケーションの理論と視聴覚教育
視聴覚教材の制作と利用
情報化社会における視聴覚教育
生涯学習時代とメディア
以上のような内容であるが、特に「視聴覚教材の制作と利用」に重点をおいて講義する。

履修上の留意点

年に2回程度課題を出し、作品の提出を求める。作品制作に要する経費の負担をあらかじめ予定しておくこと。(OHP シート代、マーカー代、35ミリフィルム代、現像代など)

成績評価の方法

提出作品と試験の成績に出席状況を加味して評価する。

教 科 書

使用しない。

参 考 書 等

浅野孝夫・堀江固功編著『新視聴覚教育』（日本放送教育協会）
秋山隆志郎・岩崎三郎編著『視聴覚教育』（樹村房）
野津良夫編『視聴覚教育の新しい展開』（東信堂）
中野照海・佐賀啓男・赤堀正宣編著『メディアと教育』（小林書房）

そ の 他

ビデオや写真などを多用して講義する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------------|--|---------|-----|
| 考 古 発 掘 実 習 | 飯 島 武 次 ・ 酒 井 清 治 <small>いじま たけつぐ さかい きよじ</small> | 学芸員3・4必 | 2 |

講義のねらい

発掘技術の習得を目的とする。

講義の内容・ 授業スケジュール

考古発掘実習の授業は、通常の教場での授業と夏休みの野外考古発掘実習からなっている。

履修上の留意点

夏休みの野外考古発掘実習は実習先の都合もあり、夏休み直前まで場所と日程が決定しないのが例年である。従って履修者は、博物館実習との関係等をよく考えあわせ、夏休みの計画の中に、発掘実習と館務実習以外の計画を先行して予定しないこと。夏休みの私的な計画は、発掘実習と館務実習の期間が決定した後には計画を作成すること。

授業と野外考古発掘実習においては、授業連絡・授業教程の関係から無届けの欠席・遅刻は一切認めない。またいかなる理由があっても年度の第1回の授業には出席すること。以上の件に反した学生に対しては、教師側の時々の判断で履修を禁止することがある。これは勝手な欠席・遅刻が該当年度の野外考古発掘実習の計画・実行を妨げるからで、履修学生の協力をお願いする。

成績評価の方法

成績評価は平常点。

教 科 書

『考古学調査ハンドブックス1（野外編）』（雄山閣）1984年 2,800円

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------------|------------------------|---------|-----|
| 博物館学Ⅰ（概論） （前期） | おお きた きみこ 太 田 喜 美 子 | 学芸員 2 必 | 2 |

講義のねらい

博物館学講座（学芸員課程）の必修科目である。博物館法施行規則によると、「博物館学」6単位が必修である。この「博物館学Ⅰ」は2単位であり、6単位を充たすためには、あとふたつの「博物館学Ⅱ・Ⅲ（竹内講師）、各2単位」も履修していただかないと次年度へ進めないの注意を要する。

この講義では、「博物館法」をテキストにして、博物館の意義、学芸員の仕事等を理解してもらい、いっぽう「博物館学Ⅱ・Ⅲ」では、実際の学芸員の仕事や博物館の事業について、竹内順一講師に講義していただいている。

履修上の留意点

この「博物館学Ⅰ」は、年度初めの第1週の授業で、駒沢大学にあって、学芸員資格を取得する手続きと方法について、細かく説明するので、必ず出席すること。途中で（2回や3回目）出席して、手続きその他質問に来ても、第1回目の教室で説明したことを、欠席者に特に丁寧に説明することはしないので注意しておいてもらいたい。

この授業は前期2単位の授業であるから、後期には無いはずであるが、実は後期になっても、数回教室に出席してもらうことにしている。したがって、水曜日3限目の後期については、「履修届」に書きこまないことをお勧めしたい。けれども、学科の必修科目にぶつかってしまうこともあるだろう。そういう方は、相談に来てほしい。

この「博物館学Ⅰ・Ⅱ」計4単位は、社会教育主事の選択科目にもなっているが、この場合も4単位履修していなければならないので、ⅠとⅡの両方を履修しないと通用しない。注意しておきたい。

そ の 他

学芸員資格を取得しようとしていながら、途中で、棄権する（あるいはせざるえないという）場合、社会教育主事に切り換えることは比較的易しいので、これまた相談されたい。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|--------------------|-------------------------|---------|-----|
| 博物館学Ⅱ（資料論） （前期） | たけ うち じゅん いち 竹 内 順 一 | 学芸員 2 必 | 2 |

講義のねらい

博物館資料の収集、整理保管、展示などについて、理論や実践方法に関する知識と技術の習得をめざす。またあわせてこれらの基礎として必要な博物館資料の調査研究活動の意義と方法について理解を深める。

講義の内容・
授業スケジュール

収集活動は、博物館事業の出発点となる重要なものであるが、博物館の設立趣旨や経緯に基づき一定の制限があるものである。この制限下の収集が、結果として博物館の諸事業の個性化をもたらし、特色ある博物館像をつくりあげる。博物館のコレクションを論ずることによって、その博物館の特色を考える。また、具体的な収集手順について、学芸員の収集候補資料の調査からはじまり、収集委員会や買取評価委員会などの開催に至る制度上の手順と問題点を明らかにする。さらには、買取以外の寄贈・委託・交換・採取といった収集方法についても考える。

整理保管は、学芸員の職務として位置づけられているが、欧米ではレジストラと称する専門職が司る。この欧米との制度上の比較を行いつつ、資料の管理と登録の実際面を考察する。とくに収蔵庫内の静的な管理と展示や搬出搬入に関わる動的な管理との差異の理解を深め、同時にこの両者に共通する保存化学の基礎知識にふれる。

展示は特別展の開催に至る手順を、開催趣旨（テーマ）の決定から、出品リスト作成・出陳交渉・集荷・会場設営等をマニュアルとして把握する。研究は、文献主義ではなく、学芸員独自の「モノ主義」の立場を知る。

履修上の留意点

博物館法施行規則の改正にともない学芸員資格取得のための単位・科目変更留意。

成績評価の方法

定期試験（筆記）とレポート課題による。

参 考 書 等

授業中に指示する。

そ の 他

毎回レジュメを配布する。またスライドを使用する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|--------------------------|-------------------------|---------|-----|
| 博物館学Ⅲ (経営論・情報論) (後 期) | たけ うち じゅん いち 竹 内 順 一 | 学芸員 2 必 | 2 |

講義のねらい

博物館経営および博物館における教育普及活動について理解を図る。また博物館における情報の意義と、その活用方法について理解を図る。

講義の内容・
授業スケジュール

博物館の運営を行政と財政の二つの側面から考察する。とくに国公立の博物館と私立博物館の比較系統を加える。また近年注目されている「博物館経営（ミュージアム・マネージメント）」についても理論と実際例を紹介し、他の芸術経営との相異と共通点を明らかにする。博物館の運営は、そこに勤務する職員の能力（知恵）と、施設や設備と不可分な関係にある。いわばソフトとハードの両面から博物館の運営を考え、あわせて将来のあるべき姿としての専門職員の分業制についても論ずる。

教育普及活動は、昨今必要性があらためて認識されているが、その活動範囲はきわめて広く、展示品説明（列品解説・ギャラリートーク）、ワークショップ、各種普及講座など入館者を前にして行なうものと、作品解説ラベル（題箋）、パネル板、図録作成など文章を中心とする活動の二種に大別される。この両者に共通する要諦は「わかりやすさ」であり、事例研究を通してこれを明らかにする。

博物館の対外活動は、「情報の発信」とみなすことができる。これを広義の情報提供とすれば、個々の博物館資料に関する知見は、狭義の情報である。この両者を考察しつつ、狭義の情報提供と活用方法を各種のメディア機器の特色とともに考える。

履修上の留意点

博物館法施行規則の改正にともない学芸員資格取得のための単位・科目変更留意。

成績評価の方法

定期試験（筆記）とレポート課題による。

参 考 書 等

授業中に指示する。

そ の 他

毎回レジュメを配布する。またスライドを使用する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|------------------------|----------------------|---------|-----|
| 博 物 館 実 習 I (館 務) | 飯島 武次・酒井 清治 太田喜美子 | 学芸員3・4必 | 2 |

履修上の留意点

この授業は4月第1週から、明年の最終講義まで、1回でも欠席・遅刻・早退すると、単位が取得不可能なので注意してほしい。この方法は、本学の博物館講座開設以来20数年間不変であるので、君だけ特別に単位を出しましょう、というわけにはいかない。

この講義時間に出るということは、君が企画専任者である特別展の開幕日開幕時に君がきちんと会場にいるかどうかということと同じに考えなさい、ということである。

この洗礼に対応してくださるお陰だと思いが、本学卒業生の学芸員就職率は、都内大学で、断然高く、また、学芸員としても、非常に高く評価されている。

毎週の授業の他に、主として、夏期休暇中に、一つの博物館で、学芸員実習を行う。この実習は、他の大学の実習生といっしょに行うため、他流試合的な趣きももっているので、日頃の授業時と同じように、絶対に遅刻・欠席してはいけない。一度、そういうことをすれば「駒大には遅刻した学生がいる」と、10年ぐらいいは言われ続けるので、注意してほしい。また、多くの実習博物館に本学出身の学芸員の方がいらっしゃるの、その先輩に迷惑をおかけすることにもなる。実習は夏期に行う館が80%を占めるが、別の時期に行う館もあるので、夏休みに海外短期留学などする方も相談に来てほしい。

この科目は、本学の博物館講座の締まりになる実習なので、特に心を引き締めて履修していただきたい。「博物館学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」・「博物館実習Ⅲ(見学)」に先だて、この科目を履修することはできない。つまり、この「博物館実習Ⅰ(館務)」を3年生次に履修して、「博物館学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」あるいは「博物館実習Ⅲ(見学)」を4年生次に履修してはいけない、ということである。履修にあたっての細かい事柄は、その都度、教室で話をする。後期には実習した館の実習内容につき報告会をするので、きちんとまとめることを忘れぬよう。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------------------|---|---------|-----|
| 博 物 館 実 習 II (収 集) | 酒井 清治・太田喜美子 國見 徹・久保田昌希 佐々木 真・佐藤 元英 所 理喜夫・廣瀬 良弘 | 学芸員3・4必 | 2 |

講義のねらい

博物館活動の主たる3本柱のうちの「博物館資料の収集」の方法の勉強をする。博物館学芸員は、学芸員の個性を活かさなければならぬ面と、個性を殺さなければならぬ面がある。「博物館実習Ⅱ(収集)」では、一つの博物館が何年あるいは何十年にもわたって資料を収集し続けていても、恰かも、常に一人の人が収集してきたかともみえるような統一性が必要である。また、一つの展示をするにしても、その企画に参画する数人のスタッフの成果は、バラバラであってはならないのである。

その意味では、この「博物館実習Ⅱ(収集)」はあまりに個性豊かな人・あるいは協調性の乏しい人には、かなりきついうである。この実習は、必ず合宿して実施しているの、共同生活を知ろうとする意欲の有無がかなり影響をもっているらしい。

博物館学芸員を目指して履修している学生が、学芸員課程を断念するきっかけは、たいてい、この実習の直後であることが多い。つまり、合宿して収集実習を終えた時点で、これほど協調性が必要なら、自分には不向きである、と思ってしまうのであろう。そう自覚したら、確かに、君は学芸員に不向きなかもしれない。そうした場合には、どんどん、個人的に相談に来てほしい。

また、本学で学芸員資格を取るための実習は、「Ⅰ(館務)」・「Ⅱ(収集)」・「Ⅲ(見学)」の3つが必修であるが、「Ⅱ(収集)」の代わりに、「考古発掘実習」を履修しても、学芸員課程の「実習Ⅱ(収集)」に読みかえることができる。ただし、発掘は、真夏の炎天下で1か月間参加することが必要なので、この科目を必修とする、考古学専攻生以外の方には勧められない。

この実習で、今年度予定しているのは、

1. 長野県北佐久郡望月町での近世文書調査と石仏収集調査実習。
2. 同上町での石仏収集調査実習。
3. 長野県飯田市周辺での石仏調査。

履修上の留意点

年度第1回目の授業に必ず出席のこと。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------------|-----------------------------------|---------|-----|
| 博物館実習Ⅲ (見 学) | 酒井 清治・太田喜美子 まつもと のぶみち 松本 信道 | 学芸員2・3必 | 2 |

講義のねらい

本学での博物館実習は、2年次に行うこの実習と、3年次で行う、「Ⅰ(館務)」と「Ⅱ(収集)」の3つが規定されている。

つまり、この実習は、君がこの課程で、初めて行なう、学外での実習ということになる。都内あるいは周辺の博物館で見学をするのであるが、基本的には、見学館は10館。見学の度にレポートを提出する。そのレポートを添削して、原稿用紙の使い方から、字数のまとめ方等、かなり、しっかり、指導することになっている。

履修の方法は、なんといっても、学外の博物館見学であるから、当然、1コマ90分内では無理である。そのため、履修にあたっては、学生の都合を充分、考えに入れたうえで、できるかぎり柔軟に対応して、あふれてしまう人がでないように留意するつもりである。そのために、相談しなければならぬことがあるので、年度第1週には必ず出席してほしい。学生の都合を汲んでA～Cの3組ぐらいに分けて、異なる見学方法をとることになることと、今年度は、履修希望者が非常に多くなると予測されるので、第1週に、出席した人数で組分けしてしまう。結果的に、第1週に欠席すると、はみ出してしまうことになる。

この授業は、水曜日の3・4限を通して行うことになるのだが、3限目あるいは5限目に学科の必修科目とぶつかってしまうこともある。そのような問題をもつ人は、必ず、第1週に出席してほしい。第1週の授業終了後に、個人的に相談に来て、もう、対応不能なので、その場合は、翌年履修する以外に方法が無い。

本学の学芸員課程が厳しい、とよく言われるが、学芸員という、貴重な文化財を扱う仕事の養成課程なのであるから、厳し過ぎるなどとは思わないようにしてほしい。それだからこそ本学出身の学芸員が高い評価を受けているのであるから。

| 科目名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|-------|-----|
| 教 育 原 理 | 学芸員2必 | 4 |

(P.183) 参照

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|-----------------------|---------|-----|
| 生涯学習概論 | とよ た ち よ こ 豊 田 千代子 | 学芸員2・3必 | 4 |

(P.252) 参照

(2) 選択必修科目

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|----------|----------------------|-----------|----|
| インド仏教文化史 | な ら やす あき 奈 良 康 明 | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

インド仏教を「教理」としてではなく、「文化」としてとらえて、検討したい。ここに「文化」とは生活様式、行動様式としての文化であり、「仏教徒」という社会を構成する人々（出家修行者および在家信者を含む）が、事実として、何を考え、どのように生活していたかをさぐる。したがって、悟りのレベルにある修行や教理、悟りに基づく倫理的生き方などは、無論、仏教である。同時に、功德を積んで良き後生を願う観念や行動、六道輪廻の理解、通過儀礼、祖先崇拜、呪術、祈願儀礼、占星等も仏教徒の生活「文化」である。両者は宗教的レベルと機能を異にするが故に、相互補完の形で共存し、その共存のあり方が興味ある研究対象である。又、インド仏教（徒）はそれを生み、育てたヒンドゥー世界とどうかかわり、如何に位置づけられるか、も興味ある研究テーマである。資料は梵語、パーリ（そして漢訳）語の経・律典と碑文、考古学的遺品等が中心となる。文献学的操作を経て得られた結果は、当時の仏教徒の現実の生活文化と、教義が主張するところとは大きなギャップのあることを示しているし、この構造は中国、韓国、日本ないし東南アジアのテラヴァダの仏教文化でも同様である。そして、このギャップこそが仏教（宗教）教団の社会への定着・発展のダイナミズムとしてとらえられるべきものである。

以上の問題意識のもとに今年度は、おおよそ次のテーマにしたがって講義したい。

講義の内容・授業スケジュール

1. 仏教を「文化」としてとらえるとはどういうことか。
「仏教」をどうとらえるか
「文化」とは何か？
仏教（宗教）の二つのレベル：「世間」（自我充足）と出世間（自己凝視）
仏教文化の「表層」と「基層」
仏教文化研究の方法論：M. Spiro, M. Ames、他
2. 古代インドにおける仏教文化とヒンドゥー文化。
民族宗教としてのヒンドゥー教（世界）
ヒンドゥー教の特徴：神観念・宗派・特定の教義のないこと・ダルマカースト・ヴァルナ制度と仏教
古代インドの仏教徒とヒンドゥー教徒の関係（特にカーストをめぐる）
3. 仏教文化における業・輪廻思想の意味。
古代インドにおける業・輪廻思想の成立
業思想の構造と機能（含む 死後世界の構造と機能）
一般的業論の「自覚的業論」への昇華
懺悔の思想と実践
業と果報の関係
業の止滅と改変
4. 功德観念の文化史的発展。
善業と功德（punya）・悪業と悪徳（papa）
「作功德→生天」の図式の倫理的・宗教的意味
功德観念の「出世間レベル」への関係付けないし昇華
功德の廻向（adesana）と廻向（parinamana）
死者儀礼・祖先崇拜儀礼における功德観念
「生天」観念の発展と解脱の関係
5. 「餓鬼」（preta）研究。
ヒンドゥー教におけるブレータと祖霊祭
古代インド伝典にみる「餓鬼世界」の住人としての餓鬼
古代インド伝典にみる死者儀礼と関わる餓鬼
『ペータヴァットゥ』『ヴィマーナヴァットゥ』における餓鬼供養の構造と意味
テラヴァダ仏教における餓鬼観念の変遷と儀礼
中国、日本における餓鬼供養の構造と変遷

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|----------------------|-----------|-----|
| 中国仏教文化史 | なが い まさ し 永 井 政 之 | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

ここでいう「文化」とは、現代の我々が日常的にイメージするそれではなく、「人間の営み」としての文化である。そのような文化を中国の歴史の上で見えていこうとするのが、本講義の主眼となる。言葉をかえていうなら、各時代を通じて中国人と仏教がどのような関係にあったかということになる。

今年度は、主として宋という中央集権国家に組み込まれた「禪宗」が、政治・経済・社会とどのように対応していったかを考える。

本来は「方外」の士であるべきにも関わらず、中国の仏教者は、その当初から国家権力への配慮を余儀なくされる。それが伽藍や教団の盛衰に直結していたからである。このような二律背反の世界を抱えつつも、彼らは仏教の中国的な理解に励み、またその受容に努力する。このことは現代に生きる我々にとってもさまざまな示唆をあたえるのではない。

成績評価の方法

成績評価は平常点に期末試験の結果を加味する。

教科書

必要なテキストは授業において指示する。またコピーを配布する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|------------------------|-----------|-----|
| 日本仏教文化史 | はかま や のり あき 袴 谷 憲 昭 | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

私は日本の「仏教文化」について講義する資格を有しないと自らは思っている。それを私は仏教学部に申し出ているが、私の思うとおりをやっけて頂いてよい、ということなので、通常の講義と違って出る方は、失望と落胆を味わうことになると思うので遠慮されたい。この授業は講義ではなく、『国体の本義』の批判的な講読を通して、日本における「仏教文化」の問題点を考えていこうという、むしろ演習であると了解されたい。

講義の内容・
授業スケジュール

『国体の本義』を冒頭より演習形式で読みすすめる。最初の数時間のみは、本書の成立状況等について講義するが、これが1年間続くのだとは、履修登録の際には決して考えないでもらいたい。

履修上の留意点

教科書はもとより関連諸文献を自ら読もうとする者でない限りは履修は無理と思われるので、その点留意されたい。

成績評価の方法

平常点とする。

教科書

『国体の本義』（昭和12年3月、文部省刊）。もちろん、現物を今求めることは難しいが、図書館には多数所蔵されているので、借り出すかコピーするかして授業には必ず持参してもらいたい。

参考書等

家永三郎『日本文化史』第二版（岩波書店）1982年 600円
袴谷憲昭『法然と明恵——日本仏教思想史序説——』（大蔵出版）1998年 4,800円＋税

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|-------------------|-----------|-----|
| 禅 美 術 | えびねとしお 海老根 聰 郎 | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義の内容・
授業スケジュール

日本の中世の絵画世界を、禅宗画僧による歴史として述べていく。鎌倉・南北朝・室町時代を対象とする。それらの画風の源泉は中国にあるから、合わせて、中国禅宗の中で描かれた絵画についても述べる。

授業は毎回スライドを映写する。

成績評価の方法

年度末に授業で述べたところから出題した筆記試験を行ない評価する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|--------------------|-----------|-----|
| 仏 教 美 術 | やましたゆうじ 山 下 裕 二 | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

仏像や仏画を見れば、だれもがそれを「仏教美術」だと認識する。だが、きらびやかな色彩の花鳥画や、落ちついた水墨の動物画にも、仏教的なイメージは流れこんでいる。この講義では、「見「仏教美術」とは思われないような作品をあえてとりあげて、読み解いていくこととする。

講義の内容・
授業スケジュール

①江戸時代の画家・伊藤若冲 ②南宋時代の画家・牧 鉞 ③江戸時代初期の風俗画・彦根屏風、他にも適宜多数の作品を紹介し、最新の研究論文を読んでもらう。

履修上の留意点

仏教美術に対する固定化したイメージを捨てて講義に臨んでほしい。

成績評価の方法

レポートにより評価する。

教 科 書

なし。

参 考 書 等

参考文献は適宜コピーして配布する。

そ の 他

スライド・ビデオを多用する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-------------------------------------|-----------|-----|
| 仏 教 民 俗 学 | 須 藤 寛 人 <small>す とう ひろ と</small> | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

葬儀や、先祖崇拜、位牌・仏壇といったものを通して、多くの日本人は仏教と接していると思われまふ。こういった日常的な仏教との接点を手がかりとして、大宗教としての仏教が民間に浸透していった経緯を本講義では考察したいと思ひます。また今日の日常的な仏教的な営みの背景にある民俗的基盤の歴史と意味を再考することによって、仏教とのこれまでとは違つた接し方のきっかけになればと思ひます。

講義の内容・授業スケジュール

以下の三点を以て、本講義の枠組みとし、盆行事や彼岸などの具体的事例を交えながら考察を行つていきたいと思ひます。

a. 祖先祭祀

祖先とは何か、先祖との違いは何かを明確にすることからはじめる。今日の日本仏教における寺院の主たる活動が、死者の葬式と追善供養からなっており、追善供養は祖先祭祀を民俗的背景として成り立っていることから、祖先祭祀は重要なテーマであると考えられる。

b. 葬送儀礼

葬式は多くの日本人にとって最も「仏教的」であることを再認識させられる出来事である。しかし、ほとんどの場合、そこでなが行われているのかは、一般の人には知らされていない。そこで、民俗的事例をあげながら葬式の構成を明らかにそこにどのような意味があるのかを明らかにする。

c. 仏壇・位牌・墓

多くの日本人にとって最も馴染み深い「仏教的」なものが、仏壇・位牌や、墓であろう。これらのものが、拜む対象になる所以を民俗的背景から明らかにする。

履修上の留意点

遅刻・欠席はできるだけなくしてください。私語は慎んでください。

成績評価の方法

試験・レポート等で総合的に評価します。

教科書

教科書は用いませんが、講義の内容に沿って資料を配付します。

参考書等

適宜紹介したいと思ひます。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|--------------------|-----------|-----|
| 日 本 民 俗 学 | たに ぐち みつぎ 谷 口 貢 | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

日本民俗学は世代をこえて伝承されてきた習俗・慣習の考察を通して、日本社会に展開する生活文化を究明する学問である。民俗はよく「民族」と混同されるので注意を要する。本講義は、民俗学をはじめて学ぶ人のための入門編として、基礎的知識をしっかりと把握できるようにしたい。また近年、国際的視野をもった人材の育成が叫ばれているが、真の国際理解の前提には、自国の伝統文化に対する一定の素養をもつことが益々大切になってきている。講義では、こうした点にも配慮していく予定である。

講義の内容・
授業スケジュール

本年度は「日本人の一生」をめぐる民俗文化に焦点をあてながら、生活文化において何が変化し、何が持続しているのかを検証し、われわれの現在の生活のありようを再考していくことにしたい。年間の講義予定は以下に掲げるとおりで、各々2回に分けて行う。

- 第1講 家族と社会
- 第2講 産育儀礼－出産と子育て－
- 第3講 子どもと遊び
- 第4講 若者の民俗文化
- 第5講 成人儀礼
- 第6講 婚姻儀礼
- 第7講 女性の民俗文化
- 第8講 交際と贈答
- 第9講 老人の民俗文化
- 第10講 日本人の靈魂観
- 第11講 葬送儀礼
- 第12講 墓と先祖祭祀

成績評価の方法

夏休みの課題としてレポートの提出を求める。したがって受講者の成績評価は、夏期レポートと学年末の筆記試験の合計をもって行うものとする。

教 科 書

本講義では教科書は使用しない。

参 考 書 等

谷口貢・他編『現代民俗学入門』（吉川弘文館）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|------|-----------|----|
| 美術史概説 | 矢野陽子 | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

美術史とはどういう学問か、その方法にはどんなものがあるかを具体例を通して考えながら、西洋美術史の基礎知識を学んでいきます。

講義の内容・授業スケジュール

研究分野としての美術史に関して以下のような視点で講義を進めます。
美術史の起源
西洋美術史学の方法と歴史
原作、複製、文献
描写と解釈
合わせて古代から現代への流れを概観していきます。

成績評価の方法

前期レポートと学年末試験によって評価する予定です。

参考書等

マーク・ロススキル著 中森義宗訳『美術史とはなにか』（日貿出版社）
マルシア・ポイント著 木下哲夫訳『はじめての美術史』（スカイドア）
高階秀爾監修『カラー版西洋美術史』（美術出版社）
このほか適宜、授業中に参考文献を紹介しします。

その他

スライドで具体的に数多くの作品を見ながら、授業を行ないます。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|------|------|-----------|----|
| 現代美術 | 矢野陽子 | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

現代美術は難しい、つまらないという声をよく聞くが、確かにルネサンスや印象派の美術に比べ、現代美術の作品は理解しにくいものが多い。しかし、美術作品は、現代のものに限らず、ただ好きなものを眺めていればわかるというものではない。理解するためには、制作された当時の社会背景や、作者の意図などを正確に知る必要がある。現代美術は、現代という時代と、そこに生きている我々のあり方を反映していると言ってよい。したがって、現代美術の考え方や表現技術を理解することは、我々の生活と決して無関係なものではなく、現代社会の問題点を考える手がかりになりうるだろう。

講義の内容・授業スケジュール

現代美術とは、一般に20世紀の美術を言う。この授業では、めまぐるしい変化をとげながら、新鮮で多様な表現を生み出してきた現代美術の流れをつかみ、それぞれの運動、主張、作品の特徴を理解することを目的とする。20世紀の美術は、それ以前の美術の歴史の継承と断絶であるから、19世紀美術から講義を始めることになる。前期では19世紀中頃（写実主義、印象主義など）から20世紀初頭までを、後期では抽象絵画の誕生以降、1960年代の多様な美術までを見ていく予定である。

履修上の留意点

美術史を学ぶには、実物を見ることが大変重要である。展覧会や美術館に積極的に足を運んでほしい。

成績評価の方法

前期レポートと学年末試験で評価する。

参考書等

参考図書として、ニコラ・スタンゴス編 宝木範義訳『20世紀美術』（パルコ出版）
美術出版社編集部編『現代美術入門』（美術出版社）
を挙げておく。このほか適宜、授業中に文献を紹介する。

その他

授業では毎回スライドを使用する。また必要な資料はコピーを配布する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|-------------------------------------|-----------|-----|
| 地 形 学 | こ 池 一 之 こ い け か ず ゆ き 小 池 一 之 | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

地形学は、地表の形態とその形成過程を研究する学問で、山がちで変化に富む日本列島には種々の地形が分布している。このため、日本列島は地形研究の上では、世界的にみても好都合な場所である。世界の最先端の研究が多く輩出している。まず、地形学の基礎的な概念から説明し、時に最先端の研究成果や地形変化事変（各種の災害など）にも言及する。

講義の内容・授業スケジュール

年間の授業スケジュールの概要は次の通りである。

1. 地形学の成り立ち、
2. 地表を変化させる種々の営力と地形の分類、
3. 地表水の働きと地表の変化（マスウェスティング、種々の河成地形、組織地形）
4. 海水の働きと地形、
5. 地球内部の力によって形成される地形（火山地形など）
6. 地形発達

履修上の留意点

地理学の中ではかなり理学的（地球科学の1分野でもある）な色彩の強い学問分野である。高校時代に地学を履修していることが望ましい。

成績評価の方法

基本的には、学年末試験の成績で評価する。出席など平常点はあまり加味しない。

教科書

貝塚爽平著『発達史地形学』（東京大学出版会）3,400円＋税

参考書等

貝塚爽平・小池一之ほか編『写真と図でみる地形学』（東京大学出版会）4,532円
小池一之ほか訳『一般地質学Ⅱ』（東京大学出版会）3,708円

その他

授業は講義形式で、最新の情報を知らせるプリント類を多く配布するとともに、スライド、ビデオなどを使用する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|--------------------------|---------|-----|
| 第 四 紀 学 | す ぎ き た け ひ こ 鈴 木 毅 彦 | 学芸員3・4選 | 4 |

講義のねらい

第四紀とは現在を含む最も新しい地質時代であり、今からさかのぼること約170万年間をいう。現在の地球上でみられる地形、気候、人類の姿の大部分は、第四紀におきた現象の累積として説明できる。本講義のねらいは、第四紀の地形と気候の変化、人類の歴史をふりかえり、その結果として現在があること、また、将来を予測するためには過去を知ることが重要であることを理解することである。

講義の内容・授業スケジュール

講義内容は、氷期-間氷期サイクルに関連する気候と海面の変化、第四紀の地形編年と層序の2項目を中心に、地殻変動、火山活動、植生、土壌、人類などの変遷史をテーマとしてとりあげる。第四紀学は歴史学であるので講義にあたっては具体的な事例を題材とする。その際にはなるべく身近な事例（関東地方、日本列島など）を取り上げるが、内容によっては全地球が対象となることはいうまでもない。

履修上の留意点

講義の中心は第四紀の歴史であり地質学的な側面が多いが、現在の地球の姿、すなわち自然地理学的な関心・知識を有することが望ましい。

成績評価の方法

筆記試験、および各自が各々の関心に応じて適当な単行本ないしは学術論文を選び、それについての評論を行ない、成績評価とする。また、講義中に簡単な作業などを要求することもある。

教科書

日本第四紀学会編『百年・千年・万年後の日本の自然と人類』（古今書院）2,233円

参考書等

貝塚爽平著『東京の自然史』（紀伊国屋書店）1,650円

その他

OHP、スライド、時にビデオを用いて講義を行なう。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|----------------|------|-----------|-----|
| 考古学概説Ⅰ 〔日本〕 | 酒井清治 | 学芸員2・3・4選 | 4 |

| | |
|----------------|---|
| 講義のねらい | 日本考古学の現状は、細分化された研究が増加している。しかし、細分化された研究を理解する上にも、自ら卒論テーマとして研究する上にも、考古学の基礎なくしては成り立たない。 |
| 講義の内容・授業スケジュール | 日本考古学の研究史、最新の発掘調査事例を紹介しながら、日本考古学の概説をしたい。 |
| 履修上の留意点 | 遅刻をしないこと。 |
| 成績評価の方法 | 定期試験で採点。 |
| 参考書等 | 鈴木公雄『考古学入門』（東大出版会） 安藤政雄『考古学キーワード』（有斐閣） 江上波夫『考古学ゼミナール』（山川出版社） |

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|----------------|------|-----------|-----|
| 考古学概説Ⅱ 〔外国〕 | 飯島武次 | 学芸員2・3・4選 | 4 |

| | |
|----------------|---|
| 講義のねらい | 東洋考古学概説の講義を行う。地域的には中国を中心に話をし、中国考古学研究の現状を理解してもらう。 |
| 講義の内容・授業スケジュール | 時代的には、旧石器時代から開始して、新石器時代・殷周時代・秦漢時代・南北朝時代を経て、隋唐時代までの講義を完了することを目標に授業をすすめていく。 |
| 履修上の留意点 | 欠席・遅刻をしないこと。 |
| 成績評価の方法 | 成績評価は学年末の試験で行うが、授業内容および試験の内容は、考古学専攻者としては一般的な常識であるのでよく勉強して臨むこと。 |
| 参考書等 | 飯島武次『夏殷文化の考古学研究』（山川出版社）1985年 飯島武次『中国新石器文化研究』（山川出版社）1991年 飯島武次『中国周文化考古学研究』（同成社）1998年 |
| その他 | スライドやビデオを多用する予定である。 |

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|------------------------|-----------|-----|
| 日 本 文 化 史 I | ひろ せ りょう こう 廣 瀬 良 弘 | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

日本の文化の歴史が、社会の生産や生産組織の問題と深くかかわっていたことに留意し、朝廷・公家・武家ばかりでなく、民衆も文化の創造にかかわっていったことを明らかにする。

講義の内容・授業スケジュール

日本文化の流れを概観し、平安期から江戸期にかけての文化について講述する。つぎのような順序で授業を進めていくが、とくに①～⑦の項目に重点を置く。

- ① 日本文化史概観
- ② 平安期の文化と中世文化、中世文化の成立
- ③ 中世文化史研究の動向
- ④ 中世文化の展開
- ⑤ 室町文化（北山・東山文化）
- ⑥ 禅宗と文化
- ⑦ 京都と大名領国の文化
- ⑧ 下剋上の世と文化
- ⑨ 桃山文化
- ⑩ 宣教師たちがみた日本の文化と南蛮文化
- ⑪ 近世文化史研究の動向
- ⑫ 寛永文化
- ⑬ 元禄文化と化政文化

履修上の留意点

日頃、身のまわりにある道具や私たちの“しぐさ”にも歴史・文化がみえかくれするものである。物・道具にも文化・歴史を感じとれる感覚を養ってほしい。また、受講中は、図書館に文化史・美術史などの資料やビデオが所蔵されているので大いに活用してほしい。

成績評価の方法

定期試験の結果、出席状況など。

教 科 書

とくに指定しない。必要な資料は随時コピーを配布する。

参 考 書 等

授業中に随時示していく。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|------------------------------|-----------|-----|
| 西洋文化史Ⅰ | さきまき 真 ^{まこと} 佐々木 | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

近世末から近代にかけて、ヨーロッパ諸国において戦争や軍隊が有していた意味について講義をする。軍隊のあり方やその機能、国家による戦争の遂行は、近代国家や近代社会の形成に非常に大きな影響を与えており、最近ではそのような視点に立った研究が見られるようになった。本講義では、そのような研究動向をふまえ、フランスを主な題材として、近世から近代への移行において、戦争や軍隊がどのような役割を果たしたのかを考える。

講義の内容・
授業スケジュール

講義のサブテーマとしては、以下のものを考えている。

1. 絶対王政期の軍隊と戦争（戦術の変化、軍隊の実態、軍制改革、王権と戦争）
2. フランス革命と戦争（革命下の軍制改革、兵士と市民的自由）
3. 近代社会と戦争・軍隊（国民化・近代システムと軍隊、国家と軍隊、総力戦体制）

履修上の留意点

授業中に紹介する文献をなるべく多く読み、広い知識を身につけてほしい。

成績評価の方法

成績は学年末に行う筆記試験の成績に、不定期に調査する出席点を加算して判定する。

教科書

教科書は特に指定しない。

参考書等

参考文献は、授業中に随時紹介するが、主要なものとしては以下のようなものがある。
 アルフレート・ファークツ『ミリタリズムの歴史』（福村出版）
 山内進『略奪の法観念史』（東京大学出版会）

その他

授業は講義形式で行う。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|--------------|--------------------|-----------|-----|
| 考 古 学 特 講 II | たか はま しゅう 高 浜 秀 | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

ハンガリーから中国の北にかけて広がるユーラシア北方草原（ステップ）地帯では、古来牧畜を主な生業とする人々が暮らしていた。ここでは農耕に依存する定住民の文化とは異なった文化が発達したが、紀元前1千年紀の初め頃（前10世紀～7世紀頃）に開始された騎馬による遊牧は、この地域の文化を大きく変えた。生活形態や物質文化のきわめて類似した文化がここに数多く形成されたのである。これは西アジアや中国などの定住民に大きな影響を与えるとともに、東西交渉の道としても機能することになった。これらの文化はまとめて初期遊牧民文化、あるいは代表的な民族の名を取って、スキタイ系文化とも呼ばれている。中国の北、現在の内蒙古からモンゴル国にかけての地域は、なかでも重要な地域であり、この文化の形成に大きな役割を果たしたと考えられる。講義では中国の北を中心として、初期遊牧民文化形成の問題を扱う。中国の時代区分では殷代から漢代までに相当する。

履修上の留意点

この地域の考古学の最新の成果を伝える日本語の参考書はきわめて少ない。講義に出席することが必要である。

成績評価の方法

成績はレポートにより評価する予定。講義に関連した題目を出題する。

教 科 書

教科書はない。

参 考 書 等

参考書や参考文献は、講義の初めなどに適宜指示する。

そ の 他

講義を中心とし、プリント、スライドおよびビデオを時に応用して使用する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|--------------|-------------------------------------|-----------|-----|
| 考 古 学 特 講 IV | 矢 野 和 之 <small>や の かず ゆき</small> | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

近年、遺跡の保存と活用の必要性が叫ばれている。考古学・歴史学専攻の学生は、将来地方自治体の教育委員会に籍をおき、文化財保護行政に携わるケースが多いと思われる。
このため、単に遺跡の発掘調査のみならず遺跡整備や遺跡博物館の計画を担当するものと考えられるので、文化財の保存計画の基本となる理念、計画プロセス、保存技術等を理解しておく必要がある。

講義の内容・
授業スケジュール

- ・文化財の保存と活用の理念
- ・日本建築史（古代）概要
- ・遺構とその上部構造隊の復元
- ・保存計画概論
- ・保存科学、保存工学概論
- ・まちづくりと文化財
- ・計画策定の実務
- ・国内の事例
- ・海外の事例・文化財保存の国際機関

以上を一部演習を混じえながら講義する。

履修上の留意点

特にないが、人文系の知識だけでなく、理科系の知識も必要となる。

成績評価の方法

試験、演習提出物。

教 科 書

なし。

参 考 書 等

適宜指示。

そ の 他

講義は、スライド、OHP、ビデオ（保存工事の記録等）を使用する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|--------------------------|-----------|-----|
| 西域美術史 | まつ だいら みわ こ 松 平 美 和 子 | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

中国が漢代以来「西域」と呼んでいた地域はパミール高原の東側の東トルキスタンであるが、後には西トルキスタン、そしてアフガニスタンやイラン以西の諸国も西域と呼ばれるようになる。講義では東トルキスタンからイランまでを広義の西域と考え、いわゆるシルクロードとして大いに繁栄したこの地域の考古美術品の中に東西文化混淆の様子を探りたい。

講義の内容・授業スケジュール

- ① イラン装飾文様とその東伝
イラン美術に見られる「葡萄唐草文」、「花喰鳥文」、「王冠飾り」、「有翼人物像」などの装飾モチーフの変化について。
- ② クシャーナ朝美術とその意義
東西文化の接点であるクシャーナ朝の遺跡と遺品について。
- ③ タク라마カン砂漠周辺のオアシス都市の美術
狭義の西域美術であるクチャ、トゥルファン、ホータン、敦煌などの美術について。

成績評価の方法

学年末と夏期休暇後の二回のレポートで評価する。

教科書

講義時にプリントを配布する。

参考書等

講義時に適宜紹介する。

その他

具体的な美術作品を対象とする学問なので、毎時間スライド・ビデオを多く用いる。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|--------------------------|-----------|-----|
| 宗教人類学 | さ さ き こう かん 佐 々 木 宏 幹 | 学芸員2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

宗教は人類文化の最古層に属すると考えられている。宗教人類学は人間の営みとしての宗教文化を文化人類学、社会人類学、民俗学の方法と理論に拠って研究する学問である。人間にとって、人類にとって宗教とはなにかという問題を、人類学や民俗学の研究成果を十分に利用しながら追究し、人間が生きているということの意味の考察につなげていきたい。

講義の内容・授業スケジュール

以下のような内容を企図している。1. 文化と人間、2. 社会と世界観、3. 宗教の原辺形態、4. 人間と動物、5. 民族宗教、6. 世界宗教、7. アニミズム・多神教・一神教の関係、8. 仏教・キリスト教・イスラム教、9. 民族問題と宗教、10. 環境問題と宗教、11. 習合宗教、12. アジア宗教の特色、13. 日本宗教の特色、14. 新宗教とは、15. 「ほとけさま」と日本人。
講義には必要に応じて資料を配布し、またスライドやビデオを使用し、理解の助けにしたい。

履修上の留意点

ときどき出席をとり、評価の参考にする。
夏休み中に「故郷の宗教行事」（仮題）のようなりポートを書いてもらうことを考えている。

成績評価の方法

講義内容にそったりレポート作製。400字詰原稿用紙5枚～8枚程度（参考文献名を明記すること）。

教科書

佐々木宏幹著『聖と呪力の人類学』（講談社）840円

参考書等

佐々木宏幹著『宗教人類学』（講談社）980円

V 社会福祉主事講座
社会福祉士基礎

(1) 必修科目

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|-------|--------|-----|
| 社会福祉原論 | 伊藤 秀一 | 社福主事2必 | 4 |

講義のねらい

社会福祉は、かつて、慈善事業、感化救済事業などと呼ばれていたものが、時代とともに拡大し、組織的に発展して、今日では、社会を組み立てていくための不可欠の仕組み、すなわち「社会制度」のひとつになったものである。そして、その制度の内容は、今日の時代なりの貧困をかかえながら、人間性を回復するために他からの援助を必要とする人に対し、対人関係を媒介として、有形無形のサービスを提供することである。

本講では、社会福祉がこのように変化してきた跡をたどり、なぜ、今日の社会福祉が現代社会の生活環境基盤として確立されねばならないのかについてのあらましを述べることに重点をおく。また、この講義は、1年次の必修科目であるため、他の1年次配当の科目との関連を考慮しつつ、社会福祉についての基礎知識を整理するとともに、社会福祉の今日的な動向と課題についての理解を深めることを主なねらいとする。

講義の内容・授業スケジュール

- 1 現代社会における社会福祉の意義
 - 1) 社会福祉の意味
 - 2) 社会福祉と関連する諸概念
 - 3) 社会福祉の対象と主体
 - 4) 社会福祉の補充性
- 2 社会福祉の歴史的発展
 - 1) 欧米における社会福祉の発展
 - 2) わが国における社会福祉の発展
- 3 社会福祉の組織と運営
 - 1) 社会福祉法制
 - 2) 社会福祉法制の体系
 - 3) 社会福祉事業の経営主体
 - 4) 福祉の措置
 - 5) 社会福祉の経費
- 4 社会福祉の分野
 - 1) 公的扶助（生活保護）
 - 2) 児童福祉
 - 3) 老人福祉
 - 4) 障害者福祉
- 5 社会福祉の方法
 - 1) ケースワーク
 - 2) グループワーク
 - 3) コミュニティワーク
- 6 社会福祉における人の問題
 - 1) 人の問題の重要性
 - 2) 社会福祉従事者の動向
 - 3) 職種の問題
 - 4) 社会福祉職員の専門職論
 - 5) ボランティアの問題
- 7 社会保障と社会福祉
 - 1) 社会政策と社会事業
 - 2) 社会保障と社会福祉

成績評価の方法

評価は、前期末と年度末の2回の試験の総合評価とする。

教科書

仲村優一著『社会福祉概論』（誠信書房）

参考書等

講義の内容を上記のテキストのみでは十分にカバーすることができないので、講義の進行にあわせて必要な参考文献を紹介する。なお、本講の内容は極めて広い範囲にわたるので、この参考文献にもとづいて各自学習を深めることを求めたい。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|--------|------------------------------|--------|-----|
| 社会福祉原論 | ふな 船 みず 水 ひろ 浩 ゆき 行 | 社福主事2必 | 4 |

講義のねらい

「社会福祉」という言葉は、現代社会ではとてもポピュラーな言葉となっている。新聞、テレビ等においても、しばしば目にし、また耳にする。選挙があれば、国政・地方、首長・議員いずれのレベルでも多くの候補者がその充実を公約に掲げる。

しかしながら、改めて「現代社会における社会福祉とは何なのであろうか」とか、「社会福祉の援助や活動とはどのようなものなのであろうか」とか、「社会福祉の基盤となっている考え方はどのようなものなのであろうか」といったことを問われた時、多くの人々はなかなか上手く答えることができないのが現実と思われる。

本講の主題は、上記にあげたような社会福祉を学んでいくにあたってのベースとなる点を学習していくことにある。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 現代社会における社会福祉の理念とその意義
- 2 社会福祉の対象と援助の形態、方法
- 3 社会福祉サービスの体系
- 4 社会福祉の法体系、実施体制、財政
- 5 社会福祉の動向

成績評価の方法

年度末の定期試験により実施します。詳細は、授業時に提示します。

教科書

仲村優一『社会福祉概論』（誠信書房）

参考書等

随時、紹介します。

(2) 選択科目

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------------|-----------------------|------------|-----|
| 法 学 (福 祉) | こ ばやし ひろ と 小 林 弘 人 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

社会福祉法制として理解されている各種の法令の意義・内容を理解することを目標とする。具体的には、社会福祉の組織、活動、財政、争訟に関する法令の解説をなるべく平易に説明をする。

講義の内容・ 授業スケジュール

①憲法と社会福祉、②民法と社会福祉、③社会福祉の法、④社会福祉の組織、⑤社会福祉の財政、⑥社会福祉の争訟、⑦公的扶助の法、⑧児童福祉の法、⑨単身家庭福祉の法、⑩心身障害者福祉の法、⑪身体障害者福祉の法、⑫精神薄弱者福祉の法、⑬老人福祉の法

成績評価の方法

出席、年2～3回のレポート、期末テストなどを総合的に勘案して評価する。

教 科 書

小林弘人著『高齢化社会における社会福祉の法』（創成社）3月末刊行予定

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|--------------------|------------|-----|
| 社会福祉発達史 | はやし ち よ 代 林 千 代 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

いつの時代にも、人々の生活不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想、その関連等が内容となる。一定の歴史的物産である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

教 科 書

特になし

参 考 書 等

今岡 他編『社会福祉事業発達史』（ミネルヴァ書房）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|------------|-----------------------|------------|-----|
| リハビリテーション論 | なる かわ よし お 生 川 善 雄 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

リハビリテーションとは、障害のある人が人間らしく生きる権利の回復、すなわち『全人的復権』である、といえよう。

本講義においては、リハビリテーションの理念、医学・教育・職業の3領域のリハビリテーションについての概略、社会的リハビリテーションの基本問題の学習を通して、障害のある人が人間らしく生きる権利をどのように回復してゆくべきかについて考察する。

講義の内容・
授業スケジュール

まず、リハビリテーションの理念に触れる。次いで、医学、教育、職業、社会の4領域のリハビリテーションについての概説を行ない、それら4領域の関連性についても言及する。これら4領域のリハビリテーションのうちでも、社会的リハビリテーションは、障害者福祉との関連も深いといえるので、本講義においても主としてこれに多くの時間をあてる予定である。しかし、社会的リハビリテーションは、医学的リハビリテーションや職業的リハビリテーションに比べて、その考え方や技術の枠組みはいまひとつ確立されていないといえよう。そこで、社会的リハビリテーションについては、諸々の社会的リハビリテーションに関する研究を取り上げながら、検討していきたい。すなわち、障害者の社会活動への参加、障害者のQOLとADL、障害者をめぐる環境、障害者と家族、障害者の自立ならびに自立援助、地域に根ざしたリハビリテーション、施設リハビリテーション、社会的リハビリテーションの種々の方法などをとりあげながら、社会的リハビリテーションの基本問題を論じていきたい。

履修上の留意点

履修者は「人間らしく生きる権利の回復」という語句の意味を考えながら、学習を深めてほしい。

成績評価の方法

授業中の小課題に対する回答と、テストにより評価する。

教科書

特に指定しない。

参考書等

- ・小島蓉子・奥野英子編著『新・社会リハビリテーション』（誠信書房）1994
- ・上田 敏『リハビリテーションを考える』（青木書店）1983

その他

講義形式で進める。何回かビデオを使用する予定である。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|-----------------------|------------|-----|
| 社 会 保 障 論 | なが お じょう じ 長 尾 讓 治 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

現代社会における私たちの生活は、多くの場合、働いて収入を得ることによって成り立っている。これにより、食べるもの、着るもの、住むところなどを手に入れる。しかし、働く力を失った人、働く機会に恵まれない人など、所得を得ることができない人々はどうするのであろうか。また、人々の生活そのものを荒廃させかねない、病気やケガになったらどうするのであろうか。

社会保障は、このような所得の欠乏、疾病への対応として、所得と医療の保障を主たる目的に形成されてきた。そして、現代社会においては、各国それぞれの文化、社会・経済の状況等の諸要因により、構造、形態、財源等に相違は見られるものの、人々の生活の維持、向上のために必要不可欠の政策であり、制度となっている。

本講義では、この社会保障が、どのような考え方に基づいて形成されてきたものであるのかを踏まえた上で、現代社会における社会保障の役割と意義はどのような点にあるか、わが国における社会保障制度の現状と課題はどのようなものであるのか、を中心に考察していく。

講義の内容・授業スケジュール

- | | | |
|---|-----------------|--------------|
| 1 現代社会における生活問題 | 2 社会保障の史的展開 | 3 社会保障の理念 |
| 4 社会保障の概念、範囲、規模 | 5 社会保障の財政 | 6 社会保障の機能 |
| 7 社会保障の問題点と今後の課題 | 8 わが国の社会保障制度の体系 | |
| 9 わが国の社会保障各制度の沿革と概要 | | |
| 1) 年金保険 2) 医療保険 3) 労災保険 4) 雇用保険 5) 公的扶助 6) 児童手当 | | |
| 7) その他 | | |
| 10 民間保険の役割 | 11 社会保障の実施体制 | 12 社会保障研究の動向 |

成績評価の方法

年度末試験に出席点を加味して評価する。

教科書

福祉士養成講座編集委員会編集『改訂社会福祉士養成講座 5 社会保障論』（中央法規）

参考書等

総理府社会保障制度審議会事務局編『社会保障統計年報』（法研）
厚生省大臣官房政策課監修『社会保障入門』（中央法規）

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|---|------------|-----|
| 家 庭 福 祉 論 | <small>いわ</small> 岩 <small>かみ</small> 上 <small>ま</small> 真 <small>み</small> 珠 | 福祉主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

個人と家庭のウェルビーイングはいかにして達成されるのか。講義では、親と子のウェルビーイングと家庭福祉の問題を、男女平等社会の役割分担のあり方や家族の多様化をふまえて考えてみたい。

講義の内容・授業スケジュール

講義は、次のような内容で進めていきたい。

- 1) 「ウェルビーイング」の考え方
- 2) 家庭の機能とは何か
- 3) 少子化・高齢化と家庭機能の変化
- 4) 個人化社会と家庭福祉
- 5) 男女平等社会と子育てサポート
- 6) 家族の多様化と子どもの福祉

履修上の留意点

問題意識をもって聴講してもらいたい。また随時意見や感想をレポートしてもらう予定である。

成績評価の方法

小レポート、期末試験、および平常点（出席状況を含む）で評価する。

教 科 書

特に指定しない。

参 考 書 等

講義中、適宜指示する。

そ の 他

講義を主体とする。必要なプリント類は随時配布する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------|----------------------|------------|-----|
| 社会福祉計画論 | かわ 川 いてい 廷 とも 宗 ゆき 之 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

問題対応的なサービス提供から予防福祉的な側面も強調されるように変化してきたことよって起きている近年の社会福祉サービスの領域の拡大は、そのサービス提供を組織的計画に行なわなければならない段階に到達しつつある。このような需要の増大に対応した行政計画の考え方は、建設領域や産業振興領域において戦後の長い蓄積がある。が、福祉領域においては、計画化の歴史は短い。その理由は、福祉には建設や産業振興とは違う要素が多く、計画的展開に馴染みにくかったことや、問題対応的な福祉サービスから抜けきれなかったためである。とすれば、福祉計画を考える時、これらの産業計画や建設計画と、福祉計画の性格がどのようにことなるのが考察されなければならない。

さらに、計画は実際の市民生活に多大な影響を与える実践である。その意味では、計画をどう作るのか、その手法も大きな問題となる。

講義の内容・授業スケジュール

上記のような問題意識にもとづいて、福祉を中心のその計画（国家計画、地域計画、地域福祉計画、施設経営計画、市民生活の計画、等々）について学ぶが、その前提としては、福祉運営管理等についてもふれておく必要がある。ソーシャル・アドミニストレーションの理論についての学習や日本における施設の運営管理上の課題などについても触れる予定である。

理論的内容を前期、実践的な計画技術についての考察や演習を後期に履修する。講義内容やスケジュールの詳細については、開講第1～2回の授業で説明する。なお、受講者数にもよるが、実際の計画立案技術の演習等も行なう予定であるので、それらの演習には、質問や意見の提案など積極的な関わりを期待している。

履修上の留意点

この講義では、開講第1～2回で全体のスケジュール等を説明するので、必ず第1回から出席していただきたい。途中からの受講では事実上単位習得は難しいと理解してほしい。

社会計画はすぐれて実践的に学ばないと理解しがたい点も多い。そのため、授業ごとに資料を探したり読んで来る簡単な課題がだされることも多い。従って、欠席すると授業で何をしているのか理解できなくなる可能性が高いので、なるべく欠席しないように、又、実習等でやむを得ず欠席する場合は、受講する友人に内容を聞いてください。

なお、文学部社会科学福祉コースの学生以外の諸君が選択する場合は、この科目が社会福祉原論や社会福祉援助技術総論などで学ぶ福祉に関する基礎的な知識を前提として開講されている点を理解して、関係領域についての文献を読むなどの自己学習を並行して行っていただきたい。特に、社会福祉援助技術総論にでてくるソーシャルワークの基本的な考え方やコミュニティ・オーガニゼーション理論などについては、必ず習得しておいていただきたい。

成績評価の方法

日常的な課題の提出状況、授業への質問や、意見を積極的に出しているかどうか、などに見る授業への参加度、期末に行なわれるレポートの提出、出席状況（最低出席日数の確保）等を配慮して、評価する。

教科書

第1回目の授業時に指定する。

参考書等

- ① 高田真治『社会福祉計画論』（誠信書房）1979年
- ② R. パールマン A. グリン著 岡村重夫 監訳『コミュニティ・オーガニゼーションと社会計画』（全国社会福祉協議会）1980年
- ③ 全社協編『地域福祉計画 ― 理論と方法 ―』（全国社会福祉協議会）1984年

その他

計画の立案演習を行う過程で、若干の資料代やコピー代が必要になると予想される。出来るだけ負担を軽くするようにするが、一部の学習経費の自己負担は止むを得ないので、若干の教材費については予定して選択してもらいたい。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|---------------|--------------------|------------|-----|
| 国 際 社 会 福 祉 論 | やまもと まま 山 本 真 実 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

国際社会における福祉、社会福祉における国際化、「国際社会福祉」を捉える視点に定義はない。日本以外の国の生活を通して、社会福祉とは何かを考えること、また国際社会において発生する軋轢や衝突、問題等に対応し解決していくものとして社会福祉をどのように考えるかを考察していくことを目的とする。

講義の内容・
授業スケジュール

二つの柱を通して国際社会福祉の理解を深めていく。まず、一つは福祉先進国と言われる北欧の社会福祉制度・サービス、ベトナムやフィリピン等の途上国の社会福祉制度、生活等各国の実情を通して、日本の社会福祉の現状や考え方について振り返り、見直すこと。二つ目は、国際社会において発生する貧困、戦争、児童労働、異文化への理解等テーマごとにどのような取り組みがあるかを学習し、生活を支える社会福祉制度の在り方について考察する。

履修上の留意点

特に社会福祉の基礎がなくても構わない。

成績評価の方法

出席状況（カード）、レポート、試験の総合評価により評価する。

教 科 書

特になし。

参 考 書 等

適宜授業中に紹介。

そ の 他

ビデオ使用。
適宜感想を記入するカードを配布。
積極的な討議、意見発表を高く評価する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|-----------------------|------------|-----|
| 保健福祉論 | なが お じょう じ 長 尾 譲 治 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

保健福祉学とは、保健学・福祉学、及び関連諸科学を統合し、これまでのように為政者の都合によるサービス提供に代わって、利用者の立場に立ったサービスのあり方を考える新しい社会福祉の分野である。本講義では、保健福祉学の視座に基づいて、従来の社会福祉諸サービスを再構成し、これからの生活関連諸サービスの動向と課題について考えていきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

- 1 保健福祉とは
保健福祉の歴史／保健福祉学の視座
- 2 日本のヘルスケア制度の体系
健康保険／国民健康保険／老人保健／福祉医療／クライアントの人権とこれからのヘルスケア
- 3 ライフサイクルと保健福祉
児童／成人／老人／ターミナル・ケア／女性と保健福祉
- 4 傷病別に見た保健福祉
身体障害／知的障害／精神障害／難病・結核／ハンセン病／AIDS
- 5 リハビリテーションと保健福祉
リハビリテーションの理念と実際／福祉機器・用具サービス
- 6 保健福祉の国際的動向
先進諸国／開発途上国／日本
- 7 保健福祉の課題
保健福祉計画／規制と情報公開／バイオエシックスとインフォームド・コンセント

成績評価の方法

年度末試験に出席点を加味して評価する。

参 考 書 等

追って紹介する。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-----------|------------------------|------------|-----|
| 公 的 扶 助 論 | い どう しゅう いち 伊 藤 秀 一 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

本講の中心的なテーマは、わが国の生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。

講義内容としては、上述した問題意識のもとに、以下の項目について講じていく予定である。併せてイギリスの福祉権運動（Welfare rights work）の動向等にも触れる。

講義の内容・
授業スケジュール

1. 現代社会と公的扶助
2. 低所得問題対策の概要
3. 生活保護制度のしくみ
4. 生活保護の最近の動向
5. 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方

成績評価の方法

出席状況、小テスト、学年末定期試験を総合して評価する。

教 科 書

なお、テキスト等については開講時に指示する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-------------|-----------------------|------------|-----|
| 障 害 者 福 祉 論 | なる かわ よし お 生 川 善 雄 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

障害者福祉は、①障害のある人々の障害状況を可能なかぎり軽減し、障害のない人々と同様の生活条件を享受できるようにすること、②障害がある故に入学しにくい、就職しにくい、などの社会常識の根底に潜む障害者観の歪み（差別や偏見など）を変革すること、の2つの面が課題となってくる、ともいえよう。

今日のわが国の障害者福祉は、行政努力、当事者運動、国民の人権意識などを反映して、さらには、国際障害者年の各種の国際会議などの影響もあり、制度的にも実践的にもかなり発展してきている。

本講義においては、上記のことをふまえ、障害問題、障害者に関する諸研究を整理し、大きく変化しつつある今日の福祉状況を見つめながら、障害者福祉の課題について検討していきたい。

講義の内容・授業スケジュール

内容としては、障害者福祉の基底に流れる理念、障害者の自立、障害の概念、障害者の実態と福祉ニーズ、身体障害者、知的障害者、精神障害者に対する福祉施策・制度、保健・医療、雇用、所得保障などの障害者福祉の関連施策、障害者福祉における民間活動、障害者福祉にたずさわる専門職・ボランティア、障害者の家族支援、障害者に対する相談援助活動などについて言及する。

履修上の留意点

履修者は、障害者福祉の課題を念頭に置きながら、学習を深めてほしい。

成績評価の方法

授業中の小課題に対する回答と、テストにより評価する。

教科書

特に指定しない。

参考書等

- ・星野貞一郎 他編『障害福祉論入門 改訂版』（有斐閣双書）1982
- ・福祉士養成講座編集委員会 編『障害者福祉論』（中央法規）1996

その他

講義形式で進める。何回かビデオを使用する予定である。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単位 |
|-------|-------------------------|------------|----|
| 老人福祉論 | とう じょう みつ まさ 東 條 光 雅 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

老人虐待の多発、家族介護の深刻化、社会保険料の負担増、老齢年金の減額、介護保険の導入決定等、老年期や高齢者に関する事柄が、近年富にマスメディアを賑わしている。こうした事柄が騒がれる背景は、世界一の「人生80年」という長寿化の進行と急激な少子化による日本社会の高齢化である。

わが国の高齢化の度合いはいよいよ欧米社会のそれに匹敵するまでとなり、近未来の21世紀には人類未曾有の高齢社会を迎えようとしている。その21世紀に高齢者となるのは、現在“青・壮年期”にある人々である。これから一層高度化してゆく高齢社会、深刻化してゆく高齢者問題にどのように準備し対応してゆくかは、日本社会にとって大変重要な問題である。

本講義では、社会的対策としての老人福祉の制度・政策についてのみでなく、対象者理解の観点から高齢者や老年期の特性をも含み、幅広く講じてゆきたい。

講義の内容・
授業スケジュール

前期⇒人口高齢化の意味と状況

わが国における高齢者の生活実態及び高齢者像
老年期の心身の状況、etc.

後期⇒わが国における高齢者対策の歴史

老人福祉対策・サービスの現状および課題
今後の高齢化社会にむけて、etc.

履修上の留意点

この授業は講義形式で進めてゆくが、毎回受講生を指名して質問に回答してもらったり、意見発表をしてもらう。内職や居眠りは出来ないので、そのつもりで履修すること。

成績評価の方法

出席点、夏季休暇中のレポート、年度末の定期試験の3つを総合して評価する。しかし、評価は原則的には年度末試験の得点によって行う。出席率が70%を切る（諸実習による公欠は出席扱いとする）場合は、試験そのものの受験を認めない。また、夏季休暇中のレポート点は、定期試験での得点がボーダーラインに位置する学生においてのみ考慮するものである。

教科書

冷水豊編『老人福祉論』（メヂカルフレンド社）

冷水豊編『老人福祉－政策・処遇の視点と方法－（第三版）』（海声社）2,000円

参考書等

適宜紹介する。

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|--|------------|-----|
| 児 童 福 祉 論 | 前 期：山 ^{やま} 本 ^{もと} 真 ^ま 後 期：許 ^{この} 斐 ^み 有 ^{ゆう} | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

本講義では、「児童福祉」を《社会的子育てシステム》と捉え、現行の児童福祉の法制度を検討しながら、子どもを養育する社会の責任および公的責任、子育てに対する公的・社会的支援・援助のあり方を考察する（子ども家庭福祉論）。また、児童福祉法の成立・展開課程や子どもの権利条約等の検討を通して、子どもの権利の基本的な考え方および児童福祉法の基本理念を学び、《子どもの権利擁護システム》としての児童福祉法制度について理解を深める。なお、これらの参考として、カナダの子ども家庭サービスについても言及したい。

講義の内容・授業スケジュール

- 1) 子どもの現状と子どもの人権
- 2) 子ども家庭政策の展開と最近の動向
- 3) 子どもの権利の考え方
- 4) 児童福祉法の理念
- 5) 子ども家庭福祉に関する法制度
- 6) 子ども家庭福祉サービスの現状と課題
- 7) 児童虐待の実態と相談援助の実際
- 8) カナダの子ども家庭サービス

履修上の留意点

受講学生には、児童福祉を知識として学ぶだけでなく、子どもが権利の主体であるという新たな理念を正しく理解し、子どもと家庭に対する支援・援助のあり方を自分なりに考えることを期待している。

成績評価の方法

主として学年末の試験によるが、レポート等の成績を加味することもある。

教科書

許斐有『子どもの権利と児童福祉法』（信山社）
『社会福祉小六法』（出版社は問わない）

参考書等

永井憲一・寺脇隆夫編（許斐共著）『解説・子どもの権利条約』（日本評価論社）
ささやななえ（椎名篤子原作）『凍りついた瞳——子ども虐待ドキュメンタリー』（集英社）ほか

| 科 目 名 | 担 当 者 名 | 配 当 学 科 | 単 位 |
|-----------|----------|------------|-----|
| 女 性 福 祉 論 | はやし ちよ 代 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

戦後のある時期“婦人福祉”という概念が登場した。以来、唯一、女性を対象としている社会福祉事業は、売春防止法に基づいて制度化されている婦人保護事業である。しかし、女性という特性ゆえに遭遇する生活上の困難は多様であり、何らかの解決策を必要としている。女性福祉という概念はいまだ成熟しているとはいえないが、売買春問題を基底に据えて、婦人保護事業の現実から女性の福祉阻害の実態をとらえ、女性の人権復権の検討を課題としたい。それは当然、男性の人権侵害を問い考えることになる。

教科書

特になし。

参考書等

林 千代編『慈愛寮に生きた女性たち』（東京創文社）
林 千代編『現代の女性と売買春』（ドメス出版）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|----------------|------------|-----|
| 医療福祉論 | はるみしずこ 春見静子 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

保健・医療の領域における専門職としての医療福祉職の実践について理解する。
医療ソーシャルワークがどのような学問を基礎とし、どのようなフィールドでいかなる援助技術を用いてなされるかを学ぶ。

講義の内容・
授業スケジュール

- 教科書に沿って
- 1 社会福祉とソーシャルワーク
 - 2 医療・保健機関におけるソーシャルワークの特徴
 - 3 医療について 健康の概念、病気の概念
医療機関の組織と医療従事者のチームワーク
疾病分類
疾病に関する知識
 - 4 医療ソーシャルワーカーの役割 MSWの歴史、ワーカーの課題
総合病院のソーシャルワーカー、精神科領域、老人病院、
援助手段としての社会資源
 - 5 医療ソーシャルワークの実際
援助技術の方法（ケースワーク、グループワーク）、面接
の方法、外来段階の援助、入院段階の援助

履修上の留意点

時々小グループで検討することがあるので、積極的に参加して欲しい。希望する人には医療機関の実習を紹介する。

成績評価の方法

出席点と期末試験の点数で評価する。

教科書

出川哲也著『臨床医療ソーシャルワーク』（誠信書房）2,500円

その他

毎年、医療機関の見学の機会を設けている。

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|-------|------------------------|------------|-----|
| 地域福祉論 | わた なべ かず くに 渡 辺 一 城 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

講義のねらい

我が国の社会福祉の流れはいま正に大きな転換期にある。80年代後半から今日にかけて議論されてきた制度改革におけるキーワードはいうまでもなく「地域福祉」であり、これが社会福祉を進めていく上での基本的な考え方となっている。従って、地域福祉は、社会福祉の一分野ないしは方法というより、それらを総合化した社会福祉の現代的形態として理解される必要がある。それは限りなく地域における住民の現実の生活に着目した、かつ新しい福祉を切り開く視点を内包した領域であるということができる。

本講義では、こうした前提を踏まえ、これから社会福祉に関わる上で必要な地域福祉の視点や課題を学ぶことを目的とする。

講義の内容・授業スケジュール

講義の内容は主として次の事項を扱う。

- ・地域福祉の理念や概念、内容
- ・地域福祉の歴史的展開
- ・在宅福祉サービスのあり方と供給方法
- ・地域福祉の主体形成と福祉教育
- ・ボランティア活動やNPO活動とその支援
- ・地域福祉を推進する機関と組織（社会福祉協議会、ボランティアセンター、共同募金会のあり方や、関係機関や仲介調整組織との関係など）
- ・地域福祉を支えるコミュニティワーカーの役割
- ・小地域におけるインフォーマルネットワークのあり方
- ・地域福祉計画の策定とコミュニティワークの展開 など

成績評価の方法

出席、テストなどにより評価を行う。

教科書

大橋謙策著『地域福祉論』（放送大学教育振興会）

参考書等

大橋謙策・宮城孝編『社会福祉構造改革と地域福祉の実践』（東洋堂企画出版社）
牧里毎治・野口定久・河合克義編『地域福祉』（有斐閣）

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|-------------|------------|-----|
| 社会学(福祉) | はし 橋 爪 敏 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

| | |
|----------------|---|
| 講義のねらい | この講義は、社会福祉士ならびに社会福祉主事を目指す学生に「社会学」についての基本的な知識の提供を目的とする。 |
| 講義の内容・授業スケジュール | 講義のねらいで述べたように、この「社会学(福祉)」の授業は社会福祉士、社会福祉主事の資格取得に関わるものである。しかし、こうした資格に関わる受験対策そのものをねらいとするものではない。また、「福祉社会学」を論ずるものでもない。あくまでも、「社会学」の基礎知識の習得がねらいである。したがって、社会学の歴史、社会集団の類型、現代社会の諸問題などを取り上げることとする。 |
| 履修上の留意点 | この授業は、すでに社会学についての若干の予備知識のあるものと、まったくの初心者も受講すると言う、変則的なところがあるが、初心者に判り易く語ることがを主にしていきたい。 |
| 成績評価の方法 | 成績評価は、講義内容に関わる基本的な問題について、学年末におこなうペーパー・テストによって評価する。 |
| 教科書 | 福祉士養成講座編集委員会編『改訂 社会福祉士養成講座12/社会学』(中央法規出版) |
| 参考書等 | 安藤喜久雄ほか編『社会学概論』(学文社) 安藤喜久雄ほか編『わかりやすい社会学』(学文社) 高尾・橋爪編『社会学の基礎』(犀書房) R. ニスベット『現代社会学入門1～4』(講談社学術文庫) |

| 科目名 | 担当者名 | 配当学科 | 単 位 |
|---------|------------------------|------------|-----|
| 心理学(福祉) | たか はし よし ひろ 高 橋 良 博 | 社福主事2・3・4選 | 4 |

| | |
|----------------|---|
| 講義のねらい | 社会福祉の現場で、必要とされる「心理学」の基礎的な知識を、習得することを目的とする、講義である。 |
| 講義の内容・授業スケジュール | 講義の予定としては、まず、心理学的なものを見方を身につけ、次に、社会福祉に関連するトピックスをとり上げてゆく。具体的には、以下の項目について、1年間を通し重点的にふれてゆく。①心理学の歴史と現状に対する理解 ②人間の心理学的理解に関する基礎概念 ③人間の成長・発達心理と諸問題 ④心理学的な人間理解に基づく援助技術 また、心理学研究の雰囲気にもふれるため、適宜、供覧実験や人格テストの体験なども折込ながら講義を進めてゆく予定である。 |
| 成績評価の方法 | 筆記試験・レポートなどの提出物、その他、平常点(講義への出席状況や、参加度)などを総合して評価を行う。 |
| 教科書 | 福祉士養成講座編集委員会 編集『改訂 社会福祉士養成講座11 心理学』(中央法規) 2,500円 |

[X 毛]